

[次へ](#)この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 目次

目次

- [タイトルおよびコピーライト情報](#)
- [はじめに](#)
- [1 このガイドについて](#)
 - [対象読者と範囲](#)
 - [関連ガイド](#)
- [2 顧客データ管理の概要](#)
 - [顧客データ管理: 概要](#)
 - [顧客データ管理クラウドの実装: 概要](#)
- [3 初期設定タスクの実行](#)
 - [概要](#)
 - [販売設定タスクの実行](#)
 - [設定および保守の基本](#)
 - [オフリング: 説明](#)
 - [オフリングの関連文書: 説明](#)
 - [機能のオプトイン: 手順](#)
 - [機能領域とは](#)
 - [参照](#)
 - [参照: 説明](#)
 - [参照を編集するにはどうすればよいですか。](#)
 - [参照タイプが表示されないのはなぜですか。](#)
 - [プロファイル・オプション](#)
 - [プロファイル・レベルの階層: 説明](#)
 - [プロファイル・オプションおよび関連する一般プリファレンス: 連携](#)
- [4 実装ユーザーの定義](#)
 - [設定ユーザーの定義: 概要](#)
- [5 地理の定義](#)
 - [概要](#)
 - [地理体系、階層および検証: 連携](#)
 - [地理体系: 説明](#)
 - [地理階層: 説明](#)
 - [地理検証: 説明](#)
 - [地理体系、階層および検証の管理: 作業例](#)
 - [テリトリ地理分割の管理: 手順](#)
 - [テリトリ地理グループ化プロセス](#)
 - [地理の不一致の管理](#)
 - [地理とゾーンのインポート](#)
 - [地理のインポート: 説明](#)
 - [地理データ・サプライヤの指定: 手順](#)
 - [GBG | Loqate地理参照データ: 説明](#)
 - [Nokia地理参照データ: 説明](#)
 - [既存のマスター地理データから改訂版のOracleによってライセンスされている地理データへの置換: 手順](#)
 - [国の作成: 手順](#)
 - [地理インポート・オブジェクト: 連携](#)

- [ファイルベース・インポートを使用した地理のインポート: 説明](#)
- [ファイルベース・データ・インポートを使用した地理のインポート: 作業例](#)
- [ファイルベース・インポートを使用した国体系のインポート: 説明](#)
- [国体系インポート・オブジェクト: 連携](#)
- [テリトリ地理ゾーンのインポートおよびエクスポート: 説明](#)
- [地域コードの設定](#)
 - [地域コード: 説明](#)
 - [地域コードの設定: 手順](#)
 - [「周辺情報」機能のWebサービスを使用した事業所属性の移入: 手順](#)
- [住所クレンジングの定義](#)
 - [住所クレンジングの定義: 説明](#)
- [地理の定義に関するFAQ](#)
 - [住所クレンジングの定義はいつ行いますか。](#)
 - [既存の国体系をコピーすることによって地理体系を更新できないのはなぜですか。](#)
 - [国の地理体系のレベルを削除できないのはなぜですか。](#)
 - [地理階層に地理を追加できますか。](#)
 - [地理階層内の特定の地理を編集できますか。](#)
 - [地理階層内の地理に下位レベルの地理を追加するにはどうすればよいですか。](#)
 - [インポートしたサードパーティ地理体系および階層がアプリケーションで使用可能かどうかを確認するにはどうすればよいですか。](#)
 - [地域コードを有効にするにはどうすればよいですか。](#)
 - [事業所の地理コード値はどこで表示できますか。](#)
 - [空間サービスとは何ですか。](#)
 - [パーティの地理名参照情報はどこで更新および表示できますか。](#)
 - [地理検証に合格しなかった住所を保存するにはどうすればよいですか。](#)
- [6 個人を識別可能な情報の管理](#)
 - [個人を識別可能な情報の保護: 説明](#)
 - [保護された情報の操作: 説明](#)
 - [個人を識別可能な情報の管理: 作業例](#)
 - [セキュリティ・コンソールを使用したPII権限の割当て: 作業例](#)
- [7 ソース・システムの定義](#)
 - [ソース・システム: 説明](#)
 - [ソース・システム・エンティティ: 説明](#)
 - [ソース・システム確度の定義: 手順](#)
 - [ソース・システム確度レベルの管理: 手順](#)
 - [ソース・システムの定義に関するFAQ](#)
 - [複数のソース・システム参照を許可するとどうなりますか。](#)
- [8 パーティ使用目的の定義](#)
 - [パーティ使用目的: 説明](#)
 - [パーティ使用目的フィルタ・ルール: 説明](#)
 - [パーティ使用目的の定義に関するFAQ](#)
 - [パーティ使用目的フィルタ・ルールをコンパイルするにはどうすればよいですか。](#)
- [9 名前と識別子の定義](#)
 - [追加名タイプ: 説明](#)
 - [識別子タイプ: 説明](#)
- [10 関係の定義](#)
 - [関係タイプ: 説明](#)
 - [関係グループ: 説明](#)
 - [関係タイプの管理](#)
 - [関係タイプの作成: 作業例](#)
 - [関係タイプの編集: 作業例](#)
 - [関係グループの管理](#)

- [関係グループの作成: 作業例](#)
- [11 分類の定義](#)
 - [分類: 説明](#)
 - [分類の定義に関するFAQ](#)
 - [親コード割当てを許可するとどうなりますか。](#)
 - [複数区分コード割当てを許可するとどうなりますか。](#)
 - [既存のエンティティ割当てルールは更新できますか。](#)
 - [一部の分類情報が顧客センターに表示されないのはなぜですか。](#)
- [12 データ書式の定義](#)
 - [データ書式と設定アクティビティ: 連携](#)
 - [書式の設定: 説明](#)
 - [住所形式の書式の作成: 作業例](#)
 - [住所書式の更新: 手順](#)
 - [各国のシード済住所書式: 説明](#)
 - [名前形式の書式の作成: 作業例](#)
 - [データ書式の定義に関するFAQ](#)
 - [住所形式の書式レイアウトを作成するにはどうすればよいですか。](#)
 - [住所形式の書式の変動を作成するにはどうすればよいですか。](#)
 - [名前形式の書式レイアウトを作成するにはどうすればよいですか。](#)
 - [名前形式の書式の別の変動を作成するにはどうすればよいですか。](#)
- [13 連絡先の定義](#)
 - [電話番号計画: 説明](#)
 - [電話番号計画の更新: 手順](#)
 - [電話番号計画の設定とその他の設定タスクとの連携](#)
 - [連絡先の定義に関するFAQ](#)
 - [電話番号の編集ページの国情報セクションを編集できないのはなぜですか。](#)
 - [担当者またはアカウントの連絡先を作成するときに、どのようにして関係を割り当てますか。](#)
- [14 ファイルベース・データ・インポートの定義](#)
 - [ファイルベース・データ・インポート: ハイライト](#)
 - [ファイルベース・データ・インポートの定義に関するFAQ](#)
 - [一覧表示されるファイルベース・データ・インポート・オブジェクトは何によって決まりますか。](#)
 - [インポート・アクティビティを非アクティブ化するとどうなりますか。](#)
 - [インポート・アクティビティの定義にマーケティング・リストを追加するとどうなりますか。](#)
 - [アカウントまたは法的エンティティのインポート時に、顧客データ管理重複値リストのオプションを使用して重複を取得できないのはなぜですか。](#)
- [15 一括データ・エクスポートの管理](#)
 - [概要](#)
 - [一括エクスポート・プロセスの定義: 手順](#)
 - [一括エクスポート・プロセスのコンポーネント: 連携](#)
 - [一括データ・エクスポートの管理に関するFAQ](#)
 - [正常にエクスポートできるデータ・オブジェクトを判別して選択するにはどうすればよいですか。](#)
 - [エクスポート対象のデータのサブセットを作成するにはどうすればよいですか。](#)
 - [エクスポートしたデータを確認するにはどうすればよいですか。](#)
 - [エクスポート済データ・ファイル内の順序番号またはヘッダー・テキストを変更するとどうなりますか。](#)
 - [複数のエクスポート・ビュー・オブジェクトのデータが必要な場合はどうなりますか。](#)
- [16 データ・エンリッチメントおよび住所検証用のOracle Social Data and Insight Cloud Serviceの構](#)

成

- [データ・エンリッチメントおよび住所検証用のSocial Data and Insight Cloud Serviceの構成: 概要](#)
- [DaaSユーザーの作成およびロールの割当て: 手順](#)
- [Data Cloudへの統合の構成: 手順](#)
- [リアルタイム・データ・エンリッチメントのマッピングとプリファレンスの管理: 手順](#)
- [アカウントの産業分類の指定](#)
- [手動データ・エンリッチメント](#)
 - [アカウント・データおよびアカウント担当者データの手動エンリッチ: 説明](#)
 - [Oracle Social Data and Insight Cloud ServiceからOracle Engagement Cloudへの新規レコードのインポート: 説明](#)
- [リアルタイム・データ・エンリッチメント](#)
 - [リアルタイムでのデータのエンリッチ: 概要](#)
 - [アカウント・データおよびアカウント担当者データのリアルタイムのエンリッチ: 手順](#)
- [ソーシャル属性によるOracle Engagement Cloudデータのエンリッチ](#)
 - [ソーシャル属性によるOracle Engagement Cloudデータのエンリッチ: プロセスの概要](#)
 - [Data as a Service \(DaaS\)でサポートされているソーシャル属性: 説明](#)
 - [エンゲージメント・クラウドでのソーシャル属性のためのカスタム・フィールドの作成: 手順](#)
 - [UIページへのカスタム・ソーシャル属性の追加: 手順](#)
 - [カスタム・ソーシャル属性とDaaSでサポートされているソーシャル属性のマッピング: 手順](#)
 - [「エンリッチするフィールドの選択」ページへのカスタム・ソーシャル属性の追加: 手順](#)
 - [Oracle Engagement Cloudアカウント・データおよび担当者データのソーシャル属性によるエンリッチ: 手順](#)
- [17 データ品質の定義](#)
 - [エンタープライズ・データ品質を使用したデータ品質の設定: 説明](#)
 - [サーバー構成](#)
 - [エンタープライズ・データ品質サーバー構成: 説明](#)
 - [照合構成](#)
 - [エンタープライズ・データ品質照合構成: 説明](#)
 - [エンタープライズ・データ品質照合構成の管理: 手順](#)
 - [カスタム照合ルールとスコアリングの管理: 説明](#)
 - [カスタム照合ルールの作成: 手順](#)
 - [照合ルールとスコアリングのソースの選択: 考慮する点](#)
 - [キー生成の管理: 説明](#)
 - [Webサービスを使用した重複の識別: 作業例](#)
 - [クレンジング構成](#)
 - [エンタープライズ・データ品質クレンジング構成: 説明](#)
 - [エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理: 手順](#)
 - [Webサービスを使用した住所のクレンジング: 作業例](#)
 - [住所検証クラウド・サービスの検索モードの有効化](#)
 - [Oracleエンタープライズ・データ品質エンジンとの統合に関するFAQ](#)
 - [照合構成と照合サーバー構成の違いは何ですか。](#)
 - [クレンジング構成とクレンジング・サーバー構成の違いは何ですか。](#)
 - [リアルタイム重複防止と重複識別の違いは何ですか。](#)
 - [リアルタイム住所クレンジングとバッチ住所クレンジングの違いは何ですか。](#)
- [18 顧客ハブ構成の定義](#)
 - [要求ディスパッチ・ジョブの実行](#)
 - [要求ディスパッチャ・プロセスの実行: 説明](#)

- [顧客ハブ・プロフィール・オプション](#)
 - [顧客ハブ・プロフィール・オプション: 説明](#)
- [生存の定義](#)
 - [生存ルールの管理](#)
 - [生存ルール: 説明](#)
 - [生存ルールの定義](#)
 - [マスター・レコード設定ルールの定義](#)
 - [属性値設定ルールの定義](#)
 - [カスタム・オブジェクトおよびカスタム属性を持つパーティに対する生存ルールの定義: 説明](#)
 - [カスタム子オブジェクトを持つパーティに対するマスター・レコード設定ルールの定義: 作業例](#)
 - [カスタム属性を持つパーティに対するマスター・レコード設定ルールの定義: 作業例](#)
 - [カスタム属性に対する属性値設定ルールの定義: 作業例](#)
 - [生存ルールの管理に関するFAQ](#)
 - [生存ルールとマージ契約ルールの違いは何ですか。](#)
 - [作成した生存ルールが機能するかどうかを確認するにはどうすればよいですか。](#)
 - [Oracle Fusion Applicationsにデフォルトで用意されているシード済サンプル生存ルールは何ですか。](#)
- [ソース・システム確度](#)
 - [ソース・システム確度レベル: 説明](#)
 - [ソース・システム確度レベルおよび生存ルール: 連携](#)
 - [ソース・システム確度に関するFAQ](#)
 - [マスター設定ルールと属性設定ルールはどのようなものですか。](#)
 - [オブジェクト・タイプの複数の属性に同じソース・システム確度レベルを設定できますか。](#)
- [契約ルール](#)
 - [契約ルール: 説明](#)
 - [契約ルール辞書: 説明](#)
 - [契約ルールの定義](#)
- [マージ要求](#)
 - [手動マージ: 説明](#)
 - [レコードの手動マージ: 作業例](#)
 - [自動マージ: 説明](#)
- [大量バッチ重複除去: ベスト・プラクティスとガイドライン](#)
- [19 顧客データ管理と他のクラウド・サービスの統合](#)
 - [顧客データ管理クラウド統合アプローチ: 説明](#)
 - [Integration Cloud Serviceによる統合時のマージ操作プロセス: 説明](#)
- [用語集](#)

[次へ](#) このコンテンツを正しく表示するには、JavaScriptを有効にする必要があります

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. タイトルおよびコピーライト情報

Oracle Engagement Cloud Customer Data Managementの実装

19A

部品番号F14673-01

Copyright c 2011-2019, Oracle and/or its affiliates.All rights reserved.

原著者: Jesna Narayanan

原本協力者: Brian Casey、Rakesh Chaudhary、Peggy Larson、Abhishek Sura、Vijay Tiwary、Jacqueline Wood、Asra Alim、Catherine Bauer、Tina Brand、Angela Brown、Hema Hardikar、Essan Ni Jirman、Mary Kalway、Suzanne Kinkead、Mike Laverty、Kristin Penaskovic、P. S. G. V. Sekhar、Barbara Snyder、Rick Stober、Srinivas Vellikad、Megan Wallace、Jiri Weiss、Kathryn Wahnoutka

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations.As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs.No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracleおよび**Java**はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、**Intel Xeon**は、**Intel Corporation**の商標または登録商標です。すべての**SPARC**の商標はライセンスをもとに使用し、**SPARC International, Inc.**の商標または登録商標です。**AMD**、**Opteron**、**AMD**ロゴ、**AMD Opteron**ロゴは、**Advanced Micro Devices, Inc.**の商標または登録商標です。**UNIX**は、**The Open Group**の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と**Oracle Corporation**との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、**Oracle Corporation**およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と**Oracle Corporation**との間の契約に定めがある場合を除いて、**Oracle Corporation**およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

このドキュメントで使用されている事業所名は架空のものであり、現在または過去に実在する実際の会社を特定するためのものではありません。

[前へ](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. はじめに

はじめに

ここでは、アプリケーションを使用する際に役立つ情報ソースについて説明します。

Oracle Applicationsの使用

Applicationsヘルプの使用方法

ヘルプにアクセスするには、アプリケーション内でヘルプ・アイコンを使用します。ページにヘルプ・アイコンが表示されていない場合は、グローバル・ヘッダーで自分のユーザー・イメージまたはユーザー名をクリックし、「ヘルプの表示」アイコンを選択します。ヘルプ・アイコンがないページもあります。[Oracle Applicationsヘルプ](#)にアクセスすることもできます。



[視聴](#): このビデオ・チュートリアルでは、ヘルプの検索方法およびヘルプ機能の使用方法を示します。

[Applicationsヘルプの使用](#)を参照することもできます。

その他のリソース

- コミュニティ: Oracleのエキスパート、パートナ・コミュニティおよびその他のユーザーから情報を入手するには、[Oracle Cloud Customer Connect](#)を使用します。
- ガイドおよびビデオ: [Oracle Help Center](#)にアクセスしてガイドおよびビデオを参照できます。
- トレーニング: [Oracle University](#)で提供されるOracle Cloudのコースを受けることができます。

表記規則

このガイドで使用されるテキスト表記規則を次の表に示します。

規則	意味
太字	太字は、ユーザー・インタフェース要素、ナビゲータ・パス、または入力する値や選択する値を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、ファイル名、フォルダ名、ディレクトリ名、コードの例、コマンドおよびURLを示します。
→	右矢印記号は、ナビゲータ・パスの要素を区切ります。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、[Oracle Accessibility ProgramのWebサイト](#)を参照してください。

このガイドに含まれるビデオは、このガイドで使用可能なテキストベースのヘルプ・トピックの代替メディアとして提供するものです。

オラクル社へのお問合せ

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、**My Oracle Support**を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は[My Oracle Support](#)にアクセスするか、聴覚に障害のあるお客様は[アクセス可能なOracleサポート](#)にアクセスしてください。

ご意見およびご提案

Oracle Applicationsヘルプやガイドに関するフィードバックをお寄せください。電子メールの送付先:
oracle_fusion_applications_help_ww_grp@oracle.com。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. このガイドについて

1 このガイドについて

この章の内容は次のとおりです。

- [対象読者と範囲](#)
- [関連ガイド](#)

対象読者と範囲

このガイドでは、アプリケーションの顧客データ管理固有のコンポーネントおよび機能を実装するために必要な概念情報および手順について説明します。

このガイドは、顧客データ管理の、重複識別、重複解決、住所検証、データ・エンリッチメントなどの機能を実装するために使用できます。このガイドでは、『Oracle Sales Cloud実装スタート・ガイド』に記載されているユース・ケースの説明に従って、アプリケーションが基本レベルで稼働していることを前提としています。

また、このガイドでは、『Oracle Engagement Cloud販売の実装』ガイドのコア販売に関する追加設定が完了していることも想定しています。

注意: リリース19A (11.13.19.01.0)では、「Oracle Sales Cloud」は「Oracle Engagement Cloud」に組み込まれています。既存のOracle Sales Cloudユーザーは、既存のライセンス契約に基づいてOracle Sales Cloud機能へのアクセスを保持します。現在のOracle Sales Cloudライセンス・カウントの範囲内で作成されたすべての新規ユーザーも、Oracle Sales Cloudへの同じアクセスを保持します。ユーザーは、Oracle Engagement CloudのSKUでサブスクリプションを更新することで、追加のOracle Engagement Cloud機能へのアクセスを取得できる場合があります。

このドキュメントでは、Oracle Sales CloudとOracle Engagement Cloudの両方のライセンス契約でユーザーが使用できる機能について説明します。

関連ガイド

次の表に示す関連ガイドを参照すると、このガイドで説明されているタスクをより深く理解できます。

タイトル	説明
Oracle Engagement Cloud 顧客データ管理の使用	顧客情報および顧客データ品質を管理するために必要な概念情報および手順について説明します。このガイドは、顧客データ管理の、重複識別、重複解決、住所検証、データ・エンリッチメントなどの機能を実装するために使用できます。
Oracle Engagement	

Cloud販売およびサービスの拡張 オブジェクトを作成および拡張する方法と、ユーザー・インタフェースとナビゲーション・メニューを構成する方法を説明します。

Oracle Engagement Cloudインポートおよびエクスポート管理の理解 このガイドは、**Engagement Cloud**アプリケーションとの間でビジネス・データをインポートおよびエクスポートするユーザーを対象としています。

Oracle Engagement Cloudファイルベース・データ・インポートおよびエクスポートの理解 ファイルベース・データ・インポートを使用して**Oracle Engagement Cloud**にレガシー・データとその他のデータをインポートする方法について説明します。

Oracle Engagement Cloudのファイルベース・データ・インポート 個々のオブジェクトをインポートするためのインポート可能なソース・データ・ファイルの作成に使用できる参照情報を提供します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 顧客データ管理の概要

2顧客データ管理の概要

この章の内容は次のとおりです。

- [顧客データ管理: 概要](#)
- [顧客データ管理クラウドの実装: 概要](#)

顧客データ管理: 概要

顧客データ管理の設定には、顧客の情報およびビジネス関係を管理するために必要な構成のレビューと定義が含まれます。

主な機能

顧客データ管理機能を使用すると、次のことが可能です。

- **重複するデータの防止と識別:** リアルタイムで、または事前に構成したバッチで重複を識別できます。アカウントや担当者のリアルタイム検索および照合により、重複するデータの作成を防ぐことができます。事前に構成した照合構成に基づいて、重複する可能性があるデータを識別できます。
- **住所の検証と標準化:** アカウントまたは担当者の住所情報についてリアルタイムおよびバッチ住所クレンジングを実行できます。インポート中にインポート・バッチ内で住所を検証し、クレンジングできます。住所は、マスター地理領域に照らして検証され、クレンジングされます。地理検証機能を有効にすると、入力した住所が、国で使用可能な地理階層データにマップしているかどうかを確認することもできます。
- **重複するデータの解決:** 重複するレコードをマージおよびリンクして、唯一の正しい情報源であるマスター・レコードを作成できます。インポート・バッチ内だけでなく、データベース全体で重複を除去することが可能です。顧客データ管理では、データ品質エンジンを使用して、複数のソースの高品質なアカウント・データおよび担当者データの連結、重複するデータの管理、サードパーティ・コンテンツによるデータの拡張、住所の標準化およびデータ品質のモニターが行われます。これらのデータ品質チェックにより、クレンジングされ、エンリッチされた、営業チームが信頼できる完全な顧客情報を確保できます。

顧客データ管理クラウドの実装: 概要

顧客データ管理クラウドの実装を開始するには、アプリケーション実装コンサルタント・ロール(ORA_ASM_APPLICATION_IMPLEMENTATION_CONSULTANT_JOB)を持つユーザーが、ビジネス要件に適用可能なオフリングをオプトインする必要があります。オフリングのオプトインおよび設定を管理するには、『[Oracle Applications Cloud Functional Setup Managerの使用](#)』ガイドを参照してください。

顧客データ管理オフリング

このオフリングを使用して、顧客情報をクレンジング、統合およびエンリッチしたり、信頼できるマスター顧客プロフィールを作成するように顧客データ管理プロセスを構成します。

次の表に、このオフリングの主な機能領域を示します。このオフリングの機能領域および機能の完全なリストについては、オフリングの実装を計画したときに確認した「関連付けられた機能」レポートを参照してください。

機能領域	説明
データ品質	<p>データ品質構成を管理して、データ品質照合やクレンジングなどのデータ品質サービスが、リアルタイムおよびバッチ実行中にどのように実行されるかを定義します。データ品質サービスでは、これらの構成を使用し、埋込みデータ品質エンジンの適切なサービスを呼び出して、顧客データを統合、クレンジングおよびエンリッチします。</p>
顧客ハブ	<p>次の機能の設定を管理します。</p> <ul style="list-style-type: none">顧客情報管理: プロファイル、使用目的割当て、関係、分類、ソース・システム参照、階層メンバーシップ、リンクされたレコード、アカウント、担当者などの顧客情報を「組織」、「個人」および「グループ」作業領域でインポート、作成および管理します。階層管理: ビジネス・プロセス間で顧客の階層を管理します。たとえば、この階層管理機能を使用して、顧客の法人階層を取得し、本店、支店、子会社などの関連を示すことができます。ある顧客からの支払処理に法人階層情報を使用し、それを同じ階層内の別の顧客に適用できます。データ・エンリッチメント: アカウント・データおよび担当者データをエンリッチし、包括的なものにします。データ・エンリッチメントによって、既存のアカウント・データまたは担当者データ、住所情報が追加情報でそのデータがエンリッチされるだけでなく、それらの品質が向上します。重複識別: データ入力、データ統合またはアプリケーション内のレコード間で潜在的な重複を識別します。重複解決: 直接マージするか、マージやリンクなどの重複解決要求を作成することで、重複を解決します。重複解決要求は、検証、承認または拒否することや、後で処理することが可能です。住所クレンジング: レジストリに存在する住所データをクレンジングし、時間が経過してもデータの正確性が確保されます。リアルタイムの住所クレンジングによって、ソース・システムからの入力データがターゲット・システムと同じ規則に従うことが確実にになり、情報の一貫性が維持されます。

関連項目

- [実装の計画: 手順](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 初期設定タスクの実行

3初期設定タスクの実行

この章の内容は次のとおりです。

- [概要](#)
- [設定および保守の基本](#)
- [参照](#)
- [プロフィール・オプション](#)

概要

販売設定タスクの実行

ほとんどの販売設定タスクについては、「設定および保守」作業領域を使用して、コンポーネントや機能に関連付けられている設定ページにアクセスします。「設定および保守」作業領域は、機能設定マネージャとも呼ばれます。

販売設定タスクについては、「営業管理者」ロールを持つユーザーが、ほとんどではないにしても多くの設定タスクおよび構成タスクを実行します。営業管理者の一般的なタスクの詳細は、「営業管理者について」のトピックを参照してください。

「販売」オフリングにナビゲートして設定タスクにアクセスします。

1. 営業管理者または設定ユーザーとしてサインインし、「設定および保守」作業領域にナビゲートします。選択されたオフリングで「設定」ページが表示されます。

ヒント: 「設定および保守」にナビゲートするには、「ナビゲータ」メニューを使用するか、グローバル・ヘッダーのユーザー・イメージまたはユーザー名の下にあるメニューを使用します。

2. 「設定」ページで、「販売」オフリングを選択します。
3. 「設定: 販売」ページが機能領域のリストとともに表示されます。
4. 機能領域のリストで、アクセスする必要があるタスクを含む機能領域をクリックします。

その領域の必須タスクのリストが表示されます。

5. 表示されたタスクのリストで、目的のタスクを探して選択します。(目的のタスクがリストにならない場合は、タスク・フィルタで「すべてのタスク」を表示するように選択します。)

タスクの設定ページが表示されます。

機能設定マネージャの詳細は、『[Oracle Applications Cloud Functional Setup Managerの使用](#)』ガイドおよび関連トピックを参照してください。

関連項目

- [営業管理者について](#)
- [Oracle Applications Cloud Functional Setup Managerの使用](#)
- [機能設定マネージャ: 概要](#)

設定および保守の基本

オフリング: 説明

オフリングは、一般的に1つの単位としてプロビジョニングおよび実装する、1つ以上のビジネス・プロセスおよびアクティビティを表すアプリケーション・ソリューション・セットです。したがって、オフリングは**Oracle Fusion Applications**の機能設定の主な推進力となるものです。オフリングの例として、財務、調達、営業、マーケティング、オーダー・オーケストレーション、ワークフォース配置などがあります。オフリングは、**Oracle Fusion Applications**機能の最上位グループです。これには、機能領域と、機能と呼ばれる代替ビジネス・ルールが含まれます。

オフリングの関連文書: 説明

関連文書は、オフリングの適切な実装の計画を支援することを目的としており、「スタート」ページに表示されます。すべてのオフリングに、デフォルトのレポート・セットが関連文書として含まれています。デフォルトの文書は変更できません。これらのレポートに加えて、計画や実装の際、または設定タスクを実行する際に役立つレポートおよびその他の関連文書を追加できます。デフォルトで使用可能な文書は次のとおりです。

オフリング・コンテンツ・ガイド

このレポートには、オフリングでサポートされているビジネス・プロセスおよびアクティビティに関する詳細情報が表示されます。

「設定タスク・リストおよびタスク」レポート

このレポートには、オフリングを正常に実装するために完了する必要があるタスク・リストおよびタスクが表示されます。

「関連付けられた機能」レポート

このレポートには、オフリングに関連付けられている機能領域および機能のリストが表示されます。

「関連ビジネス・オブジェクト」レポート

このレポートには、オフリングを実装するために必要なすべての設定データが表示されます。オフリングに属する設定タスクに関連付けられているすべてのビジネス・オブジェクトのリストが提供されます。

「関連エンタープライズ・アプリケーション」レポート

このレポートには、オフリングの機能ページおよびWebサービスで使用されるエンタープライズ・アプリケーションのリストが表示されます。

機能のオプトイン: 手順

機能をオプトインする手順は、次のとおりです。

1. まず、機能を含む機能領域をオプトインします。
2. 「機能」アイコンをクリックして、「機能の編集」ページをオープンします。
3. 「機能の編集」ページで、実装する機能を探します。必要に応じて、「ヘルプ」をクリックすると、各機能でサポートされている機能の詳細を参照できます。
4. 機能タイプに応じて、チェック・ボックス(はいいいえ機能の場合)または「機能」アイコン(単一および複数選択機能の場合)が「使用可能」列に表示されます。実装するはいいいえ機能の「使用可能」を選択するか、「機能」アイコンをクリックし、対応する機能について実装する選択肢を選択します。「保存してクローズ」をクリックします。
5. 完了したら、「完了」をクリックします。

機能領域とは

機能領域は、オフリング内の機能のグループです。オフリングの一部として実装できるオプションの機能である場合もあります。オプションの機能領域は親オフリングに含めることも、親オフリングから除外することもできます。機能領域は階層構造になっている場合があり、別の機能領域に従属していることがあります。オフリングには、少なくとも1つのベースまたはコア機能領域があり、オプションの機能領域が1つ以上ある場合があります。さらに、1つ以上の機能がオフリングに関連付けられていることもあります。

参照

参照: 説明

参照は、アプリケーションの値リストです。値リストは、参照コード、各コードの翻訳内容、およびタグ(オプション)のセットで構成される参照タイプとして定義します。エンド・ユーザーには、翻訳内容のリストがオブジェクトで使用可能な値として表示されます。

参照により検証の手段や値リストが提供され、リストには、値が重複することなく、有効な値が表示されます。たとえば、アプリケーションで表の列に値YとNが格納されていても、それらの値をユーザー・インタフェースに表示するときには、**Yes**または**No** (あるいはこれらに相当する翻訳内容)をエンド・ユーザーが選択できるようにする必要があります。たとえば、2つの参照コードYおよびNは、**REQUIRED_INDICATOR**参照タイプで定義されます。

次の表に、既婚、未婚または使用可能な法律上のパートナーシップをユーザーが指定するための参照コードを持つ婚姻区分(**MAR_STATUS**)の参照タイプの例を示します。

参照コード	意味	タグ
-------	----	----

M	既婚	該当なし
S	未婚	該当なし
R	登録パートナー	+NL
DP	ドメスティック・パートナー -FR、 AU	

この場合、タグはコードのローカライズに使用されます。既婚と未婚は、すべての国別仕様にリストされます。登録パートナーは、オランダの国別仕様のみリストされます。また、フランスとオーストラリアを除くすべての国別仕様には、ドメスティック・パートナーもリストされます。

参照を管理する場合、次のことを理解しておく必要があります。

- アプリケーションでの参照の使用方法
- 構成レベル
- 参照へのアクセス
- 参照の有効化
- 参照の3つの種類(標準、共通およびセット対応)

アプリケーションでの参照の使用方法

参照を使用して、ユーザー・インタフェースのユーザー入力フィールドの検証や値リストを提供できます。

検証に使用される参照の例としては、参照タイプの値を含む表検証値セットを使用するフレックスフィールド・セグメントがあります。値リストの参照の例としては、ユーザーがいずれかを選択してプロファイル・オプションを設定するために使用可能なプロファイル・オプションの値があります。「請求書承認ステータス」では、様々な承認ステータスの買掛/未払金請求書をレポートに含めるオプションが提供されます。参照コード値には「すべて」も含まれるため、ユーザーは、「承認済」、「承認のために再発行」、「待ち状態または否認済」および「否認済」のすべてのステータスによってレポートできます。

構成レベル

参照タイプの構成レベルによって、その参照タイプの参照を編集できるかどうかが決まります。これにより、参照にデータ・セキュリティが適用されます。

一部の参照タイプはロックされているため、実装中や後で必要になったときに新しいコードを追加したり、その他の変更を加えることができません。参照タイプの構成レベルに応じて、コードやその内容を変更できる場合もあります。一部の参照は拡張可能として指定されているため、実装中に新しい参照コードを作成できますが、事前定義済参照コードは変更できません。事前定義済参照コードの中には、実装中や後で必要になったときに変更できるものもあります。

構成レベルは、ユーザー、拡張可能およびシステムです。次の表に、各構成レベルで許可されている参照管理タスクを示します。

許可されているタスク	ユーザー	拡張可能	システム
参照タイプの削除	可	いいえ	いいえ
新しいコードの挿入	可	可	いいえ
開始日および終了日の更新、参照コードの有効化	可	はい(コードが事前定義済データでない場合のみ)	いいえ
コードの削除	可	はい(コードが事前定義済データでない場合のみ)	いいえ
タグの更新	可	いいえ	いいえ
モジュールの更新	可	いいえ	いいえ

事前定義済データは、**LAST_UPDATED_BY = SEED_DATA_FROM_APPLICATION**を意味します。

製品が参照に依存する場合、削除を防ぐために、構成レベルがシステムまたは拡張可能である必要があります。

構成レベルは、参照タイプに対して設定した後は変更できません。新しく作成した参照タイプの構成レベルは、デフォルトでユーザー・レベルに設定されます。

標準参照、共通参照およびセット対応参照

次の表に、使用可能な参照のタイプを示します。

参照タイプ	説明
標準	使用可能なコードと翻訳内容をリストします。

セット対応 参照データ・セットを参照コードと関連付けます。

共通 レガシー参照または属性を持つ参照。

標準参照は最も簡単な形の参照タイプで、コードとその翻訳内容のみで構成されます。標準参照ビューで定義される点のみが共通参照と異なります。共通参照は後方互換性のために存在し、共通参

照ビューで定義される点のみが標準参照と異なります。属性列を持つ参照である場合もあります。セット対応参照タイプには、参照データ共有に使用できる参照コードが格納されます。決定要因の値によって、参照コードが存在する参照データ・セットが識別されるため、実行時に、セット対応参照コードが表示されます。

参照へのアクセス

標準参照、セット対応参照および共通参照は、それぞれ標準ビュー、セット対応ビューおよび共通ビューで定義されます。アプリケーションの開発では、アプリケーション・ビューで参照を定義して、それらが表示されるUIページを制限できます。

参照管理タスクでは、参照をアプリケーション・タクソノミのモジュールと関連付けて、検索を絞り込んだり、購買参照の管理など、製品固有のタスクがアクセスする参照の数を制限するための基準を提供できます。

参照の有効化

複数の表に格納されている属性に1つの参照タイプを再利用できます。

次の操作に基づいて参照を有効にします。

- 「使用可能」チェック・ボックスの選択
- 有効にした開始日、終了日またはその両方の指定
- 参照データ・セット決定要因の指定

参照を変更した場合、変更を有効にするには、ユーザーはサインアウトした後、再度サインインする必要があります。検証ではなく、表示用の値リストを定義する場合は、有効な参照コードの数を使いやすい数に制限してください。

事前定義済みの参照とその参照コードを表示するには、「設定および保守」作業領域で次のタスクを使用します。

- 標準参照の管理
- 共通参照の管理
- セット対応参照の管理

参照の翻訳

アプリケーションの言語セッションを変更することなく、定義した参照を希望の言語に翻訳できます。参照コード表で使用可能な翻訳オプションを使用します。デフォルトでは、各参照について、翻訳ダイアログ・ボックスで許可されているすべての言語行がソース言語(現在のセッション言語)で表示されます。特定の言語エントリを編集する場合、翻訳内容および説明を、参照を表示する言語に変更できます。更新が実行されると、エンド・ユーザーは、翻訳されたテキストで参照を表示できます。

注意: 管理者によって許可されている数の言語の翻訳のみを追加できます。ダイアログ・ボックスに表示される言語の数を制限する機能を制御するには、翻訳エディタの言語プロファイル・オプションを使用します。SITEまたはUSERレベルで設定できます。何も指定しない場合、アクティブなすべて

の言語が表示されます。

関連項目

- [事前定義済参照にアクセスするにはどうすればよいですか。](#)
- [セット対応参照の管理: 例](#)
- [参照タイプと値セットの違いは何ですか。](#)
- [標準参照の管理: 例](#)
- [翻訳エディタの使用: 手順](#)

参照を編集にするにはどうすればよいですか。

いずれかの参照の管理ページで、参照タイプの既存の参照コードを編集したり、新しい参照コードを追加できます。「設定および保守」作業領域で次のタスクを使用して、参照を編集できます。

- 標準参照の管理
- 共通参照の管理
- セット対応参照の管理

各タスクには、分類および格納されている参照タイプの事前定義済セットが含まれています。タスクをオープンし、目的の参照を検索して編集します。ただし、構成レベルで編集がサポートされていない場合は、参照を編集できないことがあります。

参照タイプが表示されないのはなぜですか。

参照タイプは、「地理参照の管理」など、関連する参照のグループを含むタスクを使用して分類されています。各タスクでは、特定の参照タイプのみアクセスできます。ただし、汎用タスクでは、「共通参照の管理」タスクに関連付けられている共通参照など、ある種類のすべての参照タイプにアクセスできます。

アプリケーションの参照タイプが標準、共通またはセット対応参照ビューで使用可能な場合、それらはアプリケーションの中心となります。ただし、特定のアプリケーションについて定義されている参照タイプは、そのアプリケーションのタスクまたはタスク・リストを使用して管理されます。

プロファイル・オプション

プロファイル・レベルの階層: 説明

プロファイル・レベルの階層によって、プロファイル・オプションが有効になるコンテキストが決まります。

プロファイル・オプションは、次のレベルで有効にすることができます。

- サイト・レベル(最下位): 配置のサイト全体
- ユーザー・レベル(最上位): 特定のユーザー

「プロフィール・オプションの管理」ページでプロフィール・オプションを作成または編集したら、それを有効にする必要があります。複数のレベルで有効にすることができます。有効にした最上位レベルの設定は、下位レベルよりも優先されます。ユーザー・レベルが階層の最上位であり、常にサイト・レベルの設定よりも優先されます。

管理プロフィール値の管理ページで、プロフィール・オプションの有効にしたいいずれかのレベルでプロフィール値を設定します。

プロフィール・オプション階層の例

次の表に、様々なレベルにおける通貨プロフィール・オプションの設定の例を示します。

プロフィール・レベル	階層	通貨
サイト	最下位	ユーロ
ユーザー	最上位	USドル

この例では、**John**と**Lisa**という2人のユーザーがいます。**John**については、ユーザー・レベルのプロフィール値の通貨が**USドル**に設定されています。通貨プロフィール・オプションがサイト・レベルのみ有効になっている場合、**John**と**Lisa**の両方にデフォルト通貨としてユーロが表示されます。プロフィール・オプションがユーザー・レベルで有効になっている場合、通貨プロフィール値として異なる通貨が設定されているユーザーにはその通貨のみが表示されます。この場合、**John**にはデフォルト通貨として**USドル**が表示されます。通貨プロフィール・オプションがユーザー・レベルで有効になっており、ユーザー・レベルの通貨が定義されていない場合は、サイト・レベルの設定が有効になります。サイト・レベルとユーザー・レベルの両方が有効になっている場合は、ユーザー・レベルの値がサイト・レベルの値よりも優先されます。

プロフィール・オプションおよび関連する一般プリファレンス: 連携

グローバル・ヘッダーからアクセスする「言語」、「テリトリ」、「日付書式」などの一般プリファレンスには、対応するプロフィール・オプションが事前定義されています。

一般プリファレンス

ユーザーが、希望する日付書式、言語または通貨を定義する場合、ユーザー・レベルでプロフィール・オプションの値を設定します。

プロフィール・オプション

ユーザーがプリファレンスとして何も指定しない場合は、サイト・レベルのプロフィール・オプションが有効になります。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 実装ユーザーの定義

4 実装ユーザーの定義

この章の内容は次のとおりです。

- [設定ユーザーの定義: 概要](#)

設定ユーザーの定義: 概要

アプリケーションを設定する際の初期アクティビティの1つとして、設定タスクを実行するユーザーの作成があります。

環境のプロビジョニング時には、初期ユーザーが自動的に作成されます。この初期ユーザーは、他のユーザーの作成や追加権限の付与などのセキュリティ・タスクを実行できるように構成されています。初期ユーザーは、アプリケーションの設定を支援する他のユーザー(設定ユーザーと呼ばれる)を作成できます。設定ユーザーは、実装プロジェクトのタスクの実行、企業体系の設定、アプリケーション・ユーザーの作成およびセキュリティの管理を担います。

設定ユーザーを作成するには、「設定および保守」作業領域の「ユーザーの管理」タスクを使用します。このタスクには、「設定および保守」作業領域で次を使用してアクセスできます。

- オフアリング: 顧客データ管理
- 機能領域: ユーザーおよびセキュリティ
- タスク: ユーザーの管理

設定ユーザーの作成の詳細は、**Sales Cloud**の実装スタートガイドを参照してください。

関連項目

- [Oracle Sales Cloud実装スタート・ガイド](#)
- [販売およびサービスの保護ガイド](#)

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 地理の定義

5 地理の定義

この章の内容は次のとおりです。

- [概要](#)
- [地理の不一致の管理](#)
- [地理とゾーンのインポート](#)
- [地域コードの設定](#)
- [住所クレンジングの定義](#)
- [地理の定義に関するFAQ](#)

概要

地理体系、階層および検証: 連携

国を定義する際には、地理体系、地理階層および地理検証という相互に依存する3つの要素を使用します。各国には、階層を定義する前にまず地理体系を定義し、検証を定義する前に地理階層を定義する必要があります。

地理体系

最初に、各国の地理体系を作成して国体系にどの地理タイプを含めるかを定義し、国体系内での地理タイプの階層関係を定義する必要があります。たとえば、州、市および郵便番号という地理タイプを作成できます。次に、州の地理タイプを国の最上位レベルに、市を第2レベルに、郵便番号を最下位レベルにそれぞれランク付けできます。地理体系は、「地理の管理」タスクを使用して定義することも、「地理の定義」アクティビティのタスクを使用してインポートすることもできます。

地理階層

地理体系を定義した後、各地理タイプの地理を階層に追加できます。たとえば、アメリカ合衆国の階層では、州の地理タイプを使用してカリフォルニアという地理を作成できます。

地理階層の管理の一部として、国体系に含まれる各地理タイプの地理を表示、作成、編集および削除できます。また、各地理について、プライマリ名およびカナ名とコードを追加できます。地理階層は、「地理の管理」タスクを使用して作成することも、「地理の定義」アクティビティのタスクを使用してインポートすることもできます。

地理検証

地理階層を定義した後、国の地理検証を指定する必要があります。国に使用する住所形式の書式を選

択したり、選択した住所形式の書式ごとに地理タイプを住所属性にマップできます。また、地理検証または税金検証に含める地理タイプや、他のユーザー・インタフェースへの住所入力時に値リストに表示される地理タイプを選択することもできます。エラーまたは警告などの国の地理検証レベルの選択も可能です。

地理体系: 説明

このトピックでは、地理体系および地理体系を使用して実行できるタスクについて説明します。

地理体系は、国の地理タイプを階層構造でグループ化したものです。次の表に、アメリカ合衆国の地理体系を示します。

レベル 地理タイプ

- 1 State
- 2 郡
- 3 市区町村
- 4 Postal Code

地理体系を使用して、国の地理タイプを関連付けたり、国の地理タイプを定義できます。

国の地理タイプの関連付け

地理体系に地理タイプの階層を作成することによって、国の地理の階層関係を指定できます。国の体系を定義する際には、地理体系の最上位レベル(レベル1)の地理タイプは暗黙的に国になります。国の後に追加する後続の地理タイプは順番に番号付けされます。

国に目的の地理タイプの地理を定義するためには、その地理タイプを国体系にレベルとして事前に追加しておく必要があります。たとえば、州としてカリフォルニアを定義する場合は、アメリカ合衆国の国体系に州の地理タイプを事前に追加しておく必要があります。国体系をすばやく作成するには、別の国から体系をコピーし、その国の地理タイプを変更します。

国の地理タイプの定義

いずれかのマスター参照地理タイプを使用して、地理体系を作成できます。必要に応じて、地理タイプを作成して国体系に追加できます。各地理タイプは現在の最下位レベルの下位に追加されます。

注意: 地理データが関連付けられている地理タイプは削除できません。国体系の最下位レベルの地理タイプのみを削除できます。

国体系内に作成する地理タイプを、他の国体系に使用することもできます。

地理階層: 説明

このトピックでは、地理階層および地理階層の様々な側面について説明します。

地理階層とは、地理間の概念的な親子関係を確立するデータ・モデルです。地理階層の最上位レベルが国(つまり、親)であり、階層にはいくつかの子地理が含まれています。次の表に、地理のサンプルの親子関係を示します。

カリフォルニア州 サンマテオ郡の親

サンマテオ郡 レッドウッドシティの親

レッドウッドシティ **94065**の親

94065 子

単に**94065**と入力することで、その郵便番号がカリフォルニアにあることや、対応する市がレッドウッドシティであることがアプリケーションで自動的に判断されます。

アプリケーションでは、地理階層情報を使用して、税金計算、オーダー・ソース・ルール、営業テリトリ定義などの地理情報に依存するビジネス・プロセスを容易にします。地理階層情報は一元的に保存され、その他のアプリケーション・オファリング間で共有されます。

地理階層は次のもので構成されます。

- 地理: 地理は、国、都道府県、州、市などの地理タイプの定義済インスタンスを表す境界付き物理領域です。たとえば、サンノゼは地理タイプが市の地理です。
- 地理タイプ: 地理タイプは、大陸、国リージョン、税リージョンなど、ユーザー定義の地理を区分してグループ化したものです。
- 地理使用目的: 地理使用目的は、地理タイプや地理がアプリケーションでどのように使用されているかを示します。
- マスター参照地理階層: 地理階層データは、地理タイプ、地理などのすべての地理関連データの単一参照ソースとみなされます。

階層全体の地理使用目的はマスター参照であり、定義済の地理タイプおよび地理はマスター参照地理タイプおよび地理になります。たとえば、州、市および郵便番号という地理タイプを作成できます。次に、州を国体系内の最上位レベルに、市を第2レベルに、郵便番号を最下位レベルにそれぞれランク付けできます。

- ユーザー定義のゾーン: ユーザー定義のゾーンは、特定の目的でマスター参照データから作成された地理データの集合です。たとえば、テリトリ・ゾーンはマスター参照地理の集合を階層で順位付けしたものであるのに対し、税および出荷ゾーンには階層グループはありません。

地理検証: 説明

地理検証では、国の住所形式の地理マッピングや検証を指定したり、国の全体的な地理検証管理を指定します。

国のデフォルトの住所形式の書式は、「形式の書式なし」です。この書式に対してマッピングや検証

を定義することによって、国内の任意の住所に対して検証を実行できるようになります。「形式の書式なし」を定義した後、特定の住所形式に対する追加のマッピングを設定できます。

住所形式の書式ごとに、次のものを定義できます。

- 属性へのマップ
- 値リスト使用可能
- 税金検証
- 地理検証
- 地理検証管理

属性へのマップ

住所形式の書式ごとに、各地理タイプを住所属性にマップできます。たとえば、アメリカ合衆国については、州の地理タイプを州の住所属性にマップし、イギリスについては、州の地理タイプを郡の住所属性にマップできます。表示される地理タイプは、国体系の定義に基づきます。表示される住所属性のリストは、アプリケーションに用意されている住所書式または顧客定義の住所書式に基づきます。

注意: 必要となるのは、地理検証または税金検証の目的で使用する地理タイプをマップすることのみです。

値リスト使用可能

地理タイプを属性にマップしたら、ユーザー・インタフェースへの住所入力時にその地理タイプを値リストに表示するかどうかを指定できます。値リストを有効にする場合は慎重にレビューすることが非常に重要です。該当する地理について十分な地理データがインポートまたは作成されている場合のみ値リストを有効にしてください。マスター地理データの設定が未完了の場合、地理データはインポートまたは作成されていません。結果として、住所属性の値リストには、地理データはリストされません。

住所属性の値リストを有効にすると、該当する地理タイプに使用できる地理データのみを選択できるようになります。つまり、特定の地理値が地理階層に存在しない場合に、別の地理値を持つ住所を作成できません。

税金検証

地理タイプを税金検証の対象とするかどうかも指定できます。たとえば、アメリカ合衆国の北米住所形式の書式の場合、税金検証に郡、州および市を使用するように指定します。つまり、トランザクションに北米住所形式の住所が関与する場合は、地理階層データに基づいて正しい郡、州および市の組合せを持つ住所を使用し、その住所が税金計算に対して有効であるとみなされるようにする必要があります。

地理検証

営業テリトリで使用する予定の地理要素について、地理検証を設定する必要があります。検証の設定により、不明な住所情報を入力し、入力中に住所を検証することでユーザーを支援します。たとえ

ば、ユーザーに州や他の住所要素をリストから選択させることで、入力中の正確性を確保できます。また、不明な値をアプリケーションに入力させることも可能です。たとえば、ユーザーが郵便番号を入力したときに、アプリケーションは市や州を取得できます。

地理タイプを地理検証の対象とするかどうかを指定できます。たとえば、ユーザーが北米住所形式の書式でアメリカ合衆国の住所を入力する場合は、地理階層データに基づいて正しい国、州および郵便番号の組合せを持つ住所を使用し、その住所が地理的に有効とみなされるようにする必要があります。

住所要素が地理タイプにマップされているが、地理検証使用の対象として選択されていない場合は、住所入力時に住所要素の提案値が提供されますが、その住所要素は検証されません。

「地理タイプ」と「属性へのマップ」の間のデフォルト・マッピングが「地理マッピングおよび検証」リージョンで有効であることを検証し、地理検証の定義時に必要に応じて更新する必要があります。GBG | Loqateがサポートしている国については次の有効なマッピングを使用することをお勧めします。

国名	国コード	地理タイプ	属性へのマップ
アンドラ	AD	• Country	• Country
		• Parroquia	• State
		• Settlement	• City
		• Postcode	• Postal code
オーストラリア	AU	• Country	• Country
		• State	• State
		• City	• City
		• Postcode	• Postal code
オーストリア	AT	• Country	• Country
		• Bundensland	• State
		• Bezirk	• County
		• Gemeinde	• City
		• Postal code	• Postal code
		• Country	• Country
		• Gewest	• Additional address attribute 1
ベルギー	BE	• Provincie	• Province

		<ul style="list-style-type: none"> • Gemeente • Postcode 	<ul style="list-style-type: none"> • City • Postal code
ブラジル	BR	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Estado • Municipio • CEP 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • City • Postal code
ブルガリア	BG	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Oblast • Obshhina • Grad • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Additional address attribute 1 • Province • City • Postal code
カナダ	CA	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Province • City • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Province • City • Postal code
ケイマン諸島	KY	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Island • District • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • City • Postal code
チリ	CL	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Region • Provincia • Comuna •Codigo Postal 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Additional address attribute 1 • Province • City • Postal code

クロアチア	HR	• Country	• Country
		• Zupanije	• Province
		• Grad	• City
		• Postal Code	• Postal code
チェコ共和国	CZ	• Country	• Country
		• Kraj	• State
		• Okresy	• County
		• Mesto	• City
デンマーク	DK	• Postal Code	• Postal code
		• Country	• Country
		• Omrade	• Province
		• Landsby	• City
ドミニカ共和国	DO	• Postcode	• Postal code
		• Country	• Country
		• Provincia	• Province
		• Municipio	• County
エストニア	EE	• Ciudad	• City
		• Codigo Postal	• Postal code
		• Country	• Country
		• Maakond	• State
フィンランド	FI	• Vald	• City
		• Postal Code	• Postal code
		• Country	• Country
		• Laani	• State
		• Kunta	• City

		<ul style="list-style-type: none"> • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
		<ul style="list-style-type: none"> • Region 	<ul style="list-style-type: none"> • Additional address attribute 1
フランス	FR	<ul style="list-style-type: none"> • Department 	<ul style="list-style-type: none"> • State
		<ul style="list-style-type: none"> • Commune 	<ul style="list-style-type: none"> • City
		<ul style="list-style-type: none"> • Settlement 	<ul style="list-style-type: none"> • Additional address attribute 2
		<ul style="list-style-type: none"> • Postcode 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
		<ul style="list-style-type: none"> • Bundesland 	<ul style="list-style-type: none"> • State
ドイツ	DE	<ul style="list-style-type: none"> • Bezirk 	<ul style="list-style-type: none"> • County
		<ul style="list-style-type: none"> • Stadt 	<ul style="list-style-type: none"> • City
		<ul style="list-style-type: none"> • PLZ 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
		<ul style="list-style-type: none"> • County 	<ul style="list-style-type: none"> • State
英国	GB	<ul style="list-style-type: none"> • Posttown 	<ul style="list-style-type: none"> • City
		<ul style="list-style-type: none"> • Postcode 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
グアダプペ	GP	<ul style="list-style-type: none"> • Commune 	<ul style="list-style-type: none"> • City
		<ul style="list-style-type: none"> • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
		<ul style="list-style-type: none"> • Megye 	<ul style="list-style-type: none"> • Additional address attribute 1
		<ul style="list-style-type: none"> • Jaras 	<ul style="list-style-type: none"> • Province
ハンガリー	HU	<ul style="list-style-type: none"> • Nagykozsegek 	<ul style="list-style-type: none"> • County
		<ul style="list-style-type: none"> • Kozsegek 	<ul style="list-style-type: none"> • City
		<ul style="list-style-type: none"> • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code

		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Jaras • Nagykozsegek • Kozsegek • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Province • County • City • Postal code
アイスランド	IS		
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Jaras • Nagykozsegek • Kozsegek • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Province • County • City • Postal code
マン島	IM		
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • District • SubDistrict • City • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • County • City • Postal code
イスラエル	IL		
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Regione • Provincia • Comune • Postal code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Additional address attribute 1 • Province • City • Postal code
イタリア	IT		
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Parish • City • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • City • Country
ジャマイカ	JM		
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country

日本	JP	<ul style="list-style-type: none"> • Prefecture • City • Postal code 	<ul style="list-style-type: none"> • State • City • Postal code
ケニア	KE	<ul style="list-style-type: none"> • Country • County • Division • Settlement 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • City • Additional address attribute 2
リヒテンシュタイン	LI	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Wahlkreis • Gemeinde • District • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Additional Address Attribute 1 • State • City • Postal code
ルクセンブルク	LU	<ul style="list-style-type: none"> • Country • District • Canton • Commune • Urbaine • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Additional address attribute 1 • State • County • City • Postal code
マレーシア	MY	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Negeri • Bahagian • Daerah • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • County • City • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country Region 	<ul style="list-style-type: none"> • Country State

マルティニーク	MQ	<ul style="list-style-type: none"> • Department • Comune • Postal code 	<ul style="list-style-type: none"> • County • City • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Estado 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State
メキシコ	MX	<ul style="list-style-type: none"> • Municipio • Ciudad • Asentamiento • Codigo Postal 	<ul style="list-style-type: none"> • County • City • Additional Address Attribute 2 • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Provincie 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Province
オランダ	NL	<ul style="list-style-type: none"> • Gemeente • Settlement • Postcode 	<ul style="list-style-type: none"> • County • City • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Region 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State
ニュージーランド	NZ	<ul style="list-style-type: none"> • Town • Postcode 	<ul style="list-style-type: none"> • City • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
ノルウェー	NO	<ul style="list-style-type: none"> • Fylke • ByKommune • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • State • City • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Region 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Additional address attribute 1

ペルー	PE	<ul style="list-style-type: none"> • Provincia • Distrito •Codigo Postal 	<ul style="list-style-type: none"> • Province • City • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Wojewodztwo 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Province
ポーランド	PL	<ul style="list-style-type: none"> • Powiat • Gmina •Codigo Postal 	<ul style="list-style-type: none"> • County • City • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • District 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State
ポルトガル	PT	<ul style="list-style-type: none"> • Municipality • Parish • Postcode 	<ul style="list-style-type: none"> • County • City • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Commonwealth 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State
プエルトリコ	PR	<ul style="list-style-type: none"> • Municipio • Pueblo •Codigo Postal 	<ul style="list-style-type: none"> • County • City • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
カタール	QA	<ul style="list-style-type: none"> • Municipality • Zones 	<ul style="list-style-type: none"> • State • City
		<ul style="list-style-type: none"> • Country • Region 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State
レユニオン島	RE	<ul style="list-style-type: none"> • Department • Commune 	<ul style="list-style-type: none"> • County • City

		<ul style="list-style-type: none"> • Settlement 	<ul style="list-style-type: none"> • Additional Address Attribute 2
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
		<ul style="list-style-type: none"> • Regiune 	<ul style="list-style-type: none"> • Additional address attribute 1
ルーマニア	RO	<ul style="list-style-type: none"> • Judete 	<ul style="list-style-type: none"> • Province
		<ul style="list-style-type: none"> • Municipiu 	<ul style="list-style-type: none"> • County
		<ul style="list-style-type: none"> • Comuna 	<ul style="list-style-type: none"> • City
		<ul style="list-style-type: none"> • Postal code 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
シンガポール	SG	<ul style="list-style-type: none"> • State 	<ul style="list-style-type: none"> • State
		<ul style="list-style-type: none"> • City 	<ul style="list-style-type: none"> • City
		<ul style="list-style-type: none"> • Postal code 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
		<ul style="list-style-type: none"> • Kraj 	<ul style="list-style-type: none"> • Province
スロバキア	SK	<ul style="list-style-type: none"> • Okres 	<ul style="list-style-type: none"> • County
		<ul style="list-style-type: none"> • Obec 	<ul style="list-style-type: none"> • City
		<ul style="list-style-type: none"> • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
		<ul style="list-style-type: none"> • Regija 	<ul style="list-style-type: none"> • Additional Adress Attribute 1
スロベニア	SI	<ul style="list-style-type: none"> • Upravna Enota 	<ul style="list-style-type: none"> • Province
		<ul style="list-style-type: none"> • Obcina 	<ul style="list-style-type: none"> • County
		<ul style="list-style-type: none"> • Cadastre 	<ul style="list-style-type: none"> • City
		<ul style="list-style-type: none"> • Postal Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Postal code
		<ul style="list-style-type: none"> • Country 	<ul style="list-style-type: none"> • Country
		<ul style="list-style-type: none"> • Province 	<ul style="list-style-type: none"> • Province

南アフリカ	ZA	• District Municipality	• County
		• Settlement	• City
		• Postal code	• Postal code
スペイン	ES	• Country	• Country
		• Autonomia	• Additional address attribute 1
		• Provincia	• Province
スワジランド	SZ	• Municipio	• City
		• Codigo Postal	• Postal code
		• Country	• Country
スウェーデン	SE	• Sehir	• State
		• Kasaba	• County
		• Settlement	• City
スイス	CH	• Postal code	• Postal code
		• Country	• Country
		• Lan	• State
スウェーデン	SE	• Kommun	• County
		• By	• City
		• Postnr	• Postal code
スイス	CH	• Country	• Country
		• Kanton	• State
		• Bezirk	• County
スイス	CH	• Gemeinde	• City
		• PLZ	• Postal code
		• Country	• Country
スイス	CH	• County	• State

台湾	TW	<ul style="list-style-type: none"> • Town • Postal code • Country • Emirate • Municipality • Area 	<ul style="list-style-type: none"> • City • Postal code • Country • State • City • Additional Address Attribute 2
アラブ首長国連邦	AE	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • County • City • Zip Code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • County • City • Postal code
アメリカ合衆国	US	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Departamento • Ciudad • Codigo Postal • Country • Municipal • Settlement • Postal code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • City • Postal code • Country • State • City • Postal code
ウルグアイ	UY	<ul style="list-style-type: none"> • Country • Municipal • Settlement • Postal code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • City • Postal code
バチカン市国	VA	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • City • Postal code 	<ul style="list-style-type: none"> • Country • State • City • Postal code

注意: 税金検証と地理検証のいずれの場合も、選択した地理タイプが地理を一意に識別できる場合を除き、複数の連続するレベルをスキップしないでください。たとえば、アメリカ合衆国の国体系に州、郡、市および郵便番号があり、この中から州と郵便番号のみを地理検証または税金検証の対象として選択します。しかし、カリフォルニアと94065の組合せに該当する市は、レッドウッドショアーズまたはレッドウッドシティのいずれかです。この場合、地理検証または税金検証のためには、少なくとも市も選択する必要があります。

地理検証管理

国の地理検証レベルを選択できます。検証は、入力された住所が国の使用可能な地理階層データにマップされているかどうかをチェックし、地理検証管理は、住所入力時に検証に合格しなかった住所を保存できるかどうかを制御します。たとえば、検証レベルが「エラー」の場合、値が地理階層データと一致しない場合は住所を保存できません。

選択できる地理検証レベルは次のとおりです。

- エラー: 必須の住所要素がすべて入力された完全に有効な住所のみを保存できます。
- 検証なし: 不完全な住所または無効な住所を含め、すべての住所を保存できます。

検証結果に関係なく、検証プロセスによって、すべての住所属性を国の地理にマップすることが試みられ、使用可能なデータに基づいて確立できるマッピングが格納されます。これは地理名参照と呼ばれ、検証の一部として実行されます。この参照の結果は、アプリケーション内の複数のビジネス・プロセスで、住所を特定の地理またはゾーンにマップするために使用されます。

テリトリの地理ディメンションの値は販売アカウントの販売先住所から導出されます。テリトリの地理ディメンションを使用するには、住所内の地理要素(州、市、郵便番号など)を検証する必要があります。住所は、「地理の管理」タスクを使用して各国に対して地理検証を有効にすることによって検証できます。「地理の管理」タスクでは次のことを実行します。

- 地理階層内の少なくとも1つのレベルを地理検証用に有効にします。
- 各国のテリトリ定義に使用するすべての地理レベルに対して地理検証を有効にします。
- 必要に応じて、特定の地理要素を含む値リストを有効にします。これにより、ユーザーが住所入力時に適切な地理値を検索および選択しやすくなり、不適切な住所入力の可能性を完全に排除できます。

「地理検証の管理」ページで地理検証管理を「エラー」に設定できます。これにより、ユーザーは有効な地理要素のみを住所に使用できるようになります。

注意: 国の地理検証を設定する前に住所を作成済の場合は、地理検証を有効にしてから、該当する国に対して「地理名参照保守の実行」タスクを実行する必要があります。これにより、すべての地理要素が検証されます。

地理体系、階層および検証の管理: 作業例

この例は、国の地理に対して地理体系、階層および検証を構成する方法を、国の地理の例としてイギリスを使用して示しています。

次の表に、このシナリオにおける主な検討事項の概要を示します。

検討する決定事項	この例の場合
既存の国体系をコピーしますか。	いいえ。新しい国体系を作成します。
地理タイプはどのような体系ですか。	次のランキング体系を持つ地理タイプを作成します。 1. 郡

2. 郵便町

次の階層を作成します。

1. 国: イギリス
2. 州: バークシャー
3. 郵便町: レディング

どのような地理階層ですか。

地理検証をマップする際にどの住所形式の書式「形式の書式なし」というデフォルトの住所形式の書式を使用しますか。書式を使用します。

税金目的で**Oracle Fusion Tax**を使用しますか。いいえ。地理タイプに対して「税金検証」を選択しません。

地理体系の定義

イギリスの地理体系に州と郵便町の地理タイプを追加します。

1. 「地理の管理」ページで、「コード」フィールドに**GB**と入力します。「検索」をクリックします。
2. 「地理の管理」ページで、「体系定義済」をクリックします。
3. 「地理体系の管理」ページで、「国体系をコピー」フィールドの横にある「作成」ボタンをクリックします。
4. 「地理体系」セクションで、「地理タイプの追加」フィールドから州のリスト項目を選択します。
5. 「追加」をクリックします。
6. 「地理タイプの追加」フィールドから郵便町リスト項目を選択します。
7. 「追加」をクリックします。

地理階層の定義

イギリスの地理階層を作成するには、地理階層ユーザー・インタフェースを使用して、地理タイプが州および郵便町の地理を追加します。「ファイル・インポート・アクティビティの管理」タスクを使用して、地理階層を.csvまたはxmlファイルとしてインポートすることもできます。

1. 「地理の管理」ページで、「コード」フィールドに**GB**と入力します。「検索」をクリックします。
2. 「地理の管理」ページで、「階層定義済」をクリックします。

3. 「地理階層」セクションで、「イギリス」をクリックして表の行を強調表示し、「作成」をクリックします。
4. 州の作成ページの「プライマリ名およびカナ名」セクションで、「名前」フィールドにバークシャーと入力します。
5. 「保存してクローズ」をクリックします。
6. 「地理階層」セクションで、「バークシャー」をクリックして表の行を強調表示し、「作成」をクリックします。
7. 郵便町の作成ページの「プライマリ名およびカナ名」セクションで、「名前」フィールドにレディングと入力します。
8. 「保存してクローズ」をクリックします。

地理検証の定義

イギリスに追加した地理タイプに対して地理検証を指定するには、イギリスのデフォルトの住所形式の書式に地理マッピングと検証を定義します。その後、地理タイプを属性にマップし、値リストおよび地理検証に対して地理タイプを有効にし、地理検証レベルを設定します。

1. 「地理の管理」ページで、「検証定義済」をクリックします。
2. 「住所形式」セクションで「形式の書式なし」をクリックして表の行を強調表示します。
3. 州の地理タイプについて、「属性へのマップ」フィールドで州のリスト項目をクリックします。
4. 「値リスト使用可能」および「地理検証」オプションを選択します。
5. 郵便町の地理タイプについて、「属性へのマップ」フィールドで「市区町村」リスト項目をクリックします。
6. 「地理検証」オプションを選択します。
7. 「地理検証管理」セクションで、「国の地理検証レベル」リストから「エラー」を選択します。
8. 「保存してクローズ」をクリックします。

テリトリ地理分割の管理: 手順

テリトリ地理レベル分割を管理するには、テリトリ地理をグループ・ゾーンにグループ化する必要があります。テリトリ地理のグループ化には、必要なグループ化に基づく地理レベルの選択と、グループ化の開始という2つのステップがあります。

グループ化の地理レベルの選択

次の手順を実行して、グループ・ゾーンを作成する基準となる地理レベルを選択します。

1. アプリケーション実装コンサルタントなどの設定ユーザーとしてサインインします。

2. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: エンタープライズ・プロファイル
 - タスク: 地理の管理
3. テリトリ地理レベルのグループ化を有効にする国を検索します。
4. 「体系定義済」をクリックします。「地理体系の管理」ページが表示されます。
5. グループ化を有効にする地理タイプ・レベルに対応する「グループ化の対象」チェック・ボックスを選択します。

ビジネス要件に合う地理レベルを選択する必要があります。たとえば、製品搬送が郵便番号に基づいており、テリトリ地理に郡や市区町村などの上位レベルのマスター地理がない場合、郵便番号の分割が発生している可能性があります。この場合は、グループ化のための地理タイプ・レベルとして郵便番号を選択する必要があります。

注意: 一度に1レベルのみのグループ化を有効にできます。

6. 「保存してクローズ」をクリックします。

グループ化の開始

グループ化を開始するには、次の手順を実行します。

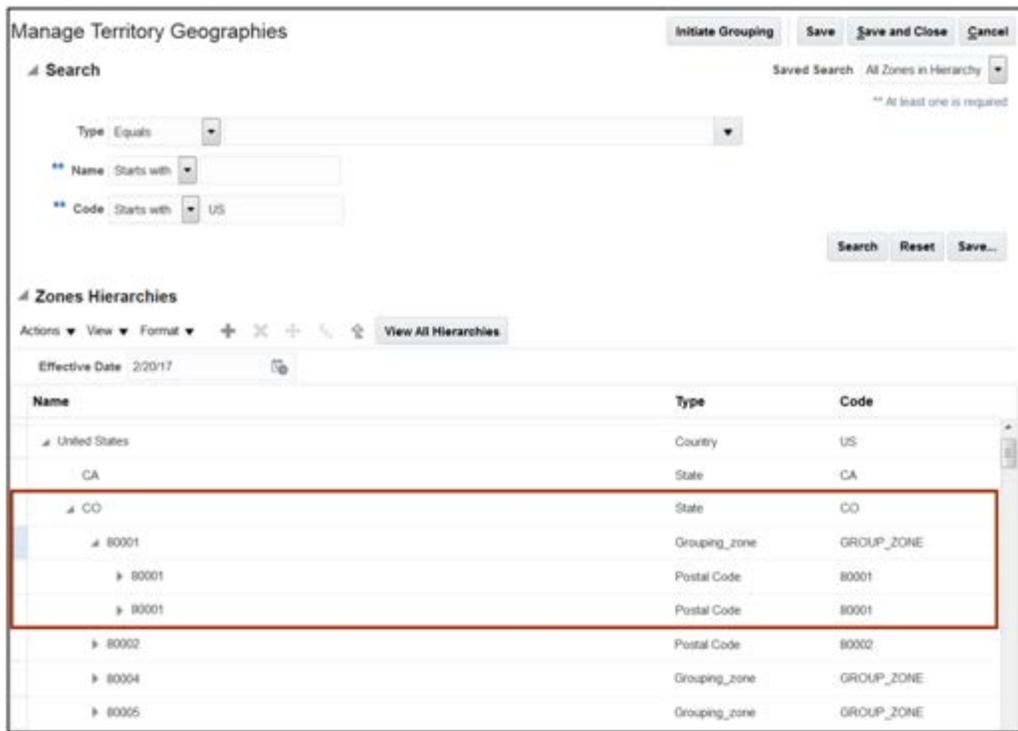
1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 販売
 - 機能領域: テリトリ
 - タスク: テリトリ地理の管理

「テリトリ地理の管理」ページが開きます。

2. 「グループ化の開始」をクリックします。
3. 警告メッセージに対して「OK」をクリックし、プロセスを確認します。

注意: グループ化されたテリトリ地理を自動的にグループ解除することはできません。UIまたはインポート・プロセスを使用してテリトリ地理階層を再作成することで、グループ化プロセスを手動で取り消すことができます。

グループ化が完了すると、グループ化対象として選択した地理レベルが、次の図に示すように展開可能なグループ・ゾーンとして表示されます。



4. 「保存してクローズ」をクリックします。

テリトリ地理グループ化プロセス

このトピックでは、テリトリ地理分割の問題を、グループ・ゾーンへのグループ化によって克服する方法について説明します。

テリトリ地理レベルのいずれかに複数の分割がある場合、テリトリ地理グループ化を実行します。テリトリ地理分割は、上位レベルのマスター地理をスキップしている間に、下位レベルのマスター地理がテリトリ地理階層に追加されると発生します。これにより、テリトリ地理階層で下位の地理レベル・メンバーが複数発生する可能性があります。

たとえば、郵便番号の分割は、郵便番号が多数のマスター地理レベル(市区町村や郡など)で重複している場合に発生します。ビジネス会社 **Vision Corp.** が郵便番号に従って製品を提供しているとします。郡と市区町村が **Vision Corp.** のテリトリ地理階層に含まれていない場合、エンド・ユーザーから見ると、郵便番号 **97229** が複数回登録されています。

テリトリ地理レベルの分割があり、分割地理をグループ化する場合、まずグループ化を実行するマスター地理レベルを指定し、その後グループ化を開始する必要があります。グループ化が実行されると、選択したマスター地理レベルのすべての分割が、新しいグループ・ゾーンの下にグループ化されます。前の例では、マスター地理で郵便番号をグループ化のレベルとして選択し、グループ化プロセスを開始すると、郵便番号 **97229** に対する **12** 件の郵便番号分割が、**97229** という名前の **1** つのグループ・ゾーン下にグループ化されます。したがって、テリトリ・マネージャ・ユーザーは、郵便番号またはそれらの範囲の分割のないリストでテリトリを定義できますが、実際には、一部の郵便番号は郵便番号分割をグループ化したものになります。グループ化された分割は、テリトリ・マネージャ・ユーザーに対して非表示になります。

地理の不一致の管理

このトピックでは、いくつかのユース・ケースを取り上げて、データ・エンリッチメント用に**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**を、住所検証用に住所検証クラウド・サービスをそれぞれ使用して、営業顧客のマスター参照地理を設定する際のベスト・プラクティスを紹介します。

Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceを使用してアカウントまたは担当者のリアルタイム・エンリッチメントを実行する際に、事前定義済のマスター地理データとダンアンドブラッドストリート(D&B)データの間地理データの不一致があると、アカウントおよび担当者のデータはエンリッチされますが、マスター地理データの不一致が解消されないかぎり、エンリッチ後のデータを編集または保存できません。また、住所検証クラウド・サービスを使用してエンリッチ済住所を検証できますが、アドレス検証クラウド・サービス(GBG | Loqate)と事前定義済マスター地理データ間に不一致がある場合は、検証済住所を保存することはできません。

2つ目のユース・ケースでは、住所検証を有効にし、住所検証クラウド・サービスとマスター参照地理データ間のデータ競合を回避するために必要な設定について説明します。

ユース・ケース1

テリトリ割当てまたは税金計算にマスター参照地理を使用している営業顧客として、データ・エンリッチメント用に**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**および住所検証クラウド・サービスを購入しました。この場合、**Nokia**地理参照データがマスター地理として構成されている一方で、税金計算は**Vertex**マスター地理データを使用して実行されます。また、顧客の要件に基づいて住所検証が有効になっています。

ベスト・プラクティス: ビジネスを行う国の地理マッピングをレビューします。特定の国の地理マッピングが国固有の住所属性に従ってマップされていない場合は、マッピングを更新します。住所を検証する前にエンリッチメントを実行することをお勧めします。

アカウントまたは担当者のリアルタイム・エンリッチメントを実行するものと仮定します。**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**では、事前定義済のマスター地理と**D&B**データの間地理データの不一致があっても、アカウントおよび担当者データはエンリッチされますが、マスター地理データの不一致が解消されないかぎり、エンリッチ済のアカウントまたは担当者を編集または保存できません。ただし、エンリッチ済の住所を住所検証クラウド・サービスによって検証することは可能です。

検証済住所にマスター地理データの不一致が存在する場合にその住所を保存するには、マスター地理内の不一致の階層要素に代替名を追加する必要があります。不一致の階層要素の代替名を追加する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフライン: 顧客データ管理
 - 機能領域: エンタープライズ・プロフィール
 - タスク: 地理の管理
2. 「地理の管理」ページで、国名または国コード(例: **US**)で国を検索します。
3. 「階層定義済」列の「タスクに進む」ボタンをクリックします。特定の国の「地理階層の管理」ページが表示されます。
4. **California**州など、不一致の階層要素を強調表示し、「編集」アイコンをクリックします。
5. 「編集」ページの「追加」アイコンをクリックします。

6. カリフォルニア州の地理要素の代替名として**CA**を追加します。

7. 「保存してクローズ」をクリックします

マスター地理内の不一致の階層要素に代替名を追加した後、エンリッチ済の住所を保存できます。

ユース・ケース2

テリトリ割当てまたは税金計算に地理を使用していない営業顧客として、データ・エンリッチメント用に**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**、住所検証用に住所検証クラウド・サービスを購入しました。住所検証を有効にし、住所検証クラウド・サービスとマスター参照地理データの間のデータ競合を回避するには、次のように設定する必要があります。

- 「地理マッピングおよび検証」領域の「値リスト使用可能」オプションの選択を解除して、住所検証クラウド・サービス・データとマスター参照地理データの競合を回避します。このオプションの選択を解除することによって、住所の追加時にマスター地理に対する**UI**レベルの検証を回避できます。
- 「国の地理検証レベル」で「検証なし」を選択して、住所データを住所検証クラウド・サービスによって検証します。

「地理検証の管理」ページで住所検証を有効にし、住所検証クラウド・サービスとマスター参照地理データの間のデータ競合を回避する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: エンタープライズ・プロファイル
 - タスク: 地理の管理
2. 「地理の管理」ページで、国名または国コード(例: **US**)で国を検索します。
3. 「検証定義済」列の「タスクに進む」ボタンをクリックします。「地理検証の管理」ページが表示されます。
4. すべての地理属性について「値リスト使用可能」チェック・ボックスの選択を解除して、住所入力時にマスター地理に対する**UI**レベルの検証を回避します。「値リスト使用可能」チェック・ボックスを選択すると、データ競合が発生したときに、地理命名参照レコードが作成されません。

注意: リストされる地理タイプに、選択した国のテリトリ体系に適用可能なものがない場合は、そのタイプの地理検証の選択を解除する必要があります。

郡などの特定の地理タイプに基づいてテリトリを作成する場合は、テリトリの作成基準となる地理タイプ(この場合は、市と郵便番号)の下位にあるすべての地理検証レベルの選択を解除する必要があります。

ヒント: 「地理検証の管理」ページで選択した住所形式の書式をレビューします。レビューが必要となるのは、アカウントまたは担当者の簡易**UI**ページでは、住所属性は住所書式に基づいて表示され、検証済住所またはエンリッチ済の住所は、選択した住所書式に基づいて**Oracle Applications Cloud**に保存されるためです。

地理とゾーンのインポート

地理のインポート: 説明

東京やペルーなどの地理は、地表の境界を表します。インタフェース表からデータをインポートすることによって、新しい地理を作成できます。インタフェース表に値を移入する際には、好みのツールを使用してデータをロードする方法とファイルベース・データ・インポートを使用する方法の2つのオプションがあります。ソース・ファイルでデータ詳細を入力する予定の場合は、ファイルベース・インポート機能を使用します。インタフェース表に値を直接移入する場合は、地理ローダー・プロセスを実行してデータをインポートします。インポート・エンティティ、インタフェース表および宛先表について十分に理解していると、インポート・データを準備する際に役立ちます。

注意: クラウド実装にはインタフェース表を直接移入できないため、クラウド実装では、ファイルベース・データ・インポートを使用する必要があります。

地理をインポートする際には次の点を検討してください。

- Oracleによってライセンスされている地理参照データ
- ファイルベース・インポート・オプション
- 地理ローダー・プロセス・オプション
- インポート・オブジェクト・エンティティ、インタフェース表および宛先表

Oracleによってライセンスされている地理参照データ

Oracle Applications Cloudには、複数の国のサードパーティ・マスター地理データがインポート用に用意されています。米国など、そのデータを使用できる国々では、Oracleがライセンス供与しているデータをGBG | LoqateまたはNokiaからインポートできます。「地理の管理」タスクを使用して、地理データをインポートできます。国を検索し、「処理」メニューから「地理データのインポート」を選択します。ライセンスされているデータが提供されていない、あるいは設定済である国については、「地理データのインポート」処理は無効になります。

オラクル社ではOracle Applications Cloudにインポート可能な地理データを追加コストなしでライセンスしています。オラクル社では現在、このライセンス・データのサプライヤをNokiaからGBG | Loqateに変更している途中です。GBG | Loqateは、より詳細かつ正確なデータを提供しています。この移行期間中、オラクル社ではGBG | Loqateの国データのサブセットを提供しており、このデータは増え続けています。新しいお客様は、データが利用できる国についてはGBG | Loqateデータをインポートする必要があり、残りについてはNokiaデータをインポートできます。オラクル社がこの移行を完了すると、お客様は地理データをGBG | Loqateに更新することも、引き続きをNokiaを使用することもできます。オラクル社が今後、GBG | Loqateが利用できる国についてNokiaデータを更新することはありません。GBG | Loqateが利用できる国のリストは「GBG | Loqate地理参照データ: 説明」トピックにあります。Nokiaが利用できる国のリストは「Nokia地理参照データ: 説明」トピックにあります。

ファイルベース・インポート・オプション

ファイルベース・インポート・プロセスでは、XMLまたはテキスト・ファイル内のデータを読み取り、インタフェース表に移入し、そのデータをアプリケーションの宛先表にインポートします。

ファイルベース・データ・インポート機能にアクセスするには、「設定および保守」作業領域で次の項目に移動します。

- オフアリング: 顧客データ管理
- 機能領域: エンタープライズ・プロファイル
- タスク: インポート・アクティビティの管理

詳細は、『Oracle Engagement Cloudファイルベース・データ・インポートおよびエクスポートの理解』ガイドの「地理のインポート」の章を参照してください。

地理ローダー・プロセス・オプション

インタフェース表にインポート・データを移入し、「設定および保守」作業領域で次の項目を使用して、インタフェース表から宛先表へのデータのインポートをスケジュールします。

- オフアリング: 顧客データ管理
- 機能領域: エンタープライズ・プロファイル
- タスク: 地理ローダーの実行

インポート・オブジェクト・エンティティ、インタフェース表および宛先表

地理インポート・オブジェクトは、地理を形成する1つのエンティティとインタフェース表で構成されます。ファイルベース・インポートを使用する場合は、インタフェース表の列に対応するインポート・エンティティ属性にソース・ファイルのデータをマップできます。インポート・アクティビティ・プロセスでは、マッピングとソース・ファイルに基づいてインタフェース表に値が移入されず。地理ローダーのスケジュール済プロセスを使用する場合は、好みのツールを使用してインタフェース表に値を直接移入します。

インポート・データに既存のアプリケーション・データの一意のIDが必要な場合は、「設定および保守」作業領域で次を使用して情報をエクスポートします。

- オフアリング: 顧客データ管理
- 機能領域: 取引先コミュニティ基盤
- タスク: エクスポート・プロセスのスケジュール

次の表に、オブジェクト・エンティティ、インタフェース表、宛先表および結果のアプリケーション・オブジェクトを示します。

ファイルベース・インポート・
エンティティ

インタフェース表

宛先表

アプリ
ケー
ショ
ン・オ
ブジェ
クト

HZ_GEOGRAPHIES

関連項目

- [顧客データ管理クラウドの実装: 概要](#)

地理データ・サプライヤの指定: 手順

アプリケーションは、Oracleによってライセンスされた地理データをGBG | Loqateからインポートするように設定されています。インポートする国データがNokiaからのみ使用可能な場合は、システム・プロファイル・オプション「DaaS GBG | Loqateデータ・インポート使用可能」(ORA_HZ_ENABLE_DAAS_LOQATE)をいいえに設定する必要があります。複数の国でビジネスを行っている場合は、このシステム・プロファイルの値を変更して、両方のサプライヤから地理データをダウンロードできますが、国ごとに1つのデータ・セットのみインポートできます。

注意: Oracleでは、地理データのNokiaからGBG | Loqateへの移行はサポートされません。国のNokiaデータをすでに使用している場合は、その国のNokiaを引き続き使用する必要があります。

地理データ・サプライヤを指定するには、次の手順に従います。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 販売
 - 機能領域: 販売基盤
 - タスク: 管理者プロファイル値の管理

「管理者プロファイル値の管理」ページが表示されます。
2. 「検索: プロファイル・オプション」領域の「プロファイル・オプション・コード」フィールドに「ORA_HZ_ENABLE_DAAS_LOQATE」と入力します。
3. 「検索」をクリックします。
4. 検索結果内でこのプロファイル・オプションが選択された状態で、プロファイル値リストから「はい」を選択してGBG | Loqateデータをインポートします。「いいえ」を設定すると、Nokiaデータがインポートされます。
5. 「保存してクローズ」をクリックします。

GBG | Loqate地理参照データ: 説明

Oracle Applications Cloudには、インポート可能なサードパーティGBG | Loqateマスター地理データが用意されています。次の表に、インポート用のGBG | Loqateマスター地理データが使用可能な国を示します。

国名	国コード
----	------

アンドラ	AD
オーストラリア	AU
オーストリア	AT
ベルギー	BE
ブラジル	BR
ブルガリア	BG
カナダ	CA
ケイマン諸島	KY
チリ	CL
クロアチア	HR
チェコ共和国	CZ
デンマーク	DK
ドミニカ共和国	DO
エストニア	EE
フィンランド	FI
フランス	FR
ドイツ	DE

英国	GB
グアダプペ	GP
ハンガリー	HU
アイスランド	IS
マン島	IM
イスラエル	IL
イタリア	IT
ジャマイカ	JM
日本	JP
ケニア	KE
リヒテンシュタイン	LI
ルクセンブルク	LU
マレーシア	MY
マルティニーク	MQ
メキシコ	MX
オランダ	NL
ニュージーランド	NZ
ノルウェー	NO

ペルー	PE
ポーランド	PL
ポルトガル	PT
プエルトリコ	PR
カタール	QA
レユニオン島	RE
ルーマニア	RO
シンガポール	SG
スロバキア	SK
スロベニア	SI
南アフリカ	ZA
スペイン	ES
スワジランド	SZ
スウェーデン	SE
スイス	CH
台湾	TW
アラブ首長国連邦	AE

アメリカ合衆国 US

ウルグアイ UY

バチカン市国 VA

Nokia地理参照データ: 説明

Oracle Applications Cloudには、インポート可能なサードパーティNokiaマスター地理データが用意されています。次の表に、インポート用のNokiaマスター地理データが使用可能な国を示します。

国名	国コード
アンドラ	AD
アルゼンチン	AR
オーストリア	AT
ベルギー	BE
ブラジル	BR
ブルガリア	BG
カナダ	CA
ケイマン諸島	KY
チリ	CL
クロアチア	HR
チェコ共和国	CZ
デンマーク	DK

ドミニカ共和国	DO
エストニア	EE
フィンランド	FI
フランス	FR
ドイツ	DE
ギリシャ	GR
グアドループ	GP
ハンガリー	HU
アイスランド	IS
インド	IN
インドネシア	ID
アイルランド	IE
マン島	IM
イスラエル	IL
イタリア	IT
ジャマイカ	JM
ラトビア	LV

リヒテンシュタイン	LI
リトアニア	LT
ルクセンブルク	LU
マレーシア	MY
マルタ	MT
マルティニーク	MQ
メキシコ	MX
オランダ	NL
ニュージーランド	NZ
ノルウェー	NO
ペルー	PE
ポーランド	PL
ポルトガル	PT
プエルトリコ	PR
レユニオン島	RE
ルーマニア	RO
ロシア連邦(ロシア)	RU
サンマリノ	SM

シンガポール	SG
スロバキア	SK
スロベニア	SI
南アフリカ	ZA
スペイン	ES
スワジランド	SZ
スウェーデン	SE
スイス	CH
台湾	TW
トルコ	TR
アラブ首長国連邦	AE
イギリス	GB
アメリカ合衆国	US
ウルグアイ	UY

法王聖座(バチカン市国) VA

既存のマスター地理データから改訂版の**Oracle**によってライセンスされている地理データへの置換: 手順

ビジネスを行う国の参照地理データをインポートして設定する必要があります。**Oracle**によってライ

センスされている地理参照データを使用すると、サードパーティから地理データを調達する必要がなくなります。国体系や階層情報を含め、**Oracle**によってライセンスされている**GBG | Loqate**または**Nokia**のデータをインポートして、新しい地理設定を作成したり、既存の地理データを置換できます。

このトピックでは、既存のマスター地理データを改訂版の**Oracle**によってライセンスされている地理データに置換するステップについて説明します。

すべてのテリトリのエクスポート・ファイルの作成

顧客データ管理を販売機能とともに実装した場合、マスター地理データを削除する前にすべてのテリトリをエクスポートする必要があります。これは、マスター地理データを削除すると、地理ディメンションに基づくテリトリ定義が無効化されるためです。すべてのテリトリの定義をファイルにエクスポートすることも、手動で修正することもできます。多数のテリトリが存在する場合は、テリトリ定義をファイルにエクスポートして、テリトリのインポート・プロセスで使用できるようにします。ただし、影響を受けるテリトリが少数の場合は、テリトリ定義をファイルにエクスポートするか、手動で修正するかを選択できます。

この手順は、地理ディメンションを使用して定義されたテリトリが存在する場合にのみ適用できます。

すべてのテリトリのエクスポート・ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「テリトリおよび販売目標」作業領域で、「タスク」ペインにある「アクティブ・テリトリの表示」をクリックします。
2. 「アクティブ・テリトリの表示」ページで、最上位レベルのテリトリを選択します。
3. 「処理」リストをクリックし、「エクスポート」、「選択したテリトリ階層のエクスポート」の順に選択します。
4. 「警告」ダイアログ・ボックスで「**OK**」をクリックします。
5. 「処理」リストをクリックし、「エクスポート」、「エクスポート・ステータスの表示」の順に選択します。
6. エクスポート・ジョブのステータスをレビューして、正常に完了しているかどうかを確認します。
7. 「エクスポート済データ・ファイル」列で、エクスポート・ジョブに対して**.zip**ファイルをクリックし、「保存」をクリックします。すべてのテリトリがシステム上に圧縮ファイルとしてエクスポートされます。
8. 「**OK**」をクリックします。
9. 「アクティブ・テリトリの表示」ページで「完了」をクリックします。

テリトリ地理データの削除

テリトリ定義は、テリトリ地理データおよびマスター地理データへの参照を持ちます。テリトリ地理データはマスター地理データに基づいているため、顧客データ管理を販売機能とともに実装した場合は、マスター地理データを削除する前にテリトリ地理データを削除する必要があります。テリトリ地

理データを削除すると、地理ディメンションを使用して定義されているすべてのテリトリが無効化されます。

この手順は、テリトリ地理が定義されている場合にのみ適用できます。

テリトリ地理データを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 販売
 - 機能領域: テリトリ
 - タスク: テリトリ地理の管理
2. 「テリトリ地理の管理」ページで、「全階層の表示」をクリックします。
3. マスター地理データを置き換える国の最上位レベルのノードを選択し、「削除」アイコンをクリックします。
4. 「警告」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。
5. 「確認」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。テリトリ地理データの親ノードとその子が削除されます。
6. ステップ3から5を繰り返して、テリトリ地理データの上位ノードをすべて削除します。
7. 「保存してクローズ」をクリックします。

テリトリ管理アプリケーションには、テリトリ定義で参照されているディメンション・メンバーのコピーが保持されます。このコピーは、「ディメンションおよびメトリック使用可能」タスクから「ロードおよびアクティブ化」プロセスをトリガーしたときに更新されます。したがって、テリトリ地理データが削除されても、テリトリ定義が有効なままであるかのように見えます。

マスター地理データの削除

国のマスター地理データを削除するには、適切な理由によるサポート要求を作成する必要があります。マスター地理データが削除されると、地理とその子が削除され、関連するテリトリ、税および出荷ゾーンの参照がすべて無効化されることに留意してください。したがって、マスター地理データを削除する際には、そのデータを事前にバックアップする必要があります。

Oracleによってライセンスされている地理参照データのインポート

この手順を使用すると、Oracleによってライセンスされている地理参照データをインポートできます。インポート対象の国データが提供されていない場合は、「地理データのインポート」処理は無効になります。

地理データは、GBG | LoqateまたはNokiaが提供しているものであり、サードパーティのコンテンツです。このソフトウェアおよびドキュメントでは、Oracleのポリシーに従って、サードパーティのコンテンツやサービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。Oracleおよびその関連会社は、サードパーティのコンテンツやサービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。Oracleおよびその関連会社は、サードパーティのコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねま

す。

Oracleによってライセンスされている地理参照データをインポートする手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: エンタープライズ・プロファイル
 - タスク: 地理の管理
2. 「地理の管理」ページで、国名または2文字のISOコード(USなど)のいずれかを入力し、「検索」をクリックします。
3. 検索結果内で国を選択します。
4. 「処理」リストをクリックし、「地理データのインポート」を選択します。
5. 「警告」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。
6. 「確認」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。

インポート対象の国の数が多くなると、完了するまでに数時間かかることがあります。

ナビゲータから「スケジュール済プロセス」を選択して、インポート・プロセスの進捗を追跡できます。

注意: 「スケジュール済プロセス」作業領域にアクセスするには、従業員抽象ロールを持つユーザーとしてサインインする必要があります。このロールは初期ユーザーには割り当てられていませんが、独自に作成した他のユーザーには割り当てられています。

インポートが完了したら、「地理の管理」ページで国を再度検索できます。今度は、「体系定義済」列と「階層定義済」列に、インポートが正常に終了したことを示すチェック・マークが表示されます。

次に、「検証定義済」アイコンをクリックして検証を定義し、値リストを有効にして、国に設定済の住所形式の書式を選択します。詳細は、「地理検証: 説明」のトピックを参照してください。

「地域コード定義済」列および「住所クレンジング定義済」列は追加機能に使用されます。これらの追加機能は、**Oracle**からライセンスを取得して別途設定する必要があります。

- 地域コードを使用すると、モバイルの住所の近くにいる顧客を表示できます。エンゲージメント・クラウド・モバイルの「周辺情報」機能を使用している国では、「地域コード使用可能」を設定します。
- クレンジングによって、住所を番地レベルまで検証できます。

地理名参照プロセスの実行

地理名参照(GNR)プロセスでは、HZ_LOCATIONSなどの事業所表の住所要素がマスター地理データに照らして検証されます。

GNRプロセスを実行する手順は、次のとおりです。

1. 「ツール」 → 「スケジュール済プロセス」 作業領域に移動します。
2. 「概要」 ページで、「処理」 → 「新規プロセスのスケジュール」 をクリックします。
3. 「名前」 リストをクリックし、「地理をマスター地理に対して検証」を検索して、「OK」をクリックします。
4. 「新規プロセスのスケジュール」 ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。
5. 「プロセス詳細」 ダイアログ・ボックスで、次の詳細を入力します。
 - 事業所表名: **HZ_LOCATIONS**
 - 実行タイプ: すべて
 - 使用目的コード: **GEOGRAPHY**
6. 「国コード」 フィールドに国コードを入力します。
7. 「発行」 をクリックします。
8. 「確認」 ダイアログ・ボックスで、「OK」 をクリックします。
9. 「閉じる」 をクリックします。
10. 「スケジュール済プロセス」 ページで、「リフレッシュ」 アイコンをクリックします。
11. プロセスのステータスが正常に完了しているかどうかを確認します。

テリトリ地理データの再作成およびロード

顧客データ管理を販売機能とともに実装した場合は、次のいずれかの方法を使用して、マスター地理データのインポート後にテリトリ地理データを再作成できます。

- インポート・プロセス: 前にインポート・プロセスを使用して元のテリトリ地理データを作成した場合は、同じインポート・ファイルを使用してテリトリ地理体系を再作成します。インポート・ファイルを使用したテリトリ地理データのインポートの詳細は、『**Oracle Engagement Cloud** ファイルベース・データ・インポートおよびエクスポートの理解』ガイドの「ファイルベース・データ・インポートを使用したテリトリ地理階層のインポート: クイック・スタート」を参照してください。
- 手動作成プロセス: 「テリトリ地理の管理」 タスクを使用して、削除前と同じ状態のテリトリ地理データ体系を手動で再作成できます。ゾーンの作成とゾーンへの地理の追加の詳細は、「テリトリ地理の管理: 作業例」のトピックを参照してください。

テリトリ地理データを再作成した後にデータをロードする手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」 作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフライン: 販売
 - 機能領域: テリトリ

- タスク: ディメンションおよびメトリック使用可能
- 2. 「ディメンションおよびメトリック使用可能」 ページで、「処理」 リストをクリックし、「ロードおよびアクティブ化」 を選択します。このプロセスにより、テリトリの定義時にディメンション・メンバーを選択できるようにテリトリ地理データがロードされます。
- 3. 「確認」 ダイアログ・ボックスで、「OK」 をクリックします。
- 4. 「完了」 をクリックします。

無効なテリトリ定義の復元

テリトリ地理階層を再作成し、「ディメンションおよびメトリック使用可能」 タスクから「ロードおよびアクティブ化」 オプションを実行すると、地理ディメンションに新しい地理メンバーが移入されます。テリトリでは、削除されたディメンション・メンバーの古いコピーが引き続き参照されるため、新しい地理メンバーは無効として表示されます。新しいメンバーがテリトリで自動的に参照されることはありません。テリトリ定義の参照を古い地理ディメンション・メンバーから新しいメンバーに変更する必要があります。

無効なテリトリ定義を復元するには、以前に作成したエクスポート・ファイルをインポートするか、テリトリを手動で修正します。

テリトリ・インポートを使用して有効なテリトリ定義に復元する手順は、次のとおりです。

1. 「すべてのテリトリのエクスポート・ファイルの作成」 のステップで保存したエクスポート・ファイルをオープンします。圧縮ファイルには4つのCSVファイルが含まれています。
2. **TERR_HEADER.CSV** ファイルを開きます。
3. 地理ディメンションに基づくすべてのテリトリについて、「処理」 列に**REPLACE**と入力します。
4. ファイルを**CSV**形式で保存し、他の3つの**CSV**ファイルとともに圧縮します。
5. 「テリトリおよび販売目標」 作業領域で、「タスク」 ペインにある「アクティブ・テリトリの表示」 をクリックします。
6. 「処理」 リストをクリックし、「提案にインポート」、「テリトリのインポート」 の順に選択します。
7. 新しく作成した圧縮ファイルを選択し、「OK」 をクリックします。
8. 「処理」 リストをクリックし、「提案にインポート」 を選択して、「インポート・ステータスの表示」 を選択します。
9. エクスポート・ジョブのステータスをレビューして、正常に完了しているかどうかを確認します。
10. 「OK」 をクリックします。
11. 「タスク」 ペインで「テリトリ提案の管理」 をクリックします。
12. 「テリトリ提案の管理」 ページの「現在のテリトリ提案」 表で、該当するインポート・ファイ

ル名を持つ提案を検索します。

13. インポート・ファイル名をクリックして、テリトリ提案をオープンします。
14. 「カバレッジの編集」をクリックして、テリトリ定義が有効であることを確認します。
15. 「選択したディメンション・メンバー」セクションで、無効としてリストされた値が存在しないことを確認します。
16. 「保存してクローズ」をクリックします。
17. 「アクティブ化」をクリックします。インポート・ファイルのテリトリ提案がアクティブ化されます。

手動修正を使用して有効なテリトリ定義に復元する手順は、次のとおりです。

1. 「テリトリおよび目標」作業領域で、「タスク」ペインの「テリトリ提案の管理」をクリックします。
2. 「テリトリ提案の管理」ページで、「作成」アイコンをクリックします。
3. 「テリトリ提案の作成」ダイアログ・ボックスで、名前を入力し、「保存して表示」をクリックします。
4. 「テリトリ提案」ページで、地理ディメンション値が「すべて」以外のすべてのテリトリを提案に追加します。
5. テリトリを選択し、「カバレッジの編集」をクリックします。
6. 「カバレッジの編集」ページで、「ディメンション」リストから「地理」を選択します。無効なディメンション・メンバーが「選択したディメンション・メンバー」ペインに表示されます。
7. 「選択可能なディメンション・メンバー」セクションで値を展開するか、「選択したディメンション・メンバー」ペインで無効としてマークされたものと同じ名前を持つメンバーを検索します。
8. 「選択可能なディメンション・メンバー」ペインから新しい地理ディメンション・メンバーを1つ以上選択し、「追加」アイコンをクリックして「選択したディメンション・メンバー」ペインに追加します。
9. 「削除」アイコンをクリックして、「選択したディメンション・メンバー」ペインから無効なメンバーを削除します。
10. 「保存してクローズ」をクリックします。
11. 地理ディメンションに基づくすべてのテリトリについて、ステップ4から10を繰り返します。
12. 「アクティブ化」をクリックします。アクティブ化プロセスが完了すると、テリトリ定義が再度有効になり、新しい地理データが参照されるようになります。

この方法はどのような場合にも適用可能ですが、少数のテリトリを対象としてテリトリ定義を復元する際に最適です。

商談のバッチ割当てプロセスを実行する手順は、次のとおりです。

1. ナビゲータで、「スケジュール済プロセス」をクリックします。
2. 「プロセスのスケジュール」ページで、「新規プロセスのスケジュール」をクリックします。
3. 「新規プロセスのスケジュール」ダイアログ・ボックスで、売上テリトリ・ベース割当てプロセスを検索して選択します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 「プロセス詳細」ダイアログ・ボックスで、「表示基準名」フィールドに**OpenOpportunitiesByCreationDate**と入力します。この場合、過去**X**日以内に作成されたオープン商談に属する売上明細がすべて選択されます。
6. **BindOpTyCreationDateFrom**に続けて日付を入力します。

たとえば、**BindOpTyCreationDateFrom=2014-01-01**と入力すると、**2014年1月1日**から現在の日付までに作成されたオープン商談がすべて処理されます。

7. 「発行」をクリックして、プロセスをスケジュールします。
8. 「確認」ダイアログ・ボックスで、プロセスのモニター用のプロセス識別子を書き留め、「OK」をクリックします。
9. 「閉じる」をクリックします。
10. 「プロセスのスケジュール」ページで、「リフレッシュ」アイコンをクリックします。
11. プロセス・ジョブのステータスをレビューして、正常に完了しているかどうかを確認します。
注意: オープン商談の小さなサブセットをレビューして、テリトリ割当てが想定どおりに行われていることを確認します。

販売アカウントのバッチ割当てプロセスを実行する手順は、次のとおりです。

1. 「顧客センター・プロファイル・オプションの管理」タスクで、**ZCA_SA_AUTO_ASSIGN_ON_CREATE**および**ZCA_SA_AUTO_ASSIGN_ON_UPDATE**プロファイル・オプションが「はい」に設定されていることを確認します。
2. ナビゲータで、「顧客」をクリックします。
3. 「顧客」ページで、「アカウントの作成」をクリックします。
4. 「アカウントの作成」ページで、販売アカウントの名前と住所を入力し、「住所は販売先」チェック・ボックスを選択します。
5. 「保存してクローズ」をクリックします。
6. ナビゲータで、「顧客」をクリックします。
7. 「検索」ペインで、作成した販売アカウントの名前を検索して選択します。
8. 「顧客情報」セクションで、「販売アカウント・チーム」を選択します。販売アカウントとそ

れに関連付けられているテリトリの詳細が表示されます。

これは、販売アカウントが正常に作成され、バッチ割当ての自動実行により該当するテリトリが販売アカウントに割り当てられたことを示しています。

「スケジュール済プロセス」ページからバッチ割当てプロセスを手動で実行する手順は、次のとおりです。

1. ナビゲータで、「スケジュール済プロセス」をクリックします。
2. 「プロセスのスケジュール」ページで、「新規プロセスのスケジュール」をクリックします。
3. 「新規プロセスのスケジュール」ダイアログ・ボックスで、「販売アカウント割当ての要求」プロセスを検索して選択します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 「作業オブジェクト・コード」フィールドにSalesAccount_Work_Objectと入力し、「候補オブジェクト・コード」フィールドにSalesAccountTerritory_Candidate_Objectと入力します。
6. 「割当てモード」リストから「テリトリ」を選択します。
7. 「表示基準名」フィールドにAllSalesAccountsVCと入力します。この場合、すべての販売アカウントが選択されます。
8. 「発行」をクリックして、プロセスをスケジュールします。
9. 「確認」ダイアログ・ボックスで、プロセスのモニター用のプロセス識別子を書き留め、「OK」をクリックします。
10. 「閉じる」をクリックします。
11. 「プロセスのスケジュール」ページで、「リフレッシュ」アイコンをクリックします。
12. プロセス・ジョブのステータスをレビューして、正常に完了しているかどうかを確認します。

注意: アカウントの小さなサブセットをレビューして、テリトリ割当てが想定どおりに行われていることを確認します。

関連項目

- [テリトリ地理の管理: 作業例](#)

国の作成: 手順

ここでは、アプリケーションで国を作成するステップについて説明します。

国はアプリケーションでシードされます。「地理の管理」ページで特定の国が見つからない場合は、その国をアプリケーションに追加できます。

注意: アプリケーションでは、国のGBG | LoqateまたはNokia地理データがサポートされています。

GBG | LoqateまたはNokia地理データが提供されていない国については、サードパーティ・データ・プロバイダから地理データを購入手、ファイルベース・データ・インポートを使用してアプリケーション

ンにロードできます。詳細は、『Oracle Engagement Cloudファイルベース・データ・インポートおよびエクスポートの理解』ガイドの「地理のインポート」の章を参照してください。

アプリケーションに国が存在しない場合は、このトピックで説明する手順に従って作成します。

新しい国を作成する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: アプリケーション拡張
 - タスク: 地域の管理
2. 「地域の管理」ページで「新規」アイコンをクリックします。
3. 次の詳細を入力します。
 - テリトリ・コード: テリトリの一意のコードを入力します。
 - テリトリ名: テリトリの一意の名前を入力します。
 - 摘要: テリトリの摘要を入力します。
4. 「保存してクローズ」をクリックします。

注意: アプリケーションに新しい国を追加した後に、その国の地理データをインポートする場合は、ステップ5から10を実行してください。

5. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: エンタープライズ・プロファイル
 - タスク: 地理の管理
6. 「地理の管理」ページで、「処理」→「国の作成」をクリックします。
7. 「国の作成」ダイアログ・ボックスで、国の名前を選択し、「保存」をクリックします。
8. 「完了」をクリックします。

注意: 新規作成された国の地理データを、アプリケーションで使用可能なGBG | LoqateまたはNokiaの地理データを使用してインポートできるようになりました。国の地理データがGBG | LoqateまたはNokiaから提供されていない場合は、サードパーティ・データ・プロバイダから地理データを購入手、ファイルベース・データ・インポートを使用してインポートできます。

地理インポート・オブジェクト: 連携

このトピックでは、地理インポート・オブジェクトについて説明します。地理インポート・オブジェクトは、地理情報をインポートするために使用します。

このトピックの内容は次のとおりです。

- 地理インポート・オブジェクトのターゲット・オブジェクト
- ターゲット・インポート・オブジェクト属性
- ターゲット・インポート・オブジェクト属性の参照ガイド・ファイル

地理ターゲット・インポート・オブジェクト

地理インポート・オブジェクトを使用すると、地理階層情報をインポートして、国の地理データを作成または更新できます。インポート・ファイルのソース・データをアプリケーションのターゲット属性にマップするには、ターゲット・オブジェクトの関係と各ターゲット・オブジェクトに含まれる属性を理解する必要があります。

地理インポート・オブジェクトのターゲット・インポート・オブジェクトには、地理階層に関する情報が含まれています。既存の地理を更新する際には、既存の地理の親参照情報を指定して、地理とそれが含まれる国を結び付ける必要があります。

地理情報を作成および更新するには、**ImpGeography**ターゲット・インポート・オブジェクトを使用します。

注意: 国の地理データをインポートする前に、その国の地理体系を定義する必要があります。

ターゲット・インポート・オブジェクト属性

属性をインポートする場合は、使用可能なターゲット・オブジェクト属性およびそれらの有効値と比較する必要があります。マッピングおよび検証のために、ソース・データおよび**Oracle Engagement Cloud**属性を評価するには、参照ファイルを使用します。**Oracle Engagement Cloud**ヘルプ・センター(<https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/index.html>)から入手可能な、『**Oracle Engagement Cloud**ファイルベース・データ・インポート』ガイドを参照してください。ファイルベース・データ・インポートの章で、目的のインポート・オブジェクトに関するトピックを参照してください。ターゲット・インポート・オブジェクトの参照ファイルへのリンクも掲載されています。参照ガイド・ファイルには、属性摘要、デフォルト値、およびインポート・プロセスで実行される検証の内容が示されています。各属性に対する検証をレビューし、機能的な前提条件や事前の設定タスクの必要性を確認してください。

ソース・ファイル・データをインポートする際には、ターゲット・オブジェクト/ターゲット・オブジェクト属性の組合せとの間のマッピングを定義します。インポート・マッピングを事前定義および管理できます。次のいずれかを実行します。

1. 「設定および保守」作業領域で次のようにナビゲートします。
 - オファリング: 販売
 - 機能領域: データのインポートおよびエクスポート
 - タスク: ファイル・インポート・マッピングの管理
2. インポート・アクティビティの定義時にマッピングを定義します。「設定および保守」作業領域で次のようにナビゲートします。
 - オファリング: 販売

- 機能領域: データのインポートおよびエクスポート
- タスク: ファイル・インポート・アクティビティの管理

注意: インポートする属性のいずれにも同等のターゲット・オブジェクト属性がない場合は、地理のアプリケーション・コンポーザ拡張性機能をレビューしてください。

ターゲット・インポート・オブジェクト属性の参照ファイル

地理のターゲット・インポート・オブジェクトの参照ガイド・ファイルにアクセスするには、**Oracle Engagement Cloudヘルプ・センター**(https://docs.oracle.com/cloud/latest/salescs_gs/docs.htm)に用意されている『**Oracle Engagement Cloud**ファイルベース・データ・インポート』ガイドを参照してください。ファイルベース・データ・インポートの章で、目的のインポート・オブジェクトに関するトピックを参照してください。ターゲット・インポート・オブジェクトの参照ファイルへのリンクも掲載されています。ファイルベース・インポートを使用して地理をインポートする方法の詳細は、**Oracle Support**サイトに用意されているドキュメント**1481758.1**『マスター参照地理データのインポート』を参照してください。

次の表に、**ImpGeography**ターゲット・インポート・オブジェクトの参照ファイルを示します。

ターゲット・インポート・オブジェクト	説明	属性参照ファイル名
ImpGeography	国の地理階層詳細(地理タイプや地理コードなど)に関する情報が含まれています。	HZ_IMP_GEOGRAPHIES_T_Reference

関連項目

- [ファイル・インポート: 仕組み](#)
- [ファイルベース・インポートの初歩情報: 文書の概要](#)

ファイルベース・インポートを使用した地理のインポート: 説明

このトピックでは、ファイルベース・データ・インポート機能を使用して、外部データ・ソースの地理データを準備してインポートする方法について説明します。地理とは、そのサイズに関係なく、周囲に境界を持つリージョンを指します。州、国、都市、郡、町域などが当てはまります。地理を会社固有のゾーンや住所に関連付けるには、それらの地理を事前に作成またはインポートする必要があります。

注意: アプリケーションには複数の国のサード・パーティ製マスター地理データが同梱されていて、それをインポートできます。データが提供されている国(アメリカ合衆国など)については、**Oracle**によってライセンスされている**GBG | Loqate**または**Nokia**データをインポートできます。地理データをインポートするには、「地理の管理」タスクを使用します。国を検索し、「処理」メニューから「地理データのインポート」を選択します。ライセンスされていないデータが提供されていない国については、「地理データのインポート」処理は無効になります。詳細は、「既存のマスター地理データから改訂版の**Oracle**によってライセンスされている地理データへの置換: 手順」を参照してください。

国の**GBG | Loqate**または**Nokia**地理データが提供されていない場合は、この章に記載の情報に従い、ファイルベース・データ・インポートを使用してデータをインポートしてください。

データをインポートする際には次の質問を検討してください。

- レガシー・システムまたはソース・システムと**Oracle**アプリケーションとの間で、地理データの表現方法はどのように異なりますか。
- アプリケーション内の値をデータ値にマップするように構成する必要がありますか。
- ビジネス・オブジェクトをインポートする際には、どのようなインポート機能を使用できますか。
- インポートしたデータの検証はどのように行いますか。

ビジネス・オブジェクト体系の比較

対象の地理データとアプリケーション内のデータの対応関係を理解し、レガシー・データをアプリケーションで必要となるデータにマップできるようにする必要があります。最初に、地理のデータ体系がアプリケーションでどのように表現されるかを理解する必要があります。

国ごとに異なる国体系インポート・オブジェクトをインポートする必要があります。これらの各インポート・オブジェクトには、国の体系で使用される地理タイプが地理レベル番号に基づく階層構造で含まれている必要があります。たとえば、オーストラリアの国体系をインポートする場合は、**1: 国、2: 州、3: 郡、4: 町、5: 郵便番号**で構成される国体系を扱うこととなります。

地理のインポート・オブジェクト

アプリケーションでは、地理のインポートを円滑化するために、地理体系がインポート・オブジェクトに組み込まれます。地理のインポート・オブジェクトは**ImpGeography**です。

ビジネス・オブジェクト・データの比較

各インポート・オブジェクトは、データをアプリケーション・データにマップしたり、地理の構成要素間の**1**対多の関係をサポートするのに役立つ属性の集合です。

インポート・オブジェクトの属性詳細を理解し、インポート・データを準備できるようにする必要があります。属性摘要、値を指定しなかった場合に属性にデフォルトで移入される値、および各インポート・オブジェクト属性の検証情報を含む参照ガイド・ファイルを使用できます。検証情報には、アプリケーション内の値の定義に使用するタスクへのナビゲーション・パスが含まれています。たとえば、アプリケーション内の選択リストと相互に関連する値がデータに存在する場合、その属性の検証情報には、「設定および保守」作業領域で値の定義に使用できるタスク名が含まれています。

地理をインポートする際には、キーワードを使用して、ヘルプ内の関連するトピックを検索できます。

構成可能な属性

アプリケーションでは、地理の構成可能属性はサポートされていません。アプリケーションにデフォルトで存在する地理オブジェクトのデータのみをインポートできます。

ファイルベース・データ・インポートを使用した地理のインポート

地理ビジネス・オブジェクトに対しては、ファイルベース・データ・インポート機能を使用する必要

があります。**XML**またはテキスト・ソース・データ・ファイルをファイルベース・インポートに適した形式で準備します。ファイルベース・インポート・プロセスでは、ソース・ファイル内のデータを読み取り、マッピングに従ってインタフェース表に移入し、そのデータをアプリケーションの宛先表にインポートします。

「設定および保守」の「ファイル・ベース・データ・インポートの定義」タスク・リストには、インポート・オブジェクトの構成、ソース・ファイル・マッピングの作成およびインポート・アクティビティのスケジュールに必要なタスクが含まれています。インポート・オブジェクトごとにファイルベース・インポート・アクティビティを発行します。新しい地理を作成する際には、地理オブジェクトをインポートします。地理のインポート・アクティビティにアクセスし、それらを実行するには、マスター・データ管理の管理者ジョブ・ロールが割り当てられている必要があります。

地理情報をインポートする際には、エンティティのすべての親レベルの親参照情報を指定する必要があります。

インポートしたデータの検証

Oracleアプリケーションには、インポートしたデータを検証できるように、ファイルベース・インポート・アクティビティ・レポートが用意されています。マスター・データ管理の管理者ジョブ・ロールを持つユーザーは、「地理の管理」作業領域にナビゲートして、インポートした地理を確認することもできます。

関連項目

- [ファイル・インポート: 仕組み](#)
- [ファイルベース・インポートの初歩情報: 文書の概要](#)

ファイルベース・データ・インポートを使用した地理のインポート: 作業例

この例は、ファイルベース・データ・インポート・ツールを使用してデータをインポートする方法を示しています。この例では、ソース・ファイル内の地理データをアプリケーションにインポートして、それらのデータをリアルタイムの住所検証目的や税金目的に使用できるようにしています。

次の表に、このシナリオにおける主な検討事項の概要を示します。

検討する決定事項	この例の場合
どのようなオブジェクトをインポートしますか。	地理
ソース・データに使用しているファイル・タイプは何ですか。	テキスト・ファイル
ソース・データ・ファイルをどこからアップロードしますか。	デスクトップ
ソース・データ・ファイルのデータ・タイプは何ですか。	カンマ区切り

どのフィールドをアプリケーションにインポートしますか。 **RecordTypeCode**フィールドを除くすべ
て

インポート処理をいつ行いますか。 即時

タスクの概要

インポート・アクティビティを作成し、インポートをアクティブ化する手順は、次のとおりです。

1. ソース・ファイルに含める情報を決定します。
2. インポート・アクティビティを作成してスケジュールします。
3. インポート結果をモニターします。

初回インポート後に追加の地理データをインポートする場合の前提条件

1. 1回のインポートで扱う各データ行で、ソースID値と親ソースID値の組合せが一意になるようにしてください。ただし、ソース・データ・ファイルに、以前にインポートした地理データと同じソースIDと親ソースID値が含まれている必要はありません。各地理値の地理体系レベルと親が同じ場合は、IDが異なってもインポートには影響しません。
2. 子地理のすべての親をデータ・ファイルに含めて、子地理を追加できるようにしてください。たとえば、**US**、**CA**およびサンフランシスコがすでにインポートされている状態で、**CA**の市であるサンノゼをインポートする場合は、データ・ファイルに**US**、**CA**およびサンノゼが含まれている必要があります。
3. ロード済の地理データの正しい値がソース・データ・ファイルに含まれていることを確認してください。たとえば、初回インポート時に国として**US**、州として**CA**をインポートし、後続のインポートで州としてカリフォルニアをインポートすると、親の国を**US**とする2つの州レコード(**CA**とカリフォルニア)がアプリケーション・データ内に作成されることとなります。

ソース・ファイルに含める情報の決定

1. ソース地理データ・ファイルには、各データ行で一意のソースID値とその親のソースID値が含まれている必要があります。ソースIDと親ソースIDは18文字以下にする必要があります。
2. 次の表に示すように、地理ソース・データを体系化できます。

地理レベル	名前	ソースID	親ソースID
1 (国)	US	1	該当なし
2 (州)	CA	11	1
3 (郡)	Alameda	111	11

4 (市区町村) Pleasanton 1111 111

4 (市区町村) Dublin 1112 111

インポート・アクティビティの作成およびスケジュール

インポート・アクティビティを作成し、インポート詳細を入力し、インポートをスケジュールできません。インポート・アクティビティには、ソース・ファイルまたはファイルの場所の選択、データベースへのソース・ファイルのマッピングおよびインポートのスケジュールが含まれます。

1. 「設定および保守」作業領域で次のようにナビゲートします。
 - オファリング: 販売
 - 機能領域: データのインポートおよびエクスポート
 - タスク: ファイル・インポート・アクティビティの管理
2. 「インポート・アクティビティの管理」ページで、「作成」をクリックします。
3. 「インポート・アクティビティの作成」の「フィールドのマップ」ページで、次の表に示すように、ソース・ファイルの各フィールドをターゲット・オブジェクトおよび属性にマップします。

フィールド	値
名前	マスター参照地理

オブジェクト	地理
--------	----

ファイル・タイプ テキスト・ファイル

ファイル選択	特定のファイル
--------	---------

アップロード元	デスクトップ
---------	--------

ファイル名	デスクトップから該当するファイルを選択
-------	---------------------

データ型	カンマ区切り
------	--------

注意: 「インポート・アクティビティの作成: 設定」ページで選択するファイル・タイプが、ソース・データ・ファイルのファイル・タイプと一致していることを確認します。

- 「次」をクリックします。
- 次の表に示すように、「インポート・アクティビティの作成: フィールドのマップ」ページで、各フィールドをソース・ファイルからデータベース・オブジェクトと属性にマップします。

列ヘッダー	値の例	無視	オブジェクト	属性
プライマリ地理名	プライマリ地理名	アメリカ合衆国	Imp Geography	プライマリ地理名
国コード	US	いいえ	Imp Geography	国コード
レコード・タイプ・コード	0	可	Imp Geography	レコード・タイプ・コード
ソースID	10265	いいえ	Imp Geography	ソースID
親ソースID	1053	いいえ	Imp Geography	親ソースID

テキスト・ファイル内の列をインポートしない場合は、「無視」を選択できます。

注意: ソース・ファイルから関連するターゲット・オブジェクトにフィールドをマップできない場合は、インポート・オブジェクトのスペッドシートを参照してください。

- 「次」をクリックします。
- 「インポート・アクティビティの作成: スケジュールの作成」ページで、インポートをアクティブ化したら即時にインポートが開始するように、「スケジュール」フィールドの「即時」を選択します。

データを即時にインポートするかわりに、インポートの開始日時を指定できます。また、インポートの繰返しの有無とその頻度を指定することもできます。

- 「次」をクリックします。

インポート結果のモニター

インポート・アクティビティの処理をモニターし、完了レポートで成功レコードとエラーの両方を確認できます。

- 「インポート・アクティビティの作成」の「レビューおよびアクティブ化」ページで、「インポート詳細」、「ファイル詳細」、「インポート・オプション」、「スケジュール」の各セクションに表示されるインポート詳細を確認します。必要に応じて「戻る」リンクを使用して前

の画面に移動し、インポート詳細を更新します。

2. インポート詳細を確認し、「アクティブ化」をクリックして、インポートを発行します。

インポート・アクティビティが終了したら、「ステータス」フィールドの値が「完了」に変わります。

ファイルベース・インポートを使用した国体系のインポート：説明

このトピックでは、ファイルベース・データ・インポート機能を使用して、外部データ・ソースの国体系データを準備してインポートする方法について説明します。国体系は、国の地理タイプを階層構造でグループ化したものです。たとえば、アメリカ合衆国の地理体系の場合、最上位レベルの地理タイプを州として、その下位に郡、市と続き、最後が郵便番号になります。

国体系を使用して次の設定を行うことができます。

- 国内の地理間関係
- 国に定義可能な地理のタイプ

データをインポートする際には次の質問を検討してください。

- レガシー・システムまたはソース・システムとアプリケーションとの間で、地理データの表現方法はどのように異なりますか。
- アプリケーション内の値をデータ値にマップするように構成する必要がありますか。
- ビジネスを行う方法にとって重要な追加属性を取得するようにアプリケーションを構成する必要がありますか。
- ビジネス・オブジェクトをインポートする際には、どのようなインポート機能を使用できますか。
- インポートしたデータの検証はどのように行いますか。

ビジネス・オブジェクト体系の比較

対象の国体系データとアプリケーション内のデータの対応関係を理解し、レガシー・データをアプリケーションで必要となるデータにマップできるようにする必要があります。最初に、国体系のデータ体系がアプリケーションでどのように表現されるかを理解する必要があります。

国ごとに異なる国体系インポート・オブジェクトをインポートする必要があります。これらの各インポート・オブジェクトには、国の体系で使用される地理タイプが地理レベル番号に基づく階層構造で含まれている必要があります。たとえば、オーストラリアの国体系をインポートする場合は、**1:** 国、**2:** 州、**3:** 郡、**4:** 町、**5:** 郵便番号で構成される国体系を扱うこととなります。

国体系のインポート・オブジェクト

アプリケーションでは、国体系のインポートを円滑化するために、国体系がインポート・オブジェクトに組み込まれます。国体系のインポート・オブジェクトは**GeoStructureLevel**です。

ビジネス・オブジェクト・データの比較

各インポート・オブジェクトは、データをアプリケーション・データにマップしたり、国体系の構成要素間の1対多の関係をサポートするのに役立つ属性の集合です。

インポート・オブジェクトの属性詳細を理解し、インポート・データを準備できるようにする必要があります。属性摘要、値を指定しなかった場合に属性にデフォルトで移入される値、および各属性の検証情報を含む参照ガイド・ファイルを使用できます。検証情報には、アプリケーション内の値の定義に使用するタスクへのナビゲーション・パスが含まれています。たとえば、アプリケーション内の選択リストと相互に関連する値がデータに存在する場合、その属性の検証情報には、「設定および保守」作業領域で値の定義に使用できるタスク名が含まれています。

構成可能な属性

レガシー・データまたはソース・データをインポートするようにアプリケーション・オブジェクトを構成する必要がある場合は、アプリケーション・コンポーザを使用して、オブジェクト・モデル拡張を設計したり、必要なアーティファクトを生成して拡張を登録し、それらをインポートできるようにする必要があります。対応するインポート・オブジェクトが構成可能属性で更新され、それらをソース・ファイル・データにマップできるようになります。同じソース・ファイルを使用して、構成可能属性と標準インポート・オブジェクト属性の両方をインポートできます。

ファイル・ベース・データ・インポートを使用した国体系のインポート

国体系ビジネス・オブジェクトに対しては、ファイルベース・データ・インポート機能を使用する必要があります。**XML**またはテキスト・ソース・データ・ファイルをファイルベース・インポートに適した形式で準備します。ファイルベース・インポート・プロセスでは、ソース・ファイル内のデータを読み取り、マッピングに従ってインタフェース表に移入し、そのデータをアプリケーションの宛先表にインポートします。

「設定および保守」の「ファイル・ベース・データ・インポートの定義」タスク・リストには、インポート・オブジェクトの構成、ソース・ファイル・マッピングの作成およびインポート・アクティビティのスケジュールに必要なタスクが含まれています。インポート・オブジェクトごとにファイルベース・インポート・アクティビティを発行します。新しい国体系を作成する際には、国体系オブジェクトをインポートします。国体系のインポート・アクティビティにアクセスし、それらが発行するには、マスター・データ管理の管理者ジョブ・ロールが割り当てられている必要があります。

インポートしたデータの検証

「インポート・アクティビティの管理」ページでインポート・アクティビティのリストを確認できます。インポートしたデータを検証するには、インポート・アクティビティの「ステータス」列をクリックします。

関連項目

- [ファイル・インポート: 仕組み](#)
- [ファイルベース・インポートの初歩情報: 文書の概要](#)
- [アプリケーションの拡張: 仕組み](#)

国体系インポート・オブジェクト: 連携

このトピックでは、国体系インポート・オブジェクトについて説明します。ファイルベース・インポート・アクティビティを発行して国体系情報をインポートする場合、国体系インポート・オブジェクトを使用します。このトピックの内容は次のとおりです。

- 国体系インポート・オブジェクトのターゲット・オブジェクト
- ターゲット・インポート・オブジェクト属性
- ターゲット・インポート・オブジェクト属性の参照ガイド・ファイル

国体系ターゲット・インポート・オブジェクト

国体系インポート・オブジェクトには、1つのターゲット・インポート・オブジェクトが含まれています。ターゲット・インポート・オブジェクトは、地理体系の各種側面を表す個々の属性を体系化したものです。既存の国体系を更新する際には、既存の国体系の親参照情報を指定する必要があります。この参照情報により、インポートした地理体系と既存の体系を結び付けます。**ImpGeoStructureLevel**ターゲット・インポート・オブジェクトは、国体系情報を作成および更新するために使用します。

ターゲット・インポート・オブジェクト属性

属性をインポートする場合は、使用可能なターゲット・オブジェクト属性およびそれらの有効値と比較する必要があります。マッピングおよび検証のために、ソース・データおよび**Oracle Engagement Cloud**属性を評価するには、参照ファイルを使用します。**Oracle Engagement Cloud**ヘルプ・センター(<https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/index.html>)から入手可能な『**Oracle Engagement Cloud**ファイルベース・データ・インポート』ガイドを参照してください。ファイルベース・データ・インポートの章で、目的のインポート・オブジェクトに関するトピックを参照してください。ターゲット・インポート・オブジェクトの参照ファイルへのリンクも掲載されています。参照ガイド・ファイルには、属性摘要、デフォルト値、およびインポート・プロセスで実行される検証の内容が示されています。各属性に対する検証をレビューし、機能的な前提条件や事前の設定タスクの必要性を確認してください。

ソース・ファイル・データをインポートする際には、ターゲット・オブジェクト/ターゲット・オブジェクト属性の組合せとの間のマッピングを定義します。インポート・マッピングを事前定義および管理できます。次のいずれかを実行します。

1. 「設定および保守」作業領域で次のようにナビゲートします。
 - オフアリング: 販売
 - 機能領域: データのインポートおよびエクスポート
 - タスク: ファイル・インポート・マッピングの管理
2. インポート・アクティビティの定義時にマッピングを定義します。「設定および保守」作業領域で次のようにナビゲートします。
 - オフアリング: 販売
 - 機能領域: データのインポートおよびエクスポート
 - タスク: ファイル・インポート・アクティビティの管理

注意: インポートする属性のいずれにも同等のターゲット・オブジェクト属性がない場合は、国構造のアプリケーション・コンポーザ拡張性機能をレビューしてください。

ターゲット・インポート・オブジェクト属性の参照ファイル

このオブジェクトのターゲット・インポート・オブジェクトの参照ファイルにアクセスするには、**Oracle Engagement Cloud**ヘルプ・センター(<https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/index.html>)にある『**Oracle Engagement Cloud**ファイルベース・データ・インポート』ガイドを参照してください。ファイルベース・データ・インポートの章で、目的のインポート・オブジェクトに関するトピックを参照してください。ターゲット・インポート・オブジェクトの参照ファイルへのリンクも掲載されています。

ファイルベース・インポートを使用して地理をインポートする方法の詳細は、**Oracle Support**サイトに用意されているドキュメント**1481758.1**『マスター参照地理データのインポート』を参照してください。

次の表に、**ImpGeoStructureLevel**ターゲット・インポート・オブジェクトの参照ファイルを示します。

ターゲット・インポート・オブジェクト	説明	参照ファイル名
ImpGeoStructureLevel	国の地理体系を指定する情報です。	HZ_IMP_GEO_STRUCTURE_LEVELS_Reference

関連項目

- [ファイル・インポート: 仕組み](#)
- [ファイルベース・インポートの初歩情報: 文書の概要](#)
- [ファイルベース・インポートを使用した国体系のインポート: クイック・スタート](#)
- [アプリケーションの拡張: 仕組み](#)

テリトリ地理ゾーンのインポートおよびエクスポート: 説明

テリトリ地理ゾーンは、組織のリージョン(太平洋岸北西部営業地域など)を複製できるようにする目的で設定する地理境界です。1つのアプリケーション・インスタンスにテリトリ地理ゾーンを設定し、その定義が終了した後で、テリトリ・ゾーンをエクスポートし、別のアプリケーション・インスタンスにインポートできます。

テリトリ地理ゾーンを定義してから、テリトリ・ゾーンを別のアプリケーション・インスタンスにインポートする手順は、次のとおりです。

1. マスター参照地理データをアプリケーションにインポートします。
2. 「テリトリ地理の管理」タスクを使用して、テリトリ地理ゾーンを定義します。
3. テリトリ地理ゾーンをエクスポートします。
4. テリトリ地理ゾーンを別のアプリケーション・インスタンスにインポートします。

マスター参照地理データのインポート

最初に、マスター参照地理データをインポートする必要があります。マスター参照地理データは、国、州、市などの地理要素で構成され、顧客レコードや販売レコードで使用される住所情報など、アプリケーションに格納する地理情報で必要になります。詳細は、「地理階層: 説明」のトピックを参照してください。マスター参照地理データをアプリケーションにインポートするには、「設定および保守」の「ファイル・インポート・アクティビティの管理」タスクを使用します。

テリトリ地理ゾーンの定義

マスター参照地理データのインポート後、「設定および保守」の「テリトリ地理の管理」タスクを使用して、テリトリ地理ゾーンをアプリケーションに作成できます。詳細は、「テリトリ地理の管理: 作業例」のトピックを参照してください。

テリトリ地理ゾーンのエクスポート

マスター参照地理データのインポートとテリトリ地理ゾーンの定義のタスクが完了したら、構成パッケージを作成してテリトリ・ゾーン・データをエクスポートできます。詳細は、関連するトピック・セクションで設定データのエクスポートのデモを参照してください。

テリトリ地理ゾーンのインポート

テリトリ地理ゾーン設定の構成パッケージをダウンロードしたら、テリトリ・ゾーンを別のアプリケーション・インスタンスにインポートできます。

注意: 構成パッケージをインポートする前に、必ずマスター参照地理データを新しいアプリケーション・インスタンスにインポートしてください。

関連項目

- [テリトリ地理の管理: 作業例](#)

地域コードの設定

地域コード: 説明

このトピックでは、地域コードを取り上げ、アプリケーションでこのオプションを有効にする方法について説明します。

地域コードは、番地や郵便番号などの地理データから緯度と経度の座標を調べるプロセスです。これらの座標がわかれば、空間サービス機能を使用して、近くに存在する顧客や担当者の住所などの対象地点を特定できます。地域コード機能は、**Oracle**によって提供されている地域コード・サービスである**eLocation** (http://elocation.oracle.com/maps_oracle_dot_com_main.html)と統合されています。

デフォルトでは、地域コード・オプションはアプリケーションでオフになっています。「設定および保守」作業領域に移動し、次の手順を実行して、地域コードのオプションを有効にできます。

- オフライン: 顧客データ管理
- 機能領域: エンタープライズ・プロファイル

- タスク: 地理の管理

地域コード機能を有効にすると、この機能が定期的に行われるようにスケジュールできるようになります。このようにすることで、ユーザー・インタフェース、**Web**サービス、一括インポートまたはファイルベース・インポートを使用して住所を作成または更新するたびに、新規に作成または更新された事業所が取得され、地域コードの処理が行われます。

地域コードの設定: 手順

ここでは、**Oracle Cloud**アプリケーションで地域コードを設定する手順について説明します。

地域コードは、事業所の緯度と経度の座標を調べるプロセスです。デフォルトでは、地域コードはアプリケーションでオフになっています。地域コードを使用すると、モバイルの住所の近くにいる顧客を表示できます。

国に対する地域コードの有効化

国に対して地域コードを有効にする手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフライン: 顧客データ管理
 - 機能領域: エンタープライズ・プロファイル
 - タスク: 地理の管理
2. 「地理の管理」ページで、地域コードを有効にする国を検索します。国名または国コードのいずれかで検索できます。
3. 「検索」をクリックします。一致する国名の検索結果が表示されます。
4. 地域コード・オプションを有効にする国を選択します。
5. その国に対して「地域コード定義済」を選択します。

事業所の緯度および経度情報の移入

地域コードを有効にした後、その機能が定期的に行われるようにスケジュールすると、新規に作成または更新された事業所が取得され、地域コードの処理が行われるようになります。地域コード機能が定期的に行われるようにスケジュールする手順は、次のとおりです。

1. 「ツール」→「スケジュール済プロセス」作業領域に移動します。
2. 「概要」ページで、「処理」→「新規プロセスのスケジュール」をクリックします。
3. 「名前」リストをクリックし、「事業所の緯度および経度情報の移入」を検索して、「**OK**」をクリックします。
4. 「開始日」や「終了日」などのパラメータを入力し、「発行」をクリックします。

「周辺情報」機能の**Web**サービスを使用した事業所属性の移入: 手順

eLocationサービスでサポートされていない国については、この手順を使用して、「周辺情報」機能のWebサービスによって事業所属性を移入できます。「周辺情報」機能を使用すると、周辺情報をすばやく特定できます。この機能では、現在の事業所の担当者、商談、顧客などの事業所情報に基づいてオブジェクトの近接検索を実行できます。

LocationService Webサービスを使用した事業所属性付き住所の作成

createLocation操作を使用して、緯度や経度などの事業所属性を持つ住所を作成する手順は、次のとおりです。

1. WebサービスURLの抽出

1. WebLogic Serverの資格証明を使用してOracle Enterprise Manager Applications Controlにサインインします。
2. ナビゲーション・ツリーから「Oracle Fusion Customer Relationship Management」を選択し、次に「Fusion Applications」を選択します。
3. ツリーから「CrmCommonApp」、「CrmCommonApp (CRMCommonServer_1)」の順に選択します。
4. 「Webサービス」ペインで、LocationServiceSoapHttpPortポートを対象として「テスト」をクリックします。
5. Webサービスのテスト・ペインで、「WSDL」フィールドに表示されるWSDLのURL(「?wsdl」まで)をコピーし、メモ帳にペーストします。

2. ペイロードの導出

1. WebブラウザでWSDL URLを起動して、LocationServiceエンドポイント・ページをオープンします。
2. 「LocationServiceSoapHttpPort」ペインで、「操作」リストから「createLocation」を選択します。
3. 「事業所」ペインで、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド	値
国	CN
Address1	Chaoyang District
市区町村	Shanghai
Postal Code	200233
State	中国

作成元モジュール AMS

緯度 20.36789

経度 -39.34444

注意: この「事業所」 ペイン内の他のパラメータの選択はすべて解除してください。また、**LocationProfile**、**OriginalSystemReference**、**LocationInformation**の各オプションの選択を解除してください。

4. 「XMLソース」 オプションをクリックします。

注意: このオプションは操作リストの横に表示されます。

5. XMLソースをコピーし、メモ帳にペーストします。

3. Webサービスの呼出し

1. Oracle Fusion サービス・テスター・ページをオープンします。
2. 「WebサービスURL」 フィールドに、「WebサービスURLの抽出」の項のステップ5で導出したWSDL URLをペーストします。
3. 資格証明としてユーザー名とパスワードを入力します。
4. 「ペイロード」 ペインに、「ペイロードの導出」の項のステップ5で導出したXMLソースをペーストします。
5. 起動をクリックします。出力ペイロード・ペインに出力ペイロードが表示されます。

4. Webサービスのテスト

1. Oracle Fusion Applicationsの「ホーム」 ページにサインインします。
2. 「顧客センター」 作業領域にナビゲートします。
3. 追加した住所を検索します。
4. 「住所」 セクションをクリックします。
5. 「処理」 リストから、「地理情報の表示」 オプションを選択します。
6. 緯度と経度の詳細を確認します。

LocationService Webサービスを使用した住所の事業所属性の更新

updateLocation操作を使用して、緯度や経度などの住所の事業所属性を更新する手順は、次のとおりです。

1. WebサービスURLの抽出

1. **WebLogic Server**の資格証明を使用して**Oracle Enterprise Manager Applications Control**にサインインします。
2. ナビゲーション・ツリーから「**Oracle Fusion Customer Relationship Management**」を選択し、次に「**Oracle Fusion Applications**」を選択します。
3. ツリーから「**CrmCommonApp**」、「**CrmCommonApp (CRMCommonServer_1)**」の順に選択します。
4. 「**Webサービス**」ペインで、**LocationServiceSoapHttpPort**ポートを対象として「**テスト**」をクリックします。
5. **Webサービス**の**テスト**・ペインで、「**WSDL**」フィールドに表示される**WSDLのURL**（「?**wsdl**」まで）をコピーし、メモ帳にペーストします。

2. ペイロードの導出

1. **Web**ブラウザで**WSDL URL**を起動して、**LocationService**エンドポイント・ページをオープンします。
2. 「**LocationServiceSoapHttpPort**」ペインで、「**操作**」リストから「**updateLocation**」を選択します。
3. 「**事業所**」ペインで、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド	値
-------	---

LocationId	300100078489616
-------------------	-----------------

注意: 「結果のテスト」の項のステップ1で生成された事業所IDを入力します。

緯度	30.36789
----	----------

経度	-40.34444
----	-----------

注意: この「事業所」ペイン内の他のパラメータの選択はすべて解除してください。また、**LocationProfile**、**OriginalSystemReference**、**LocationInformation**の各オプションの選択を解除してください。

4. 「**XMLソース**」オプションをクリックします。

注意: このオプションは操作リストの横に表示されます。

5. **XMLソース**をコピーし、メモ帳にペーストします。

3. Webサービスの呼出し

1. **Oracle Fusion**サービス・テスター・ページをオープンします。
2. 「**WebサービスURL**」フィールドに、「**WebサービスURLの抽出**」の項のステップ5で導出

したWSDL URLをペーストします。

3. 資格証明としてユーザー名とパスワードを入力します。
4. 「ペイロード」ペインに、「ペイロードの導出」の項のステップ5で導出したXMLソースをペーストします。
5. 起動をクリックします。出力ペイロード・ペインに出力ペイロードが表示されます。

4. Webサービスのテスト

1. Oracle Fusion Applicationsの「ホーム」ページにサインインします。
2. 「顧客センター」作業領域にナビゲートします。
3. 更新した住所を検索します。
4.
「住所」セクションをクリックします。
5. 「処理」リストから、「地理情報の表示」オプションを選択します。
6. 緯度と経度の詳細を確認します。

住所クレンジングの定義

住所クレンジングの定義: 説明

住所クレンジングでは、アプリケーションに入力した住所情報を検証、修正および標準化します。地理検証とは異なり、住所クレンジングでは、地理属性と住所行属性の両方が検証されます。

住所クレンジング機能を使用するには、この機能がデータ品質統合を使用して提供されることから顧客データ品質アプリケーションのライセンスが必要です。

次のいずれかのオプションを選択して、各国のリアルタイム住所クレンジング・レベルを指定できます。

- なし: リアルタイム住所クレンジングを指定しません。
- オプション: 住所クレンジングをオプションで実行します。

国に対して住所クレンジングを有効にすると、アプリケーションの住所入力ポイントに「住所の検証」アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、住所クレンジングが実行され、修正および標準化された住所が表示されます。一致する住所が見つからない場合は、アラート・メッセージが表示されます。

地理の定義に関するFAQ

住所クレンジングの定義はいつ行いますか。

アプリケーションに入力された住所データを特定の形式に準拠させ、住所表現を統一する必要がある

場合に行います。たとえば、入力されるデータが必ず正しい住所形式で格納されるようにします。

既存の国体系をコピーすることによって地理体系を更新できないのはなぜですか。

地理体系は、既存の地理タイプを追加するか、新しい地理タイプを作成して地理体系に追加することによってのみ更新できます。既存の国体系をコピーできるのは、新しい国体系を定義する場合のみです。

国の地理体系のレベルを削除できないのはなぜですか。

国の地理体系レベルに地理が存在する場合、そのレベルを削除できません。たとえば、アメリカ合衆国の地理体系に地理の1つとして州が作成されている場合、国の地理体系から州レベルを削除できません。

地理階層に地理を追加できますか。

できます。ただし、追加対象の地理の地理タイプが国の地理体系にすでに追加されている必要があります。

地理階層内の特定の地理を編集できますか。

できます。「地理階層の管理」ページで、地理の日付範囲、プライマリ名/カナ名とコード、親地理などの詳細を編集できます。

地理階層内の地理に下位レベルの地理を追加するにはどうすればよいですか。

下位レベルに地理を作成する地理を選択し、「作成」アイコンをクリックします。この場合、選択した地理タイプの1つ下のレベルにある地理タイプの地理を作成できます。国の地理タイプの体系は、「地理体系の管理」ページで定義します。

インポートしたサードパーティ地理体系および階層がアプリケーションで使用可能かどうかを確認するにはどうすればよいですか。

地理体系および階層のインポート・プロセスの進捗を追跡するには、「スケジュール済プロセス」ページにナビゲートし、サードパーティ地理データ・インポート・プロセスのステータスを確認します。プロセスが完了したら、ステータスが「成功」に変わります。次に、「設定および保守」作業領域で、新規にインポートされた地理体系および階層を検証できます。それには、サード・パーティの地理データを最初にロードした場所から、「オフリング: 顧客データ管理」、「機能領域: エンタープライズ・プロファイル」、「タスク: 地理の管理」に移動します。

注意: サードパーティ・プロバイダから提供されている国の地理データをロードする前に、その国の地理体系または階層がまだ保存されていないことを確認してください。地理体系または階層データがすでに存在する場合、ロード・プロセスは失敗します。

地域コードを有効にするにはどうすればよいですか。

国の地域コードを有効にするには、「設定および保守」作業領域でその国の地域コード・オプションをオンにします。それには、「オフリング: 顧客データ管理」、「機能領域: エンタープライズ・プロファイル」、「タスク: 地理の管理」に移動します。地域コードを有効にする国を検索し、「地域コード定義済」アイコンをクリックします。国に対して地域コードを有効にすると、「地域コード定

義済」アイコンにチェック・マークが表示されます。

国に対して地域コードを有効にした後で、「地域コード生成の実行」タスクで「地域コード生成の実行」**ESS**ジョブを実行する必要があります。ただし、ジョブを実行する前に、地域コードを生成する国の国コードを必ず指定してください。

事業所の地理コード値はどこで表示できますか。

パーティの事業所の地理コード値は、「パーティ・センター」ページおよび「顧客センター」ページで検索および表示できます。パーティのプロファイルの「住所」セクションに移動し、「表示」、「列」、「緯度」と「表示」、「列」、「経度」または「表示」、「列」、「列の管理」、「緯度」と「経度」のいずれかをクリックします。これにより、パーティの事業所に関連付けられた緯度と経度、つまり地理コード値が表示されます。

注意: 地理コード情報が表示されるのは、住所が属する国に対して地理コードを有効にしている場合のみです。

空間サービスとは何ですか。

空間サービスを使用すると、住所の経度と緯度の座標に基づいて、顧客や担当者などの対象地点を特定できます。

Oracle Fusion Mobile Salesアプリケーションでは、営業担当者向が現在の所在地の付近にいるアカウントや担当者を見つけられるように、これらのサービスが提供されています。

パーティの地理名参照情報はどこで更新および表示できますか。

パーティに関連付けられている地理名参照情報を表示するには、パーティの住所をあらかじめ作成しておく必要があります。「組織」、「個人」および「グループ」の作業領域でパーティ住所を作成または更新できます。

住所の更新が終了したら、「地域コード生成の実行」**ESS**ジョブがスケジュールに従って自動的に実行されるまで待つか、「オフリング: 顧客データ管理」、「機能領域: エンタープライズ・プロファイル」、「タスク: 地域コード生成の実行」のようにナビゲートして「設定および保守」作業領域から地域コード生成を手動で開始する必要があります。

更新したパーティに関連付けられている国の地理情報が「地域コード生成の実行」ジョブによって更新されたら、「組織」、「個人」および「グループ」作業領域でそのパーティに関連付けられている地理名参照情報を検索して表示できます。住所を確認する個人、組織またはグループにナビゲートし、「処理」の「地理情報の表示」をクリックします。これにより、地理名参照を使用して拡張された住所値を含め、更新された地理情報を示すダイアログ・ボックスが表示されます。

注意: 地理名参照によって拡張された地理情報が表示されるのは、該当する住所が属する国に対して地理検証を有効にしている場合のみです。

地理検証に合格しなかった住所を保存するにはどうすればよいですか。

「地理の管理」ページで国名を検索して選択し、「検証定義済」オプションをクリックします。「地理検証の管理」ページで、「国の地理検証レベル」ドロップダウン・リストから「検証なし」を選択します。このオプションを選択した場合、不完全な住所や無効な住所を含め、地理検証に合格しない住所も保存されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 個人を識別可能な情報の管理

6個人を識別可能な情報の管理

この章の内容は次のとおりです。

- [個人を識別可能な情報の保護: 説明](#)
- [保護された情報の操作: 説明](#)
- [個人を識別可能な情報の管理: 作業例](#)
- [セキュリティ・コンソールを使用したPII権限の割当て: 作業例](#)

個人を識別可能な情報の保護: 説明

社会保障番号、住所、銀行口座番号、電話番号など、担当者を一意に識別したり、個人を検索するために使用されるデータや情報は、個人を識別可能な情報(PII)と呼ばれます。このような情報は、取扱いに注意を要する機密情報とみなされ、法的規制に準拠し、財務的な負債や個人の評判への影響を防ぐために、個人情報が無許可で使用されないことがないよう保護する必要があります。たとえば、許可されたユーザーのみが、システムに格納されている個人の社会保障番号にアクセスできるようにする必要があります。

Oracle Applications Cloudでは、PIIデータが保護され、携帯電話番号データを除き、次のジョブ・ロールによるアクセスのみが可能です。

- 営業管理者
- エンタープライズ・スケジューラ・ジョブのCRM用アプリケーション・アイデンティティ
- Oracle Data IntegratorのCRM用アプリケーション・アイデンティティ
- WebサービスのCRM用アプリケーション・アイデンティティ

携帯電話番号データには、すべてのシード済ジョブ・ロールがアクセスできます。ただし、カスタム・ジョブ・ロールに携帯電話番号データへのアクセスが必要な場合は、ITセキュリティ・マネージャがセキュリティ・コンソールで必要なPIIデータ・ポリシーをカスタム・ジョブ・ロールに割り当てる必要があります。ITセキュリティ・マネージャは、他のPIIデータに関するデータ・ポリシーをシード済ジョブ・ロールに追加することもできます。

次の表に、Oracle Applications Cloudで保護されているPII属性を示します。

PII属性	表名	権限 タイ トル	権限名
納税者 識別番 号(社会	HZ_PERSON_PROFILES	取引 先コ ミュ ニ ティ 個人	HZ_VIEW_TRADING_COMMUNITY_PERSON_ SOCIAL_SECURITY_DATA

保障番号)		社会保障の表示
納税者識別番号(社会保障番号)	HZ_PERSON_PROFILES	取引先コミュニティ個人社会保障の管理 HZ_MANAGE_TRADING_COMMUNITY_PERSON_SOCIAL_SECURITY_DATA
市民権番号	HZ_CITIZENSHIP	取引先コミュニティ個人市民権番号の表示 HZ_VIEW_TRADING_COMMUNITY_PERSON_CITIZENSHIP_NUMBER_DATA
市民権番号	HZ_CITIZENSHIP	取引先コミュニティ個人市民権番号の管理 HZ_MANAGE_TRADING_COMMUNITY_PERSON_CITIZENSHIP_NUMBER_DATA
自宅住所	自宅住所は、HZ_PARTY_SITE_USES表のSITE_USE_TYPEフィールドに定義されているパーティ・サイト使用によって識別されます	取引先コミュニティ個人住所の表示 HZ_VIEW_TRADING_COMMUNITY_PERSON_ADDRESS_DATA
		取引

自宅住所	自宅住所は、HZ_PARTY_SITE_USES表のSITE_USE_TYPEフィールドに定義されているパーティ・サイト使用によって識別されます	先コ ミュ ニ ティ 個人 住所 の管 理	HZ_MANAGE_TRADING_COMMUNITY_PERSON_ADDRESS_DATA
自宅電話	contact_point_purpose値がPERSONALに設定されたHZ_CONTACT_POINTS行	取引 先コ ミュ ニ ティ 個人 担当 者の 表示	HZ_VIEW_TRADING_COMMUNITY_PERSON_CONTACT_DATA
自宅電話	contact_point_purpose値がPERSONALに設定されたHZ_CONTACT_POINTS行	取引 先コ ミュ ニ ティ 個人 担当 者の 管理	HZ_MANAGE_TRADING_COMMUNITY_PERSON_CONTACT_DATA
携帯電話	phone_typeまたはphone_line_type値がMOBILEに設定されたHZ_CONTACT_POINTS行	取引 先コ ミュ ニ ティ 個人 携帯 電話 番号 の表 示	HZ_VIEW_TRADING_COMMUNITY_PERSON_MOBILE_PHONE_DATA
携帯電話	phone_typeまたはphone_line_type値がMOBILEに設定されたHZ_CONTACT_POINTS行	取引 先コ ミュ ニ ティ 個人 携帯 電話 番号 の管	HZ_MANAGE_TRADING_COMMUNITY_PERSON_MOBILE_PHONE_DATA

理

自宅Eメール contact_point_purpose値がPERSONALに設定されたHZ_CONTACT_POINTS行 HZ_VIEW_TRADING_COMMUNITY_PERSON_CONTACT_DATA
取引先コミュニティ個人担当者の表示

自宅Eメール contact_point_purpose値がPERSONALに設定されたHZ_CONTACT_POINTS行 HZ_MANAGE_TRADING_COMMUNITY_PERSON_CONTACT_DATA
取引先コミュニティ個人担当者の管理

追加識別子 HZ_ADDTNL_PARTY_IDSのPERSONパーティに属するすべての行 HZ_VIEW_TRADING_COMMUNITY_PERSON_ADDITIONAL_IDENTIFIER_DATA
取引先コミュニティ個人追加識別子の表示

追加識別子 HZ_ADDTNL_PARTY_IDSのPERSONパーティに属するすべての行 HZ_MANAGE_TRADING_COMMUNITY_PERSON_ADDITIONAL_IDENTIFIER_DATA
取引先コミュニティ個人追加識別子の管理

保護された情報の操作: 説明

あらゆる企業において、顧客情報を保護し、データの漏洩、データの盗難または無許可のアクセスを防ぐことへの関心が高まっています。こうした問題に対処するために、**Oracle Applications Cloud**では、個人を識別可能な情報(PII)とも呼ばれる、個人にとって機密であるとみなされる情報へのアクセスが制限されています。

ます。

PIIは、個人の電話番号、個人のEメール・アドレス、個人の住所、市民権番号、社会保障番号(SSN)など、個人を一意に識別するあらゆる情報です。**PII**データは、担当者を一意に識別したり、個人を検索するために使用することも、他のソースとともに使用して個人を一意に識別することもできます。たとえば、**SSN**は個人を一意かつ直接的に識別するのに対し、電話市外局番は一連の個人を識別します。

PIIとして識別される属性は次のとおりです。

- 自宅住所
- 自宅電話番号
- 個人Eメール・アドレス
- 納税者識別番号(社会保障番号)

Oracle Applications Cloudでは、**PII**データへのアクセスが一連のジョブ・ロールに制限されています。ビジネスを目的として**PII**データを操作する必要がある場合は、必要な権限について**IT**セキュリティ・マネージャに問い合せてください。

個人を識別可能な情報の管理: 作業例

設定ユーザーとして、**Oracle Applications Cloud**で**PII**情報を管理できます。

この例では、個人を識別可能な情報(**PII**)に関する担当者のデータを追加または更新します。**PII**データを追加または更新する前に、アクティブなサンドボックスでアプリケーション・コンポーザから**PII**属性を公開する必要があります。

サンドボックスのアクティブ化

1. 営業管理者など、設定ユーザーとしてサインインします。
2. 設定および処理メニューの「管理」グループで、「サンドボックスの管理」を選択します。
3. 「処理」をクリックして、「新規」をクリックします。
4. サンドボックス名フィールドに名前を入力します。
5. 「保存してクローズ」をクリックします。
6. 「確認」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。
7. サンドボックスの管理ダイアログ・ボックスで、作成したサンドボックスを選択し、「アクティブとして設定」ボタンをクリックします。

アプリケーション・コンポーザからの**PII**属性の公開

「納税者識別番号」および「自宅電話番号」**PII**属性をアプリケーション・コンポーザから公開できます。

1. 「アプリケーション・コンポーザ」に移動します。
2. 「オブジェクト」ビューから、「標準オブジェクト」、「連絡先」、「ページ」の順に選択します。「簡易ページ」が選択されていることを確認します。

3. 「納税者識別番号」および「自宅電話番号」PII属性を「担当者の作成」ページに追加する手順は、次のとおりです。
 1. 「担当者の作成」セクションで、「標準レイアウト」を選択し、「編集」アイコンをクリックします。
 2. 「担当者の作成」領域で、「編集」アイコンをクリックします。
 3. 「納税者識別番号」および「自宅電話番号」PII属性を「使用可能なフィールド」リストから「選択したフィールド」リストに移動して、「担当者の作成」ページに追加します。
 4. 「保存してクローズ」をクリックします。
 5. 「完了」をクリックします。
4. 「納税者識別番号」および「自宅電話番号」PII属性を「担当者の編集」ページに追加する手順は、次のとおりです。
 1. 「担当者の編集」セクションで、「標準レイアウト」を選択し、「編集」アイコンをクリックします。
 2. 「プロファイル」タブをクリックして、カスタム・フィールドを追加します。
 3. 「要約」領域で、「編集」アイコンをクリックします。
 4. 「納税者識別番号」および「自宅電話番号」PII属性を「使用可能なフィールド」リストから「選択したフィールド」リストに移動して、「担当者の編集」ページに追加します。
 5. 「保存してクローズ」をクリックします。
 6. 「完了」をクリックします。

PIIデータの追加および更新

1. 「担当者」にナビゲートします。
2. 「担当者」ページで、担当者の名前を入力し、「検索」アイコンをクリックします。
3. その担当者の「担当者の編集」ページで、「プロファイル」タブをクリックします。
4. 「納税者識別番号」や「自宅電話番号」などのPIIデータを入力し、「保存してクローズ」をクリックします。
5. 「担当者」ページで、「担当者の作成」ボタンをクリックします。

注意: 担当者の作成に進むことも、「取消」をクリックして、保存せずに終了することもできます。

サンドボックスの公開

サンドボックスで行った変更をメインライン・メタデータに移動する準備ができていることをテストおよび検証したら、サンドボックスを公開できます。

1. ページに表示されるサンドボックス・リンクを選択し、「詳細」をクリックします。
2. サンドボックスの詳細ダイアログ・ボックスで、「公開」ボタンをクリックします。

3. 公開の確認メッセージ・ボックスで「はい」をクリックします。
4. サンドボックスの管理ダイアログ・ボックスをクローズします。
5. 設定および処理メニューから、「サイン・アウト」をクリックします。

セキュリティ・コンソールを使用したPII権限の割当て: 作業例

ITセキュリティ・マネージャとして、カスタム・ジョブ・ロールを作成し、PII情報にアクセスするために必要なデータ・ポリシーを割り当てることができます。カスタム・ロールを作成し、PII権限をカスタム・ロールに割り当てて手順は、次のとおりです。

この例では、ITセキュリティ・マネージャとして、既存の営業担当ロールに基づいてカスタム・ジョブ・ロールを作成し、社会保障データにアクセスするためのPII権限を割り当てます。その後、PII権限を割り当てるユーザーにカスタム・ジョブ・ロールを割り当てる必要があります。ユーザーへのジョブ・ロールの割当ての詳細は、『Oracle Engagement Cloud販売およびサービスの保護』ガイドを参照してください。

ジョブ・ロールの割当て

1. ナビゲータで、「ツール」→「セキュリティ・コンソール」をクリックします。
2. セキュリティ・コンソールで、「展開方向」が「権限」に設定されていることを確認します。
3. 「検索」フィールドに営業担当を入力し、結果でジョブ・ロールを選択します。
4. 「検索結果」で、処理ボタンをクリックし、「ロールのコピー」を選択します。
5. 「コピー・オプション」ウィンドウで、「最上位ロールのコピー」を選択し、「ロールのコピー」をクリックします。「ロールのコピー」ページが表示されます。
6. 「基本情報」ページで、ロール名とロール・コード(営業担当カスタムPIIとZBS_SALES_REPRESENTATIVE_JOB_CUSTOM_PIIなど)を入力します。
7. 「次」をクリックします。
8. 「次」をクリックします。
9. 「データ・セキュリティ・ポリシー」ページで、次の表に示されている詳細を指定して、4つのデータ・セキュリティ・ポリシーを作成する必要があります。データ・セキュリティ・ポリシーを作成するには、「データ・セキュリティ・ポリシーの作成」をクリックします。

ポリシー名	データ ベー ス・リ ソース	データ・セット
-------	-------------------------	---------

Grant on Trading Community Party. 取引先 コミュニティ・パー
「データ・セット」リストから「すべての値」を選択します。「処理」リストで、「取引先コミュニティ個人社会保障の表示」および「読取」を選択します。

これにより、すべての社会保障情報の表示および読取りが可能になります。

Grant on Trading Community Party。 取引先
コミュ
ニ
ティ・
パー
ティ。
これにより、すべての担当者の社会保障情報を表示できるようになります。

「データ・セット」リストから「インスタンス・セット別の選択」を選択します。「条件名」リストで、「企業内のすべての個人の表HZ_PARTIESの取引先コミュニティ個人へのアクセス」を選択します。「処理」リストで、「取引先コミュニティ個人社会保障の表示」および「読取」を選択します。

Grant on Trading Community Party。 取引先
コミュ
ニ
ティ・
パー
ティ。
これにより、すべての社会保障情報の管理が可能になります。

「データ・セット」リストから「すべての値」を選択します。「処理」リストで、「取引先コミュニティ個人社会保障の管理」および「読取」を選択します。

Grant on Trading Community Party。 取引先
コミュ
ニ
ティ・
パー
ティ。
これにより、すべての担当者の社会保障情報を管理できるようになります。

「データ・セット」リストから「インスタンス・セット別の選択」を選択します。「条件名」リストで、「企業内のすべての個人の表HZ_PARTIESの取引先コミュニティ個人へのアクセス」を選択します。「処理」リストで、「取引先コミュニティ個人社会保障の管理」および「読取」を選択します。

10. 「次」をクリックします。
11. 「次」をクリックします。
12. 「次」をクリックします。
13. 「サマリーおよび影響レポート」ページで、「保存してクローズ」をクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. ソース・システムの定義

7 ソース・システムの定義

この章の内容は次のとおりです。

- [ソース・システム: 説明](#)
- [ソース・システム・エンティティ: 説明](#)
- [ソース・システム確度の定義: 手順](#)
- [ソース・システム確度レベルの管理: 手順](#)
- [ソース・システムの定義に関するFAQ](#)

ソース・システム: 説明

このトピックでは、ソース・システムおよびソース・システムの設定方法について説明します。

ソース・システムを設定して、インポートするデータのソースをユーザーが識別できるようにすることができます。ソース・システムがスポーク・システム(レガシー・システムなど)か、購買システム(サードパーティ・プロバイダからのデータなど)かを指定できます。どのようなタイプのエンティティがソース・システムに含まれるかも指定できます。たとえば、ソース・システムに顧客データが含まれることを指定できます。

ソース・システムについて次のことを構成できます。

- ソース・システム・コード、名前および説明
- ソース・システム・タイプ
- 項目、取引先コミュニティ・メンバー、オーダー・オーケストレーションとプランニング、および資産に使用可能

ソース・システム・コード、名前および説明

ソース・システム・コードを作成して、ソース・システムを一意に識別できます。ソース・システム・コードは、アプリケーションによって、ソースIDとOracle Engagement CloudデータベースIDの間の参照を作成するために使用されます。

注意: ソース・システム・コードを更新してからソース・システムを作成してください。

ソース・システム・タイプ

ソース・システムは、スポーク・システムまたは購買システムとして設定する必要があります。

項目、取引先コミュニティ・メンバー、オーダー・オーケストレーションとプランニ

ング、および資産に使用可能

ソース・システムからOracle Engagement Cloudデータベースにインポートする次のエンティティ・タイプの1つ以上を選択できます。

- 品目
- 取引先コミュニティ・メンバー
- オーダー・オーケストレーションおよびプランニング
- 資産

ソース・システムはエンティティ・タイプに基づいて各インポートUIでフィルタ処理されるため、正しいエンティティ・タイプを有効にする必要があります。たとえば、取引先コミュニティ・メンバー、項目および資産についてソース・システムを設定した場合、ソース・システムはこのUIでのみデータ・ソースとして選択でき、異なるUIでは選択できません。

ソース・システム・エンティティ: 説明

ソース・システム・エンティティは、指定したソース・システムを使用してインポートできるエンティティです(住所やパーティなど)。

ソース・システムからデータをインポートすると、ソース・システム・データ内のすべてのエンティティもインポートされます。「ソース・システム・エンティティの管理」タスクで複数のソース参照を選択して、複数のソース・システム・レコードを単一レコードにマップできます。

ソース・システム確度の定義: 手順

ソース・システムの確度レベルは、様々なソース・システムの情報を比較する生存ルール基準として使用されます。個人および組織オブジェクトの属性について、ソース・システムごとにソースの確度スコアを設定できます。

ソース・システムの確度を定義するには、次のようにします。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: 顧客ハブ
 - タスク: ソース・システム確度の管理
2. 「処理」メニューから「新規」をクリックします。
3. 「ソース・システム確度の定義」ページで、「オブジェクト・タイプ」リストをクリックし、オブジェクト・タイプを選択します。
4. ソース・システムの信頼度スコアを設定する属性を「使用可能属性」リストから選択し、「選択済属性」リストに移動します。
5. 「新規」アイコンをクリックして、様々なシステムのソース確度スコアを定義します。

6. 「ソース・システム・コード」リストからソース・システムのコードを選択します。
7. 「ソース確度」フィールドに値を入力します。ソース・システムの信頼度に入力可能な値は0から100までです。
8. 「保存してクローズ」をクリックします。
9. 「ソース・システム確度の管理」ページで、「検索」ボタンをクリックします。ソース・システムの確度を設定する属性は、対応するソース・システムとそのソース確度の値とともに表示されます。
10. 「保存してクローズ」をクリックします。

関連項目

- [ソース・システム確度レベル: 説明](#)

ソース・システム確度レベルの管理: 手順

ソース・システム確度レベルは、特定の属性に対する特定のソース・システムの信頼度を示します。「ソース・システム確度の管理」ページでソース・システム確度レベルを追加および削除できます。

ソース・システムを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「設定および保守」から「ソース・システム確度の管理」ページにナビゲートします。
2. 「処理」メニューの「新規」をクリックします。
3. 「ソース・システム確度の定義」ページで、ソース・システム確度レベルを定義するオブジェクト・タイプを選択します。
4. ソース・システム確度レベルを定義する属性を選択します。
5. 「ソース・システム・コード」表で、選択した属性に関連付けるソース・システム・コードを選択します。
6. ソース・システムの確度レベルを入力します。この確度レベルは、ソース・システムの選択した属性に適用されます。

同様に、選択した属性に他のソース・システムを関連付けて、必要に応じて新しい確度レベルを指定できます。

ソース・システムの定義に関するFAQ

複数のソース・システム参照を許可するとどうなりますか。

ソース・システムからデータをインポートするときに、複数または重複するソース・システム・レコードをマージして、**Oracle Engagement Cloud**内に1つのレコードを作成できます。これは、複数ソース・システム参照の許可と呼ばれます。

複数ソース・システム参照を許可しない場合、すべてのソース・システム・レコードについ

て、Oracle Engagement Cloud内に重複レコードが作成されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. [パーティ使用目的の定義](#)

8 パーティ使用目的の定義

この章の内容は次のとおりです。

- [パーティ使用目的: 説明](#)
- [パーティ使用目的フィルタ・ルール: 説明](#)
- [パーティ使用目的の定義に関するFAQ](#)

パーティ使用目的: 説明

パーティ使用目的は、実装組織でパーティがどのように使用されるかを表します。たとえば、ビジネス・コミュニティ内の個人はコンシューマまたは担当者と考えられます。パーティ使用目的をパーティにどのように関連付けることができるかを定めるルールを作成できます。

パーティ使用目的に関して次のタイプのルールを定義できます。

- 割当ルール
- 排除ルール
- 非互換ルール
- 遷移ルール

割当ルール

割当てルールでは、パーティに対するパーティ使用目的の割当てをどのような形で許可したり制限するかを定義します。無条件のパーティ使用目的割当てを許可したり、割当ての手動作成や管理者による更新を可能にすることができます。

かわりに、パーティ使用目的の手動割当ておよび更新を制限し、ビジネス・イベントによってのみ作成または更新できるようにすることもできます。たとえば、パーティのアカウントを作成したときには、「顧客」パーティ使用目的がそのパーティに割り当てられます。

また、パーティに関係が割り当てられているときに、パーティ使用目的割当てを作成または更新できるようにするかどうかを指定することもできます。たとえば、組織との関係を持つ担当者には、「組織担当者」パーティ使用目的が割り当てられます。

排除ルール

排除ルールでは、パーティ使用目的割当てを制限して、指定した期間中にのみパーティへのパーティ使用目的の割当てを許可できます。たとえば、パーティへの「製造業者」パーティ使用目的の割当てを許可する期間を2011年1月1日から2011年2月1日のみにする排除ルールを設定できます。

非互換ルール

非互換ルールでは、特定の期間中にパーティへの同時割当てを禁止するパーティ使用目的を指定します。たとえば、非互換ルールでは、**2011年1月1日から2030年12月31日の期間中**、「販売見込み客」使用目的が割り当てられたパーティへの「販売アカウント」使用目的の割当てを禁止するように指定できます。

遷移ルール

遷移ルールでは、作成中または編集中のパーティ使用目的への遷移を許可するパーティ使用目的を指定します。現在のパーティ使用目的にパーティが遷移すると、前のパーティ使用目的に終了日が設定されます。たとえば、「見込みパートナー」パーティ使用目的が割り当てられたパーティに「パートナー」パーティ使用目的が割り当てられると、「見込みパートナー」使用目的には終了日が設定されません。

パーティ使用目的フィルタ・ルール: 説明

パーティ使用目的フィルタ・ルールは、パーティ使用目的をグループ化したものであり、ユーザー・インタフェースでパーティを検索およびフィルタするために使用します。パーティ使用目的フィルタ・ルールでは、ルールに含めたり、ルールから除外するパーティ使用目的を指定できます。パーティ使用目的割当てをアクティブにするか非アクティブにするかを指定することもできます。

たとえば、適格な顧客フィルタ・ルールには、「販売見込み客」、「販売アカウント」、「法的エンティティ」および「顧客」パーティ使用目的を含めることができます。ユーザー・インタフェースでは、この適格な顧客フィルタ・ルールを使用して、パーティのリストに適格な顧客のみを表示できます。

注意: 新しいフィルタ・ルールをユーザー・インタフェースで使用するためには、そのフィルタ・ルールを事前にコンパイルする必要があります。

パーティ使用目的の定義に関するFAQ

パーティ使用目的フィルタ・ルールをコンパイルするにはどうすればよいですか。

「パーティ使用目的フィルタ・ルール」ページで、ヘッダー・セクションにある「処理」をクリックし、次に「フィルタ・ルールの集計」をクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 名前と識別子の定義

9 名前と識別子の定義

この章の内容は次のとおりです。

- [追加名タイプ: 説明](#)
- [識別子タイプ: 説明](#)

追加名タイプ: 説明

追加名タイプを定義して、パーティの代替名を取得します。たとえば、追加名タイプNICK_NAMEを作成して、個人タイプのパーティのニックネームを取得します。

追加名タイプを定義する際には、その適用対象となるパーティ・タイプを指定します。この追加名タイプは、当該会社内のそのパーティ・タイプのすべてのパーティに命名オプションとして使用できます。追加名タイプを使用して、言語固有の名前を取得することもできます。

識別子タイプ: 説明

追加識別子タイプを作成して、パーティ属性を拡張できます。たとえば、追加識別子タイプを作成して、個人のパスポート番号を記録できます。

追加識別子タイプを使用するパーティ・タイプを選択できます。対象となるパーティ・タイプはアカウントまたは担当者(あるいはその両方)です。識別子タイプの値の一意性を要求するかどうかを指定することもできます。たとえば、各個人のプロフィールにリストされるパスポート番号は一意である必要があります。

追加識別子タイプがUIに自動的に表示されることはありません。アプリケーションで識別子タイプを使用するには、「取引先コミュニティ・メンバー名および識別子設定」Webサービスを呼び出す必要があります。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 関係の定義

10 関係の定義

この章の内容は次のとおりです。

- [関係タイプ: 説明](#)
- [関係グループ: 説明](#)
- [関係タイプの管理](#)
- [関係グループの管理](#)

関係タイプ: 説明

関係タイプは、関係の性質や目的を決める関係フレーズおよびロールをカテゴリ化するものです。サブジェクトとオブジェクトのロール、ビジネス・ルール、関係を表すフレーズなど、関係の各種側面は、関係タイプで定義します。関係タイプを使用して、2つの異なるパーティ間の関係を定義します。関係タイプは、「関係タイプの管理」タスクを使用して管理できます。

関係タイプの構成要素は次のとおりです。

- 関係フレーズのペアとロールのペア
- 関係特性

関係フレーズのペアとロールのペア

関係タイプには、関係フレーズのペアとロールのペアが含まれています。これらのペアにより、次の表に示すように、関係する2つのパーティの相互のロールが決まります。

ペア	目的	関係の方向の有無	「雇用」関係タイプの例
ロールのペア	エンティティのロールを表します。	なし	「従業員」と「事業主」。 たとえば、 Bill は「従業員」ロールを持ち、 Oracle は「事業主」ロールを持ちます。
関係フレーズのペア	エンティティの相関ロールを表します。	可	「従業員」と「事業主」。 たとえば、 Bill は Oracle の従業員です。

関係特性

関係タイプには、その使用方法を定義したルールが含まれています。

関係タイプを定義する際には、関係を次のいずれかとして定義できます。

- 循環
- 自己関連

次の表に、これらの特性の説明を示します。

関係特性	説明	例
循環	2つのパーティ間の関係がグループを形成します。	「競合相手」関係タイプは、2つの組織パーティを結び付けます。このシナリオでは、ABC CorpはXYZ Corpの競合相手であり、同様にXYZ CorpはABC Corpの競合相手です。
自己関連	関係のサブジェクトとオブジェクトが同一です。	「子会社」関係タイプは、子組織ABCを親組織XYZと結び付けます。同様に、親組織XYZは、同じ関係タイプを使用してそれ自体に子会社として結び付けられます。

関係グループ: 説明

関係グループは、機能上の目的に合わせて関係フレーズのペアとロールのペアをカテゴリ化するものです。たとえば、あるグループに関係フレーズ「子会社」を割り当て、別のグループに本社を割り当てることができます。

関係グループの使用

関係グループは、Oracleアプリケーションの特定のユーザー・インタフェースに表示される関係ロールおよびフレーズを指定するために使用します。関係グループは、1つ以上のOracleアプリケーションのユーザー・インタフェースに対応付けることができます。たとえば、「パーティ担当者」情報に固有の関係タイプのみを表示するようにOracleアプリケーションを構成できます。

関係タイプの管理

関係タイプの作成: 作業例

サブジェクトとオブジェクトのロール、ビジネス・ルール、関係を表すフレーズなど、関係の各種側面を定義した関係タイプを作成できます。

この例では、関係タイプを作成し、その関係タイプに関係ロールおよびフレーズを追加します。次の表に、関係の作成を開始する前に検討する必要がある主な事項を示します。

検討する決定事項

この例の場合

関係のサブジェクトとオブジェクトのパーティ・タイプは何ですか。 サブジェクト・タイプとオブジェクト・タイプは組織です。

関係は循環型ですか。 可

この関係ではサブジェクトは自己に関連しますか。 いいえ

関係タイプを作成する前に、その関係タイプを検索して、まだ存在しないことを確認する必要があります。

関係タイプの検索

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: 取引先コミュニティ基盤
 - タスク: 関係タイプの管理
2. 「関係タイプの管理」ページの「検索」領域で、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド	演算子	値
関係タイプ	次と等しい	サプライヤ

サブジェクト・タイプ 次と等しい 組織

オブジェクト・タイプ 次と等しい 組織

3. 「検索」をクリックします。

検索結果をレビューして、条件に当てはまる既存の関係タイプが存在しないことを確認します。

関係タイプの作成

1. 「検索結果」領域で、「作成」アイコンをクリックして「関係タイプの作成」ページをオープンします。
2. 「関係タイプの作成」ページの「概要」領域で、「関係タイプ」フィールドに「サプライヤ」を入力します。
3. 「循環」チェック・ボックスを選択します。
4. 「関係ルールおよびフレーズ」領域で、「作成」アイコンをクリックして「関係ルールおよび

フレーズのペアの作成」ダイアログ・ボックスをオープンします。関係を関係フレーズまたはロールとともに作成すると、ペアのもう一方のフレーズまたはロールを使用して逆方向が自動的に作成されます。

5. 「関係ロールおよびフレーズのペアの作成」ダイアログ・ボックスで、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド	値
サブジェクト・タイプ	組織
サブジェクトのフレーズ	Supplier of
サブジェクト・ロール単数形	サプライヤ
サブジェクト・ロール複数形	Suppliers
オブジェクト・タイプ	組織
オブジェクトのフレーズ	Buyer of
オブジェクト・ロール単数形	Buyer
オブジェクト・ロール複数形	Buyers

6. 「OK」をクリックします。
7. 「保存してクローズ」をクリックします。

関係タイプの編集: 作業例

関係タイプは、「関係タイプの管理」タスクを使用して管理できます。関係タイプを更新するには、関係ロールおよびフレーズを関係タイプに追加するか、グループに関係を割り当てます。

この例では、ロールおよびフレーズのペアを関係タイプ「雇用」に追加します。また、「雇用」関係タイプを「パーティ担当者」グループに追加します。

関係タイプの編集

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: 取引先コミュニティ基盤

。 タスク: 関係タイプの管理

2. 「関係タイプの管理」 ページの「検索」領域で、「関係タイプ」フィールドに「雇用」を入力します。
3. 「検索」をクリックします。
4. 「検索結果」領域で、「雇用」関係タイプを選択し、「編集」アイコンをクリックして「関係タイプの編集」ページをオープンします。
5. 「関係タイプの編集」ページの「関係ロールおよびフレーズ」領域で、「作成」アイコンをクリックします。
6. 「関係ロールおよびフレーズのペアの作成」で、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド	値
サブジェクト・タイプ	組織
サブジェクトのフレーズ	Has contract employees
サブジェクト・ロール単数形	Contractor
サブジェクト・ロール複数形	Contractors
オブジェクト・タイプ	個人
オブジェクトのフレーズ	Contract Employee of
オブジェクト・ロール単数形	Contract Employee
オブジェクト・ロール複数形	Contract Employees

7. 「OK」をクリックします。
8. 「関係グループ」領域で、「行の追加」アイコンをクリックします。
9. 「名前」ドロップダウン・リストで、「パーティ担当者」を選択します。
10. 「保存してクローズ」をクリックします。

関係グループの管理

関係グループの作成: 作業例

関係グループは、それらが表示されるユーザー・インタフェースに基づいて、関係ロールおよびフレーズをカテゴリ化するために使用します。

この例では、組織を外部組織と結び付ける関係タイプのグループを作成します。

関係グループの作成

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: 取引先コミュニティ基盤
 - タスク: 関係グループの管理
2. 「関係グループの管理」ページで、「作成」アイコンをクリックして「関係グループの作成」ページをオープンします。
3. 次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド 値

名前 **Related External Organizations**

コード **REL_EXT_ORGS**

説明 組織を外部エンティティと結び付ける関係のグループを示します。

4. 「関係ロールおよびフレーズ」領域で、「行の追加」アイコンをクリックして関係ロールおよびフレーズのペアを追加します。
5. 関係ロールおよびフレーズのペアごとに、次の表に示すフィールドに値を入力します。

サブジェクト・タイプ サブジェクト・ロール

組織 サプライヤ

組織 競合相手

6. 「保存してクローズ」をクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 分類の定義

11 分類の定義

この章の内容は次のとおりです。

- [分類: 説明](#)
- [分類の定義に関するFAQ](#)

分類: 説明

分類モデルには、パーティ、プロジェクト、タスクおよびオーダーなどのエンティティを分類するための柔軟なツールが用意されています。分類により、パーティなどのエンティティを、組織内でこのパーティが参照されているとおりに分類できます。

分類の主なコンポーネントは次のとおりです。

- 分類カテゴリ
- 分類ルール
- 分類コード
- 分類コード階層
- エンティティ割当て

分類カテゴリ

分類カテゴリを使用すると、広範なサブジェクト領域のエンティティを分類できます。たとえば、組織が事業を行っている産業に基づいて組織を分類できます。分類カテゴリは、分類コード・ルールを定義する1つ以上の分類コードの論理的なグループです。

分類ルール

分類カテゴリには、分類をエンティティに割り当てる方法を定義するルールを含めることができます。分類カテゴリを設定するときに、特定のルールを作成できます。たとえば、親分類コードをパーティに割り当てたり、複数の分類コードをエンティティに割り当てられるようにします。

分類コード

分類カテゴリ内の個別の値を分類コードと呼びます。たとえば、**1987 SIC**分類カテゴリには、ソフトウェア産業のパーティに割り当てることができる、ソフトウェアの分類コードが含まれます。分類コードは階層ツリーに編成できます。親分類コードはツリーの最上位レベルのノードとして表示され、子分類コードは親コードまたはその他の分類コードから分岐します。

分類コード階層

分類カテゴリ内に分類コードの階層を作成できます。たとえば、**IT**を分類カテゴリとして設定し、ハードウェア、キーボードおよびプリンタを分類コードとして設定できます。次に、ハードウェアをツリーの最上位レベルにある親分類コードに設定し、キーボードとプリンタを子分類コードに設定できます。プリンタ分類コードの下に、ドット・マトリックス、インクジェット、レーザーなどの追加の子分類コードを作成できます。

エンティティ割当て

分類カテゴリの割当て先となるエンティティを定義できます。**SQL**で、エンティティ表名を入力し、**Where**句を作成します。分類カテゴリは、**Where**句を満たすエンティティのみに割り当てることができます。たとえば、産業という分類カテゴリに**party_type = ORGANIZATION**という**Where**句が指定されている場合、産業分類カテゴリには組織のみが分類されます。

分類の定義に関するFAQ

親コード割当てを許可するとどうなりますか。

親分類コードとその子分類コードをオブジェクトに割り当てることができるようになります。親分類コードは、分類コード・ツリーの最上位レベルです。

オブジェクトへの親分類コードの割当てを許可しない場合、オブジェクトに割り当てることができるのは、子分類コード、つまり別の分類コードの下にあるコードのみになります。

複数区分コード割当てを許可するとどうなりますか。

分類カテゴリから複数の分類コードをオブジェクトに割り当てることができるようになります。

オブジェクトへの複数の分類コードの割当てを許可しない場合、オブジェクトに割り当てることができるのは、分類カテゴリの**1**つの分類コードのみになります。

既存のエンティティ割当てルールは更新できますか。

いいえ。エンティティ割当てルールを削除してから、新しいルールを作成できます。

一部の分類情報が顧客センターに表示されないのはなぜですか。

顧客センターには、「分類」ノードの顧客の分類および分類グループ情報が表示されます。すべての分類は分類カテゴリの下に分類されます。たとえば、**1987 SIC**分類カテゴリには、ソフトウェア産業のパーティに割り当てることができる、ソフトウェアの分類コードが含まれます。

顧客センターには、分類グループの管理タスクで構成された分類カテゴリに基づいて分類情報が表示されます。タスクで使用するすべての分類カテゴリとそのコードは、顧客センターに表示できるように構成する必要があります。たとえば、主な産業コードのカテゴリに属する分類コードを持つ顧客をインポートしたとします。ただし、「分類グループの管理」ページに主要産業コードの分類カテゴリを追加しないと、分類コードは顧客センターに表示されません。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. データ書式の定義

12 データ書式の定義

この章の内容は次のとおりです。

- [データ書式と設定アクティビティ: 連携](#)
- [書式の設定: 説明](#)
- [住所形式の書式の作成: 作業例](#)
- [住所書式の更新: 手順](#)
- [各国のシード済住所書式: 説明](#)
- [名前形式の書式の作成: 作業例](#)
- [データ書式の定義に関するFAQ](#)

データ書式と設定アクティビティ: 連携

データ書式は、組織内の住所書式および名前書式を定義し、それらを特定の地理に割り当てるために役立ちます。アプリケーションは、これらの書式を使用して、パーティ名および住所情報を取得および検証します。

地理ベースの住所検証を使用するには、住所書式だけでなく、地理データを設定する必要があります。

データ形式の管理

名前および住所の新しい形式を定義して、名前および住所形式の書式をカテゴリ化できます。データ形式(郵送先住所や連結名前など)によって、名前および住所形式の書式がカテゴリ化されます。アプリケーションでは、データ形式を使用して、エンティティが書式設定された特定の方法または状況を識別します。たとえば、特定の名前および住所形式のみがユーザー・インタフェースに表示されるようにアプリケーションを構成できます。

データ書式によるデータ品質の確保

データ書式を使用して、パーティ住所およびパーティ名のデータ品質を確保します。住所書式は、国固有の書式設定で住所要素を表すために使用され、ユーザーによる住所の入力時に役立ちます。住所検証の範囲も指定されます。住所書式は、データインポート・レベルで、住所検証用の地理データにリンクされます。たとえば、パーティの住所を作成または編集するときに、国を選択するとその国の住所書式が表示されます。

名前書式を使用すると、名前のコンポーネントが分解されて格納されます。名前書式を使用して、様々な異なる形式のコンポーネントから名前の表示を構成できます。特定の地理に必要なカナ名を格納することもできます。

データ書式では、コンポーネントとして格納することによって、パーティ住所およびパーティ名の格納が簡略化されます。地理に対して住所および名前書式を設定した後は、書式を使用して住所および名前データを検証できます。

書式の設定: 説明

データ書式は、アプリケーションでの名前とアドレスの表示方法を決定します。

データ書式には2つのタイプがあります。

- 住所書式: 住所書式では、住所のレイアウトを指定します。住所に含まれるコンポーネントや、レイアウト内でのそれらの位置などです。たとえば、米国郵送先住所の住所書式には、住所、都市、州および郵便番号をこの順序で含めることができます。
- 名前書式: 名前書式では、使用目的、言語および国に基づいて、名前がアプリケーションでどのように表示されるかを指定します。名前書式には、名前要素、位置および書式設定が含まれます。組織名または個人名について名前形式の書式を作成できます。

名前および住所書式は、使用目的、国および言語によって異なります。名前書式および住所書式を作成し、それらを変更し、特定のロケールに割り当てることができます。これにより、様々な国、言語および使用目的のデータ書式を作成できます。

また、書式の変動を作成し、各変動が固有のレイアウトを持つようにすることができます。たとえば、住所書式には、一般住所、地方住所、軍事施設の住所などの変動がある場合があります。

住所形式の書式の作成: 作業例

この例では、指定された住所形式について住所形式の書式を作成する方法を示します。

住所形式の書式を作成する手順は、次のとおりです。

- 住所形式の書式と住所形式の指定
- 書式変動レイアウトの作成
- ロケールの割当て

この例では、カナダ郵送先住所を書式設定する住所形式を作成します。

住所形式の書式名の作成と住所形式の指定

住所形式の書式を作成し、住所形式を指定する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: 取引先コミュニティ基盤
 - タスク: 住所書式の管理
2. 「住所書式の管理」ページで、処理メニューから「作成」をクリックします。
3. 「住所形式の書式の作成」ページで、次の表に示すように、「概要」セクションのフィールドに値を入力します。

フィールド 値

コード CA_POSTAL_ADDR

名前 カナダ郵送先住所書式

住所形式 郵送先住所

デフォルト いいえ

4. 「保存」をクリックします。

書式変動レイアウトの作成

書式変動レイアウトを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「住所形式の書式の作成」ページの「書式」セクションで、「書式レイアウト」タブをクリックします。
2. 「書式変動」セクションで、「処理」メニューから「新規」を選択します。
3. 「変動」フィールドに変動番号を入力します。
4. 「書式変動レイアウト」セクションで、「処理」メニューから「新規」を選択します。
5. 次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド 値

行 1

位置 1

プロンプト 住所行1

住所要素 住所行1

必須 可

大文字 いいえ

6. 次の表に示す別の住所行を作成します。

フィールド 値

行 2

位置 2

プロンプト 市区町村

住所要素 市区町村

必須 可

大文字 可

7. 「市区町村」住所行で「展開」をクリックし、「前方空白行」に値1を入力します。
8. 必要な数の住所行を作成できます。住所行の前または後に空白行およびデリミタを入力する場合は、「展開」をクリックします。このセクションでは、データ値を異なる値に変更する属性変換機能を作成することもできます。

注意: 新しい住所形式の書式を作成するときは、事前定義済の住所形式の書式と同様に、各コンポーネントに対して変換機能が存在するようにしてください。変換機能は翻訳に影響する場合があります。

ロケールの割当て

住所形式の書式をロケールに割り当てる手順は、次のとおりです。

1. 「住所形式の書式の作成」ページの「書式」セクションで、「ロケール割当」タブをクリックします。
2. 「処理」メニューから「新規」を選択します。
3. 住所形式の書式に対して国を選択します。複数の国を書式に割り当てることができます。
4. 「保存してクローズ」をクリックします。

住所書式の更新: 手順

この手順では、住所書式を更新するステップを示します。

住所書式では、住所のレイアウトが指定されます。住所に含まれるコンポーネントや、レイアウト内でのそれらの位置などです。たとえば、カナダ郵送先住所の住所書式には、住所、都市、州、郵便番号および国をこの順序で含めることができます。

住所書式を更新する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: 取引先コミュニティ基盤
 - タスク: 住所書式の管理

「住所書式の管理」ページが開きます。

2. 住所書式を更新する国を選択します。たとえば、「カナダ」を選択して、その住所書式を更新します。
3. 「検索」をクリックして、その国の住所書式を表示します。
4. 更新する住所書式を選択して「住所形式の書式の編集」ページを表示します。
5. 「編集」をクリックして、ページを編集モードで表示します。

「書式」領域で、住所コンポーネントを更新できます。

6. 住所コンポーネントを更新するには、住所コンポーネントを展開して、各住所コンポーネントのオプショ

ンを表示します。

注意: アカウムの販売先住所は、国情報しか含まれていない場合は表示されません。国情報のみが含まれた販売先住所を表示するには、「国」住所コンポーネントの属性変換機能を削除する必要があります。この機能を削除するには、「国」住所コンポーネントの「属性変換機能」フィールドのエントリを削除します。

7. 「保存してクローズ」をクリックします。

各国のシード済住所書式: 説明

次の表に、シード済住所書式が使用可能な国を示します。

この表には、これらの国の形式書式コード、テリトリ・コードおよび属性コードが示されています。地理属性コードは国ごとに異なります。

TERRITORY_SHORT_NAME	STYLE_FORMAT_CODE	TERRITORY_CODE	ATTRIBUTE_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
アルゼンチン	POSTAL_ADDR_AR	AR	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
オーストラリア	POSTAL_ADDR_AU	AU	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
オーストリア	POSTAL_ADDR_AT	AT	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1

			ADDRESS2
			ADDRESS3
ベルギー	POSTAL_ADDR_BE	BE	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
ブラジル	POSTAL_ADDR_BR	BR	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
カナダ	POSTAL_ADDR_CA	CA	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			PROVINCE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
チリ	POSTAL_ADDR_CL	CL	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDR_ELEMENT_ATTRIBUTE2
中国	POSTAL_ADDR_CN	CN	CITY
			COUNTRY

			POSTAL_CODE
			PROVINCE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
コロンビア	POSTAL_ADDR_CO	CO	CITY
			COUNTRY
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			CITY
キューバ	POSTAL_ADDR_CU	CU	COUNTRY
			COUNTY
			POSTAL_CODE
			PROVINCE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			CITY
エストニア	POSTAL_ADDR_EE	EE	COUNTRY
			POSTAL_CODE
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
フィンランド	POSTAL_ADDR_N_EUR	FI	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2

フランス	POSTAL_ADDR_FR	FR	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
ドイツ	POSTAL_ADDR_DE	DE	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
香港	POSTAL_ADDR_HK	HK	CITY
			COUNTRY
			COUNTY
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
ハンガリー	POSTAL_ADDR_HU	HU	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
インド	POSTAL_ADDR_IN	IN	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			STATE

			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
アイルランド	POSTAL_ADDR_IE	IE	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
イタリア	POSTAL_ADDR_IT	IT	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			PROVINCE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
			ADDRESS_LINES_PHONETIC
日本	POSTAL_ADDR_JP	JP	ADDR_ELEMENT_ATTRIBUTE2
			CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDR_ELEMENT_ATTRIBUTE2
朝鮮民主主義人民共和国	POSTAL_ADDR_KP	KP	ADDR_ELEMENT_ATTRIBUTE3
			CITY

			COUNTRY
			PROVINCE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDR_ELEMENT_ATTRIBUTE2
			ADDR_ELEMENT_ATTRIBUTE3
大韓民国	POSTAL_ADDR_KR	KR	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			PROVINCE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
ルクセンブルク	POSTAL_ADDR_N_EUR	LU	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
マレーシア	POSTAL_ADDR_MY	MY	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDR_ELEMENT_ATTRIBUTE2
			ADDR_ELEMENT_ATTRIBUTE3
メキシコ	POSTAL_ADDR_MX	MX	CITY

			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
オランダ	POSTAL_ADDR_NL	NL	ADDRESS3
			CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
ニュージーランド	POSTAL_ADDR_NZ	NZ	ADDRESS3
			CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
ノルウェー	POSTAL_ADDR_N_EUR	NO	ADDRESS3
			CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
ポーランド	POSTAL_ADDR_EUR	PL	ADDRESS3
			CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE

			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
ルーマニア	POSTAL_ADDR_N_EUR	RO	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
サウジアラビア	POSTAL_ADDR_SA	SA	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
シンガポール	POSTAL_ADDR_SG	SG	BUILDING
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
南アフリカ	POSTAL_ADDR_ZA	ZA	ADDR_ELEMENT_ATTRIBUTE2
			CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			CITY
スペイン	POSTAL_ADDR_ES	ES	COUNTRY

			POSTAL_CODE
			PROVINCE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
スウェーデン	POSTAL_ADDR_SE	SE	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
スイス	POSTAL_ADDR_CH	CH	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
アラブ首長国連邦	POSTAL_ADDR_AE	AE	CITY
			COUNTRY
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
イギリス	POSTAL_ADDR_GB	GB	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
アメリカ合衆国	POSTAL_ADDR_US	US	CITY
			COUNTRY

			POSTAL_CODE
			STATE
			ADDRESS1
			ADDRESS2
			ADDRESS3
ウルグアイ	POSTAL_ADDR_S_AM	UY	CITY
			COUNTRY
			POSTAL_CODE
			PROVINCE

名前形式の書式の作成: 作業例

この例では、名前形式の書式を作成し、その書式変動レイアウトを定義し、それに「アメリカ合衆国」を割り当てます。

アプリケーションはロケール割当プリファレンスに基づいて、名前コンポーネントを表示する名前形式の書式を選択します。国または国と言語の両方のいずれかをロケールとして設定できます。ただし、言語のみをロケールとして設定することはできません。

国と言語の両方をロケールとして設定した場合、アプリケーションには現在のセッションの言語設定に基づいて名前コンポーネントが表示されます。たとえば、連結名前形式で次の2つの名前形式コードを作成したとします。

- 形式コード1:
 - 国: 中国
 - 言語: 簡体字中国語
- 形式コード2:
 - 国: 中国
 - 言語: 英語

国プリファレンスを中国に、セッション言語を英語に設定した場合、担当者名は形式コード2で書式設定されず。しかし、国プリファレンスを中国に、セッション言語を簡体字中国語に設定した場合、担当者名は形式コード1で書式設定されます。

国および言語設定にロケールが存在しない場合、デフォルトの名前形式コード(「形式のデフォルト書式」オプションが「はい」に設定されている名前形式コード)が使用されます。

名前書式は、新規担当者を作成するときまたは既存の担当者の名前を更新する際にのみ有効です。アプリケーションにより担当者名が翻訳されることはありません。

名前形式の書式の作成

名前形式の書式を作成する手順は、次のとおりです。

1. 「名前書式の管理」ページで、「処理」メニューから「作成」をクリックします。「名前形式の書式の作成」ページが表示されます。
2. 「概要」領域で、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド	値
コード	CONCAT_NAME_US
名前	United States Concatenated Name Format
名前形式	連結名前

形式のデフォルト書式 いいえ

注意: 作成中の名前形式の書式を、選択した名前スタイルである連結書式のデフォルト書式に指定するには、「形式のデフォルト書式」オプションを「はい」に設定します。

3. 「書式変動」領域で、「処理」メニューから「行の追加」をクリックします。空白行が「書式変動」表に追加されます。
4. 空白行の「変動ランク」フィールドに1を入力します。
5. 「書式変動レイアウト」領域で、「処理」メニューから「作成」をクリックします。空白行が「書式変動レイアウト」表に追加されます。
6. 次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド	値
行	1
位置	1
プロンプト	個人名
名前要素	名
必須	いいえ
大文字	いいえ

注意: 必要な数の名前の一部を作成できます。名前の一部の前または後に空白行およびデリミタを入力するには、「展開」をクリックします。データ値を異なる値に変更する属性変換機能を作成することもできます。

7. 「処理」メニューから「作成」をクリックして、次の表に示す別の変動レイアウトを作成します。

フィールド 値

行 2

位置 2

プロンプト 個人姓

名前要素 姓

必須 いいえ

大文字 いいえ

8. 「ロケール割当」タブで、「処理」→「作成」をクリックし、次の表に示すようにフィールドに値を入力します。

フィールド 値

国 アメリカ合衆国

言語 英語(米国)

注意: アプリケーションはロケール割当プリファレンスに基づいて、名前コンポーネントを表示する名前形式の書式を選択します。国または国と言語の両方のいずれかをロケールとして設定できます。ただし、言語のみをロケールとして設定することはできません。国および言語設定にロケールが存在しない場合、デフォルトの名前形式コード(「形式のデフォルト書式」オプションが「はい」に設定されている名前形式コード)が使用されます。

9. 「保存してクローズ」をクリックします。

データ書式の定義に関するFAQ

住所形式の書式レイアウトを作成するにはどうすればよいですか。

「住所書式の管理」ページで「新規」をクリックし、「書式変動レイアウト」セクションで住所行を追加します。住所形式の書式レイアウトが複数必要な場合は、書式変動を作成し、異なる住所書式レイアウトを追加できます。

住所形式の書式の変動を作成するにはどうすればよいですか。

住所形式の書式の様々な変動を作成し、各変動が固有のレイアウトを持つようにすることができます。たとえば、ある国の郵送先住所には、一般郵送先住所、地方住所、軍事施設の住所などの変動がある場合があります。住所形式の書式の作成時に、書式に対して定義されたレイアウトがデフォルトの変動として割り当てられます。住所形式の書式について、「住所形式の書式の編集」ページの「書式変動」領域で「追加」をクリック

して、住所形式の変動を追加します。住所形式の書式の変動ごとに、変動ランクを入力して変動の優先度を定義できます。

名前形式の書式レイアウトを作成するにはどうすればよいですか。

「名前書式の管理」ページで「新規」をクリックし、「名前形式の書式の作成」ページの「書式変動レイアウト」セクションで、氏名の各部分の明細エントリを追加します。名前形式の書式レイアウトが複数必要な場合は、書式変動を作成し、異なる名前書式レイアウトを追加できます。

名前形式の書式の別の変動を作成するにはどうすればよいですか。

名前形式の書式の様々な変動を作成し、各変動が固有のレイアウトを持つようにすることができます。たとえば、国内の異なる地域が異なる名前形式の書式を持つ場合があります。名前形式の書式について、「名前形式の書式の編集」ページの「書式変動」領域で「追加」をクリックして、名前形式の変動を追加します。名前形式の書式の変動ごとに、変動ランクを入力して変動の優先度を定義できます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 連絡先の定義

13 連絡先の定義

この章の内容は次のとおりです。

- [電話番号計画: 説明](#)
- [電話番号計画の更新: 手順](#)
- [電話番号計画の設定とその他の設定タスクとの連携](#)
- [連絡先の定義に関するFAQ](#)

電話番号計画: 説明

電話番号計画は、国の電話番号について桁のパターンを定義します。これは、電話番号、表示書式形式およびコードの国固有のコンポーネントを定義します。コードには、国コード、国際プリフィクス、国内の市外局番および携帯電話のプリフィクスが含まれます。国固有の携帯電話のプリフィクスを指定することで、電話番号が携帯電話のものであるかどうかを判別できます。

1つの国に対し、複数の電話番号の表示書式を作成することもできます。たとえば、米国の電話番号書式の場合は、電話番号の国コードとして01、固定の市外局番として3桁の数字、加入者番号として7桁の数字を定義します。国内表示用には(999) 999-9999などの電話番号書式を作成し、国際表示用には999-999-9999などの書式を作成できます。

電話番号計画の更新: 手順

「電話番号計画の管理」ページから、電話番号計画を更新できます。国に市外局番、携帯電話のプリフィクスまたは電話番号書式が定義されている場合は、国情報を編集できません。

電話番号計画を更新する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: 取引先コミュニティ基盤
 - タスク: 電話番号計画の管理

「電話番号計画の管理」ページが開きます。

2. 電話番号計画を更新する国を検索します。たとえば、「アメリカ合衆国」を検索し、「国コード」リストで「アメリカ合衆国」を選択するか、「電話国コード」フィールドに1と入力します。
3. 国を選択し、「編集」をクリックして「電話番号計画の編集」ページを表示します。

4. 「方式」セクションで、次の国固有の電話番号情報を編集できます。
 - 市外プリフィクス: 国内で長距離電話番号の前にダイヤルするコード。たとえば、米国の場合は**1**です。
 - 国際プリフィクス: 設定している国から発信する際に、国際電話番号の前にダイヤルするコード。たとえば、米国の場合は**011**です。
 - 加入者番号の長さ: 加入者番号の長さが固定されている国での、加入者番号の長さ。
 - 市外局番の長さ: 市外局番の長さが固定されている国での、市外局番の長さ。
5. 「地域情報」セクションで、国の次のような地域電話番号情報を編集できます。
 - 市外局番: 国で使用する市外局番を定義できます。
 - 携帯電話のプリフィクス: この国で使用する携帯電話のプリフィクスを定義できます。携帯電話のプリフィクスには、市外局番と加入者番号で使用可能なプリフィクスが含まれます。たとえば、**650506**という携帯電話のプリフィクスは、市外局番の**650**と加入者番号のプリフィクスの**506**で構成されます。
 - 電話番号書式: **1**つの国に対して複数の電話番号表示書式を定義できます。
6. 「保存してクローズ」をクリックして更新を保存します。

電話番号計画の設定とその他の設定タスクとの連携

電話番号計画は、国の電話番号書式を定義します。要件に応じて、**1**つの国に対して複数の書式を定義できます。

電話番号計画の設定とその他の設定タスクとの連携

電話番号書式は、住所や名前の書式など、その他の国固有の事業所情報とともに、地域固有のデータ書式を定義します。「電話番号計画の管理」ページで、電話番号計画を管理できます。

アプリケーションでは、電話番号書式を使用して、電話番号を適切な形式で表示し、電話番号を検証します。電話番号、表示書式形式および市外局番の国固有のコンポーネントを定義できます。アプリケーションでは、電話番号書式を使用して、電話番号を正しく解析し、ユーザー・インタフェースに電話番号を表示するための正しい書式形式を決定します。

アプリケーションでは、国に対して定義されている書式に基づいて、その国の電話番号を検証します。電話番号は、すべての国に適用される共通のルールに対しても検証されます。また、国コードおよび市外局番レベルで、国のタイム・ゾーン情報を入力することもできます。タイム・ゾーン情報は、その国に対して定義されている時間情報に対して検証されます。

連絡先の定義に関するFAQ

電話番号の編集ページの国情報セクションを編集できないのはなぜですか。

国に対して市外局番、携帯電話のプリフィクスおよび電話番号書式などの地域情報が定義されている場合は、国情報を更新できません。

担当者またはアカウントの連絡先を作成するときに、どのようにして関係を割り当てますか。

担当者プロフィール・ページの担当者またはアカウント担当者ページのアカウントのいずれかに対して連絡先を作成するときに、「顧客関係」リストを使用して関連する関係を選択できます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. ファイルベース・データ・インポートの定義

14 ファイルベース・データ・インポートの定義

この章の内容は次のとおりです。

- [ファイルベース・データ・インポート:ハイライト](#)
- [ファイルベース・データ・インポートの定義に関するFAQ](#)

ファイルベース・データ・インポート:ハイライト

「設定および保守」作業領域に用意されている「ファイル・ベース・データ・インポートの定義」タスク・グループを使用すると、外部ソースのアプリケーション・データをOracle Engagement Cloudデータベースにインポートできます。ファイルベース・データ・インポートに関するドキュメントの主なソースは、Oracleヘルプ・センター(www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=cloud&id=OEFBS)に用意されている『Oracle Engagement Cloudファイルベース・データ・インポート』ガイドです。

Oracle Engagementのファイルベース・データ・インポート・ガイド

『Oracle Engagement Cloudファイルベース・データ・インポート』ガイドには、次の情報を含め、ファイルベース・データ・インポートを使用するうえで役立つトピックがまとめられています。

- ファイルベース・データ・インポート・プロセス、アーキテクチャおよびツールに関する概要情報
- 特定のオブジェクトとその関連オブジェクトのインポートに関する詳細情報
- 特定のオブジェクトの最小限のフィールドをインポートする際のガイドライン

関連項目

- [Customer Data Management Cloud顧客データ管理](#)
- [Oracle Engagement Cloudファイルベース・データ・インポートおよびエクスポートの理解](#)

ファイルベース・データ・インポートの定義に関するFAQ

一覧表示されるファイルベース・データ・インポート・オブジェクトは何によって決まりますか。

単一のインポート・オブジェクトは、複数の関連コンポーネントで構成され、これらのコンポーネントもそれ自体ではオブジェクトとみなされます。関連オブジェクトをファイル・インポート用に別のオブジェクトのコンポーネントとしてグループ化できるかどうかは、オブジェクト体系の複雑さとデータ・モデルでのオブジェクトの格納方法によって決まります。Oracle Engagement Cloudでは、

ファイル処理インポート要件を満たすインポート・オブジェクトが事前に定義されています。そのため、オブジェクトの関連コンポーネントをすべて取得するためには、複数のソース・ファイルが必要になる場合があります。

インポート・アクティビティを非アクティブ化するとどうなりますか。

現在実行中のプロセスがインポート・アクティビティによって停止されることはありません。ただし、次のスケジュール済プロセスと今後反復的に実行されるファイル・インポート・アクティビティが開始されなくなります。プロセスは後の段階でいつでもアクティブ化できます。

インポート・アクティビティの定義にマーケティング・リストを追加するとどうなりますか。

ファイルベース・データ・インポートを使用すると、コンシューマ、リードおよびレスポンス・インポート・オブジェクトをインポートする際に、マーケティング・リストにコンシューマや組織の担当者を記録できます。既存のリストを選択するか、新しいリストを作成します。マーケティング・リストには、そのリストがインポート・アクティビティの定義時に作成された場合は、「インポート済」というリスト・タイプ値が割り当てられます。オブジェクトが正常にインポートされると、コンシューマや担当者がマーケティング・リストのメンバーとして追加されます。

アカウントまたは法的エンティティのインポート時に、顧客データ管理重複値リストのオプションを使用して重複を取得できないのはなぜですか。

アカウントまたは法的エンティティのインポート時に、顧客データ管理重複値リストを使用して重複を取得できるのは、データ品質機能のライセンスを取得した場合のみです。ライセンスを取得したら、「エンタープライズ・データ品質照合構成の管理」タスクを使用して、照合構成のキーを再作成する必要があります。キーを再作成すると、照合機能によって照合構成の設定に基づいて重複が識別されるようになります。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 一括データ・エクスポートの管理

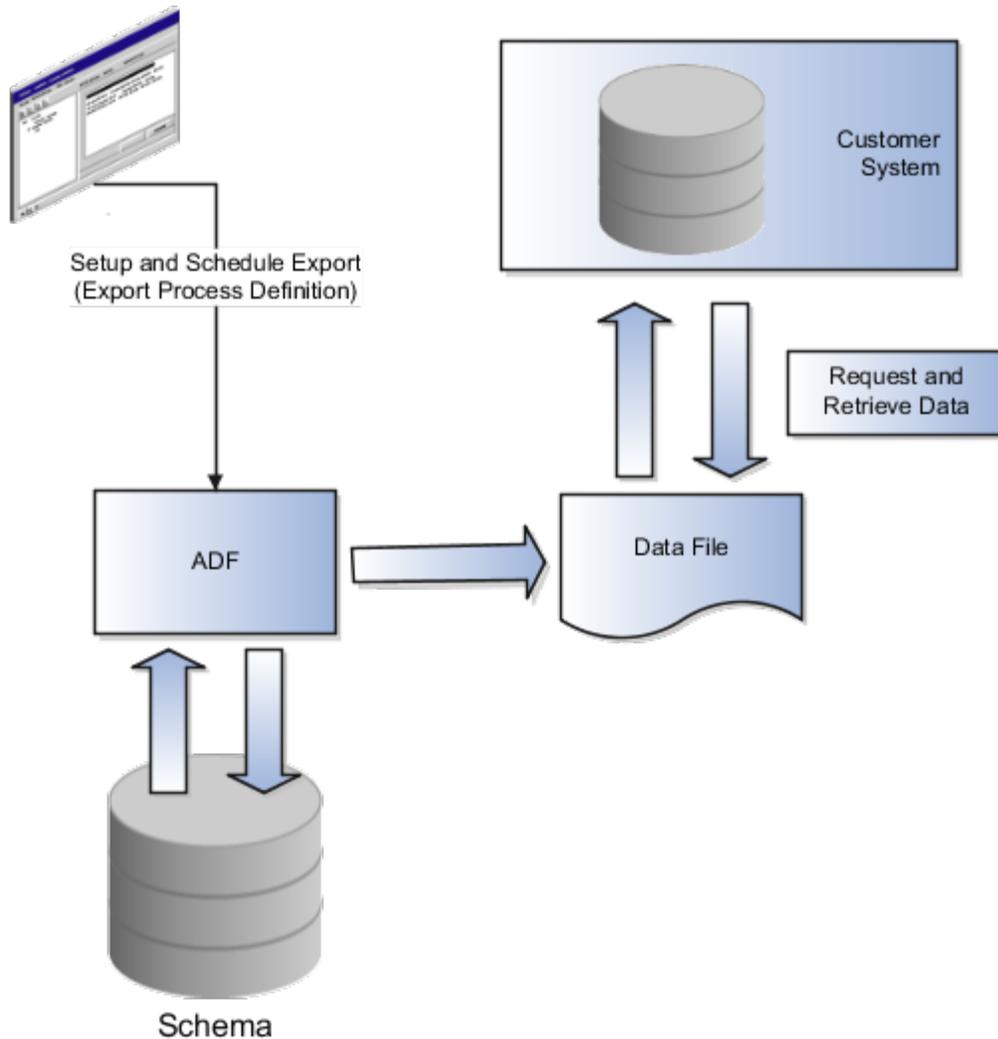
15 一括データ・エクスポートの管理

この章の内容は次のとおりです。

- [概要](#)
- [一括エクスポート・プロセスの定義: 手順](#)
- [一括エクスポート・プロセスのコンポーネント: 連携](#)
- [一括データ・エクスポートの管理に関するFAQ](#)

概要

一括エクスポートを使用して、大量のデータを抽出できます。オブジェクトのレコードの全セットを抽出することも、増分抽出を実行することもできます。たとえば、アカウント・データの完全なセットを抽出したり、週ごとにレコードの更新セットを抽出できます。一括エクスポートでは、カンマ区切りまたはタブ区切りのファイルが作成され、エクスポート・プロセスに添付されます。



一括エクスポート・プロセスの定義: 手順

一括エクスポートを使用して、大量のデータを抽出できます。オブジェクトのレコードの全セットを抽出することも、増分抽出を実行することもできます。一括エクスポートでは、エクスポート後にカンマ区切りまたはタブ区切りのファイルが作成され、エクスポート・プロセスに添付されます。

エクスポート・プロセスの詳細は、次のとおりです。

1. エクスポート・プロセス定義を作成します。エクスポート・プロセス定義は、エクスポート・マップと処理スケジュールで構成されます。
2. エクスポート・プロセス定義のエクスポート・マップでは、次の処理を行います。
 1. エクスポート対象の属性を選択します
 2. エクスポート対象のデータをフィルタします

3. エクスポート・ジョブをスケジュールします。
4. エクスポート・ジョブをアクティブ化します。

一括エクスポート・プロセスの定義

マッピング・ファイルを定義した後、作成したマッピング・ファイルを使用してオブジェクト・データをエクスポートするエクスポート・プロセスを作成します。

一括エクスポート・プロセスを定義する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で次のようにナビゲートします。
 - オファリング: 販売
 - 機能領域: データのインポートおよびエクスポート
 - タスク: エクスポート・プロセスのスケジュール
2. 「処理」メニューから「作成」を選択し、「エクスポート・プロセス定義の作成: 基本情報の入力」ページを表示します。
3. 名前やエクスポート・マップなどの、エクスポート・プロセスの基本情報をページに入力します。
4. 「次」をクリックし、「エクスポート・プロセス定義の作成: エクスポート・オブジェクトの構成」ページを表示します。

このページで、エクスポートするエクスポート・オブジェクトおよびエクスポート・プロセスに使用するマッピングを定義します。

5. このマッピングを他のエクスポート・プロセスで再利用する場合は、オプションでマッピングの名前を入力できます。オブジェクトがエクスポートされるたびに、オブジェクトのマッピング・ファイルによってエクスポートされるデータが判別されます。1つのエクスポート・オブジェクトに対し、エクスポートするオブジェクトの様々な詳細に応じて複数のマッピング・ファイルを設定できます。

注意: エクスポート・マッピングはオプションです。エクスポートを実行するために既存のマッピングを選択する必要はありません。

6. 「処理」メニューから「作成」を選択し、「エクスポート・オブジェクトの管理」ダイアログ・ボックスを表示します。
7. 「使用可能なオブジェクト」リストからオブジェクトを選択し、「選択したオブジェクト」リストに移動して、「完了」をクリックします。
8. ページの「詳細」領域で、エクスポートする属性を定義します。次の内容を定義できます。
 - エクスポートする属性。エクスポートする属性の「使用可能」を選択します。
 - 属性のヘッダー・テキスト。「ヘッダー・テキスト」列でヘッダー・テキストを編集します。この値は、エクスポート・プロセスによって生成されるファイルで列ヘッダーとして使用されます

9. 「フィルタ基準の編集」列のボタンをクリックして、フィルタを定義し、エクスポートするデータを決定します。

注意: 増分抽出の場合は、エクスポートする行を決定するために、タイムスタンプを使用するフィルタを作成できます。

10. 「次」をクリックし、「エクスポート・プロセス定義の作成: スケジュールの作成」ページを表示します。
11. エクスポート・プロセスをすぐに実行するか後で実行するかを選択します。2種類のエクスポート・スケジュールがサポートされています。
 1. 増分エクスポート
 2. 標準エクスポート
12. 「次」をクリックし、「エクスポート・プロセス定義の作成: レビュー」ページを表示します。
13. エクスポート・プロセスの詳細をレビューし、「アクティブ化」をクリックします。

各エクスポート・プロセスが実行し、完了した後、カンマ区切りまたはタブ区切りのデータ・ファイルが作成され、エクスポート・プロセスの添付ファイルとして格納されます。表示基準に一致するレコード数が100万レコードを上回る場合、または生成されるエクスポート・ファイルのサイズが100 MBを上回る場合、エクスポート・プロセスにより複数のファイルが生成されます。生成されたエクスポート・ファイルは、「_001」から始まる「_NNN」が名前に追加され、番号付けされます。

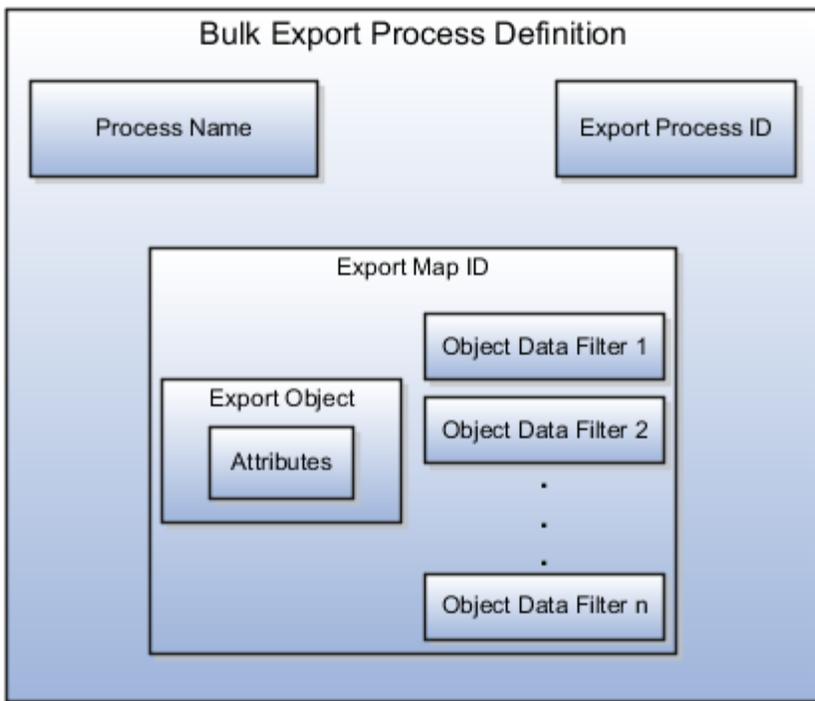
Webサービスを使用してエクスポート・プロセスをスケジュールおよび開始することもできます。この場合は、`getAttachment` Webサービスを使用してデータ・ファイルをダウンロードできます。

一括エクスポート・プロセスのコンポーネント: 連携

一括エクスポートでエクスポート・マップを利用すると、より簡単にデータをエクスポートできます。一括エクスポートを使用してファイルをエクスポートするには、プロセス定義を作成し、完全抽出プロセス用および増分抽出プロセス用のマップ・ファイルを作成してから、エクスポート・プロセスをスケジュールします。

一括エクスポート・プロセスのコンポーネント

次の図は、プロセス名、エクスポート・プロセス ID およびエクスポート・マップ ID で構成される一括エクスポート・プロセスのコンポーネントを示しています。



一括エクスポート・プロセスには3つのコンポーネントが含まれています。

- プロセス名: コンピュータが生成した100000019897192のようなIDではなく、エクスポート・プロセスをより簡単に参照できるようにする、エクスポート・プロセスの名前。
- エクスポート・プロセスID: エクスポート・プロセスのエクスポート・プロセス定義に対してアプリケーションで生成された一意の識別子。プロセスIDは、エクスポート・オブジェクトを含むエクスポート・マップ、フィルタおよびエクスポート・スケジュールを結び付けます。
- エクスポート・マップID: エクスポート・マップの一意の識別子。エクスポート・マップは別のプロセス定義で再利用できます。たとえば、顧客エクスポート・オブジェクトからすべてのデータをエクスポートするプロセス定義を作成します。このエクスポート・マップを再利用し、最後のエクスポート日付から累積されたデータなど、データに対する新しいフィルタを適用して、増分エクスポートを作成できます。

一括データ・エクスポートの管理に関するFAQ

正常にエクスポートできるデータ・オブジェクトを判別して選択するにはどうすればよいですか。

エクスポートするデータの要件をレビューし、必要な属性を保持しているソース・ビュー・オブジェクトを判別します。

エクスポート対象のデータのサブセットを作成するにはどうすればよいですか。

常にデータの全セットがエクスポートに必要なわけではありません。データのサブセットを作成するには、属性の値に基づいて、フィルタ基準を使用してデータの時間枠または範囲を決定します。たとえば、2011年1月1日から2011年3月31日までといった特定の日付範囲のアクティビティを見つけるには、「エクスポート・オブジェクト詳細」サブページにナビゲートし、フィルタ・アイコンをクリックします。フィルタ基準ダイアログにプロジェクトの開始日付を入力し、エクスポートするデータを

選択します。「設定および保守」作業領域で次のように移動して、エクスポートを実行します。

- オファリング: 販売
- 機能領域: データのインポートおよびエクスポート
- タスク: エクスポート・プロセスのスケジュール

エクスポートしたデータを確認するにはどうすればよいですか。

「エクスポート・プロセスのスケジュール」の「概要」ページを表示し、「履歴」サブページを確認します。「エクスポート済データ・ファイル」列に、出力ファイルへのハイパーリンクが表示されます。このファイルはカンマ区切り変数またはタブ区切りのファイルになります。このリンクをクリックしてファイルを開き、エクスポートされたデータを確認します。

エクスポート済データ・ファイル内の順序番号またはヘッダー・テキストを変更するとどうなりますか。

順序番号を変更すると、エクスポート済データ・ファイル内の属性の順序が変更されます。ヘッダー・テキストを変更すると、属性および関連データに、より直感的な意味を持たせることができます。

複数のエクスポート・ビュー・オブジェクトのデータが必要な場合はどうなりますか。

エクスポート・プロセスに対して、必要な数のビュー・オブジェクトを選択します。各エクスポート・オブジェクトから、必要な個々の属性を選択します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. データ・エンリッチメントおよび住所検証用のOracle Social Data and Insight Cloud Serviceの構成

16 データ・エンリッチメントおよび住所検証用のOracle Social Data and Insight Cloud Serviceの構成

この章の内容は次のとおりです。

- [データ・エンリッチメントおよび住所検証用のSocial Data and Insight Cloud Serviceの構成: 概要](#)
- [DaaSユーザーの作成およびロールの割当て: 手順](#)
- [Data Cloudへの統合の構成: 手順](#)
- [リアルタイム・データ・エンリッチメントのマッピングとプリファレンスの管理: 手順](#)
- [アカウントの産業分類の指定](#)
- [手動データ・エンリッチメント](#)
- [リアルタイム・データ・エンリッチメント](#)
- [ソーシャル属性によるOracle Engagement Cloudデータのエンリッチ](#)

データ・エンリッチメントおよび住所検証用のSocial Data and Insight Cloud Serviceの構成: 概要

Oracle Cloudアプリケーション内のアカウントおよびアカウント担当者(B2B担当者)データをエンリッチするには、Oracle Social Data and Insight Cloud Service (Data as a Service (DaaS)とも呼ばれる)を使用します。このクラウド・サービスでは、エンリッチメントのプライマリ・ソースとして200を上回る国のDun and Bradstreet (D&B)データを使用します。データ・エンリッチメントを行うことで、既存のアカウント・データまたはアカウント担当者データ、住所情報の品質を改善するとともに、そのデータを追加情報でエンリッチできます。このクラウド・サービスを使用すると、営業担当はアカウントおよびアカウント担当者をリアルタイムでエンリッチでき、管理者およびデータ・スチュワードはデータを一括でエンリッチできます。

「データ・エンリッチメント」作業領域のバッチ・データ・エンリッチメントを使用して、または一括インポートおよびエクスポートのテンプレートを使用して手動で、アカウント・データおよびアカウント担当者データを一括でエンリッチできます。リアルタイム・データ・エンリッチメントを使用して、「アカウント」ページや「担当者」ページで小規模なデータのセットをリアルタイムでエンリッチすることもできます。さらに、エンリッチ済のアカウント・データおよび担当者データをOracle Social Data and Insight Cloud Serviceからダウンロードすることもできます。

バッチ・データ・エンリッチメントの構成

バッチ・データ・エンリッチメント・オプションでは、「データ・エンリッチメント」作業領域でバッチ・プロセス・ジョブを作成および送信することでデータを一括でエンリッチできます。このエンリッチメント・プロセス・フローを構成するには、次のステップを完了する必要があります。

1. **DAAS**ユーザーを作成し、適切な権限を割り当てます。詳細は、「**DaaS**ユーザーの作成およびロールの割当て: 手順」を参照してください。
2. エンゲージメント・クラウドとデータ・クラウドの統合を構成します。詳細は、「エンゲージメント・クラウドとデータ・クラウドの統合の構成: 手順」を参照してください。

手動データ・エンリッチメントの構成

ソーシャル・データ・エンリッチメントのためにカスタム属性が必要な場合、手動エンリッチメント・ジョブを作成する必要があります。手動エンリッチメント・オプションを使用すると、エンリッチされたレコードをカスタム・インポート・マッピングを使用してインポート・バックできます。手動データ・エンリッチメントを実行する手順は、次のとおりです。

1. アプリケーションから**CSV**ファイルへのデータのエクスポート
2. **Oracle Social Data and Insight Cloud Service**を使用したデータのエンリッチ
3. **Oracle Social Data and Insight Cloud Service**からのエンリッチ済データ・ファイルのダウンロード
4. エンリッチ済データ・ファイルのインポート

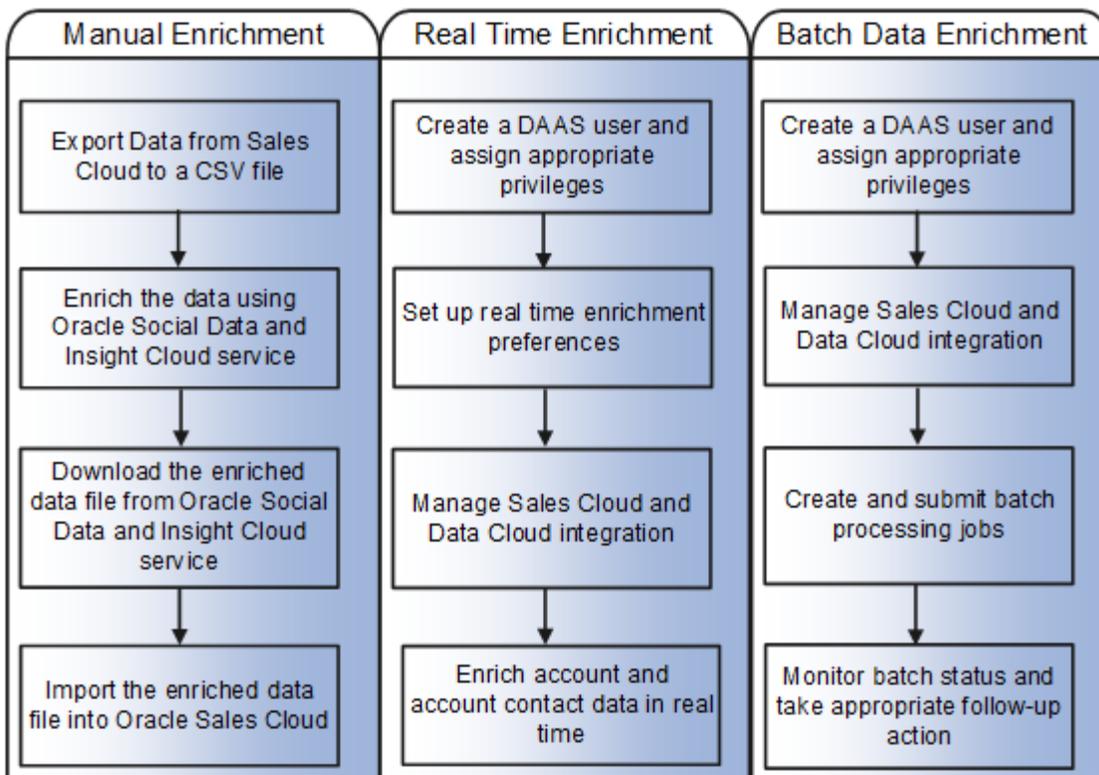
アプリケーションには、**Data as a Service (DaaS)**からアカウント・データまたはアカウント担当者データをインポートするための事前構成済マッピングが用意されています。ただし、ソーシャル・データ・エンリッチメントのためにカスタム属性が必要な場合、このエンリッチメント・プロセス・フローの構成の一環として、エンリッチされたレコードをインポート・バックできるようにカスタムのインポート・マッピングを作成する必要があります。

リアルタイム・データ・エンリッチメントの構成

リアルタイム・データ・エンリッチメント・オプションを使用すると、アカウントまたは担当者フローの作成中にデータを**1**レコードずつエンリッチできます。また、「アカウント」または「担当者」簡易**UI**で既存のレコードを最大**5**件エンリッチできます。このエンリッチメント・プロセス・フローを構成するには、次のステップを完了する必要があります。

1. **DAAS**ユーザーを作成し、適切な権限を割り当てます。詳細は、「**DaaS**ユーザーの作成およびロールの割当て: 手順」を参照してください。
2. リアルタイム・データ・エンリッチメントのプリファレンスを設定します。詳細は、「**Social Data and Insight Cloud**の属性マッピングとプリファレンスの管理: 手順」を参照してください。
3. 管理者プロファイル・オプションを設定します。詳細は、「**Social Data and Insight Cloud**の属性マッピングとプリファレンスの管理: 手順」を参照してください。
4. 販売クラウドとデータ・クラウドの統合を構成します。詳細は、「エンゲージメント・クラウドとデータ・クラウドの統合の構成: 手順」を参照してください。

次の図は、提供されているすべてのデータ・エンリッチメントのプロセス・フローを示しています。



詳細は、『Oracle Social Data and Insight Cloud Service使用』ガイドを参照してください。

DaaSユーザーの作成およびロールの割当て：手順

DaaSユーザーを作成してデータ・サービス・クライアントAPIのAppIDロールを割り当てるための主な手順は、次のとおりです。

1. DaaS for Sales (Social Data and Insight)にサブスクライブするか、トライアル・アカウントを要求します。
 1. <http://cloud.oracle.com>でMy Servicesアプリケーションにログインします。
 2. サービスが配置されているデータ・センターにナビゲートし、Data as a Service (DaaS)のトライアルを要求するか、サブスクリプションを購入します。

詳細は、『Oracle Cloudスタートガイド』の「Oracle Cloudサービスのトライアルへのサブスクリプション」を参照してください。

Oracle Social Data and Insight Cloud ServiceとOracle Address Verification Cloud Serviceでは、トライアル・サブスクリプションの組合せが提供されています。片方のサービスのトライアルを注文すると、もう片方も提供されます。各サービスは別々に購入する必要がありますが、同じサブスクリプション注文に含めることができます。サブスクリプションの詳細は、「サブスクリプションの理解」および「サブスクリプションのFAQ」を参照してください。

トライアル・サブスクリプションを要求すると、ようこそEメールが送られてきます。アクティブ化のEメールには、サービス詳細とともに「トライアルのアクティブ化」ボタンが含まれています。サービス詳細は、データ・センターの名前、サブスクリプションの詳細、アイデンティティ・ドメインなどの情報で構成されています。

2. アカウントをアクティブ化します。
 1. Oracle Cloudから送信されたようこそEメールを開きます。
 2. 「トライアルのアクティブ化」 ボタンをクリックします。

Oracle Cloudサービスに対するトライアル・サブスクリプションのアクティブ化が完了すると、Oracle Cloudからアクティブ化後のEメールが送られてきます。このEメールには、サインイン資格証明、マイ・サービスのURLおよびアイデンティティ・ドメイン情報が含まれています。

ヒント: DaaSサブスクリプションURLは、電子メールのマイ・アカウント管理の詳細セクションの下に表示されています。

3. 次の手順でパスワードをリセットします。
 1. マイ・サービスのURLをクリックします
 2. 一時パスワードを使用してマイ・サービス・ダッシュボードにログインします。
 3. プロンプトが表示されたら、パスワードをリセットします。

サインインに成功すると、「マイ・サービス・ダッシュボード」ページに、アクティブ化されたサービスのリストと、住所検証APIと会社および担当者データAPIの両方のRESTサービス・エンドポイントURLが表示されます。

4. ユーザーを作成し、データ・サービス・クライアントAPIのAppIDロールを新規ユーザーに割り当てて、DaaSを設定します。
 1. 「マイ・サービス・ダッシュボード」にナビゲートします。
 2. マイ・サービス・ユーザー・ページで「ユーザー」タブをクリックします。「ユーザーの追加」ページが表示されます。
 3. 資格情報を入力します。
 4. 拡張ロール・セクションを展開し、データ・サービス・クライアントAPIのAppIDロールを追加します。
 5. 「追加」をクリックし、このロールをユーザーに割り当てます。

Data Cloudへの統合の構成: 手順

データ・クラウドへの統合は、DaaSユーザーを設定した後にのみ構成できます。データ・クラウドへの統合を構成するには、次の手順を実行します。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 販売
 - 機能領域: 統合
 - タスク: エンゲージメント・クラウドとサービス・クラウドの統合の管理

「エンゲージメント・クラウドとサービス・クラウドの統合の管理」ページが開きます。

2. 次の情報を入力します。
 1. **DaaS**インスタンスの**URL** - このサービス・インスタンス**URL**は、アクティブ化後のEメールおよびマイ・サービス・アプリケーションで確認できます。
 2. セキュリティ・ポリシーとして「**oracle/wss_username_token_over_ssl_client_policy**」を選択します。
 3. **DaaS**設定で作成した**DaaS**ユーザー名とパスワードを入力します。
3. 「保存してクローズ」をクリックします。

リアルタイム・データ・エンリッチメントのマッピングとプリファレンスの管理: 手順

このトピックでは、**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**のエンリッチメントのプリファレンスと属性マッピングの構成方法について説明します。エンリッチメントのプリファレンスおよび属性マッピングは、アカウントまたは担当者をエンリッチする前に構成する必要があります。

エンリッチメントのプリファレンスを構成するには、次の処理を実行する必要があります。

- アカウントと担当者のエンリッチのプリファレンスを有効にして構成します。
- アカウントおよび担当者について、**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**の属性マッピングとエンゲージメント・クラウドの属性マッピングを構成します。
- 管理者プロフィール・オプションを設定します。

エンリッチメントのプリファレンスの有効化と構成

エンリッチメントのプリファレンスを構成して、エンリッチされるアカウントまたは担当者のどのデータを更新するかを定義できます。

エンリッチメントのプリファレンスを有効化および構成する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 販売
 - 機能領域: アカウントおよび担当者
 - タスク: ソーシャル・データおよびインサイト・クラウドの属性マッピングとプリファレンスの管理
2. 「ソーシャル・データおよびインサイト・クラウドの属性マッピングとプリファレンスの管理」ページの「プリファレンス」タブが表示されます。

注意: 「ソーシャル・データおよびインサイト・クラウドの属性マッピングとプリファレンスの管理」ページには2つの領域があり、それぞれアカウント用と担当者用です。これらを使用して、アカウントと担当者のエンリッチメントを有効にし、エンリッチされたアカウントに含め

る必要があるデータを構成できます。

3. 「アカウントのエンリッチメントの有効化」または「担当者のエンリッチメントの有効化」を選択して、アカウントまたは担当者のエンリッチメントをそれぞれ有効にします。
4. エンリッチされるアカウントまたは担当者のデータを定義するには、次のいずれかを実行します。
 - 「レコードでの空白フィールドの自動入力」を選択して、すべての空白フィールドを**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**からのデータで更新します。これにより、アカウントまたは担当者レコードのすべてのフィールドが、**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**からのデータで更新されます。
 - 「フィールド別設定の構成」を選択して、エンリッチ済アカウントまたは担当者の各フィールドのどのデータを更新するかを定義します。
5. フィールド・レベルでデータを定義するには、次の項目を選択します。
 - 空白の自動入力: フィールドが空白の場合に、**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**からのデータでフィールドを更新する場合。
 - データ・クラウド値で更新: 空白のすべてのフィールドを**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**からのデータで更新する場合。
 - 「エンリッチするフィールドの選択」ページに表示: 「エンリッチするフィールドの選択」ページに値を表示して、フィールド値を選択するようユーザーに要求します。
6. 「しきい値と一致」フィールドにアカウントおよび担当者の照合しきい値を入力します。
7. 「リアルタイム・エンリッチメントの最大アカウント数」フィールドと「リアルタイム・エンリッチメントの最大担当者数」フィールドに、エンリッチする必要がある最大レコード数を入力します。
8. 「新規担当者の最大数」フィールドに、エンリッチメント中に作成する新規担当者の最大数を入力します。
9. 「保存」をクリックします。
10. 「保存してクローズ」をクリックします

注意: このドキュメントの「管理者プロファイル・オプションの設定」の項で説明している手順を使用して、管理者プロファイル・オプションを設定してあることを確認してください。

プリプロダクションまたはステージング環境がある場合は、セールスクラウド・プリプロダクション環境とデータ・クラウド・トライアル・サブスクリプションとの間のサービス関連付けをテストします。テストは500レコードに制限する必要があります。実稼働に移行するとき、実稼働環境とデータ・クラウド実稼働環境との間のサービス関連付けを実行します。サービスの関連付けのステップは同じですが、テストと本番のサービスURLは異なります。サービスURLは、よろこそEメールとマイ・サービス・アプリケーションにリストされています。

属性マッピングの構成

属性マッピングを構成する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 販売
 - 機能領域: アカウントおよび担当者
 - タスク: ソーシャル・データおよびインサイト・クラウドの属性マッピングとプリファレンスの管理
2. 表示される「ソーシャル・データおよびインサイト・クラウドの属性マッピングとプリファレンスの管理」ページの「属性マッピング」タブをクリックします。
3. **Oracle Social Data and Insight Cloud Service**属性とアカウントおよび担当者の属性の出荷時のマッピングが要件を満たしているかどうかを検証し、必要であれば変更を加えます。
4. 「保存」をクリックします。
5. 「保存してクローズ」をクリックします。

管理者プロフィール・オプションの設定

管理者プロフィール・オプションを設定する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 販売
 - 機能領域: 販売基盤
 - タスク: 管理者プロフィール値の管理

「管理者プロフィール値の管理」ページが表示されます。

2. 「管理者プロフィール値の管理」ページで、「プロフィール・オプション・コード」に「**DAAS_PRODUCTION_MODE**」と入力します。
3. 「検索」をクリックします。
4. プロファイル・レベル・サイト値が「いいえ」に設定されていることを確認します。

注意: 「プロフィール・レベル」の「サイト」の値を「はい」に設定しないでください。現在サポートされている値は「いいえ」のみです。

5. 「保存してクローズ」をクリックします。

アカウントの産業分類の指定

アカウントに使用する産業分類カテゴリを指定する手順は、次のとおりです。選択したカテゴリの分類は、アカウントのユーザー・インタフェースの「産業」フィールドの値リストに表示されます。デフォルトでは、プロフィールは**CUSTOMER_CATEGORY**に設定されます。

1. 設定ユーザーとしてサイン・インします。
2. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 販売
 - 機能領域: 販売基盤
 - タスク: 管理者プロフィール値の管理
3. 「管理者プロフィール値の管理」ページで、プロフィール・オプション・コード `MOT_INDUSTRY_CLASS_CATEGORY` を検索します。
4. 「プロフィール値」リストから分類カテゴリを選択します。有効な値は次のとおりです。
 - 1972 SIC
 - 1977 SIC
 - 1987 SIC
 - CUSTOMER_CATEGORY
 - NACE
 - NAF
 - NAICS_1997
 - NAICS_2002
5. 「保存してクローズ」をクリックします。

手動データ・エンリッチメント

アカウント・データおよびアカウント担当者データの手動エンリッチ: 説明

Oracle DaaS for Sales サービスを使用してアカウント・データおよびアカウント担当者データを手動でエンリッチできます。

アカウント・データおよびアカウント担当者データを手動でエンリッチする手順は、次のとおりです。

1. エンリッチするデータを **CSV** ファイルにエクスポートします。
2. Oracle DaaS for Sales サービスを使用して、エクスポートしたデータをエンリッチします。
3. Oracle DaaS for Sales サービスから、エンリッチしたデータ・ファイルをダウンロードします。
4. エンリッチ済データ・ファイルをアプリケーションにインポートしなおします。

CSV ファイルへのデータのエクスポート

「エクスポート・プロセスのスケジュール」タスクを使用して、アカウント・データまたはアカウント担当者データをエクスポートします。エクスポート処理では、アカウント・データのエクスポート用とアカウント担当者データのエクスポート用の2つの事前定義済オブジェクトが提供されています。データのエクスポート中に、アカウント・データをエクスポートするためのData Cloudエンリッチメントの組織オブジェクトと、アカウント担当者データをエクスポートするためのData Cloudエンリッチメントの個人オブジェクトを選択します。

Oracle DaaS for Salesサービスでのデータのエンリッチ

Oracle DaaS for Salesサービスのデータのエンリッチ機能を使用して、アカウント・データおよびアカウント担当者データを手動でエンリッチできます。

データをエンリッチするには、Oracle DaaS for Salesサービスのデータ・レコードのエンリッチ・ページで、エクスポートされたCSVファイルを選択します。エンリッチ済ファイルをエンゲージメント・クラウドで後でダウンロードできるように、エンリッチメント中にCRMテンプレートを選択する必要があります。エンリッチメントが完了すると、エンリッチされたデータを含むCSVファイルをジョブ・リストからダウンロードできるようになります。

Oracle DaaS for Salesサービスの詳細は、『Oracle DaaS for Salesサービス使用』ガイドを参照してください。

エンリッチ済データのインポート

ファイルベース・インポート機能を使用して、エンリッチされたアカウント・データまたはアカウント担当者データをインポートします。

ファイルベース・インポートによってデータをインポートするには、次の手順を実行します。

1. インポート・アクティビティを作成します。
2. 適切なインポート詳細を入力します。インポート・オブジェクトを指定するとき、アカウント・データをインポートする場合は「アカウント」を選択し、アカウント担当者データをインポートする場合は「担当者」を選択します。
3. ファイル・マッピングを指定します。マッピングでは、ソース・ファイル内の列とインポート・ファイル内のオブジェクト属性の対応関係を定義します。事前構成済マッピングは、Oracle DaaS for Salesサービスからアカウント・データまたはアカウント担当者データをインポートするために使用できます。使用できる事前構成済マッピングを表示するには、事前構成済データを選択する必要があります。

インポート・マッピングを指定するとき、アカウント・データをインポートするために、データ・クラウド・アカウント・インポート・マッピングを選択し、担当者データをインポートする場合はデータ・クラウド担当者インポート・マッピングを選択します。これにより、アプリケーションによってCSVファイル内のデータがオブジェクト属性に自動的にマッピングされます。

4. インポート・プロセスをスケジュールします。

注意: 場合によっては、インポート・アクティビティでソース属性とターゲット属性に関する警告が表示される場合があります。警告メッセージを無視し、「OK」をクリックしてインポート・プロセスを発行できます。

Oracle Social Data and Insight Cloud ServiceからOracle Engagement Cloudへの新規レコードのインポート: 説明

Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceからアカウントまたはアカウント担当者をアプリケーション・インスタンスにインポートできます。

Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceからデータをインポートするには、次の手順を実行します。

1. Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceからアカウントまたはアカウント担当者をエクスポートします。
2. CSVファイルをOracle Engagement Cloudにインポートします。

アカウント担当者をインポートする前に、インポートする担当者に関連するアカウントがアプリケーション・インスタンスに存在することを確認する必要があります。

Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceからのアカウントまたはアカウント担当者のエクスポート

Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceから、一連のアカウント・データまたはアカウント担当者データをエクスポートすることも、使用可能なすべてのアカウントおよびアカウント担当者をエクスポートすることもできます。

インポートするアカウントおよびアカウント担当者は、「検索」ウィンドウで検索できます。エクスポートするレコードを検索した後、「エクスポート」をクリックしてデータをエクスポートします。エクスポートしたファイルを後でOracle Engagement Cloudにインポートできるように、エクスポート・テンプレートとしてCRMテンプレートの使用を選択する必要があります。

Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceの詳細は、『Oracle Social Data and Insight Cloud Service使用』ガイドを参照してください。

Oracle Engagement Cloudへのアカウントまたはアカウント担当者のインポート

ファイルベース・インポート機能を使用して、Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceからエクスポートしたアカウント・データまたはアカウント担当者データをOracle Engagement Cloudにインポートできます。インポート・アクティビティの作成、適切なインポート詳細の入力、ファイル・マッピングの指定およびインポートのスケジュールを行って、CSVファイルのデータをステージング表にインポートします。インポート処理は、インポート・オブジェクト、マッピングおよびインポート・アクティビティに定義された設定によって決まります。

ファイルベース・インポートによってデータをインポートするには、次の手順を実行します。

1. インポート・アクティビティを作成します。
2. 適切なインポート詳細を入力します。インポート・オブジェクトを指定するとき、アカウント・データをインポートする場合は「アカウント」を選択し、アカウント担当者データをインポートする場合は「担当者」を選択します。
3. ファイル・マッピングを指定します。マッピングでは、ソース・ファイル内の列とインポート・ファイル内のオブジェクト属性の対応関係を定義します。アプリケーションには、Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceからアカウント・データやアカウント担当者データをインポートするためのシード済マッピングが備えられています。使用できるシード済マッピングを

参照するには、シード済データを選択する必要があります。

インポート・マッピングを指定するとき、アカウント・データをインポートするために、データ・クラウド・アカウント・インポートを選択し、アカウント担当者データをインポートする場合はデータ・クラウド担当者インポートを選択します。これにより、アプリケーションによってCSVファイル内のデータがオブジェクト属性に自動的にマッピングされます。

4. インポート・プロセスをスケジュールします。

リアルタイム・データ・エンリッチメント

リアルタイムでのデータのエンリッチ: 概要

Oracle Social Data and Insight Cloud Service (Data as a Service (DaaS)とも呼ばれる)を使用して、顧客データをリアルタイムでエンリッチできます。データをエンリッチする前に、最初にサードパーティの**Data as a Service (DaaS)**サービス・サブスクリプションを購入する必要があります。また、管理者はデータ・サービス・クライアントAPIのAppIDロールを持つ新規ユーザーを作成する必要があります。このユーザーは、**Oracle Social Data and Insight REST API**と安全に通信するためにアプリケーションによって使用されます。

データのエンリッチを開始する前に、次の処理を行う必要があります。

- データ・クラウドの統合を設定します。
- リアルタイム・エンリッチメントのプリファレンスおよび管理者プロファイル・オプションの設定。

エンリッチメントおよび統合のプリファレンスを設定した後、「アカウント」ページまたは「担当者」ページからアカウントまたはアカウント担当者(B2B担当者)をエンリッチできます。

アカウント・データおよびアカウント担当者データのリアルタイムのエンリッチ: 手順

このトピックでは、**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**を使用してアカウント・データおよびアカウント担当者データをリアルタイムでエンリッチする方法について説明します。**Oracle Social Data and Insight Cloud Service**には、会社および担当者の認証済D&Bレコードが含まれます。このサービスを使用して、アプリケーションのアカウントおよび担当者データを認証およびエンリッチできます。

アカウント・データのリアルタイム・エンリッチ

アカウント・データは「アカウント」ページからエンリッチします。

アカウント・データをエンリッチする手順は、次のとおりです。

1. 「アカウント」ページにナビゲートします。
2. 「処理」メニューから「データ・クラウドからのエンリッチ」オプションを選択します。「アカウントの作成」フローでは、このオプションは「アカウントのエンリッチ」という名前になります。
3. エンリッチするアカウントを選択(または複数選択)します。

複数のアカウントをエンリッチメント用に選択すると、アプリケーションによって自動的にアカウントがエンリッチされ、結果が表示されます。結果には、エンリッチされたアカウントと各アカウントのステータスに関する情報が含まれています。

エンリッチメント用に1つのアカウントを選択する場合、「エンリッチするフィールドの選択」ページが表示されます。このページで、エンリッチ済アカウント・レコードの各フィールドに使用するデータ値を選択できます。

4. 各フィールドについて既存の値または**Data Cloud**値を選択します。
5. オプションで、「同じ値の非表示」をクリックし、販売データがデータ・クラウド・データと同じであるフィールドを非表示にします。
6. 「エンリッチ」をクリックします。

アカウント担当者データのリアルタイム・エンリッチ

アカウント担当者データは「担当者」ページからエンリッチします。

アカウント担当者データをエンリッチする手順は、次のとおりです。

1. 「担当者」ページにナビゲートします。
2. 「処理」メニューから「データ・クラウドからのエンリッチ」オプションを選択します。「担当者の作成」フローでは、このオプションは「担当者のエンリッチ」という名前になります。
3. エンリッチする担当者を選択(または複数選択)します。

エンリッチメント用に複数のアカウント担当者を選択する場合、アプリケーションによって担当者が自動的にエンリッチされ、その結果が表示されます。結果には、エンリッチされた担当者とは各担当者のステータスに関する情報が含まれています。

エンリッチメント用に1つの担当者を選択する場合、「エンリッチするフィールドの選択」ページが表示されます。このページで、エンリッチ済担当者レコードの各フィールドに使用するデータ値を選択できます。

注意: エンリッチできるのは、エンリッチされるアカウントに関連付けられている担当者のみです。

4. 各フィールドについて既存の値または**Data Cloud**値を選択します。
5. オプションで、「同一フィールドの非表示」をクリックし、販売データがデータ・クラウド・データと同じであるフィールドを非表示にします。
6. 「エンリッチ」をクリックします。

ソーシャル属性による**Oracle Engagement Cloud**データのエンリッチ

ソーシャル属性による**Oracle Engagement Cloud**データのエンリッチ: プロセスの概要

ソーシャル属性によるOracle Engagement Cloudデータのエンリッチは、2つのタスク・セットで構成されます。これらは次のとおりです。

- Oracle Engagement CloudのData as a Service (DaaS)とも呼ばれるOracle Social Data and Insight Cloud Serviceでサポートされているソーシャル属性を設定します。
- Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceからダウンロードしたソーシャル・データを使用して、アカウントおよび担当者データをエンリッチします。

次の7つのタスクを実行して、DaaSソーシャル属性を設定し、アカウントおよび担当者データをエンリッチします。

- Data as a Serviceでサポートされているソーシャル属性の識別
- エンゲージメント・クラウドでのソーシャル属性のためのカスタム・フィールドの作成
- UIページへのカスタム・ソーシャル属性の追加
- カスタム・ソーシャル属性とDaaSでサポートされているソーシャル属性のマッピング
- 「エンリッチするフィールドの選択」ページへのカスタム・ソーシャル属性の追加
- カスタム・ソーシャル属性を使用したアカウント・データおよび担当者データのエンリッチ
- カスタム・フィールドの作成に使用するサンドボックスの公開

Data as a Service (DaaS)でサポートされているソーシャル属性: 説明

Data as a Serviceでは、アカウント(会社)および担当者用に次のソーシャル属性またはハンドルがサポートされています。

アカウント(会社)属性および担当者属性の詳細なリストについては、『Oracle Social Data and Insight Cloud Service使用』ガイドの「属性の理解」の章を参照してください。サポートされているすべてのData Cloudアカウント(会社)のソーシャル属性またはハンドルを次の表に示します。

会社データ属性	地理的可用性	データの長さ(文字数)	サブスクリプション・レベル	説明
ブログURL	グローバル	350	D&B企業レポート	会社のブログURL。
Twitter URL	グローバル	350	D&B企業レポート	会社のTwitter URL。
Twitterのフォロワ	グローバル	9	D&B企業レポート	会社のTwitter URLのTwitterフォロワ数。

注意: ここにリストしているすべての属性は、データ型VARCHAR2です。このデータ型は、データ長に応じてテキストまたは長いテキストにできます。アプリケーション・コンポーザを使用してカスタム・フィールドを作成する際に、リストされているデータ長(文字数)に応じて、フィールドのデータ

型を選択する必要があります。

サポートされているData Cloud担当者のソーシャル属性やハンドルの全リストについては、『Oracle Social Data and Insight Cloud Service使用』ガイドの属性の理解に関する項を参照してください。

関連項目

- [Oracle Social Data and Insight Cloud Service使用](#)

エンゲージメント・クラウドでのソーシャル属性のためのカスタム・フィールドの作成: 手順

ソーシャル属性によるアカウントおよび担当者データのエンリッチでは、アプリケーションでソーシャル属性用のカスタム・フィールドを作成する必要があります。

アプリケーション・コンポーザを使用してカスタム・フィールドを作成する前に、サンドボックスを作成する必要があります。

カスタム・フィールドを作成するためのサンドボックスの作成

サンドボックスを作成してカスタム・フィールドを作成する手順は、次のとおりです。

1. 営業管理者としてサインインします。
2. 設定およびアクション・メニューをクリックします。
3. 「サンドボックスの管理」をクリックします。サンドボックスの管理ページが表示されます。
4. サンドボックスの管理ページで「処理」メニューをクリックします。
5. 「新規」を選択します。
6. サンドボックスの作成ダイアログ・ボックスに、サンドボックスの名前と説明を入力します。
7. 「保存してクローズ」をクリックします。確認メッセージを含むダイアログ・ボックスが表示されます。
8. 「OK」をクリックして、確認メッセージに応答します。
9. サンドボックスの管理ページにナビゲートします。
10. サンドボックスの管理ページで、新規作成したサンドボックスを検索します。
11. 新規作成したサンドボックスを選択します。
12. 「アクティブとして設定」をクリックします。
13. 「はい」をクリックして、警告メッセージに応答します。

これで、新しいサンドボックスに入り、ソーシャル属性を作成する準備が整いました。

アプリケーション・コンポーザを使用したカスタム・フィールドの作成

アプリケーション・コンポーザを使用してカスタム・フィールドを作成する手順は、次のとおりです。

1. 営業管理者としてサインインします。
2. 「ナビゲータ」作業領域の「ツール」セクションから、アプリケーション・コンポーザにナビゲートします。
3. 「標準オブジェクト」を展開し、「アカウント」または「担当者」を展開して「フィールド」をクリックします。

注意: この項では、アカウント・オブジェクトのカスタム・フィールドを作成する方法について説明します。アカウント・オブジェクトのカスタム・フィールドを作成する手順と担当者オブジェクトのカスタム・フィールドを作成する手順には、同じステップが含まれます。アプリケーション・コンポーザのUIで、適宜に「標準オブジェクト」の下にある「アカウント」または「担当者」にナビゲートできます。

4. 「フィールド」ページで「処理」をクリックします。
5. 「作成」オプションを選択し、新しいカスタム・フィールドを追加します。フィールドのデータ型の選択ダイアログ・ボックスが表示されます。
6. フィールドのデータ型としてテキスト、長いテキストまたは数値を選択します。

注意: 「Data as a Service (DaaS)でサポートされているソーシャル属性の識別」の項でリストされているデータの長さ(文字数)に応じて、フィールドのタイプを選択する必要があります。この項でリストされている属性はすべてVARCHAR2データ型です。VARCHAR2は、データ長(文字数)に応じてテキストまたは長いテキストにできます。

7. 「OK」をクリックします。テキスト・フィールドの作成ページが表示されます。
8. ソーシャル属性の表示ラベルとヘルプ・テキストを入力します。「名前」は、表示ラベルに基づいて自動入力されます。
9. 必要に応じて、属性のデータ長を変更します。

注意: サポートされているすべてのソーシャルURLの最大データ長は2080文字です。

10. 「保存してクローズ」をクリックします。

属性が作成されると、「フィールド」ページの「カスタム」タブにその属性が表示されます。

この手順を繰り返して、追加のカスタム・フィールドまたは属性を作成します。

UIページへのカスタム・ソーシャル属性の追加: 手順

ソーシャル属性のために新規作成したカスタム・フィールドをエンリッチするには、アプリケーション・コンポーザの簡易ページに属性を追加する必要があります。簡易ページで属性を追加すると、その属性はアカウントおよび担当者の詳細ページに表示されます。

簡易ページへのアカウント・カスタム・フィールドの追加

アカウント・カスタム・フィールドを簡易UIページに追加する手順は、次のとおりです。

1. アプリケーション・コンポーザで、「アカウント」から「ページ」にナビゲートします。
2. 「アカウント: ページ」UIで「簡易ページ」タブを選択します。
3. 「詳細ページ・レイアウト」の下にある「処理」をクリックします。新しいカスタム・フィールドを追加するには、デフォルト・ページ・レイアウトを基礎として重複ページ・レイアウトを作成する必要があります。
4. 「レイアウトの複製」を選択します。「レイアウトの複製」ダイアログ・ボックスのページが表示されます。
5. 新規レイアウト名を指定し、「ソース・レイアウト」として「デフォルト・レイアウト」を選択します。
6. 「保存して編集」をクリックします。「作成レイアウト: ソーシャル属性」ページが表示されます。
7. FUSE顧客ObjectCreationビューの横にある「編集」アイコンをクリックします。「作成ページの編集」が表示されます。
8. 新規に作成したフィールドをボックスの「使用可能なフィールド」ペインから選択し、矢印ボタンを使用して必須フィールドとして「選択したフィールド」ペインに移動します。
9. これらのカスタム・フィールドの編集および追加が終了したら、「保存してクローズ」をクリックします。

これで、アカウント・カスタム・フィールド(ソーシャル属性)が簡易ページに追加されました。

簡易ページへの担当者カスタム・フィールドの追加

担当者カスタム・フィールドを簡易UIページに追加する手順は、次のとおりです。

1. アプリケーション・コンポーザで、「担当者」から「ページ」にナビゲートします。
2. 「担当者: ページ」UIで「簡易ページ」タブを選択します。
3. 「詳細ページ・レイアウト」の下にある「処理」をクリックします。新しいカスタム・フィールドを追加するには、デフォルト・ページ・レイアウトを基礎として重複ページ・レイアウトを作成する必要があります。
4. 「レイアウトの複製」を選択します。「レイアウトの複製」ページが表示されます。
5. 新規レイアウト名を指定し、「ソース・レイアウト」として「デフォルト・レイアウト」を選択します。
6. 「保存して編集」をクリックします。「詳細レイアウト: ソーシャル属性」ページが表示されます。
7. 担当者概要フォームの横にある「編集」アイコンをクリックします。「詳細ページ要約フォームの編集」ページが表示されます。
8. 新規に作成したフィールドをボックスの「使用可能なフィールド」ペインから選択し、矢印ボタンを使用して必須フィールドとして「選択したフィールド」ペインに移動します。

9. これらのカスタム・フィールドの編集および追加が終了したら、「保存してクローズ」をクリックします。

これで、担当者カスタム・フィールド(ソーシャル属性)が簡易ページに追加されました。

カスタム・ソーシャル属性とDaaSでサポートされているソーシャル属性のマッピング: 手順

新規作成したカスタム・フィールドをデータ照合画面に表示するには、カスタム・フィールドをData Cloudソーシャル属性にマップする必要があります。これにより、アカウントおよび担当者データを、Oracle Social Data and Insight Cloud Serviceからダウンロードしたエンリッチ済ソーシャル・データによりエンリッチできます。

エンゲージメント・クラウド・アカウント属性とデータ・クラウド・ソーシャル属性のマッピング

次に、エンゲージメント・クラウド・アカウント属性とデータ・クラウド・ソーシャル属性をマッピングする手順を示します。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 販売
 - 機能領域: アカウントおよび担当者
 - タスク: ソーシャル・データおよびインサイト・クラウドの属性マッピングとプリファレンスの管理

「Social Data and Insight Cloudの属性マッピングとエンリッチメント・プリファレンスの管理」ページが表示されます。

2. 「属性マッピング」タブをクリックします。
3. カスタム・フィールドとマップする必要があるソーシャル属性を「ソーシャル・データ・クラウドおよびインサイト属性」列で検索します。
4. エンゲージメント・クラウド・オブジェクトとして「アカウント」を選択します。
5. 対応する「Engagement Cloud属性」ドロップダウン・リストをクリックします。「検索と選択: FusionAttributeName」ダイアログ・ボックスが表示されます。
6. 作成したカスタム属性の名前を入力します。
7. 「検索」をクリックします。
8. 検索結果表からカスタム属性を選択します。
9. 「OK」をクリックします。
10. 「Social Data and Insight Cloudの属性マッピングとエンリッチメント・プリファレンスの管理」ページで「保存してクローズ」をクリックします。

これで、エンゲージメント・クラウド・アカウント属性とデータ・クラウド・ソーシャル属性のマッ

ピングが完了しました。

エンゲージメント・クラウド担当者属性とデータ・クラウド・ソーシャル属性のマッピング

エンゲージメント・クラウド担当者属性とデータ・クラウド・ソーシャル属性をマップする手順は、次のとおりです。

1. 「**Social Data and Insight Cloud**の属性マッピングとエンリッチメント・プリファレンスの管理」ページで「担当者属性」セクションにナビゲートします。
2. 「ソーシャル・データ・クラウドおよびインサイト属性」列で**Data Cloud**担当者ソーシャル属性を検索します。
3. エンゲージメント・クラウド・オブジェクトのドロップダウン・リストから「担当者」を選択します。
4. 対応する「**Engagement Cloud**属性」ドロップダウン・リストをクリックします。「検索と選択:**FusionAttributeName**」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 作成したカスタム属性の名前を入力します。
6. 「検索」をクリックします。
7. 検索結果からカスタム属性を選択します。
8. 「**OK**」をクリックします。
9. 「**Social Data and Insight Cloud**の属性マッピングとプリファレンスの管理」ページで「保存してクローズ」をクリックします。

これで、エンゲージメント・クラウド担当者属性とデータ・クラウド・ソーシャル属性のマッピングが完了しました。

「エンリッチするフィールドの選択」ページへのカスタム・ソーシャル属性の追加:
手順

カスタム・ソーシャル属性をエンリッチするには、その属性が「エンリッチするフィールドの選択」ページに表示されている必要があります。カスタム・ソーシャル属性を追加して「エンリッチするフィールドの選択」ページに表示する手順は、次のとおりです。

1. 「**Social Data and Insight Cloud**の属性マッピングとエンリッチメント・プリファレンスの管理」ページで「プリファレンス」タブをクリックします。
2. 「ソーシャル・データ・クラウドおよびインサイト属性」列で新規にマップした属性を検索します。
3. 新規にマップした属性の「「エンリッチするフィールドの選択」ページに表示」オプションを選択します。
4. 「保存してクローズ」をクリックします。

新規作成した属性が「エンリッチするフィールドの選択」ページに表示されます。照合画面で、データ・クラウド・データを選択して、エンゲージメント・クラウド・データを上書きできます。

同様に、担当者ソーシャル属性が「エンリッチするフィールドの選択」ページに表示されるようにするには、「**Social Data and Insight Cloud**の属性マッピングとエンリッチメント・プリファレンスの管理」ページの「担当者エンリッチメント・プリファレンス」セクションにナビゲートします。

Oracle Engagement Cloud アカウント・データおよび担当者データのソーシャル属性によるエンリッチ: 手順

簡易ユーザー・インターフェースを使用して、アカウント・データおよび担当者データをソーシャル属性でエンリッチできます。

ソーシャル属性によるアカウント・データのエンリッチ

次の手順を実行して、アカウント・データおよび担当者データをソーシャル属性でエンリッチします。

1. アカウントの簡易UIページにナビゲートします。
2. 新しいカスタム・フィールドでエンリッチする必要があるアカウントを選択します。
3. 「アカウントの編集: {Account Name}」ページで「処理」をクリックします。
4. 「アカウントのエンリッチ」オプションを選択します。

新規に追加したソーシャル属性を含む「エンリッチするフィールドの選択」ページが表示されます。

5. エンリッチする必要があるフィールドのソースとして**Data Cloud**値を選択します。
6. 「エンリッチ」をクリックします。

Data Cloudに値がある場合、「アカウントの編集: {Account Name}」ページにエンリッチされたフィールドが表示されます。

7. 「保存してクローズ」をクリックします。

ソーシャル属性による担当者データのエンリッチ

次の手順を実行して、担当者データをソーシャル属性でエンリッチします。

1. 担当者の簡易UIページにナビゲートします。
2. 新しいカスタム・フィールドでエンリッチする必要がある担当者を選択します。
3. 「処理」をクリックします。
4. 「担当者のエンリッチ」オプションを選択します。

新規に追加したソーシャル属性を含む「エンリッチするフィールドの選択」ページが表示され

ます。

5. エンリッチする必要があるフィールドのソースとして**Data Cloud**値を選択します。
6. 「エンリッチ」をクリックします。

Data Cloudに値がある場合、「担当者の編集 {Contact Name}: プロファイル」ページにフィールドが表示されます。

7. 「保存してクローズ」をクリックします。

カスタム・フィールドの作成に使用するサンドボックスの公開

最後のステップでは、カスタム・フィールドの作成に使用したサンドボックスを公開して、これらの変更を伝えます。サンドボックスを公開する手順は、次のとおりです。

1. サンドボックスの管理ページにナビゲートします。
2. 適切なサンドボックスを選択します。
3. 「公開」をクリックします。
4. 「クローズ」をクリックします。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. データ品質の定義

17 データ品質の定義

この章の内容は次のとおりです。

- [エンタープライズ・データ品質を使用したデータ品質の設定: 説明](#)
- [サーバー構成](#)
- [照合構成](#)
- [クレンジング構成](#)
- [住所検証クラウド・サービスの検索モードの有効化](#)
- [Oracleエンタープライズ・データ品質エンジンとの統合に関するFAQ](#)

エンタープライズ・データ品質を使用したデータ品質の設定: 説明

Oracle Enterprise Data Quality (EDQ)という製品とのすぐに利用できる統合により、Oracle Cloudアプリケーションに堅牢なデータ品質ソリューションが提供されます。EDQは、プロファイリング、標準化、照合とマージ、住所検証などの機能を備えた包括的なデータ品質製品であり、スタンドアロン製品としても使用できます。

EDQを使用したデータ品質の設定には、照合と住所クレンジングという2つの操作が含まれます。

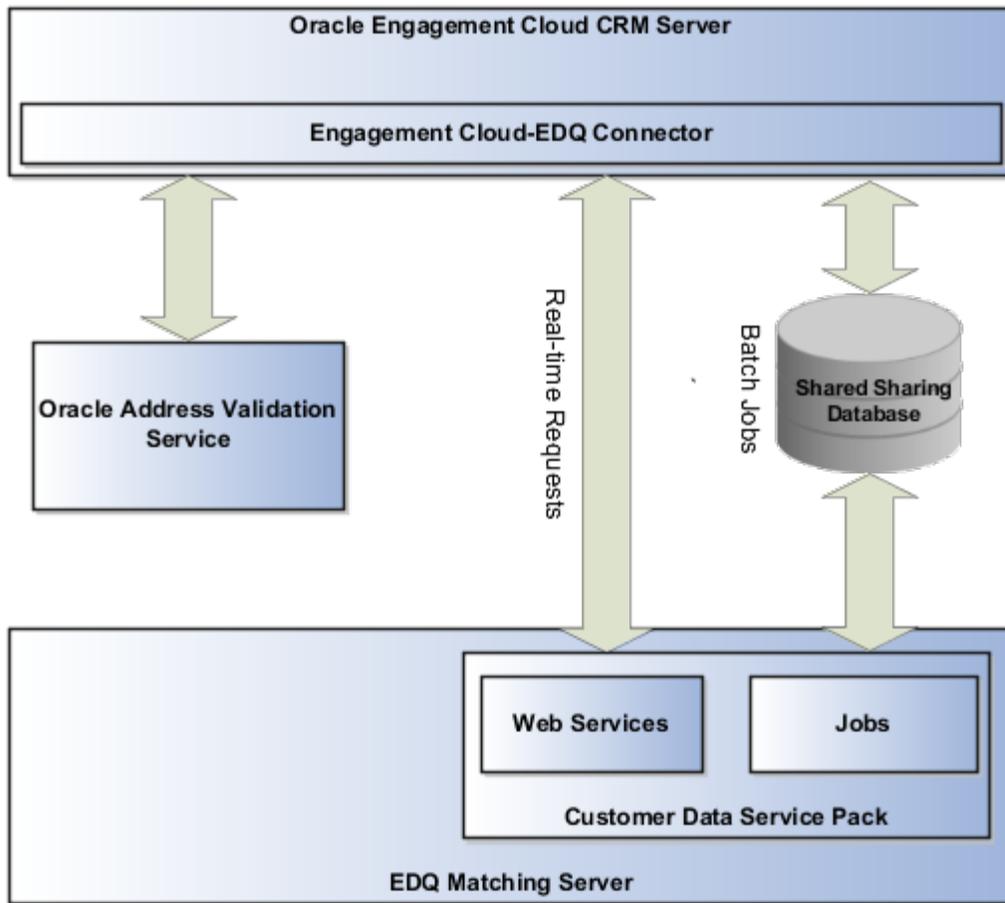
照合は、アカウント、担当者および住所について重複の可能性を識別するプロセスです。重複レコードの可能性を顧客レコードの作成時にリアルタイムで、および既存のレコードに対してバッチ・モードで識別できます。

住所クレンジングは、郵便要件に基づいて住所データを修正および検証するプロセスです。たとえば、郵便番号、市区町村および国について有効な値を入力した場合に、データ品質機能によって都道府県の値が返される場合があります。同様に、市区町村、都道府県および国について有効な値を入力した場合、データ品質機能によって郵便番号の値が自動的に提供されます。

データ品質サービスは、照合またはクレンジング要求(重複防止や住所検証など)を様々な消費アプリケーションから受け取ります。次に、データ品質サービスは、その後の処理の構成に基づいてEDQサービスを呼び出します。Oracle Applications Cloudデータ品質アーキテクチャの主要なコンポーネントは次のとおりです。

- CRMサーバーのOSC-EDQコネクタ - 住所検証、照合などの要求をOracle Cloudアプリケーションから受け取ります
- Oracle住所検証サービス - 住所検証を実行します
- 共有済共有データベース - バッチ・ジョブを処理します
- EDQ照合サーバー - 住所照合を実行します

次の図は、Oracle Applications Cloudデータ品質ソリューションの様々なアーキテクチャ・コンポーネントおよびOracle CloudアプリケーションとEDQエンジンとのインタフェースの方法を示しています。



データ品質の定義には、照合と住所クレンジングという2つのコンポーネントの設定が含まれます。これらのコンポーネントの実装の一環として、顧客データ管理オフリングのデータ品質基盤機能領域から、「設定および保守」作業領域で次の関連設定タスクを実行する必要があります。

- サーバー構成の管理
- エンタープライズ・データ品質照合構成の管理
- エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理

注意: データ品質要件に応じて、**EDQ照合**または**クレンジング**を実装する前にサーバー構成を設定する必要があります。

サーバー構成の管理

関連するサーバー構成を選択または選択を解除することによって、**EDQ統合**の事前定義済のサーバー構成を有効または無効にするオプションがあります。事前定義済の照合またはクレンジング・サーバー構成を有効にすると、リアルタイムとバッチの両方の照合またはクレンジング機能を利用できます。

- **EDQ**サーバー構成の管理の詳細は、「エンタープライズ・データ品質サーバー構成: 説明」を参照してください。

エンタープライズ・データ品質照合構成の管理

すぐに利用できる事前定義済の照合構成を使用するか、それをコピーして住所照合要件に適合させるオプションがあります。リアルタイム照合では、重複アカウント、担当者および住所エントリが識別されます。バッチ照合では、データベース内の同じタイプの一連のレコードまたはバッチ内で重複エントリが識別されます。詳細は、「エンタープライズ・データ品質照合構成の管理: 手順」を参照してください。

エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理

すぐに利用できる事前定義済のクレンジング構成を使用するか、それをコピーして住所クレンジング要件に適合させるオプションがあります。リアルタイム住所クレンジングでは、データ入力プロセスで住所のクレンジング、標準化および検証が実行されます。バッチ住所クレンジングでは、データベース内の一連の住所レコードに対してクレンジング操作が実行されます。詳細は、「エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理: 手順」を参照してください。

サーバー構成

エンタープライズ・データ品質サーバー構成: 説明

エンタープライズ・データ品質(**EDQ**)サーバー構成は、**EDQ**統合の事前定義済の構成です。各**EDQ**サーバー構成は、照合やクレンジングなどのデータ品質管理操作に関連付けられます。関連する**EDQ**サーバー構成を選択または選択を解除することによって、データ品質管理操作を有効および無効にすることができます。

EDQでは、次の2つの事前定義済のサーバー構成を使用できます。

- **EDQ**リアルタイムおよびバッチ基本照合サーバー
- **EDQ**リアルタイムおよびバッチ基本クレンジング・サーバー

EDQリアルタイムおよびバッチ基本照合サーバー

照合機能を使用する場合に、この構成を有効にします。この構成を有効にすると、リアルタイムとバッチの両方の照合機能を利用できます。リアルタイム照合は、重複レコードの入力を防止するために使用します。バッチ・データ照合は、既存のレコードの重複を識別するために使用します。

EDQリアルタイムおよびバッチ基本クレンジング・サーバー

クレンジング機能を使用する場合に、この構成を有効にします。この構成を有効にすると、リアルタイムとバッチの両方のクレンジング機能を利用できます。リアルタイム住所クレンジング・サービスを使用すると、営業担当は担当者またはアカウントの作成時に住所を検証できます。バッチ住所クレンジングを使用すると、営業管理者またはデータ・スチュワードは、一括およびインポート・プロセスで、アプリケーションにすでに存在する一連の住所をクレンジングできます。

照合構成

エンタープライズ・データ品質照合構成: 説明

エンタープライズ・データ品質(EDQ)照合構成は、エンティティのリアルタイムおよびバッチ照合用の属性とパラメータで構成され、重複入力を防止し、既存の重複を識別します。EDQリアルタイムおよびバッチ照合は、アカウント、担当者および住所エンティティに対して使用できます。事前定義済のすぐに利用できる構成を使用するか、それをコピーして住所照合要件に適合させるオプションがあります。

リアルタイムとバッチの両方の照合に適用される事前定義済のEDQ照合構成は次のとおりです。

- アカウント重複識別
- 担当者重複識別
- 住所重複識別

これらの構成は、重複するアカウント、担当者および住所エントリを識別するために使用されます。これらの事前定義済の照合構成をレビューおよび編集して、ニーズに合わせて照合機能を最適化できます。

EDQ照合プロセス

EDQ照合プロセスでは、比較のためにアプリケーションに追加または更新されるレコードは、ドライバ・レコードと呼ばれます。また、ドライバ・レコードと比較されるレコードは、候補レコードと呼ばれます。ドライバ・レコードは相互に比較されますが、候補レコードは他の候補と比較されません。EDQリアルタイム照合プロセスでは、1つのドライバ・レコードが多数の候補に対して比較され、照合属性およびしきい値に基づいて予想される重複レコードが返されます。バッチ照合プロセスでは、同じタイプ(アカウント、担当者、住所など)のすべてのドライバ・レコードが比較され、これらの一連のレコード内で予想されるすべての一致が識別されます。

バッチ照合プロセスは、全体バッチと増分バッチという2つのモードで実行されます。全体バッチ・モードではすべてのレコードが相互に照合されるのに対し、増分モードではレコードのサブセットが、選択されたすべての候補に対して照合されます。バッチ照合では、様々な照合ルールを指定できる個別の照合テンプレートが提供されます。たとえば、フロント・エンド・アプリケーションでの顧客追加のユーザー介入を最小限にして、定期的に完全照合を実行する場合があります。

リアルタイムおよびバッチ照合のEDQ照合プロセスでは、重複識別のためにEDQクラスタ・キー生成サービスとEDQ照合サービスが実行されます。EDQクラスタ・キー生成サービスは、アプリケーションでレコードが追加または更新されるたびに呼び出されます。このサービスでは、Oracle Engagement Cloudで追加されたレコードおよび更新されたレコードに対してキーが生成されます。これらの生成されたキーはOracle Engagement Cloudに格納され、アプリケーション内のデータと一致する可能性がある候補レコードを選択するために使用されます。

選択された候補レコードはドライバ・レコードとともにEDQ照合サービスに返されます。次に、このサービスによってレコードが調べられ、どの候補レコードが処理レコードと適切に一致するかが決定されます。EDQ照合サービスが最適な一致に到達すると、一致の強さに基づいて識別されたすべての重複レコードにスコアが割り当てられます。

EDQ照合プロセスの詳細は、次の場所にある『Oracle Enterprise Data Qualityカスタマ・データ・サービス・パック照合ガイド』を参照してください

http://docs.oracle.com/cd/E48549_01/doc.11117/e40737/toc.htm

照合属性

照合属性によって、アカウント、担当者および住所エンティティのリアルタイムおよびバッチ照合に使用される属性が定義され、重複エントリが識別されます。照合には次の2つのタイプの属性を使用します。

- **EDQ照合識別子:** 照合に使用するEDQ属性を指定します
- **Oracle Engagement Cloud属性:** 照合に使用するOracle Engagement Cloud属性を指定します。

対応するEDQ属性を使用してOracle Engagement Cloud内の属性をマップし、属性マッピングを作成できます。たとえば、名前EDQ属性について、対応する組織属性として**Org.OrganizationName**を選択して、マッピングを作成できます。このような属性マッピングをリアルタイム照合、バッチ・データ照合またはその両方で定義できます。

対応するEDQ属性を使用してOracle Engagement Cloud内の属性をマップすると、重複エントリを識別するための照合構成設定が作成されます。これらの設定は、照合キーとして**Oracle Engagement Cloud**に格納されます。属性マッピングを変更するたびに、新規または更新されたアカウント、担当者および住所の照合キーの値を再生成する必要があります。照合キーの値は、「照合構成の編集」ページの「キーの再作成」オプションを使用して再生成できます。

照合構成パラメータ

照合構成パラメータは、データ品質照合サービスの複数の側面を制御するシステムレベル・パラメータです。

次のパラメータによって、データベース内、データベースとデータ・セットの間(インポート・バッチなど)、またはデータ・セット内で、アカウント、担当者、住所などの重複エントリの識別のための照合操作が制御され、それらはマージまたはリンクから解決されます。

スコアしきい値

- **パラメータ値:** 0から100まで。デフォルト値: 90
- **パラメータ説明:** スコアを指定します。このスコアを超えると、一致レコードが照合サービスによって返されます。スコア以上のレコードは一致とみなされ、しきい値未満のスコアのレコードは拒否されます。

照合結果表示しきい値

注意: この照合構成パラメータはリアルタイム照合の場合のみ有効にできます。

- **パラメータ値:** 0から100まで。デフォルト値: 10
- **パラメータ説明:** リアルタイム照合によって返される一致レコード数を制御します。

構成のプレビュー

「構成のプレビュー」オプションを使用すると、キーを再作成しなくても、次のパラメータを入力して、重複する一致レコードをリアルタイムで識別して表示できます。

- **クラスタ・キー・レベル:** クラスタ・キー・レベルに基づいてレコードを返します。

- スコアしきい値: スコアしきい値に基づいてレコードを返します。
- 最大候補: 最大候補に基づいてレコードを返します。
- 照合結果表示しきい値: 照合結果表示しきい値に基づいてレコードを返します。

構成結果のレビュー

「構成結果のレビュー」オプションを使用すると、キーの再作成後に、「照合構成の編集」ページで照合用に入力する入力住所によって、予期される照合済住所が返されるかどうかを確認できます。または、「構成結果のレビュー」ページで、照合する次の照合構成パラメータの1つ以上の属性情報を入力できます。

- クラスタ・キー・レベル: クラスタ・キー・レベルに基づいてレコードを返します。
- スコアしきい値: スコアしきい値に基づいてレコードを返します。
- 最大候補: 最大候補に基づいてレコードを返します。
- 照合結果表示しきい値: 照合結果表示しきい値に基づいてレコードを返します。

間接レベルの管理

ユーザー定義のプロファイル・オプションORA_ZCQ_LEVEL_OF_INDIRECTIONを使用して、ドライバ・レコードの間接重複のレベルおよび数を制御できます。このプロファイル・オプションを使用すると、間接重複を含めることができます。たとえば、次のような、可能性のあるドライバA、Cと候補B、Dを含む重複セットについて考えます。

A - B

A - C

C - D

ここで、重複ペアC-Dは、その勝者CがA-Cの一致レコードであるため削除されます。このため、Dは潜在的な重複から除外されます。これが重複として識別される可能性があるのは、次のバッチ実行のときのみです。ただし、DはAの間接重複であることがわかります。プロファイル・オプションORA_ZCQ_LEVEL_OF_INDIRECTIONの値を1として設定した場合、値Dを最初のバッチ実行自体で一致レコードとして考慮できます。したがって、重複セットは次のようになります。

A - B

A - C

A - D (DはAの間接重複であるため)。

ここでは、重複ペアがA-B、A-C、C-D、D-EおよびE-Fの別の例を挙げて、間接重複のレベルをプロファイル・オプションORA_ZCQ_LEVEL_OF_INDIRECTIONがどのように制御するかについて考えます。この場合、プロファイル・オプション値を1として設定すると、間接重複の最初のレベル(C-D)のみがAの重複セットの一部とみなされるため、A-Dペアが形成されます。ただし、プロファイル・オ

プシオン値を2として設定した場合は、2番目の間接レベルにも拡張されます。したがって、間接の順序がA-C、C-DおよびD-Eになるため、識別される重複ペアは、A-DとA-Eになります。

ユーザー定義のプロファイル・オプションORA_ZCQ_LEVEL_OF_INDIRECTIONを使用して、ドライバ・レコードの間接重複のレベルとそれに応じた数を制御するには、次の手順を実行します。

1. プロファイル・オプションの作成
2. プロファイル値の設定

プロファイル・オプションの作成

次の手順を使用して、プロファイル・オプションを作成します。

1. 「設定および保守」作業領域で、「プロファイル・オプションの管理」タスクに移動します。
2. このページで、「処理」→「新規」をクリックします。
3. 「プロファイル・オプションの作成」ページで、次の点に注意して、すべてのフィールドに関連する詳細を入力します。
 - プロファイル・オプション・コード: ORA_ZCQ_LEVEL_OF_INDIRECTIONとしてコードを指定します。
 - プロファイル表示名: プロファイルの名前を指定します。
 - アプリケーション: 「取引先コミュニティ・データ品質」を選択します。
 - モジュール: 「データ品質バッチ・サービス」を選択します。
 - 開始日: 開始日を指定します。

日付範囲を指定して、その期間中プロファイル・オプションをアクティブに保つことができます。指定した期間を過ぎると、プロファイル・オプションは自動的に非アクティブになります。プロファイル・オプションが不要になった場合は、「プロファイル・オプションの管理」ページから手動で削除する必要があります。

4. 「保存してクローズ」をクリックします。
5. 「プロファイル・オプションの管理」ページで、新しく作成したプロファイル・オプションを検索し、結果から選択します。
6. プロファイル・オプション・レベルのセクションで、サイトのEnabled列およびUpdateable列を選択します。
7. 「保存してクローズ」をクリックします。

プロファイル値の設定

プロファイル・オプション値を設定するには、次の手順を実行します。

1. 「設定および保守」作業領域で、「管理者プロファイル値の管理」タスクに移動します。
2. 「管理者プロファイル値の管理」ページで、プロファイル・オプションを検索して設定しま

す。

3. 「プロファイル値」セクションで、「追加」をクリックします。次の条件を指定する新しい行が追加されます。
 - プロファイル・レベル: プロファイル値を設定するレベルを指定します。「サイト」を選択します。
 - プロファイル値: 必要な間接レベルに応じて、1または2などの値を選択または入力します。
4. 「保存してクローズ」をクリックします。

注意: プロファイルの値に対する変更は、ユーザーが次回サインインするときに反映されます。

エンタープライズ・データ品質照合構成の管理: 手順

エンタープライズ・データ品質(EDQ)照合構成の管理の一部として、次のタスクを実行できます。

- 事前定義済のエンタープライズ・データ品質照合構成のコピー
- 事前定義済のエンタープライズ・データ品質照合構成のコピーの編集

事前定義済のエンタープライズ・データ品質照合構成のコピー

事前定義済のエンタープライズ・データ品質照合構成をコピーする(複製を作成する)手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフライン: 顧客データ管理
 - 機能領域: データ品質基盤
 - タスク: エンタープライズ・データ品質照合構成の管理
2. 「エンタープライズ・データ品質照合構成の管理」ページで、アカウント重複識別照合構成を選択し、「複製」をクリックします。
3. 「警告」ダイアログ・ボックスで「はい」をクリックします。
4. 「保存」をクリックして、事前定義された構成のコピーを保存します。

注意: 編集する場合は、事前定義済の構成のコピーを保存する必要があります。
5. ステップ2から4を繰り返して、担当者重複識別または住所重複識別照合構成について、事前定義済の構成のコピーを作成します。

事前定義済のエンタープライズ・データ品質照合構成のコピーの編集

事前定義済のエンタープライズ・データ品質照合構成のコピーを編集する手順は、次のとおりです。

注意: 事前定義済のエンタープライズ・データ品質構成を編集することはできません。この手順に

従ってコピーを作成し、それを編集することのみ可能です。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: データ品質基盤
 - タスク: エンタープライズ・データ品質照合構成の管理
2. 「エンタープライズ・データ品質照合構成の管理」ページで、「事前定義済のエンタープライズ・データ品質照合構成のコピー」の項で作成したアカウント重複識別照合構成のコピーを選択し、「編集」をクリックします。
3. 「アクティブ」チェック・ボックスを選択して、アカウント重複識別照合構成をアクティブな構成として設定します。

注意: デフォルトでは、事前定義済の構成は常にアクティブに設定されます。事前定義済の構成のコピーが1つ以上存在する場合は、「アクティブ」チェック・ボックスを選択することによって、いずれかの構成をアクティブに設定できます。いかなる時点においても、アクティブに設定できる構成は1つのみです。

注意: また、「使用目的」オプションが「両方」に設定されていることに留意してください。これは、構成がリアルタイム照合とバッチ照合の両方の対象となることを示しています。

4. 「警告」ダイアログ・ボックスで「はい」をクリックして、該当する構成をアクティブに設定します。
5. 「属性の照合」セクションで、次のステップを実行します。
 1. マッピングを編集する行を選択し、選択した行のドロップダウン・ボタンをクリックします。
 2. 該当する属性をリストから選択します。
 3. マッピングに必要な属性がリストに表示されない場合は、「検索」をクリックして属性を検索します。
 4. 該当するオプションを選択して「OK」をクリックします。
6. 「クラスタ・キー・レベル」ドロップダウン・リストで、「通常」を選択します。
7. 「スコアしきい値」フィールドに「85」と入力します。「照合結果表示しきい値」フィールドに「20」と入力します。

注意: 「照合結果表示しきい値」オプションは、バッチには使用できません。
8. 「保存」をクリックして、変更を保存します。

カスタム照合ルールとスコアリングの管理: 説明

このトピックでは、カスタム照合ルールおよびスコアリング機能を有効にする方法について説明しま

す。

アカウントおよび担当者のカスタム照合ルールを有効にする手順は、次のとおりです。カスタム照合ルールはアカウントおよび担当者にのみ使用できることに注意してください。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: データ品質基盤
 - タスク: エンタープライズ・データ品質照合構成の管理
2. 「エンタープライズ・データ品質照合構成の管理」ページで、事前定義済またはユーザー定義の照合構成をドリルダウンし、カスタム照合ルールとスコアリングを有効または無効にします。
3. 「照合構成の編集」ページの「スコアリング・タイプ」ドロップダウン・リストから「カスタム」を選択します。
4. 「保存」または「保存してクローズ」をクリックします。

カスタム照合ルールの作成: 手順

カスタム照合ルールおよびスコアリング機能を使用して、ビジネス要件に基づく独自の照合ルールとスコアを作成できます。

カスタム照合ルールを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: データ品質基盤
 - タスク: エンタープライズ・データ品質照合構成の管理
2. 「エンタープライズ・データ品質照合構成の管理」ページで、事前定義済またはユーザー定義の照合構成をドリルダウンし、事前定義済ルールを作成または更新します。
3. 「照合構成の編集」ページで「照合ルールの管理」をクリックします。
4. 「照合ルールの管理」ページで「新規」をクリックします。または、「複製」をクリックして、既存の事前定義済またはユーザー定義の照合ルールに基づいて新しいルールを作成できます。
5. 新しく作成した、またはコピーした照合ルールに次の値を入力します。
 - ルール名: 新しいルールの名前を指定します。
 - 照合ルール・スコア: ルールに割り当てるスコアを指定します。値は1から100までである必要があります。
 - ルール属性: カスタム照合ルールに使用する標準属性または事前定義属性を指定します。

構文とスペルが正確であることを確認してください。

6. 「保存」または「保存してクローズ」をクリックします。

照合ルールとスコアリングのソースの選択: 考慮する点

顧客データ品質アプリケーションには、照合ルールとスコアリング用の2つのオプションが用意されています。事前定義済の照合ルール(EDQ照合ルール)とカスタム照合ルール(顧客データ管理照合ルール)です。エンタープライズ・データ品質照合構成ページのドロップダウン・ボタンを使用して、ビジネス要件に最適な照合ルールとスコアリング・オプションを選択できます。

事前定義済のEDQ照合ルールには、アカウント、担当者、住所などのオブジェクトごとに、表示専用の照合ルールが1つ含まれています。これらの照合ルールは編集できず、スコアは変更できず、新しいルールを追加できません。

事前定義済の照合ルールがビジネス要件に適していない場合は、カスタム照合ルールとスコアリングを有効にする必要があります。「エンタープライズ・データ品質照合構成の管理」UIページで、「スコアリング・タイプ」ドロップダウン・リストから「カスタム」を選択して、カスタム・スコアリングを有効にすることができます。この機能を使用して、独自の照合ルールとスコアを作成できます。

キー生成の管理: 説明

リアルタイムおよびバッチ照合のEDQ照合プロセスでは、重複識別のためにEDQクラスタ・キー生成サービスとEDQ照合サービスが利用されます。正常なキー生成は、重複識別にとって重要です。キー生成によって類似パーティが識別され、それぞれにキーが割り当てられます。照合構成がアクティブになると、アプリケーションによって一連のキー(パーティのサブセット)がEDQ照合サービスに渡され、重複識別のために処理されます。

EDQクラスタ・キー生成サービスは、アプリケーションでレコードが追加または更新されるたびに実行される必要があります。このサービスでは、アプリケーションで追加されたレコードおよび更新されたレコードに対してキーが生成されます。キーが生成されない場合、重複識別は失敗します。

キー生成のスケジューリング

「照合構成の編集」ページで「キー生成のスケジュール」オプションを使用して、アクティブ照合構成用に増分キー生成をスケジュールできます。これにより、キーがない、またはキーのタイム・スタンプがレコードより古いレコードに対してキーが生成されます。新規または更新されたアカウント、担当者および住所の照合キーの値を増分生成する必要があります。

キーの再作成

新しい構成をアクティブ化する前にキーを再作成する必要があります。対応する構成マッピングを変更した場合や、レコードが更新されたためにキーが有効ではなくなったと考えられる場合は、キーを再作成する必要があります。照合キーの値は、「照合構成の編集」ページの「キーの再作成」オプションを使用して再生成できます。

リアルタイムおよびバッチ・キー生成オプションの指定

バッチ照合とリアルタイム照合に対して、異なるキー生成オプションを指定できます。limited、typicalまたはexhaustiveという値を持つクラスタ・キー・レベル・パラメータを例にとります。データ品質エンジンでレコードが照合される際の厳密さに応じて、このパラメータの1つの

値(たとえば、**limited**)をバッチ照合に対して選択し、別の値(たとえば、**exhaustive**)をリアルタイム照合に対して選択できます。

キー生成ステータスのレビュー

「キー生成の管理」ページで、キー生成ジョブを検索し、各キー生成ジョブのステータスをレビューできます。次の表に、照合構成の様々なキー生成ステータスを示します。

キー生成ステータス	説明
待ち状態	構成のキー生成は必須です。
処理中	構成のキー生成は進行中です。
レビュー必須	この構成のキー生成にはレビューが必要です。
準備完了	この構成のキー生成は完了しています。

Webサービスを使用した重複の識別: 作業例

この例では、エンタープライズ・データ品質(EDQ)エンジンを利用するWebサービスを使用した重複の識別方法について説明します。

次の表に、このシナリオにおける主な検討事項の概要を示します。

検討する決定事項	この例の場合
どのようなサービスを Oracle Enterprise Manager で設定するか。	DQRealTimeService
どの重複エントリを Web サービスを使用して識別するか。	担当者
担当者の関連構成コードは何か。	DQ_SEED_CONTACT_DUP_IDENTIFICATION
どのレコード・タイプをデータ品質エンジンに関連付けるか。	ドライバ

Webサービスを使用して重複を識別するには、次のタスクを完了します。

- WebサービスURLの抽出
- 要求ペイロードの導出

- Webサービスのテスト
- 照合結果のテスト

前提条件

1. 「データ品質サーバー構成の管理」 ページで、EDQリアルタイムおよびバッチ基本照合サーバーを有効にします。
2. 次の手順に従って、「設定および保守」作業領域から実行するEDQ照合構成の構成コードを識別します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: データ品質基盤
 - タスク: エンタープライズ・データ品質照合構成

WebサービスURLの抽出

1. Web Logic Serverの資格証明を使用してOracle Enterprise Managerにサインインします。
2. ナビゲーション・ツリーから「Oracle Fusion Customer Relationship Management」を選択し、次に「Oracle Fusion Applications」を選択します。
3. ツリーから「CrmCommonApp」、「CrmCommonApp (CRMCommonServer_1)」の順に選択します。
4. ページの「Webサービス」ペインで、DQRealTimeServiceSoapHttpPortポートを対象として「テスト」をクリックします。
5. Webサービスのテスト・ペインで、「WSDL」フィールドに表示されるWSDLのURL (「?wsdl」まで)をコピーし、メモ帳にペーストします。

要求ペイロードの導出

1. WebブラウザでWSDL URLを起動して、DQRealTimeServiceエンドポイント・ページをオープンします。
2. 「DQRealTimeServiceSoapHttpPort」ペインで、「操作」リストから「matchPerson」を選択します。
3. 「要求ペイロード」ペインで、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド	値
-------	---

DataQualityRequestId	1
-----------------------------	---

ConfigCode	DQ_SEED_CONTACT_DUP_IDENTIFICATION
-------------------	------------------------------------

4. 「DataQualityParam」セクションで、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド 値

ParamName ScoreThreshold

ParamValue 10

5. 「DataQualityPerson」セクションで、個人の最小限の詳細(照合する名、姓、住所など)を入力します。次の表に、照合する個人の詳細のサンプルを示します。

フィールド 値

DataQualityRequestId 1

DataQualityRecordType ドライバ

PersonFirstName Smith

PersonLastName Wilson

AddressLine1 401 Island Parkway

City Redwood

Country US

6. 「XMLソース」オプションをクリックします。

注意: このオプションは操作リストの横に表示されます。

7. XMLソースをコピーし、メモ帳にペーストします。

8. 「matchLocation」を選択し、手順1から7を繰り返して住所の重複を識別するか、「matchOrganization」を選択して、手順1から7を繰り返してアカウントの重複を識別します。

Webサービスのテスト

1. Oracle Fusionサービス・テスター・ページをオープンします。
2. 「WebサービスURL」フィールドに、「WebサービスURLの抽出」の項のステップ5で導出し

たWSDL URLをペーストします。

3. 資格証明としてユーザー名とパスワードを入力します。
4. 入力引数ペインに、「要求ペイロードの導出」の項のステップ7で得たXMLソースをペーストします。
5. 「Webサービスのテスト」をクリックします。出力ペイロード・ペインに出力ペイロードが表示されます。

照合結果のテスト

1. 出力ペイロードをコピーし、メモ帳にペーストします。
2. **COMPLETED**および**SUCCESS**メッセージがそれぞれ**ErrorCode**および**Message**タグに表示されているかどうかを確認します。
3. 個人名で検索して、表示される重複の数を識別します。
4. 照合結果を確認します。

クレンジング構成

エンタープライズ・データ品質クレンジング構成: 説明

エンタープライズ・データ品質(EDQ)クレンジング構成は、住所のリアルタイムおよびバッチ・クレンジング用の属性とパラメータで構成されます。すぐに利用できる事前定義済の構成を使用するか、それをコピーして住所クレンジング要件に適合させるオプションがあります。事前定義済のEDQ住所クレンジング構成は、リアルタイムおよびバッチ住所クレンジングと呼ばれます。EDQクレンジング構成の定義および管理の一部として、事前定義済のクレンジング構成をレビューおよび編集できます。

EDQリアルタイム住所クレンジングには、オンラインでの対話形式のサービスが含まれており、レジストリ内に住所データを作成するUIまたは他のサービスによるデータ入力プロセスで住所がクレンジングおよび検証されます。リアルタイム住所クレンジング・サービスでは、入力住所が解析され、固有の郵送先住所参照データベース(アメリカ合衆国郵便公社(USPS)やカナダ郵便公社など)に対して検証されます。リアルタイム住所クレンジング・サービスは、次の2つのモードで実行されます。

- 検証: 検証モードでは、入力住所データを解析、検証、クレンジング、音訳、書式設定できます。このモードでは、参照データが確認され、最適な一致(1対1)が返されます。
- 検索: 検索モードでは、すべてのインストール済データを検索し、複数の結果(1対多)を返すことができます。

EDQバッチ住所クレンジングでは、レジストリ内またはデータ・インポート・プロセスの一部としての住所レコードのサブセットまたは全体に対して、住所クレンジング、確認、標準化および検証が実行されます。バッチ住所クレンジング・サービスは、入力住所データを解析およびクレンジングして出力を固有の文字または英字で表示できる検証モードでのみ実行できます。

注意: 住所検証の詳細は、関連トピックの項の「エンゲージメント・クラウドとデータ・クラウドの統合の管理: 説明」トピックを参照してください。

クレンジング属性マッピング

クレンジング構成を作成するための対応するOracle Engagement Cloud属性を使用したEDQクレンジング属性のマッピングは、クレンジング属性マッピングと呼ばれます。Oracle Engagement Cloudには、住所クレンジング用の次の属性があります。

- 入力住所属性: 住所クレンジングの入力Oracle Engagement Cloud住所を示すために使用される属性は、入力住所属性と呼ばれます。
- 出力住所属性: 住所クレンジング・プロセス後の出力Oracle Engagement Cloud住所を示すために使用される属性は、出力住所属性と呼ばれます。
- EDQ属性: クレンジングに使用されるOracle Engagement Cloud属性。

住所クレンジングのOracle Engagement Cloud EDQ属性にマップする入力住所属性を決定できます。EDQ属性は、レコードに関連する個別の情報項目を示すために使用されます。たとえば、市区町村属性は、顧客レコードの市区町村の詳細を示す場合があります。マッピングが確立されると、入力住所はOracle Engagement Cloudで確認、クレンジングおよび検証されます。Oracle Engagement Cloud EDQ属性で示されるクレンジング済住所を対応する出力住所属性にマップできます。

この例では、次の表に示すように、サンプル入力データには郵送先住所の一部が含まれており、詳細な番地や都道府県の情報も欠落しています。

入力住所属性	値
Address1	8500 Normandale Lake Suite 710
市区町村	Bloomington
Postal Code	55437

マッピング後、入力住所は確認、検証および修正されます。クレンジングされた出力住所データを次の表に示します。

出力住所属性	値
Address1	8500 NORMANDALE LAKE BLVD
Address2	STE 710
市区町村	BLOOMINGTON
State	MN
Postal Code	55437-3813

クレンジング構成パラメータ

クレンジング構成パラメータは、データ品質クレンジング・サービスの複数の側面を制御するシステムレベル・パラメータです。EDQクレンジング構成には、リアルタイムおよびバッチ・クレンジング構成パラメータが含まれています。

次のパラメータによって、データベース内またはデータ・インポート・プロセスの一部としての住所レコードのサブセットまたは全体に対して、リアルタイムおよびバッチ住所クレンジング、標準化および検証操作が制御されます。

デフォルト国

- パラメータ説明: 入力住所内に識別可能な国が見つからない場合に、住所をクレンジングする国を指定するために使用されます。

出力の大小文字

- パラメータ値: 大文字、小文字、大文字小文字混合。デフォルト値: 混合
- パラメータ説明: 出力住所の大小文字を指定するために使用されます。

最小検証レベル

- パラメータ値: 1から5まで。デフォルト値: 3
- パラメータ説明: 検証プロセスで入力データが使用可能な参照データと照合される検証レベルを指定するために使用されます。

最小検証スコア

- パラメータ値: 0から100まで。デフォルト値: 90
- パラメータ説明: 住所エントリと最も近い参照データ一致の相似を0 (不一致)から100 (完全一致)までのパーセントとして指定するために使用されます。

一部検証済住所の修正: 一部検証済の住所エントリを修正するかどうかを決定します。

あいまいな住所の修正: 不明な住所エントリを修正し、解決して正しい住所にするかどうかを決定します。

構成結果のレビュー

「構成結果のレビュー」オプションを使用すると、「クレンジング構成の編集」ページでクレンジング用に入力する入力住所によって、予期されるクレンジング済住所が返されるかどうかを確認できます。または、「構成結果のレビュー」ページで、クレンジングする次のクレンジング構成パラメータの1つ以上の属性情報を入力できます。

- 最小検証レベル: 最小検証レベルに基づいてレコードを返します。
- 最低検証スコア: 最低検証スコアに基づいてレコードを返します。

- 処理モード: 処理モードに基づいてレコードを返します。

次に、クレンジング済住所について返されたレコードが予期したとおりかを確認します。

関連項目

- [Data Cloudへの統合の構成: 手順](#)

エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理: 手順

エンタープライズ・データ品質(EDQ)クレンジング構成の管理の一部として、次のタスクを実行できます。

- 事前定義済のエンタープライズ・データ品質クレンジング構成のコピー
- 事前定義済のエンタープライズ・データ品質クレンジング構成のコピーの編集

事前定義済のエンタープライズ・データ品質クレンジング構成のコピー

事前定義済のエンタープライズ・データ品質クレンジング構成をコピーする(複製を作成する)手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: データ品質基盤
 - タスク: エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理
2. 「エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理」ページで、「住所クレンジング」構成を選択し、「複製」をクリックします。
3. 「名前」フィールドに名前を入力し、「保存」をクリックして変更を保存します。

事前定義済のエンタープライズ・データ品質クレンジング構成のコピーの編集

事前定義済のエンタープライズ・データ品質クレンジング構成のコピーを編集する手順は、次のとおりです。

注意: 事前定義済のエンタープライズ・データ品質構成を編集することはできません。この手順に従ってコピーを作成し、それを編集することのみ可能です。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: データ品質基盤
 - タスク: エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理
2. 「エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理」ページで、「住所クレンジング」構成を選択し、「編集」をクリックします。

3. 「アクティブ」チェック・ボックスを選択して、住所クレンジング構成をアクティブな構成として設定します。

注意: デフォルトでは、事前定義済の構成は常にアクティブに設定されます。事前定義済の構成のコピーが1つ以上存在する場合は、「アクティブ」チェック・ボックスを選択することによって、いずれかの構成をアクティブに設定できます。いかなる時点においても、アクティブに設定できる構成は1つのみです。

注意: また、「使用目的」オプションが「両方」に設定されていることに留意してください。これは、構成がリアルタイム照合とバッチ照合の両方の対象となることを示しています。

4. 「警告」ダイアログ・ボックスで「はい」をクリックして、該当する構成をアクティブに設定します。
5. 「クレンジング属性マッピング」セクションで、「住所」列の属性を1つ選択し、該当する属性を「属性」列に入力してから、それを「属性」列の対応する属性にマップし、属性マッピングを作成します。
6. 「クレンジング構成パラメータ」セクションで、次のタスクを実行します。
 1. 「デフォルト国」ドロップダウン・リストで、該当する国名を選択します。
 2. 「出力の大小文字」ドロップダウン・リストで、「大文字」を選択して住所を大文字で表示します。
 3. 「最小検証レベル」ドロップダウン・リストで、「3-幹線道路レベルまで検証」を選択します。
 4. 「最低検証スコア」ドロップダウン・リストで、「80」を選択します。
 5. 「一部検証済住所の修正」チェック・ボックスを選択します。
 6. 「あいまいな住所の修正」チェック・ボックスを選択します。
7. 「保存」をクリックして、変更を保存します。

Webサービスを使用した住所のクレンジング: 作業例

この例では、エンタープライズ・データ品質(EDQ)エンジンを利用するWebサービスを使用した住所のクレンジング方法について説明します。

次の表に、このシナリオにおける主な検討事項の概要を示します。

検討する決定事項	この例の場合
どのようなサービスを Oracle Enterprise Manager で設定するか。	DQRealTimeService
どの処理モードを住所クレンジングに使用するか。	検索: このモードでは、すべてのインストール済データを検索し、複数の結果を返すことができます。

住所クレンジングの関連構成コードは **DQ_SEED_LOC_CLEANSE** 何か。

どのレコード・タイプをデータ品質エンジンに関連付けるか。 **ドライバ**

Webサービスを使用して住所をクレンジングするには、次のタスクを完了します。

- WebサービスURLの抽出
- 要求ペイロードの導出
- Webサービスのテスト
- クレンジング結果のテスト

前提条件

1. 「データ品質サーバー構成の管理」 ページで、**EDQ**リアルタイムおよびバッチ基本クレンジング・サーバーを有効にします。
2. 次の項目に移動して、「設定および保守」作業領域から使用する**EDQ**クレンジング構成の構成コードを識別します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: データ品質基盤
 - タスク: エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理

構成コードは、「エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理」ページに表示されます。

WebサービスURLの抽出

1. **WebLogic Server**の資格証明を使用して**Oracle Enterprise Manager**にサインインします。
2. ナビゲーション・ツリーから「**Oracle Fusion Customer Relationship Management**」を選択し、次に「**Oracle Fusion Applications**」を選択します。
3. ツリーから「**CrmCommonApp**」、「**CrmCommonApp (CRMCommonServer_1)**」の順に選択します。
4. ページの「**Webサービス**」ペインで、**DQRealTimeServiceSoapHttpPort**ポートを対象として「**テスト**」をクリックします。
5. **Webサービスのテスト**・ペインで、「**WSDL**」フィールドに表示される**WSDLのURL** (「**?wsdl**」まで)をコピーし、メモ帳にペーストします。

要求ペイロードの導出

1. WebブラウザでWSDL URLを起動して、DQRealTimeServiceエンドポイント・ページをオープンします。
2. 「DQRealTimeServiceSoapHttpPort」 ペインで、「操作」リストから「cleanseAddress」を選択します。
3. 「要求ペイロード」 ペインで、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド 値

DataQualityRequestId 1

ConfigCode DQ_SEED_LOC_CLEANSE

4. 「DataQualityParam」 セクションで、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド 値

ParamName ProcessingMode

ParamValue Search

注意: 「ParamValue」 フィールドに「Verify」を入力した場合、入力住所データがチェックされ、最適な一致が返されます。

5. 「DataQualityPerson」 セクションで、クレンジングする住所を入力します。たとえば、次の表に示すフィールドに値を入力します。

フィールド 値

DataQualityRequestId 1

DataQualityRecordType ドライバ

AddressLine1 401 Island Parkway

Country US

6. 「XMLソース」 オプションをクリックします。
注意: このオプションは操作リストの横に表示されます。
7. XMLソースをコピーし、メモ帳にペーストします。

Webサービスの呼出し

1. **Oracle Fusion**サービス・テスター・ページをオープンします。
2. 「**WebサービスURL**」フィールドに、「**WebサービスURLの抽出**」の項のステップ5で導出した**WSDL URL**をペーストします。
3. 資格証明としてユーザー名とパスワードを入力します。
4. 入力引数ペインに、「**要求ペイロードの導出**」の項のステップ7で得た**XML**ソースをペーストします。
5. 「**Webサービスのテスト**」をクリックします。出力ペイロード・ペインに出力ペイロードが表示されます。

クレンジング結果のテスト

1. 出力ペイロードをコピーし、メモ帳にペーストします。
2. **COMPLETED**および**SUCCESS**メッセージがそれぞれ**ErrorCode**および**Message**タグに表示されているかどうかを確認します。
3. クレンジング済住所を確認します。

住所検証クラウド・サービスの検索モードの有効化

住所検証クラウド・サービスには、検証と検索という2つの処理モードがあります。この機能を使用して、「アカウントの作成」または「担当者の作成」ページでの情報の入力時に住所をリアルタイムで検証できます。

初期状態では、顧客は検証モードのみを使用できます。検証モードが有効であり、アカウントまたは担当者の作成または編集ページでリアルタイム住所検証を実行すると、ページで入力した住所情報と一致する1つの検証済住所がサービスから返されます。

検索モードは、リリース11パッチ・バンドル15から、**Oracle Data Cloud**住所検証無制限ライセンスを持つ顧客のみが使用できます。検索モードが有効であり、アカウントまたは担当者の作成または編集ページでリアルタイム住所検証を実行すると、入力した住所情報と一致する、推奨される検証済住所のリストがサービスから返されます。その後、適切な住所をリストから選択できます。検索モードを有効にするには、新しいプロファイル・オプションを作成し、住所検証処理モードを構成する必要があります。このトピックでは、**Oracle Data Cloud**住所検証無制限ライセンスを持つ顧客が**DaaS**住所検証検索モードを有効にする方法について説明します。

検索モードを有効にするための新規プロファイル・オプションの作成

検索モードを有効にするために必要な新しいプロファイル・オプションを作成する手順は、次のとおりです。

1. 設定ユーザーとしてサインインします(営業管理者、**Master Data Management Application Administrator**、**Application Implementation Consultant**など)。
2. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。

- オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: アプリケーション拡張
 - タスク: アプリケーション・コア・プロファイル・オプションの管理
3. 「アプリケーション・コア・プロファイル・オプションの管理」ページで、「処理」から「新規」をクリックします。プロファイル・オプションの作成ページが表示されます。
 4. プロファイル・オプションの作成ページに次の情報を入力します。
 - プロファイル・オプション・コード: **ORA_ZCQ_AV_UNLIMITED_LIC**
 - プロファイル表示名: **ORA_ZCQ_AV_UNLIMITED_LIC**
 - アプリケーション: 取引先コミュニティ・データ品質
 - モジュール: アプリケーション共通
 - 適切な「摘要」を指定します。
 - 適切な「開始日」と「終了日」を指定します。
 5. 「保存してクローズ」をクリックします。

新しいプロファイル・オプションが「アプリケーション・コア・プロファイル・オプションの管理」ページに表示されます。
 6. プロファイル・オプション・レベル・セクションでサイトの「使用可能」チェック・ボックスと「更新可能」チェック・ボックスを選択します。
 7. 「保存してクローズ」をクリックします。
 8. 「アプリケーション・コア管理者プロファイル値の管理」タスクにナビゲートします。
 9. プロファイル・オプション・コード**ORA_ZCQ_AV_UNLIMITED_LIC**を検索します。
 10. **ORA_ZCQ_AV_UNLIMITED_LIC**:プロファイル値セクションで、「新規」をクリックします。
 11. プロファイル・レベルとして「サイト」を選択し、プロファイル値として「**Y**」を選択します。
 12. 「保存してクローズ」をクリックします。

住所検証処理モードの構成

次のタスクを実行して、住所検証処理モードを構成できます。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: データ品質基盤
 - タスク: エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理

2. 「エンタープライズ・データ品質クレンジング構成の管理」 ページで、「住所クレンジング」をクリックします。

「EDQクレンジング構成の編集: 住所クレンジング」 ページが表示されます。

3. 「クレンジング構成パラメータ」 セクションの「処理モード」 ドロップダウン・リストから「検索」を選択します。

注意: 必要に応じて、「処理モード」ドロップダウン・リストから「検証」モードまたは「検索」モードのいずれかを選択できます。「検証」モードは、「アカウントの作成」または「担当者の作成」 ページでの住所の検証で、検証済住所が1つのみ返されるようにする場合に選択します。「検索」モードは、入力した住所と一致する、推奨される検証済住所のリストを取得するために選択します。その後、適切な住所をリストから選択できます。

4. 「保存してクローズ」をクリックします。

アカウントまたは担当者の作成ページでの検索モードの確認

新しいアカウントまたは担当者の作成時に、検索モードの機能を確認できます。新しいアカウントの作成時に検索モードで住所を確認する手順は、次のとおりです。

1. 「アカウント」作業領域にナビゲートします。
2. 「アカウントの作成」をクリックします。
3. 「アカウントの作成」 ページで、作成するアカウントの「住所行1」、「市区町村」および「都道府県」を入力します。
4. 「住所の検証」をクリックします。

注意: 「住所の作成」 ページの「住所」セクションのすべてのフィールドを移入した後に「住所の検証」をクリックすると、完全一致の検証済住所が1つだけ取得されます。

5. 提示検証済住所のリストから、該当する住所の「選択」をクリックすることで、適切な住所を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、選択した住所が「アカウントの作成」 ページの「住所」セクション移入されます。

7. 「アカウントの作成」 ページでアカウント詳細を入力します。
8. 「保存してクローズ」をクリックします。

Oracleエンタープライズ・データ品質エンジンとの統合に関するFAQ

照合構成と照合サーバー構成の違いは何ですか。

照合構成には、クレンジング戦略、データおよび結果要件に応じて、照合構成レベルでの設定および

変更が可能なパラメータが含まれています。これらの構成を使用して、リアルタイム照合で重複エントリを防止し、バッチ照合で既存の重複を識別できます。

照合サーバー構成では、照合要求を処理するために使用されるデータ品質サーバーのアドレスとポートが提供されます。これらの構成では、照合構成とサーバー構成の両方のレベルのパラメータが、そのタイプおよびカーディナリティとともに示されます。サーバー・レベルで設定されるパラメータは、すべての照合構成に適用されます。

クレンジング構成とクレンジング・サーバー構成の違いは何ですか。

クレンジング構成には、クレンジング戦略、データおよび結果要件に応じて、クレンジング構成レベルでの設定および変更が可能なパラメータが含まれています。これらの構成を使用して、データ入力時に住所をクレンジングし、既存の住所をクレンジングおよび検証してデータの正確性を確保できます。

クレンジング・サーバー構成では、クレンジング要求を処理するために使用されるデータ品質サーバーのアドレスとポートが提供されます。クレンジングにはサーバー構成パラメータはありません。

リアルタイム重複防止と重複識別の違いは何ですか。

リアルタイム重複防止では、入力されたレコードに対して、データベース内に存在する可能性がある、予想される重複レコードがすべて識別されます。これにより、重複エンティティ(組織、個人、事業所など)のデータベースへの入力が防止されます。

重複識別では、データベース内にすでに存在する重複エンティティの可能性がバッチ照合を使用して識別され、実際の重複がマージまたはリンクによって解決されます。

リアルタイム住所クレンジングとバッチ住所クレンジングの違いは何ですか。

リアルタイム住所クレンジングは、データ入力プロセスで住所をクレンジングおよび検証するための、オンラインでの対話形式のサービスです。

バッチ住所クレンジングでは、データベース内にすでに存在するか、データベースにインポートされる住所がクレンジングおよび検証されます。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. [顧客ハブ構成の定義](#)

18顧客ハブ構成の定義

この章の内容は次のとおりです。

- [要求ディスパッチ・ジョブの実行](#)
- [顧客ハブ・プロファイル・オプション](#)
- [生存の定義](#)
- [ソース・システム確度](#)
- [契約ルール](#)
- [マージ要求](#)
- [大量バッチ重複除去: ベスト・プラクティスとガイドライン](#)

要求ディスパッチ・ジョブの実行

要求ディスパッチャ・プロセスの実行: 説明

要求ディスパッチャ・プロセスの実行を使用して、クレンジング・バッチと重複識別バッチおよび重複解決要求を管理およびモニターできます。

要求ディスパッチャ・プロセスは、次のモードで実行します。

- 基本: 即時に処理するために、要求ディスパッチャ・ジョブを発行します。
- 拡張: 即時にまたは毎時や毎日などの指定した間隔で実行するようにプロセスをスケジュールします。

顧客ハブ・プロファイル・オプション

顧客ハブ・プロファイル・オプション: 説明

顧客ハブ・プロファイル・オプションは、データ・ガバナンス、重複識別プロセス、データ・クレンジング・プロセスおよび重複解決プロセス用にデータ・アクセスと処理を構成します。

ハブ・プロファイル・オプション値は、事前定義済みのプロファイル・オプション定義を使用して、サイト・レベルでのみ設定できます。次の表に、「設定および保守」作業領域で次の項目を使用して構成できる顧客ハブ・プロファイル・オプションを示します。

- オフアリング: 顧客データ管理

機能領域: 顧客ハブ

- タスク: 顧客ハブ・プロフィール・オプションの管理

プロフィール・オプション名	プロフィール・オプションの定義	説明	デフォルト値
ZCH_CLNS_PROC_BT_SIZE	データ・クレンジング・プロセス・バッチ・サイズ	データ・クレンジング・プロセスのトランザクション・バッチ・サイズ。使用可能なシステム・リソースに基づいてこの値を設定します。	10000
ZCH_DEDUP_REQUEST_TYPE_OPTION	解決要求タイプのデフォルト	重複解決要求のデフォルト	要求タイプ・マージ
ZCH_DI_PROC_BT_SIZE	重複識別プロセス・バッチ・サイズ	重複識別プロセスのトランザクション・バッチ・サイズ。これは、レコードをバッチにグループ化し、各グループを個別のトランザクションとしてループ処理するために使用します。	100
ZCH_USER_MERGE_REQUESTS	ユーザー・マージ要求	マージ要求の処理オプション。	未指定(NULL)
ZCH_ENABLE_SURVIVORSHIP	生存使用可能	重複解決の生存ルールを有効にするためのオプション。	可
ZCH_AUTO_LINK_THRESHOLD	自動リンクしきい値	自動リンクのしきい値。データ・スチュワードがスコアの低いリンク要求をレビューします。	0
ZCH_AUTO_MERGE_THRESHOLD	自動マージしきい値	自動マージのしきい値。データ・スチュワードがスコアの低いマージ要求をレビューします。	100

ZCH_DI_MERGEREQ_REC_SIZE

重複セット・レコード数 自動的に重複解決要求に変換できる、重複セット内のレコードの最大10数。

「ユーザー・マージ要求」プロファイル・オプションに次の値を設定できます。

- 承認なし処理の許可: マージ要求はデータ・スチュワードによる承認なしで即時に処理されます。
- 承認の対象となるプロセス: マージ要求はデータ・スチュワードによってレビューされ、データ・スチュワードが承認するかどうかを決定できます。
- 未指定(NULL): マージ要求はデータ・スチュワードによる承認なしで即時に処理されます。これは、顧客ハブが構成されないことを示します。このオプションは、ユーザーが取引先コミュニティ・マージ要求の発行権限および取引先コミュニティ・マージ要求の入力権限を持っている場合にのみ有効になります。

注意: データ・スチュワードは、顧客センター、「マージ要求の入力」設定タスク、自動マージWebサービスまたは重複解決要求サービスから開始された販売アカウントのマージをレビューする必要があります。データ・スチュワードは、「ユーザー・マージ要求」プロファイル・オプションが「承認の対象となるプロセス」に設定されている場合にのみ、マージ要求をレビューできます。そうでない場合は、マージ要求はエラーになります。

生存の定義

生存ルールの管理

生存ルール: 説明

生存ルールは、マージ操作中にマスター・レコードまたは生存レコードとその属性を決定するビジネス・ルールの集合です。

生存ルールによって、ビジネス・ルールに基づいて、複数のソース・システムから最適なバージョンのレコードが作成されます。重複レコードのマージ中に競合を解決するように生存ルールを構成できます。

生存ルール・タイプの理解

生存ルールには、2つのタイプがあります。ビジネス・ニーズに基づいてこれらを構成できます。これらは次のとおりです。

- マスター・レコードの設定: 一連の潜在的な重複レコードの中からマスター・レコードを選択するための基準を定義する場合に「マスター・レコードの設定」ルールを構成します。
- 属性値の設定: 複数の入力レコードの中から最適な属性値を選択するための基準を定義する場合に「属性値の設定」ルールを構成します。

事前定義済の生存ルールの理解

アプリケーションですぐに使用できる、次の6つの事前定義済の「属性値の設定」ルールが用意され

ています。

- 最も以前に更新された組織属性(**History Wins**): このルールでは、更新日付が最も古い組織属性が選択されます。
- 最も最近更新された組織属性(**Recent Wins**): このルールでは、更新日付が最新の組織属性が選択されます。
- 最も高い組織ソース確度レベルを優先: このルールでは、ソースの信頼度レベルが最高の組織属性値が選択されます。
- 最も以前に更新された個人属性(**History Wins**): このルールでは、更新日付が最も古い個人属性が選択されます。
- 最も最近更新された個人属性(**Recent Wins**): このルールでは、更新日付が最新の個人属性が選択されます。
- 最も高い個人ソース確度レベルを優先:: このルールでは、ソースの信頼度レベルが最高の個人属性値が選択されます。

さらに、事前定義済のテンプレートを使用して新しい「属性値の設定」ルールを作成できます。

これらの事前定義済の属性ルールを表示するには、「生存ルールの管理」タスクで「検索」ボタンをクリックします。これらの事前定義済の生存ルールを開始点として使用し、自分のビジネスに最適な基準を定義できます。これらのルールはリリースごとに更新されます。これらのルールを作成、編集および削除することもできます。ただし、既存のルールを削除することはお勧めしません。デフォルトでは、これらの事前定義済の生存ルールは非アクティブ・ステータスになっており、「生存ルールの管理」タスクからこれらのルールをアクティブ化できます。

生存ルールの有効化

「設定および保守」作業領域で次の項目を使用して、**ZCH_ENABLE_SURVIVORSHIP**プロファイル・オプションを「はい」に設定することで、生存機能を有効にできます。

- オファリング: 顧客データ管理
- 機能領域: 顧客ハブ
- タスク: 顧客ハブ・プロファイル・オプションの管理

生存ルールの管理

「設定および保守」作業領域で次のように移動して、生存ルールを作成、編集および削除できます。

- オファリング: 顧客データ管理
- 機能領域: 顧客ハブ
- タスク: 生存ルールの管理

これらのルールは、ソース・システムの確度レベルおよびその他の基準を使用して特定のソース・システムから保持する必要があるレコードの属性を決定するものであり、生存ルール辞書**XML**ファイルに格納されます。

注意: アプリケーションは、アプリケーション・コンポーザ・サンドボックス内での生存ルールの変更をサポートしていません。そのため、マージ・エンジンは、アプリケーション・コンポーザ・サンドボックス内でこれらのルールに加えられた変更をピックしません。アプリケーション・コンポーザ・サンドボックスでカスタム属性またはカスタム・オブジェクトを定義した場合は、サンドボックスを公開して終了してから、「生存ルールの管理」設定タスクで生存ルールを変更する必要があります。

生存ルールの定義

この例は、生存ルールを作成する方法を示しています。生存ルールを使用すると、マージ操作時に保持するレコードを選択するための基準を指定することで、特に複数のソース・システムから最適なバージョンのレコードをインテリジェントに作成できます。

生存ルールの作成

生存ルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オファリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: 顧客ハブ
 - タスク: 生存ルールの管理
2. 「生存ルールの管理」ページで、「処理」メニューから「追加」をクリックします。
3. 「生存ルールの作成」ページに、次の表に示すサンプル情報を入力します。

フィールド 値

ルール名 **PickPersonMasterRule**

説明 レコードのオリジナル・ソース・システムに基づいてマスター個人レコードを選択します。

ルール・タイプ マスター・レコードの設定

注意: 「マスター・レコードの設定」と「属性値の設定」の2種類の生存ルールを作成できます。事前定義済のテンプレートを使用して、「属性値の設定」ルールを作成できます。

オブジェクト・タイプ 個人

注意: 「個人」と「組織」の2種類のパーティ・レコードについて生存ルールを作成できます。

4. 「適用」をクリックします。「生存ルールの定義: マスター・レコードの選択」ページが表示さ

れます。

マスター・レコードの選択基準の指定

次に、マスター・レコードを選択するための基準を指定する手順を示します。

1. 「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」 ページにナビゲートします。
2. 「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」 ページで、**IF/THEN**ルール条件として次の表に示す情報を入力します。

ルール
条件 値

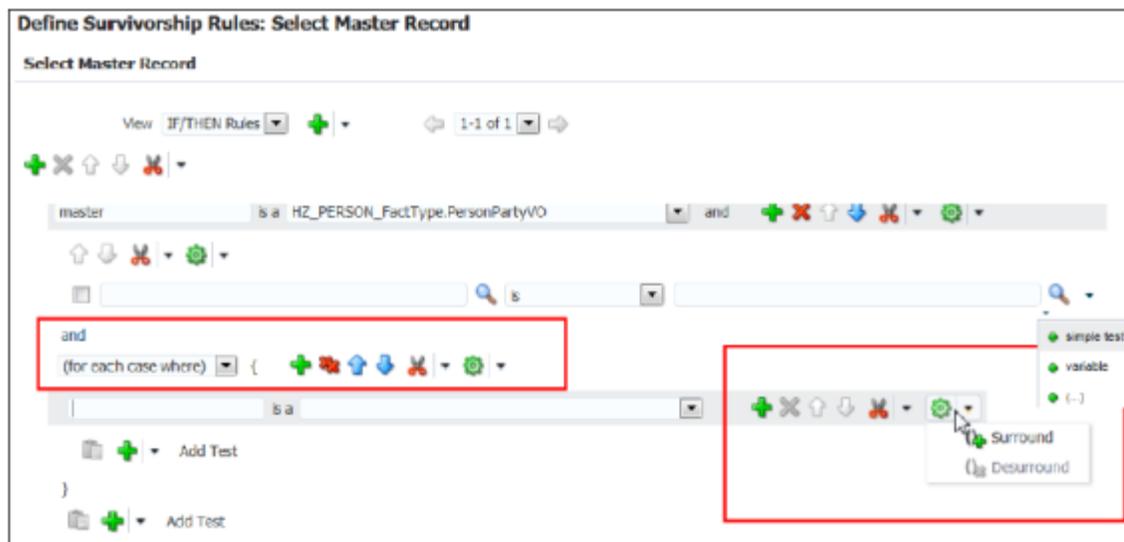
IF条件 IF PersonParty is a TCHFactTypeDictionary.PersonPartyVO and there is a case where {OrigSourceSystem} != null and OrigSourceSystem.OwnerTableId == PersonParty.PartyId and OrigSourceSystem.OrigSystem == "GSI"}

THEN条件 THEN Assert new Result (name:"masterId", value:"PersonParty.PartyId")

「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」 ページでは、次の仕様に注意してください。

- 追加条件を含めるためにパターンを追加する場合は、+アイコンをクリックします
- 条件に機能を追加する場合は、「カッコで囲む」オプションをクリックします
- 句を追加する場合は、+単純なテスト・オプションを選択します

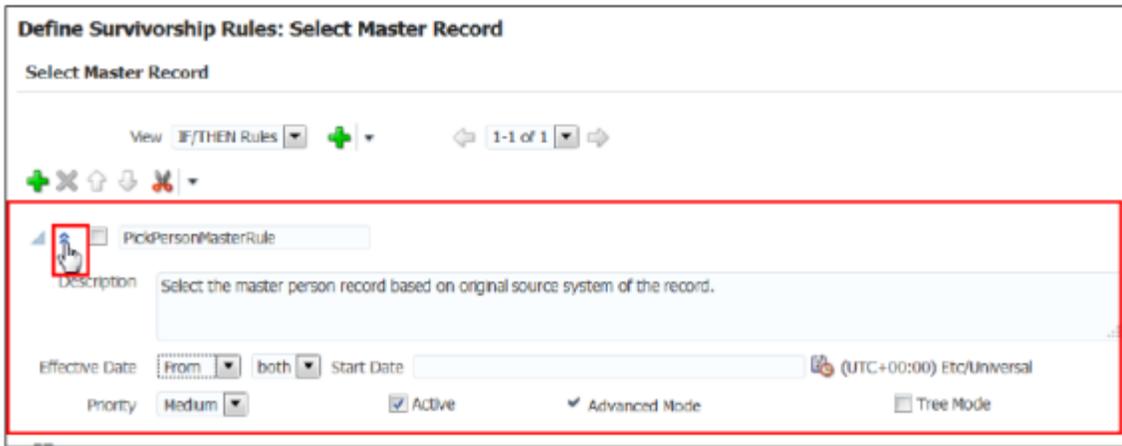
次の図は前後アイコンが強調表示された「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」 ページを示しています。



3. 「拡張設定」 ボタンをクリックして、作成するルールの有効日を確認します。

次の図は、「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」 ページの「拡張設定」 アイコンを

示しています。

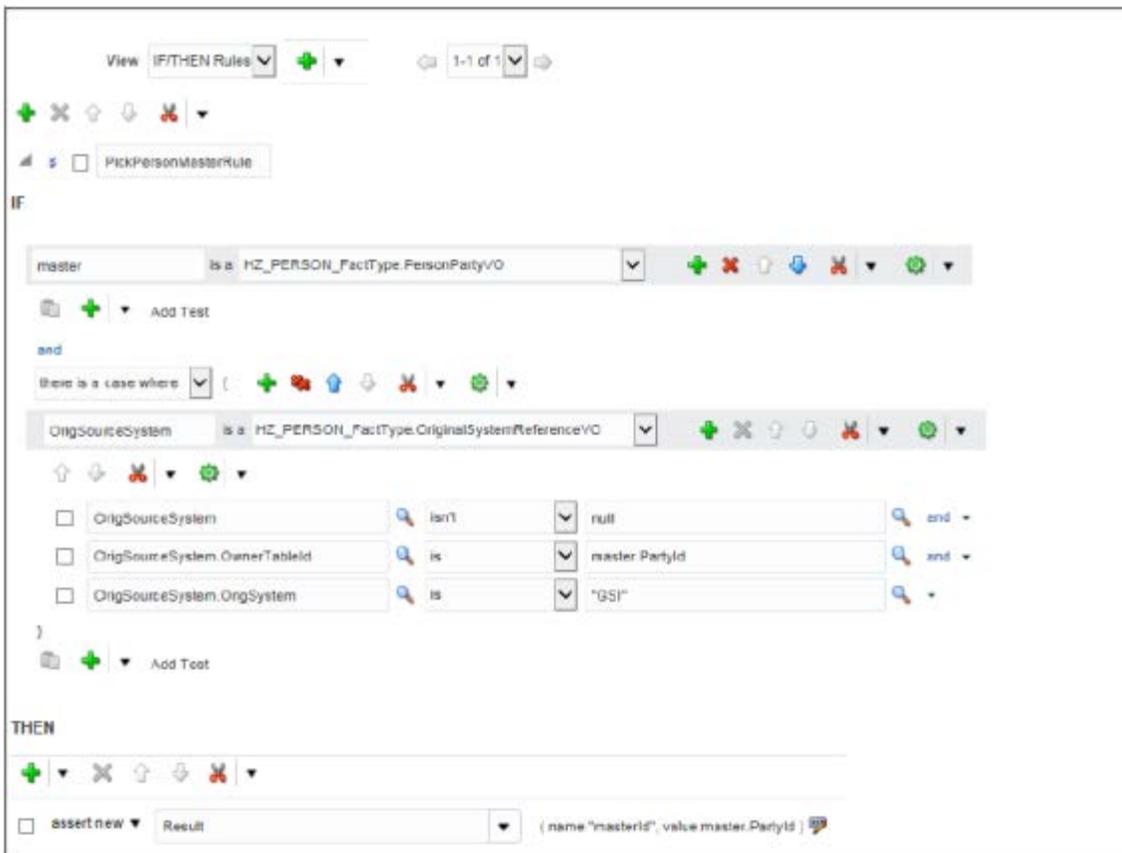


4. 必要に応じて有効日を選択します。デフォルトの有効日は「常時」です。有効開始日または有効終了日を選択するか、有効日の範囲を選択できます。
5. 必要に応じてルール of 優先度を選択します。

生存ルールのデフォルト優先度は「中」です。これらのルールは優先度の順に実行されます。

6. ルール・アクティブ・オプションが選択されていることを確認してください。

次の図は、定義が完了した生存ルールを示しています。詳細には、ルール名およびマスターを決定するためのIF条件とTHEN条件が含まれています。



7. 「保存してクローズ」をクリックします。「生存ルールの管理」ページで、新しく作成したルールを検索して表示できます。
8. 「発行」をクリックします。

ヒント: ルールをアクティブ化するには、「発行」をクリックする必要があります。「アクティブ」モードを選択していても、発行しないかぎりルールはアクティブ化されません。

関連項目

- [顧客データ管理の実装: 生存の定義](#)
- [MOSドキュメント: 生存ルールの定義](#)

マスター・レコード設定ルールの定義

この手順は、「マスター・レコードの設定」タイプの生存ルールを作成する方法を示しています。「マスター・レコードの設定」ルール・タイプを使用して、レコード・レベルで生存を決定できます。マスター設定ルールは、単一のレコードをマスター・レコードとして設定するためにパーティ・マージで使用されます。

マスター・レコード設定ルールの定義

生存ルールの入力は**IF**句で指定します。マスター設定ルールでの入力は、一連のパーティ・レコードです。**THEN**句には、マスター・レコードを決定する出力が含まれます。「マスター・レコードの設定」ルールでは、出力は特定のパーティ**ID**を含む結果オブジェクトです。異なるパーティ**ID**を持つ複数のレコードが返された場合は競合エラーになります。マスター設定ルールを作成する手順は、次のとおりです。

マスター設定ルールを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「生存ルールの管理」タスクにナビゲートします。
2. 「追加」をクリックします。「生存ルールの作成」ページが表示されます。
3. 「生存ルールの作成」ページに、次の表に示す情報を入力します。

フィールド	値
ルール名	PickOrganizationMasterRule
説明	指定したマスター・レコードの設定基準に基づいて、マスター組織レコードを選択します。
ルール・タイプ	マスター・レコードの設定
オブジェクト・タイプ	組織

4. 「適用」をクリックします。「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」ページが表示されます。

「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」ページで、マスター・レコードをピックする基準を指定します。このページで定義した基準によって、ルールの出力が決まります。

次の各トピックでは、「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」ページでマスター・レコードを設定するための基準を定義する異なる方法を示す3つの作業例を紹介します。

- 作成日が最も古いレコードのマスターとしての設定
- D-U-N-S番号と最小パーティIDを持つレコードのマスターとしての設定
- D-U-N-S番号と最大パーティ・サイト数を持つレコードのマスターとしての設定

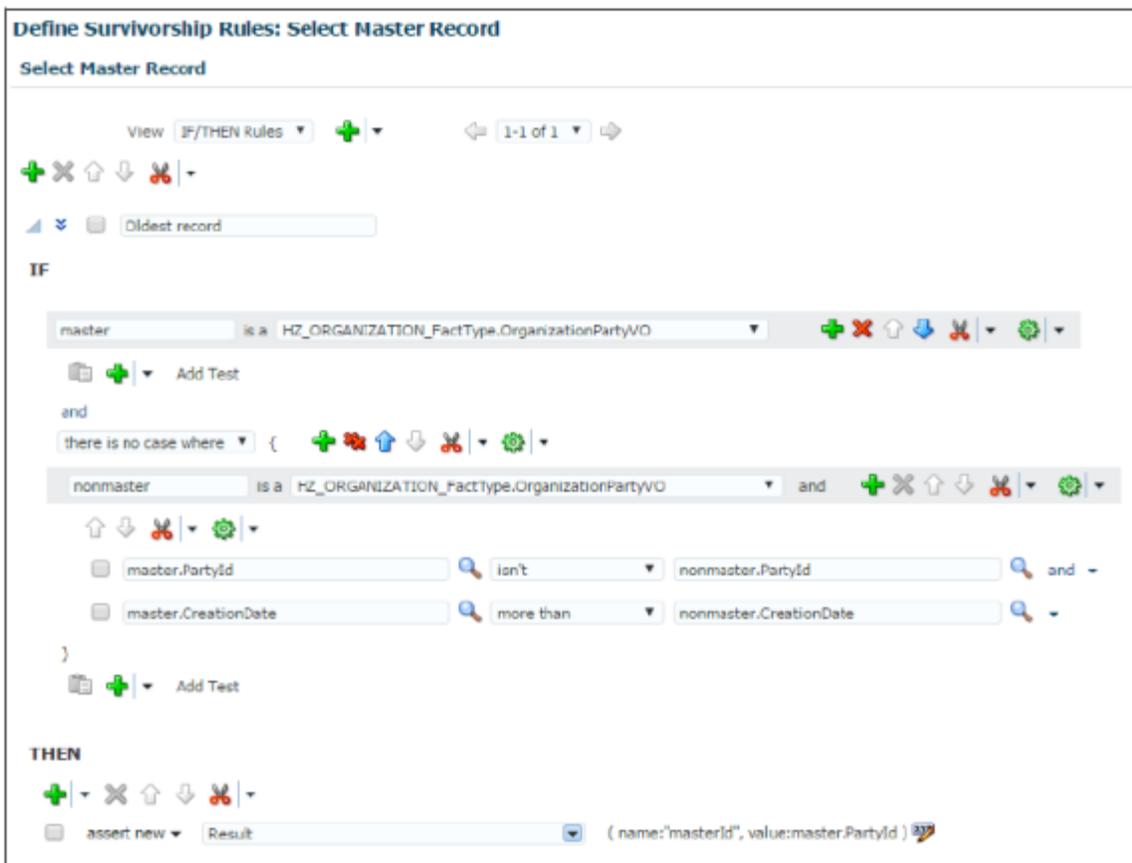
作成日が最も古いレコードのマスターとしての設定

このルールには、作成日が最も古いレコードをマスターとして設定する単一の条件があります。

1. 「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」ページにナビゲートします。
2. 「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」ページで、**IF/THEN**ルール条件として次の表に示す情報を入力します。

ルール条件	値
IF 条件	<pre>IF master is an HZ_PERSON_FactType.PersonPartyVO and there is no case where {nonmaster == HZ_PERSON_FactType.PersonPartyVO and master.PartyId isn't nonmaster.PartyId and master.creationDate is more than nonmaster.CreationDate}</pre>
THEN 条件	<pre>THEN Assert new Result (name:"masterId", value:" master.PartyId)</pre>

次の図は、作成日が最も古いレコードをマスターとして設定する**IF**および**THEN**ルール条件の入力が完了した「生存ルール of 定義: マスター・レコードの選択」ページを示しています。



D-U-N-S番号と最小パーティIDを持つレコードのマスターとしての設定

このルールは、次の3つの条件に基づいてこの優先度でマスター・レコードを識別して返します。

1. D-U-N-S番号を持つマスターをピックします。
2. D-U-N-S番号を持つレコードが複数ある場合は、最小パーティIDに基づいて1つのレコードをピックします。
3. D-U-N-S番号を持つレコードがない場合は、最小パーティIDに基づいて1つのレコードをピックします。

D-U-N-S番号と最小パーティIDに基づいてマスターをピックするための「マスター・レコードの設定」ルールのユース・ケースを次に示します。

ユース・ケース1

この例では、D-U-N-S番号を持つ2つのレコードがあります。そのため、最小パーティIDを持つレコードがマスター・レコードとしてピックされます。次の表に、このユース・ケースのサンプル・レコード情報を示します。

レコード名 パーティID D-U-N-S番号 マスター

レコード1 11 998837472 可

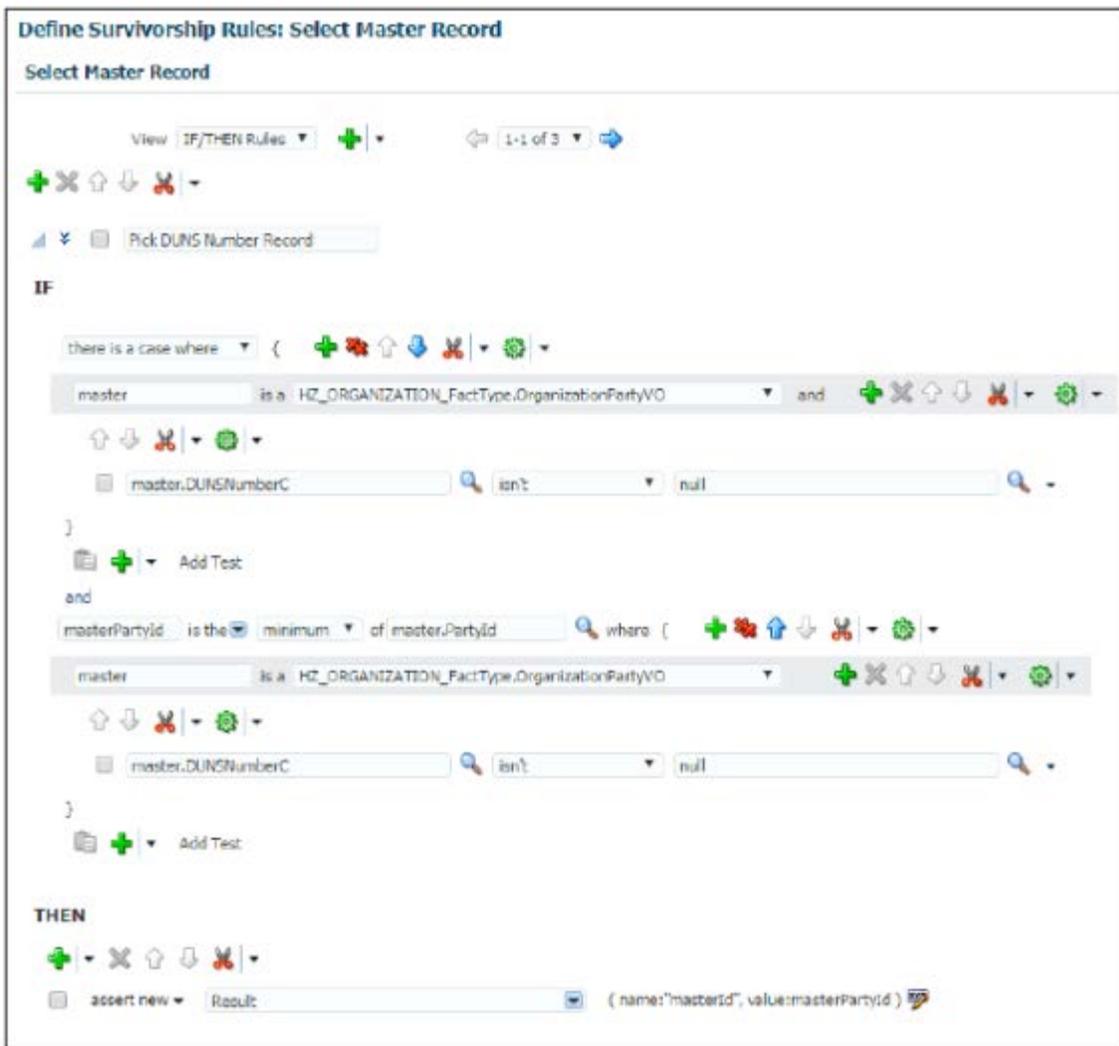
レコード**2** 12 null いいえ

レコード**3** 13 984939234 いいえ

次の表に、このユース・ケースで「生存ルール¹の定義: マスター・レコードの選択」ページに入力する必要がある**IF**および**THEN**ルール条件の値を示します。

ルール条件	値
IF 条件	<pre>Pick D-U-N-S number{IF master is an HZ_PERSON_FactType.OrganizationPartyVO master.DUNsNumberC isn't null} masterPartyID is the minimum of masterPartyID where {master= HZ_PERSON_FactType.OrganizationPartyVO and master.DUNsNumberC isn't null}</pre>
THEN 条件	<pre>THEN Assert new Result (name:"masterId", value:" master.PartyId)</pre>

次の図は、**D-U-N-S**番号と最小パーティ**ID**を持つレコードをマスターとしてピックアップするための**IF**および**THEN**ルール条件が指定された「生存ルール¹の定義: マスター・レコードの選択」ページを示しています。



ユース・ケース2

この例では、**D-U-N-S**番号を持つレコードがありません。そのため、最小パーティ**ID**を持つレコードがマスター・レコードとしてピックされます。次の表に、このユース・ケースのサンプル・レコード情報を示します。

レコード名 パーティ**ID** **D-U-N-S**番号 マスター

レコード**1** 21 null 可

レコード**2** 22 null いいえ

レコード**3** 23 null いいえ

次の表に、このユース・ケースで「生存ルールの定義: マスター・レコードの選択」ページに入力する必要がある**IF**および**THEN**ルール条件の値を示します。

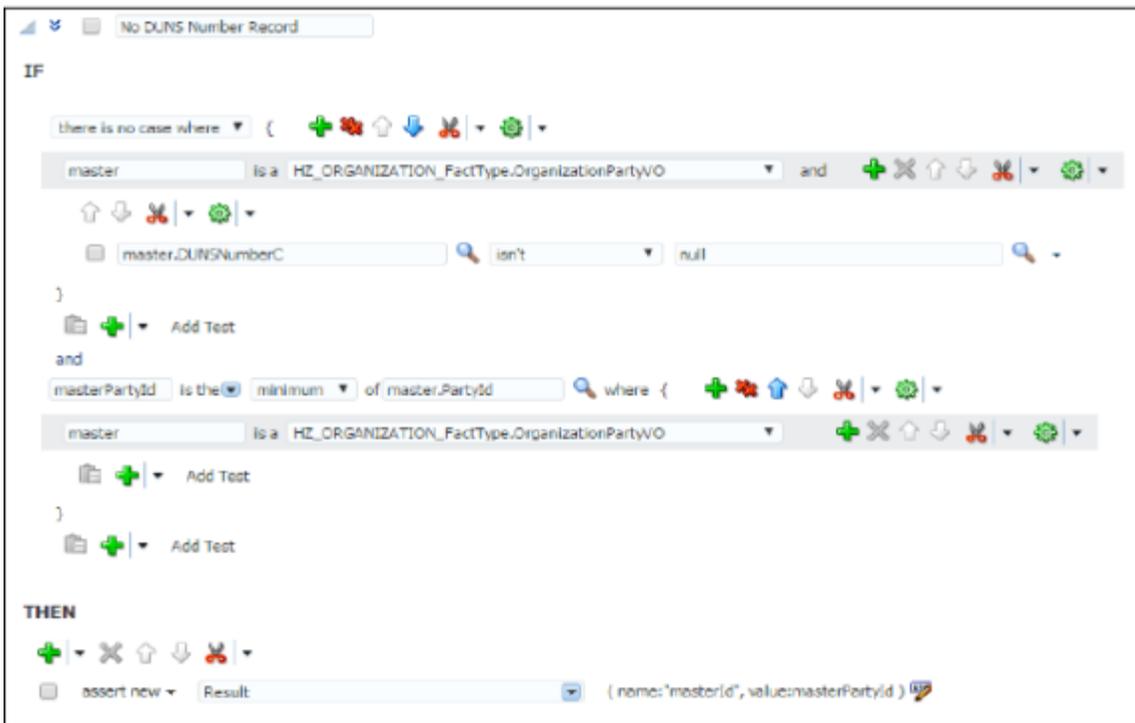
ルール条件 値

IF条件

```
Pick D-U-N-S number
{IF master is an HZ_PERSON_FactType.OrganizationPartyVO
master.DUNsNumberC isn't null}
and
masterPartyID is the minimum of masterPartyID
where
{master= HZ_PERSON_FactType.OrganizationPartyVO and
master.DUNsNumberC isn't null}
```

THEN条件 THEN
Assert new Result (name:"masterId", value:" master.PartyId)

次の図は、**D-U-N-S**番号を持つレコードが見つからない場合に、最小パーティ**ID**を持つレコードをマスターとして設定するための**IF**および**THEN**ルール条件の入力が完了した「生存ルールの定義: マスター・レコードの選択」ページを示しています。



この例では、組織に対して**2**つのマスター設定ルールを作成しました。**1**つ目は、入力レコードに**D-U-N-S**番号を持つレコードが**1**つ以上含まれている場合のルールです。**2**つ目は、**D-U-N-S**番号を持つレコードがない場合のルールです。

注意: 同時に複数の生存ルールをアクティブにすることができます。複数のルールをアクティブ化する場合は、ルールの競合を避け、ルールの条件を所定の優先度に基づいて設定してください。

D-U-N-S番号と最大パーティ・サイト数を持つレコードのマスターとしての設定

このルールは、次の**3**つの条件に基づいてこの優先度でマスター・レコードを識別して返します。

1. **D-U-N-S**番号を持つマスターをピックします。
2. より多くのパーティ・サイトを持つマスターをピックします。
3. 最小パーティ**ID**を持つマスターをピックします。

次に、**D-U-N-S**番号、パーティ・サイト数およびパーティ**ID**に基づいてマスター・レコードを選択するためのマスター設定ルールを作成する2つのユース・ケースを示します。

ユース・ケース1

この例では、**D-U-N-S**番号を持つレコードが3つあり、最大パーティ・サイト数を持つレコードが2つあります。この2つのレコードのうち、パーティ**ID**の値が小さい方のレコードがマスターとして選択されます。次の表に、このユース・ケースのサンプル・レコード情報を示します。

レコード名	パーティ ID	パーティ・サイト数	D-U-N-S 番号	マスター
レコード 1 11	3	198837472	可	
レコード 2 12	3	489203901	いいえ	
レコード 3 13	2	384792392	いいえ	
レコード 4 14	1	null	いいえ	

ユース・ケース2

この例では、**D-U-N-S**番号を持つレコードがありません。そのため、パーティ・サイト数が多い2つのレコードのうち、より小さいパーティ**ID**を持つレコードがマスター・レコードとしてピックされます。次の表に、このユース・ケースのサンプル・レコード情報を示します。

レコード名	パーティ ID	パーティ・サイト数	D-U-N-S 番号	マスター
レコード 1 21	1	null	いいえ	
レコード 2 22	2	null	可	
レコード 3 23	3	null	いいえ	

D-U-N-S番号、パーティ・サイト数およびパーティ**ID**を持つマスター・レコードを作成するには、**D-U-N-S**番号を持つマスター・レコードを設定した前述の例にもう1つ条件を追加します。前述の例に条件を追加すると、ルールが複雑で扱いにくくなります。かわりに、潜在的なマスター・レコードのリストを絞り込むための条件ごとに単純なルールを作成し、最後に潜在的な残りのマスター・レコードの中から1つのレコードをピックするための別の単純なルールを作成します。

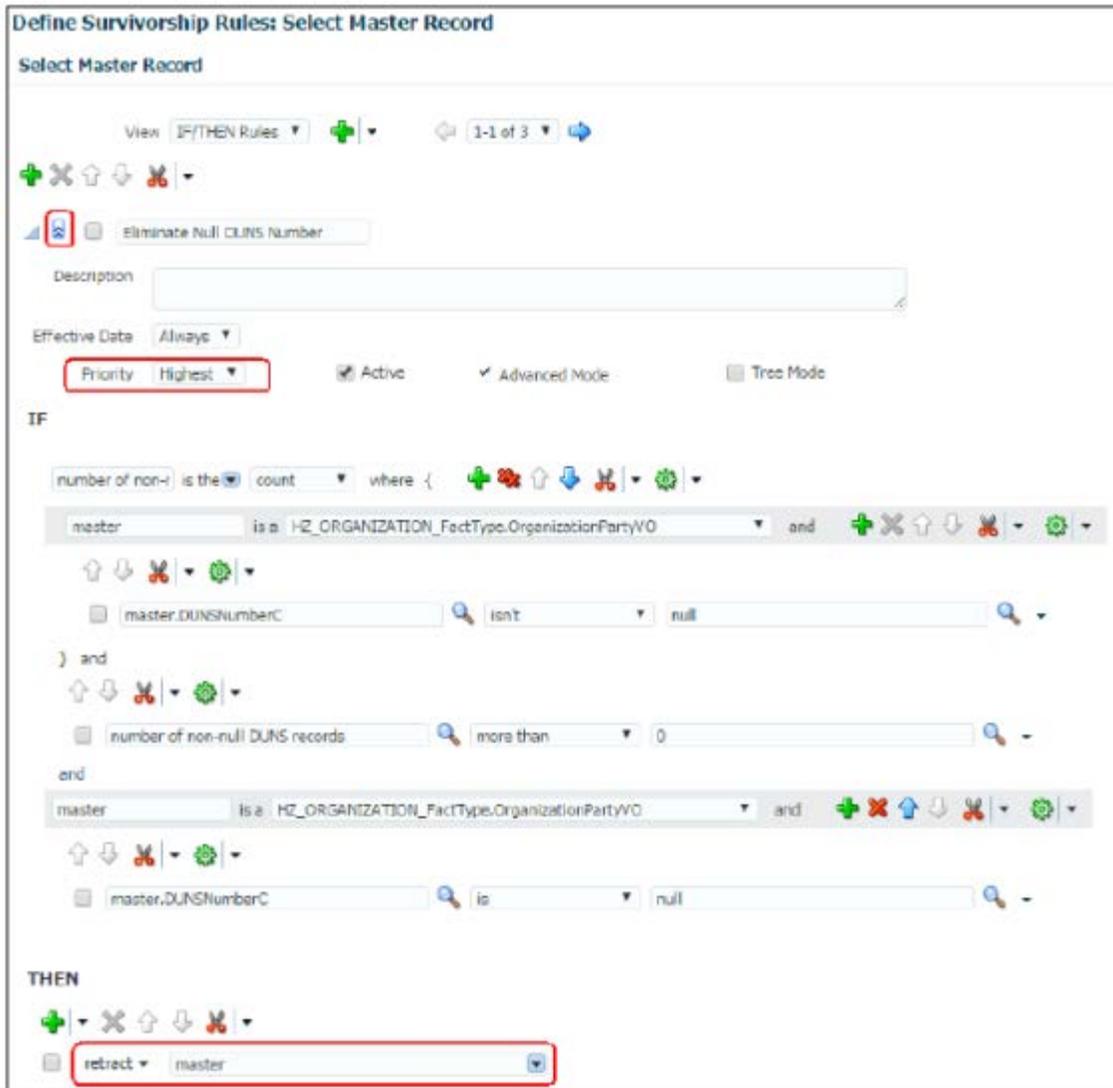
注意: 同時に複数の生存ルールをアクティブにすることができます。複数のルールをアクティブ化する場合、ルールの競合を避け、ルールの条件を所定の優先度に基づいて設定してください。

次の図は、**D-U-N-S**番号を持つレコードをマスターとして設定するマスター設定ルールを作成するための**IF**および**THEN**ルール条件値が指定された「生存ルール: マスター・レコードの選択」ページを示しています。ルールの優先度は「最高」に設定されています。条件の詳細は次のとおりです。

優先度: 最高

IF条件: If number of non-null DUNS records is the count where {master is a HZ_ORGANIZATION_FactType.OrganizationPartyVO and master.DUNSNumberC isn't null} and number of non-null DUNS records more than 0 and master is a HZ_ORGANIZATION_FactType.OrganizationPartyVO and master.DUNSNumberC is null

THEN条件: Then retract master



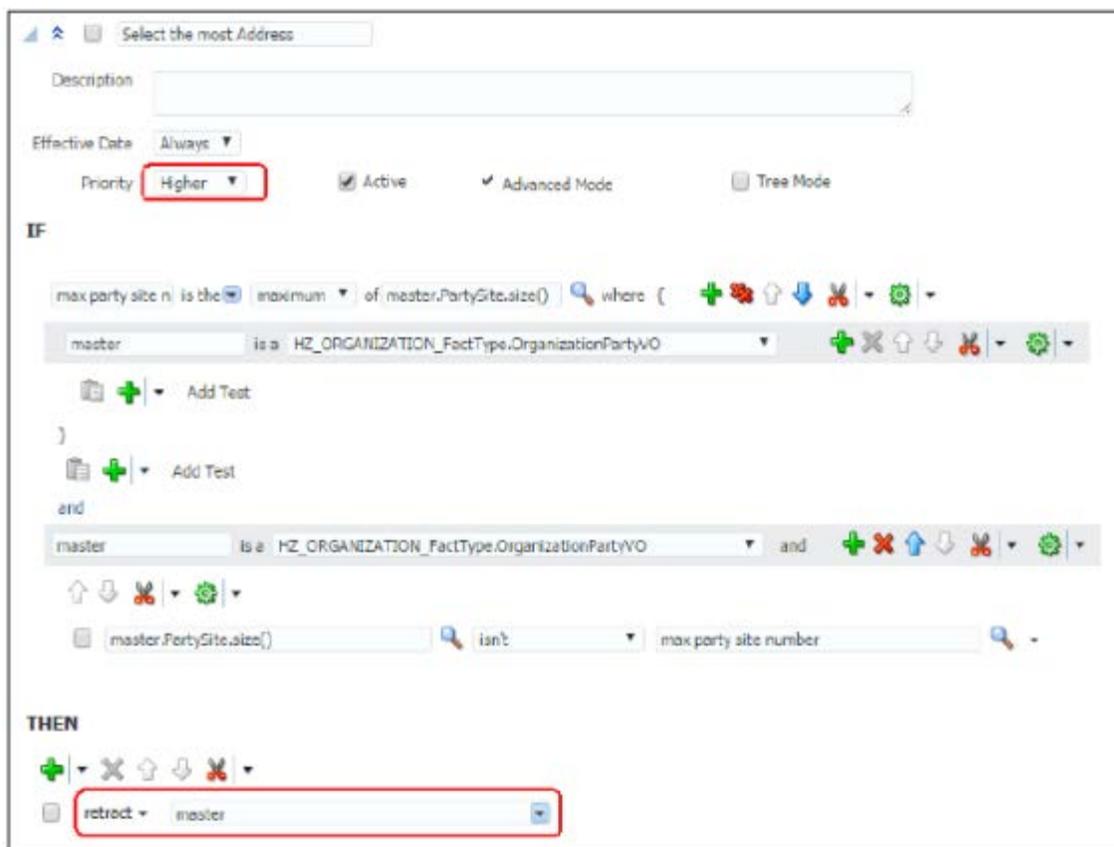
次に、最大数のパーティ・サイトを持つレコードをマスターとして設定する条件を設定します。

次の図は、潜在的な残りのレコードの中から、最大数のパーティ・サイトを持つレコードをマスターとして設定するためのIFおよびTHEN条件値が指定された「生存ルール: マスター・レコードの選択」ページを示しています。ルールの優先度は「より高い」に設定されています。条件の詳細は次のとおりです。

優先度: より高い

IF条件: If maximum party site number is the maximum of master.PartySite.size() where {master is a HZ_ORGANIZATION_FactType.OrganizationPartyVO} and master is a HZ_ORGANIZATION_FactType.OrganizationPartyVO and master.PartySite.size() isn't maximum party site number

THEN条件: Then retract master



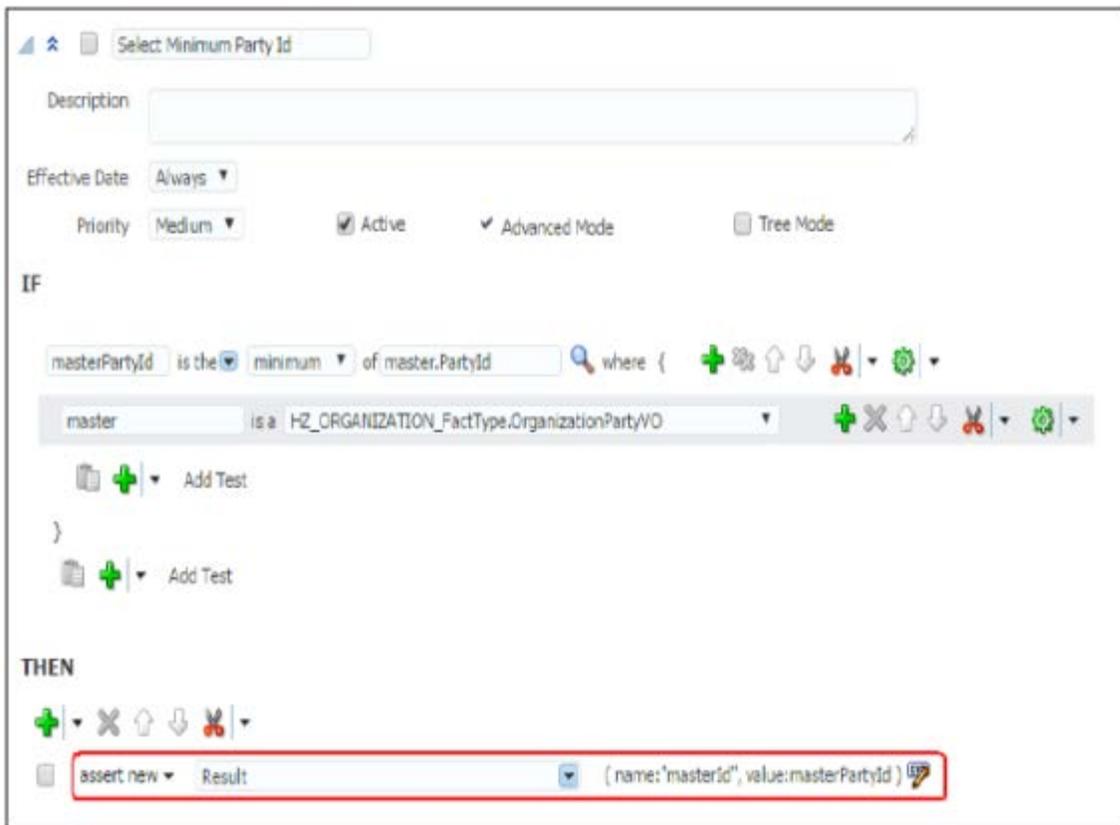
前述の2つの条件でレコードをスクリーニングするときに、潜在的な残りのレコードすべてを最小パーティIDでスクリーニングするための3つ目の条件を作成します。

次の図は、最小パーティIDを持つレコードをマスターとして設定するマスター設定ルールを作成するためのIFおよびTHEN条件値が指定された「生存ルール: マスター・レコードの選択」ページを示しています。ルールの優先度は「中」に設定されています。条件の詳細は次のとおりです。

優先度: 中

IF条件: If masterPartyId is the minimum of master.PartyId where {master is a HZ_ORGANIZATION_FactType.OrganizationPartyVO}

THEN条件: Assert new Result(name: "masterId",value:masterPartyId)



この例では、潜在的なマスター・レコードのリストを絞り込むためのルールが作成されます。同時に複数のルールをアクティブ化する場合は、優先度に従って潜在的なマスター・レコードのリストを絞り込む条件をルールに設定する必要があります。この例では、**D-U-N-S**番号を持つレコードを選択するための、「**Eliminate Null D-U-N-S Number**」ルールが最初に実行されます。次に、**D-U-N-S**番号を持つ潜在的なマスター・レコードの中から、最大パーティ・サイト数のマスター・レコードを見つけるために「**Select the Most Address**」ルールが実行されます。最後に、残りのパーティ・レコードの中から最小パーティIDをピックアップするために、「**Select Minimum Party ID**」ルールが実行されます。

属性値設定ルールの定義

この例は、「属性値の設定」タイプの生存ルールを作成する方法を示しています。「属性値の設定」生存ルール・タイプを使用して、属性レベルで生存を決定できます。「属性値の設定」ルールは、どの属性値をどのレコードから取得する必要があるかを決定するためにパーティ・マージで使用されます。

生存ルールの入力にはIF句で指定します。「属性値の設定」ルールでの入力は、パーティ・レコードとそのソース情報です。ソース情報にはデータベース内にある各レコードのすべての属性に関する情報が含まれています。ソース情報VOを使用するルールを作成する場合は、「ソース・システム確度の管理」タスクの「ソース・システム確度の定義」ページで定義します。各属性をそのソース・システムにマップし、1から100のスケールでソース確度スコアを指定する必要があります。

次の表に、「属性値の設定」ルールを作成するためのソース情報VOの属性を示します。

属性名	説明
RecordId	特定の属性のレコードID。

AttributeName 属性の名前。

Source 属性の更新元となるソース・システム。

SourceConfidenceLevel ソース・システムに割り当てられるソース確度レベル。

SourceUpdateDate 属性が最後に更新された日付。

THEN句によって、生存レコードをピックアップする出力オブジェクトが決定されます。この場合は、**setAttribute**関数によって出力オブジェクトが作成されます。「属性値の設定」ルールを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「生存ルールの管理」タスクにナビゲートします。
2. 「追加」をクリックします。「生存ルールの作成」ページが表示されます。

ヒント: 「生存ルールの作成」ページで使用可能な属性から複数の属性を選択できます。これにより、ルール・テンプレートに、選択した属性が事前移入されます。必ずしも、使用可能な属性の中から属性を設定する必要はありません。

3. 「生存ルールの作成」ページに、次の表に示すサンプル情報を入力します。

フィールド 値

ルール名 **PickAttributeValueRule**

説明 指定した生存選択基準に基づいて特定の属性の生存値を選択します。

指定した生存
選択基準に基
づいて特定の
属性の生存値
を選択しま
す。 属性値の設定

オブジェク
ト・タイプ 組織

テンプレート 属性の特徴に基づいて生存値を選択する場合は、「属性ベース」テンプレートを選択します。たとえば、パーティ番号や給与の最大値または最小値や、最も古い設立年度を持つ属性をピックアップするには、「属性ベース」テンプレートが必要です。ソース情報の確度に基づいて生存値を選択する場合は、「ソース確度ベース」テンプレートを選択します。

4. 使用可能な属性の中から属性を選択し、ルール・テンプレートに事前移入します。事前定義済の属性設定ルールを使用する場合は、属性を選択しないでください。
5. 「適用」をクリックします。「生存ルールの定義: 属性値の選択」ページが表示されます。

「生存ルールの定義: 属性値の選択」ページで、生存属性値を選択する基準を指定します。このページで定義する基準によって、ルールの機能が決定されます。または、次の3つの事前定義済テンプレートの1つを使用することもできます。

- ソース確度レベルが最高の組織(または個人)を選択: ソース確度レベルが最も高い属性値を選択するには、このルールを使用します。
- 更新日が最新の組織(または個人)属性: 更新日が最新の属性値を選択するには、このルールを使用します。
- 更新日が最も古い組織(または個人)属性: 更新日が最も古い属性値を選択するには、このルールを使用します。

このトピックの次の各項には、「生存ルールの定義: 属性値の選択」ページで生存属性値を手動で設定するための異なる方法を示す3つの作業例があります。これらは次のとおりです。

- 更新日が最も古い値の生存属性値としての設定
- ソース確度レベルが最も高い値のD-U-N-S番号の生存属性値としての設定
- 設立年度が最も古い値の生存属性値としての設定

更新日が最も古い値の生存属性値としての設定

このルールには、最も古い更新日に基づいてすべての生存属性値を設定する単一の条件が含まれます。次に、更新日が最も古い値を生存属性値として選択する属性設定ルールのユース・ケースを示します。

ユース・ケース1

パーティ・レコード

次の表に、パーティ・レコードの情報を示します。

レコード名	パーティID	パーティ名	D-U-N-S番号
レコード1	1	Oracle Corp	198837472
レコード2	2	Oracle USA Corp	489203901
レコード3	3	Oracle	null

ソース情報

次の表に、ソース情報レコードの情報を示します。

レコードID	属性名	Source	ソース確度レベル	ソースの更新日
1	パーティ名	FUSION 95		1/5/2016
2	パーティ名	FUSION 95		1/5/2010
3	パーティ名	SIEBEL 90		1/5/2000
1	D-U-N-S番号	DNB 100		2/5/1990
2	D-U-N-S番号	FUSION 95		1/5/2016

その場合は、次のようになります。

- ソース情報で、ID 1のレコードのソース更新日が最も古いことが示されているため、このレコードの「D-U-N-S番号」属性値が生存として選択されます。
- ソース情報で、ID 3のレコードのソース更新日が最も古いことが示されているため、このレコードの「パーティ名」属性値が生存として選択されます。

「生存ルールの定義: 属性値の選択」ページに、次の表に示すIFおよびTHENルール条件値を入力します。

ルール条件

値

IF条件

```
IF picked attribute is a AttributeSourceInfoVO
and there is no case where {
Other Attribute == AttributeSourceInfoVO and
there is no case where
Other Attribute is a AttributeSourceInfoVO
Picked Attribute.AttributeName is OtherAttributeName and
PickedAttribute.RecordId isn't Other Attribute.recordId and
Picked Attribute.SourceUpdateDate more than OtherAttribute.SourceUpdateDate}
```

THEN条件

```
THEN
call setAttribute (picked attribute.AttributeName, Picked Attribute.RecordId)
```

次の図は、ソース更新日が最も古い値を生存属性値として選択する「属性値の設定」ルールを作成するためのIFおよびTHENルール条件が指定された「生存ルールの定義: 属性値の選択」ページを示しています。図は、次の詳細を示しています。

ルールの名前: History Wins

```
IF条件: If picked attribute is a AttributeSourceInfoVO and there is no case where {Other
Attribute is AttributeSourceInfoVO and Picked Attribute.AttributeName is Other
Attribute.AttributeName and PickedAttribute.RecordId isn't Other Attribute.RecordId and
Picked Attribute.SourceUpdateDate more than Other Attribute.SourceUpdateDate}
```

THEN条件: Then call setAttribute (Picked Attribute.AttributeName, Picked Attribute.RecordId)

Define Survivorship Rules: Select Attribute Value

Select Attribute Value

View IF/THEN Rules + 1-1 of 3

History Wins

IF

Picked Attribute is a AttributeSourceInfoVO

and

there is no case where {

Other Attribute is a AttributeSourceInfoVO and

Picked Attribute.AttributeName is Other Attribute.AttributeName and

Picked Attribute.RecordId isn't Other Attribute.RecordId and

Picked Attribute.SourceUpdateDate more than Other Attribute.SourceUpdateDate

}

THEN

call setAttribute (Picked Attribute.AttributeName, Picked Attribute.RecordId)

ソース・システムの確度レベルが最も高い値の**D-U-N-S**番号の生存属性値としての設定

このルールには、ソース確度レベルが最も高い**D-U-N-S**番号値を「**D-U-N-S**番号」属性の生存属性値として選択する単一の条件が含まれます。次に、ソース確度レベルが最も高い**D-U-N-S**番号値を生存属性値として選択する属性設定ルールのユース・ケースを示します。

ユース・ケース

パーティ・レコード

次の表に、パーティ・レコードの情報を示します。

レコード名	パーティ ID	パーティ名	D-U-N-S 番号
レコード 1	1	Oracle Corp	198837472
レコード 2	2	Oracle USA Corp	489203901
レコード 3	3	Oracle	null

この例では、パーティ・レコードに、「パーティ名」属性を持つ3つのレコードと「D-U-N-S番号」属性を持つ2つのレコードが含まれています。これらの属性は、ソース情報を作成するためにピックアップされます。次に、このパーティ・レコード表の属性を使用して定義されたソース情報表を示します。

ソース情報

次の表に、ソース情報レコードの情報を示します。

レコードID	属性名	Source	ソース確度レベル	ソースの更新日
1	パーティ名	FUSION 95		1/5/2016
2	パーティ名	FUSION 95		1/5/2010
3	パーティ名	SIEBEL 90		1/5/2000
1	D-U-N-S番号	DNB 100		2/5/1990
2	D-U-N-S番号	FUSION 95		1/5/2016

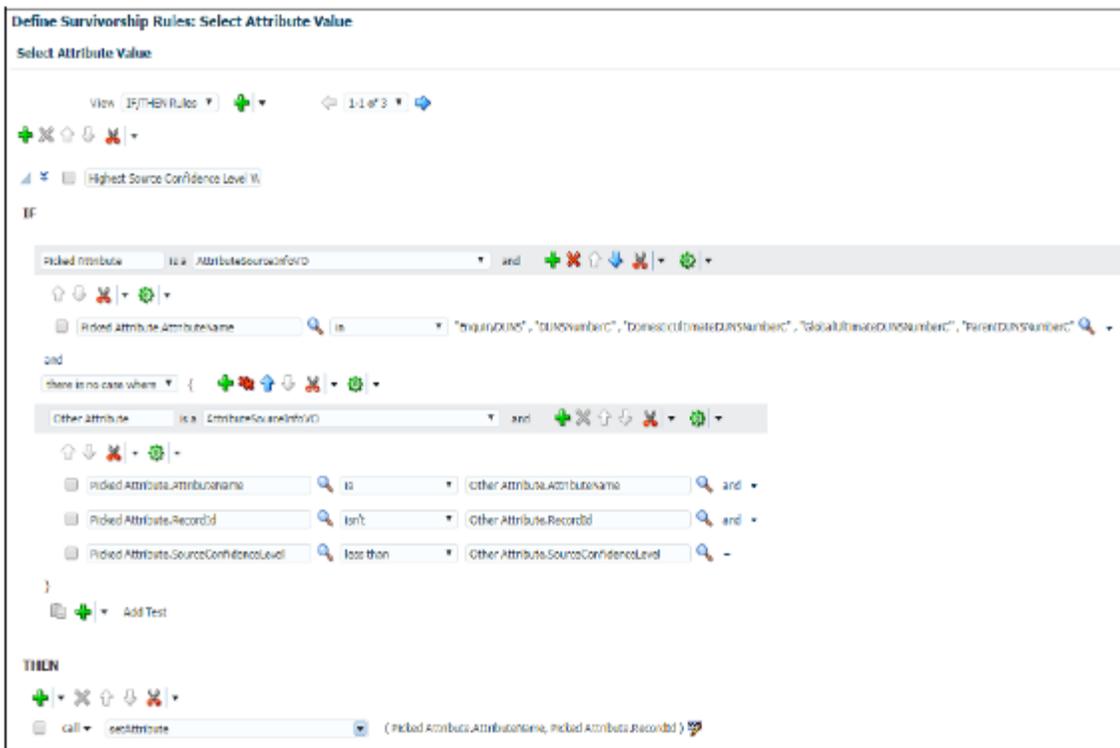
この例では、ソース情報で、ID 1のレコードのソース確度レベルが「D-U-N-S番号」属性を持つすべてのレコードの中で最も高いことが示されているため、そのレコードの「D-U-N-S番号」属性値が生存として選択されます。

次の図は、ソース・システム確度レベルが最も高い属性値を生存として設定するIFおよびTHENルール条件値が指定された「生存ルールの定義: 属性値の選択」ページを示しています。図は、次の詳細を示しています。

ルールの名前: **Highest Source Confidence Level**

IF条件: If picked attribute is a AttributeSourceInfoVO and Picked Attribute.AttributeName is EnquireDUNSNumberC and there is no case where {Other Attribute is a AttributeSourceInfoVO and Picked Attribute.AttributeName is Other Attribute.AttributeName and Picked Attribute.RecordId isn't Other Attribute.RecordId and Picked Attribute.SourceConfidenceLevel is less than OtherAttribute.SourceConfidenceLevel}

THEN条件: Then call setAttribute (Picked attribute.AttributeName, Picked Attribute.RecordId)



設立年度が最も古い値の生存属性値としての設定

このルールには、設立年度が最も古い値を生存属性値として選択する単一の条件が含まれます。次に、そのような「属性値の設定」ルールを作成するユース・ケースを示します。

ユース・ケース1

パーティ・レコード

次の表に、パーティ・レコードの情報を示します。

レコード名	パーティID	パーティ名	設立年度
レコード1	1	Oracle Corp	1980
レコード2	2	Oracle USA Corp	1990
レコード3	3	Oracle	2000

この例では、パーティ・レコード表に「パーティ名」、「パーティID」および「設立年度」属性を持つ3つのレコードが示されています。設立年度が最も古いレコードの属性値が生存属性値としてピックアップされます。

次の図は、設立年度が最も古い属性を生存として設定するIFおよびTHENルール条件値が指定された「生存ルールの定義: 属性値の選択」ページを示しています。図は、次の詳細を示しています。

: Selecting the Earliest Incorporated Year

ルールの名前

IF条件: If for each case where org is a OrganizationDVO and org.IncorpYear isn't null and there is no case where another org is a OrganizationDVO and org.PartyId is not another org.PartyId and another org.IncorpYear isn't null and org.IncorpYear.intValue() is more than another org.incorpyear.intValue()

THEN条件: Then call setAttribute ("IncorpYear", org.PartyId)

```
Define Survivorship Rules: Select Attribute Value
Select Attribute Value
View IF/THEN Rules
1-1 of 4
Selecting the earliest Incorporated
IF
(for each case where) {
  org is a OrganizationDVO and org.IncorpYear isn't null
}
and
there is no case where {
  another org is a OrganizationDVO and org.PartyId isn't another org.PartyId and another org.IncorpYear isn't null and org.IncorpYear.intValue() more than another org.incorpyear.intValue()
}
THEN
call setAttribute ("IncorpYear", org.PartyId)
```

カスタム・オブジェクトおよびカスタム属性を持つパーティに対する生存ルールの定義: 説明

このトピックでは、カスタム・オブジェクトおよびカスタム属性を持つパーティをマージするための生存ルールを定義する方法について説明します。たとえば、最大数のカスタム・オブジェクトを持つパーティや特定の属性を持つパーティをマスターとして選択する「マスター・レコードの設定」タイプの生存ルールを定義できます。特定の属性の最小値を選択する「属性値の設定」タイプの生存ルールを定義することもできます。

カスタム・オブジェクトおよびカスタム属性の理解

Oracle Application Composerを使用して、エンゲージメント・クラウド・アプリケーションを構成および拡張できます。アプリケーション・コンポーザにより、**Oracle Engagement Cloud**アプリケーションのオブジェクト・モデルを拡張できます。新しいフィールド(カスタム・フィールドまたはカスタム属性)を既存のオブジェクト(標準オブジェクト)に追加することで、エンゲージメント・クラウド・オ

プロジェクトを構成できます。または、まったく新しいオブジェクト(カスタム・オブジェクト)および関連フィールド(カスタム属性)を作成します。

生存ルールでのカスタム・オブジェクトおよびカスタム属性の使用方法

次の表に、標準オブジェクトまたはカスタム・オブジェクトに対して実行できる基本的なマージ操作を示します。

オブジェクト	例	マージ可能	転送可能	削除可能
標準トップレベル・オブジェクト	アカウント/組織担当者/個人	可	トップレベル・オブジェクトには適用不可	トップレベル・オブジェクトには適用不可
標準子オブジェクト	住所 電話	はい(データ・スケジュールUIでのレビューにより)	はい(マージまたは削除されていない場合のデフォルト)	はい(データ・スケジュールUIでのレビューにより)
標準子オブジェクト	リード商談	いいえ	はい(常に)	いいえ
カスタム・トップレベル・オブジェクト	適用不可(実装固有)	いいえ	トップレベル・オブジェクトには適用不可	トップレベル・オブジェクトには適用不可
カスタム子オブジェクト	適用不可(実装固有)	いいえ	はい(常に)	いいえ

次の表に、「マスター・レコードの設定」タイプおよび「属性値の設定」タイプの生存ルールの条件、句およびアクションを定義するときに、これらのオブジェクトおよび属性を使用できるかどうかを示します。

オブジェクト	例	「マスター・レコードの設定」ルールの条件で使用可能	「マスター・レコードの設定」ルールの処理で使用可能	「属性値の設定」ルールの条件で使用可能	「属性値の設定」ルールの処理で使用可能	データ・スケジュールUIでの属性上書きで使用可能
標準トップレベル・オブジェクト	アカウント/組織	はい(標準属性と)	はい(標準レコードID)	はい(標準属性とカスタム属性)	はい(標準属性とカスタム属性)	はい(標準属性と)

ブジェクト	担当者/個人	カスタム属性	ド 属性	性)	性)	カスタム属性
標準子オブジェクト	住所 電話	はい(標準属性とカスタム属性)	いいえ(子オブジェクトの生存はサポート対象外)	いいえ(子オブジェクトの生存はサポート対象外)	いいえ(子オブジェクトの生存はサポート対象外)	いいえ(子オブジェクトの属性上書きはサポート対象外)
標準子オブジェクト	リード 商談	はい(標準属性とカスタム属性)	レコードをマージできない場合は適用不可	いいえ	レコードをマージできない場合は適用不可	レコードをマージできない場合は適用不可
カスタム・トップレベル・オブジェクト	適用不可(実装固有)	いいえ	レコードをマージできない場合は適用不可	いいえ	レコードをマージできない場合は適用不可	レコードをマージできない場合は適用不可
カスタム子オブジェクト	適用不可(実装固有)	はい(すべての属性がカスタム)	レコードをマージできない場合は適用不可	いいえ	レコードをマージできない場合は適用不可	レコードをマージできない場合は適用不可

カスタム子オブジェクトを持つパーティに対するマスター・レコード設定ルールの定義: 作業例

このトピックでは、最大数のカスタム子オブジェクトを持つパーティを選択する「マスター・レコードの設定」タイプの生存ルールを定義する方法について説明します。

このルールは、次の2つの条件に基づいてマスター・レコードを識別して返します。

1. カスタム子オブジェクトの数が最も多いマスターをピックします。
2. 最大パーティIDを持つマスターをピックします。

次の表に、最大数のカスタム子オブジェクトを持ち、最大パーティIDを持つパーティをマスター・レコードとして選択する「マスター・レコードの設定」ルールのユース・ケースの詳細を示します。

レコード番号	パーティID	カスタム子オブジェクト数	マスター
レコード1	11	3	いいえ
レコード2	12	3	可

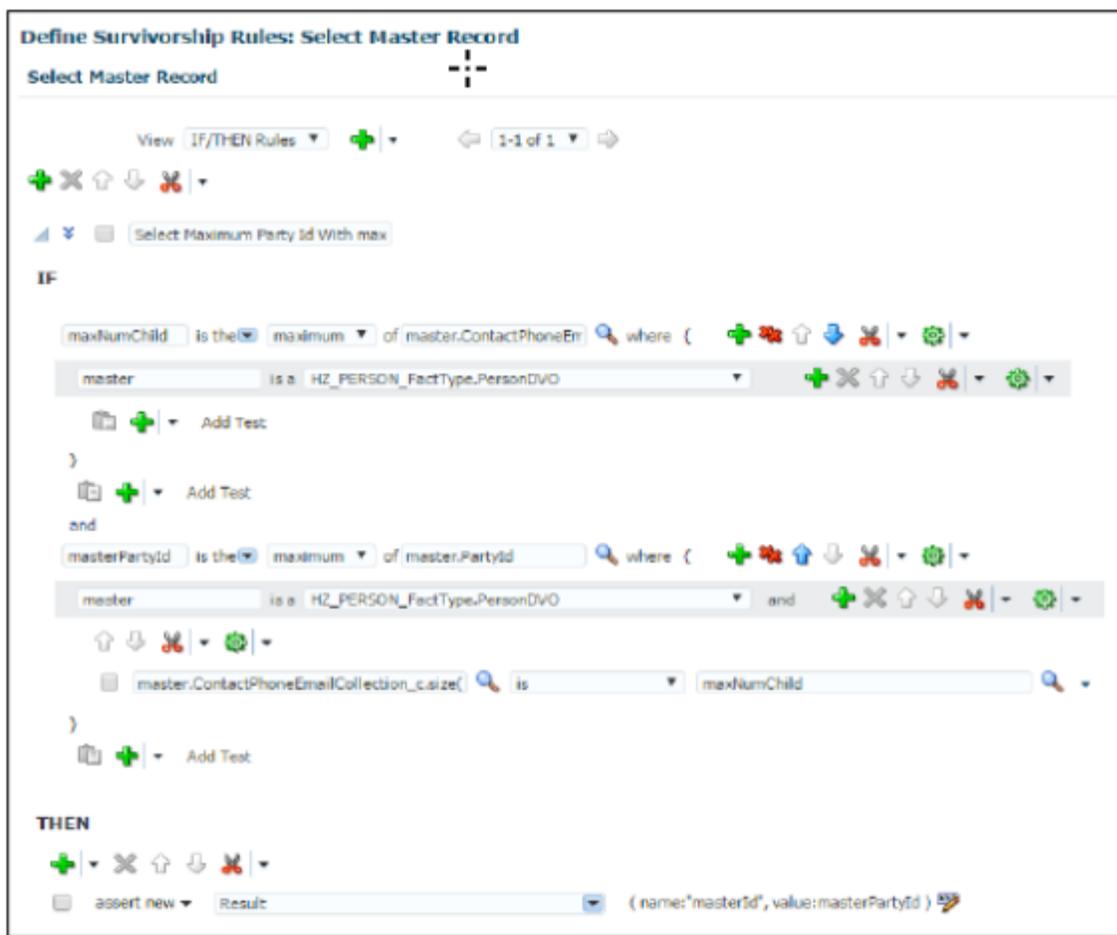
レコード3 13 3 いいえ

レコード4 14 1 いいえ

この例では、カスタム子オブジェクト数が同じレコードが2つあります。したがって、最大パーティIDを持つレコードがマスター・レコードとしてピックされます。

注意: カスタム・オブジェクトの子オブジェクト数はファクト・タイプとして表示されます。**OrganizationDVO**または**PersonDVO**内のアクセサを使用して子オブジェクト数を確認することもできます。

次の図は、最大パーティIDを持ち、最大数のカスタム子オブジェクトを持つレコードをマスター・レコードとしてピックするマスター設定ルールを作成するためのIFおよびTHENルール条件値が指定された「生存ルールの定義: マスター・レコードの選択」ページを示しています。



カスタム属性を持つパーティに対するマスター・レコード設定ルールの定義: 作業例

このトピックでは、特定のカスタム属性を持つパーティをマスターとして選択する「マスター・レコードの設定」タイプの生存ルールを定義する方法について説明します。

このルールは、次の2つの条件に基づいてマスター・レコードを識別して返します。

1. 指定されたカスタム属性を持つマスターをピックします。この例では、カスタム属性は**Testfielddone_c**です。
2. 最大パーティ**ID**を持つマスターをピックします。

次の表に、特定のカスタム属性を持つパーティをマスターとして選択するマスター・レコード・ルールを設定するユース・ケースの詳細を示します。

レコード番号 パーティ **ID Testfielddone_c** マスター

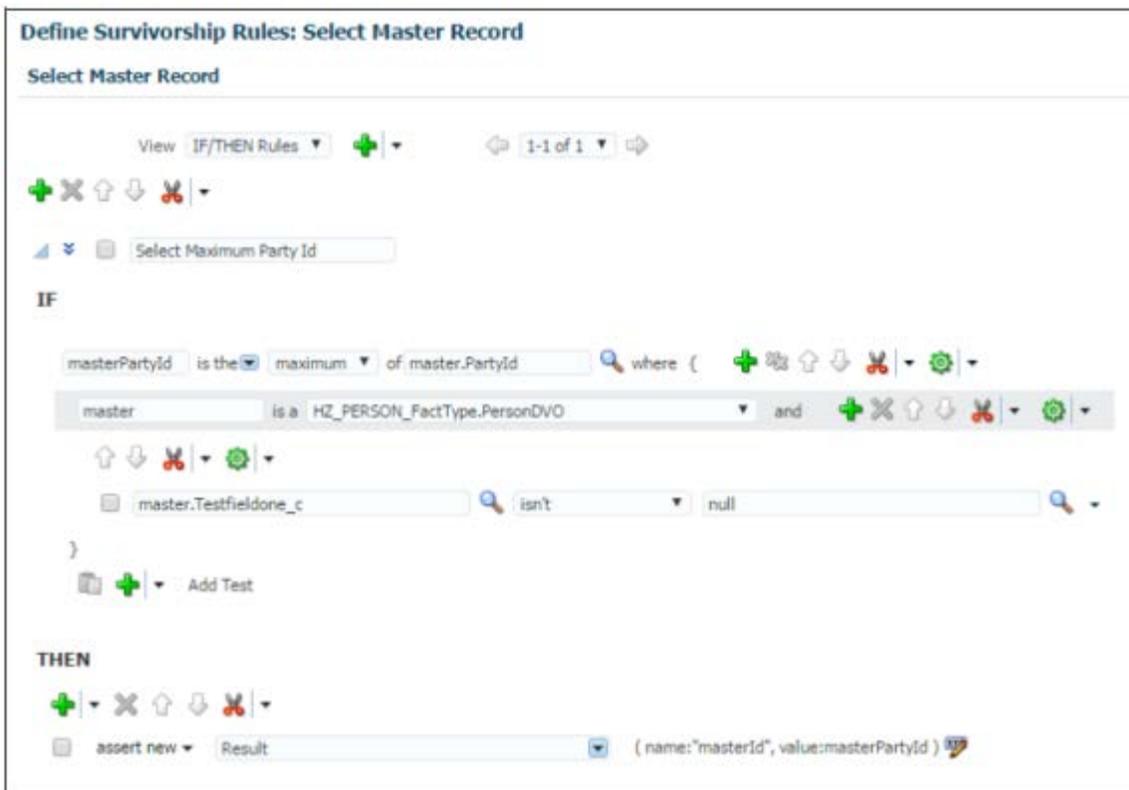
レコード 1	11	テスト	いいえ
レコード 2	12	テスト	可
レコード 3	13	なし	いいえ
レコード 4	14	なし	いいえ

この例では、カスタム属性**Testfielddone_c**を持つレコードが**2**つあります。したがって、最大パーティ**ID**を持つレコードがマスター・レコードとしてピックされます。

次の図は、指定された属性を持つレコードをマスターとしてピックする「マスター・レコードの設定」ルールを作成するための**IF**および**THEN**ルール条件値が指定された「生存ルールの定義: マスター・レコードの選択」ページを示しています。条件の詳細は次のとおりです。

IF条件: `If masterPartyId is the maximum of master.PartyId where {master is a HZ_PERSON_FactType.PersonDVO and master.Testfielddone_c isn't null}`

THEN条件: `Then Assert new Result (name:"masterId", value:masterPartyId)`



カスタム属性に対する属性値設定ルールの定義: 作業例

このトピックでは、特定の属性の最小値を選択する「属性値の設定」タイプの生存ルールを定義する方法について説明します。このルールには、指定されたカスタム属性の最小値を持つレコードをピックアップする単一の条件があります。

次の表に、特定のカスタム属性の最小値を生存として選択する「属性値の設定」ルールのユース・ケースの詳細を示します。この例でのサンプル属性の名前は**CustomField1_c**です。

レコード番号	パーティ ID	CustomField1_c属性の値	パーティ名	生存
レコード1	11	123	Oracle Corp	可
レコード2	12	1456	Oracle USA Corp	いいえ
レコード3	13	239940	Oracle	いいえ

この例では、**CustomField1_c**カスタム属性を持つレコードが3つあります。値**123**がこの属性の最小値であるため、これが**CustomField1_c**カスタム属性の生存値としてピックアップされます。

次の図は、**CustomField1_c**カスタム属性の最小値を生存としてピックアップする「属性値の設定」ルールを作成するための**IF**および**THEN**ルール条件値が指定された「生存ルールの定義: 属性値の選択」ページを示しています。条件の詳細は次のとおりです。

IF条件: `If (for each case where) {org is a OrganizationDVO and org.CustomField1_c isn't null`

```
} and there is no case where {another org is a OrganizationDVO and another  
org.CustomField1_c isn't null and org.PartyId isn't another org.PartyId and  
org.CustomField1_c.length() more than another org.CustomField1_c.length()}
```

THEN条件: Then call setAttribute("CustomField1_c", org.PartyId)

The screenshot displays the 'Define Survivorship Rules: Select Attribute Value' configuration window. At the top, it shows 'View IF/THEN Rules' and '1-1 of 5'. The main area is titled 'Select Attribute Value' and contains a rule configuration for 'CustomField rule'. The 'IF' section is defined by two conditions: the first is 'org is a OrganizationDVO and org.CustomField1_c isn't null'; the second is 'there is no case where another org is a OrganizationDVO and another org.CustomField1_c isn't null and org.PartyId isn't another org.PartyId and org.CustomField1_c.length() more than another org.CustomField1_c.length()'. The 'THEN' section contains the action 'call setAttribute (\"CustomField1_c\", org.PartyId)'.

生存ルールの管理に関するFAQ

生存ルールとマージ契約ルールの違いは何ですか。

生存ルールは、マージやリンク操作中に保持するレコードおよび属性を選択するための基準を指定して、特に複数のソース・システムから、最適なバージョンのレコードをインテリジェントに作成するために定義されているビジネス・ルールの集合です。

マージ契約ルールは、マージ要求がアプリケーションによって拒否されるかどうかを決定するために定義されているパターンおよび条件の集合です。これらのルールに違反するマージ要求は拒否されるか、エラーになります。

作成した生存ルールが機能するかどうかを確認するにはどうすればよいですか。

2つのパーティを作成し、それらを単一のレコードにマージすることで、生存ルールが機能するかどうかを確認できます。パーティをマージする前に、生存ルールがアクティブであることを確認する必要があります。

Oracle Fusion Applicationsにデフォルトで用意されているシード済サンプル生存ルールは何ですか。

Oracle Fusion Applicationsには、次のサンプル生存ルールが用意されています。

- 組織については、古い方を選択する: ソース更新日が古い方の属性値が選択されます。このルールは、すべての組織属性に適用されます。
- 個人については、新しい方を選択する: ソース更新日が新しい方の属性値が選択されます。このルールは、すべての個人属性に適用されます
- 組織に対し、最大のソース確度レベルを**D-U-N-S**番号に割り当てる。

シード済生存ルールは、最初は非アクティブ・ステータスになっています。これらのルールはリリースごとに更新されます。ただし、これらのルールを変更すると、更新されなくなります。

ソース・システム確度

ソース・システム確度レベル: 説明

ソース・システム確度レベルは、特定の属性に対する特定のソース・システムの信頼度を示します。これらは異なるソース・システムからの複数の重複レコードの中からマスター・レコードまたは生存レコードを決定するために使用されます。

ソース・システムごとに、個人および組織オブジェクトの属性にソース確度スコアを設定できます。スコアは、マージ操作中にマスター・レコードの属性を選択するために使用されます。スコアは、マージ操作中に、生存ルールに基づいてマスター・レコードの属性を選択するために使用されます。組織内の様々なソース・システムに格納されているデータ品質の理解に基づいて、ソース確度レベルを割り当ててください。

ソース・システム確度レベルの範囲は**0**から**100**で、デフォルトでは**0**に設定されています。すべてのソース・システム確度レベルが**0**に設定されている場合、すべての競合のリストがマスター・データ・アプリケーションの管理者に示されます。マスター・データ・アプリケーションの管理者はリストをレビューし、マスター・レコードに含める必要があるソース・システム属性を決定します。

確度スコアは、指定された日付範囲内でのみ有効です。確度スコアを更新すると、新しい確度スコアに基づいてマスター・レコードも更新されます。

ソース・システム確度レベルおよび生存ルール: 連携

生存ルールの作成に、ソース・システムの確度レベルを使用できます。マージ、挿入または更新操作中にマスター・レコードを保持するために生存ルールを使用します。

ソース・システム確度レベル

レガシー・システムまたはソース・システムから**Oracle Engagement Cloud**にデータをインポートできます。レガシー・システムまたはソース・システムでは、通常、システム間で同じ属性に関連付けら

れたデータが格納されます。同様に、複数のソース・システムに、同じアカウントに関連するデータがある場合もあります。

ソース・システムの確度レベルでは、属性に対して、特定のソース・システムからのデータをどの程度信頼するかを示すことができます。たとえば、財務システムからの顧客住所データの確度を、マーケティング・システムからの同じデータよりも上げられます。同様に、人事システムからの従業員名データの確度を、マーケティング・システムからの同じデータよりも上げられます。ソース・システムの確度レベルを指定するときは、マスター・データとして最も確度の高いデータのみが選択されていることを確認する必要があります。

生存ルール

Oracle Engagement Cloudは、認可されたユーザーが複数のアプリケーションから更新する中央データ・モデルを使用します。多くの場合、異なるアプリケーションまたはソース・システムによって同じデータが更新され、その結果、データが競合します。

生存ルールは、異なるソース・システムまたはアプリケーションからの重複レコードをマージまたは更新するときに、競合を自動的に解決する方法を決定するカスタム・ビジネス・ルールです。たとえば、重複レコードがある場合、最新の顧客住所データを選択する生存ルールを作成できます。

ソース・システム確度レベルと生存ルール間の関係

ソース・システムの確度レベルを使用すると、特定の属性に関連付けられた重複データを解決する生存ルールを作成できます。たとえば、生存ルールを作成して次のようにできます。

- 確度の値が**80**以上のソース・システムからのレコードをマスター・レコードとして選択します。
- 確度の値が**30**以下のソース・システムからのレコードを自動的に拒否します。

ソース・システム確度に関するFAQ

マスター設定ルールと属性設定ルールはどのようなものですか。

マスター設定ルールでは、マージ操作用に一連の潜在的な重複レコードの中からマスター・レコードを選択するためのビジネス上の論理的基準を定義できます。

属性設定ルールでは、マージ操作中に複数の入力レコードの中から最適な属性値を選択するためのビジネス上の論理的基準を定義できます。

オブジェクト・タイプの複数の属性に同じソース・システム確度レベルを設定できますか。

はい。オブジェクト・タイプの複数の属性に同じソース・システム確度レベルを適用できます。「設定および保守」作業領域の「オフリング: 顧客データ管理」、「機能領域: 顧客ハブ」、「タスク: ソース・システム確度の管理」を使用して、ソース・システム確度レベルを管理できます。

契約ルール

契約ルール: 説明

契約ルールは、マージ要求がアプリケーションによって拒否されるかどうかを決定するために定義されているパターンおよび条件の集合です。これらのルールに違反するマージ要求は拒否されるか、エラーになります。

契約ルールを使用すると、マージの実行を妨げる拒否条件についてマージ要求をチェックできます。これらのルールによって、不適切なマージが処理されるのを防ぐためにマージ要求をレビューする必要がなくなるため、リソースと時間の節約になります。さらに、契約ルールではリンクなどの、代替の重複解決方法を検討するように求められます。

契約ルールには、次の2つのタイプがあります。

- 事前定義済
- ユーザー定義

事前定義済の契約ルール

これらは、アプリケーションで事前定義されている契約ルールです。事前定義済契約ルールは表示のみが可能です。

次の表に、アプリケーションに付属している事前定義済の契約ルールの説明を示します。これらのルールに違反するマージ要求は自動的に拒否されます。

名前	説明
HR_APPLICANT_VETO	HR_APPLICANTのアクティブなパーティ使用目的を持つ個人パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。
HR_EMPLOYEE_VETO	HR_EMPLOYEEのアクティブなパーティ使用目的を持つ個人パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。
HR_CONTINGENT_WORKER_VETO	HR_CONTINGENT_WORKERのアクティブなパーティ使用目的を持つ個人パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。
HR_PARTY_SITE_VETO	Oracle Fusion HCMシステムからのアクティブなオリジナル・システム参照を持つパーティ・サイトが別のパーティ・サイトとマージすることを禁止します。
RESOURCE_PERSON_VETO	RESOURCEのアクティブなパーティ使用目的を持つ個人パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

BANK_VETO

BANKのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

CLEARINGHOUSE_VETO

CLEARINGHOUSEのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

BANK_BRANCH_VETO

BANK_BRANCHのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

BRANCH_CLEARINGHOUSE_VETO

CLEARINGHOUSE_BRANCHのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

LEGAL_EXTLEGAL_PARTYUSGRULE_VETO

LEGAL_ENTITYのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが、EXTERNAL_LEGAL_ENTITYのアクティブなパーティ使用目的を持つ別の組織パーティとマージすることを禁止します。

IC_PARTICIPANT_PERSON_VETO

INCENTIVE_COMP_PARTICIPANTのアクティブなパーティ使用目的を持つ個人パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

IC_PARTICIPANT_ORG_VETO

INCENTIVE_COMP_PARTICIPANTのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

PARTNER_VETO

PARTNERのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

INACTIVE_PARTNER_VETO

INACTIVE_PARTNERのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

CUST_CONTACT_DIFF_RESOURCE_ORG_VETO

異なるリソース組織に属する2つのパートナー所有の担当者がマージすることを禁止し

ます。

CUST_CONTACT_INTERNAL_PARTNER_VETO

リソース組織に属さないパートナー所有の担当者が、リソース組織に属する別のパートナー所有の担当者とマージすることを禁止します。

CUST_CONTACT_INTERNAL_PARTNER_ORG_VETO

内部ユーザーにより所有される担当者が、パートナー・ユーザーにより所有される担当者とマージすることを禁止します。

CARD_ISSUER_VETO

CREDIT_CARD_PROVIDERのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

LEGAL_ENTITY_VETO

LEGAL_ENTITYのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

ESTABLISHMENT_VETO

ESTABLISHMENTのアクティブなパーティ使用目的を持つ組織パーティが別のパーティとマージすることを禁止します。

HIERARCHY_CYCLE_PREVENTATION_VETO

マスター・パーティ・レコードが、同じアクティブ・ツリー・バージョン内の非マスター・パーティ・レコードより下位レベルにある場合に、マージを禁止します。

NAMEDACCOUNT_UNNAMEDACCOUNT_VETO:

マスター・パーティ・レコードが指定アカウントではないが、非マスター・パーティ・レコードは指定アカウントであり、これらがアクティブな階層内にある場合に、マージを禁止します。

ユーザー定義の契約ルール

これらは、マージ要求がアプリケーションによって拒否されるかどうかを決定するために定義できる、追加の契約ルールです。ユーザー定義の契約ルールは、作成、表示、更新および削除できます。

注意: アプリケーションは、アプリケーション・コンポーザ・サンドボックス内での契約ルールの変更をサポートしていません。そのため、マージ・エンジンは、アプリケーション・コンポーザ・サンドボックス内でこれらのルールに加えられた変更をピックアップしません。

契約ルール辞書: 説明

契約ルール辞書は、契約ルールを定義するために使用できる事前定義済の用語および属性の集合です。**Oracle Customer Data Hub**には、アプリケーションですぐに使用できる、事前定義済のすべての契約ルールが含まれた単一の事前定義済辞書(**HZ_Parties**)が用意されています。この辞書を使用して、ビジネス要件に応じたカスタム契約ルールを定義することもできます。事前定義済契約ルールは表示のみが可能であることに注意してください。編集することはできません。一方、ユーザー定義の契約ルールは、作成、表示、更新および削除できます。契約ルールに違反するマージ要求は拒否されません。

この辞書を使用してカスタム契約ルールを定義する前に、事前定義済の契約ルール辞書に存在する契約ルール用語および用語属性をレビューして、ビジネス要件を満たすために必要なカスタム契約ルールを定義するのに十分であるかどうかを確認する必要があります。必要に応じて、用語をリフレッシュして、最新の用語、用語属性および関連メタデータ(たとえば、エンティティやオブジェクトなどのファクト・タイプ)をインポートします。辞書をリフレッシュすると、アカウントおよび担当者について新しく追加されたカスタム属性をすべて取得できます。

契約ルールの定義

この例は、マージ要求が処理されないようにするために使用できる、ユーザー定義の契約ルールを作成する方法を示しています。

契約ルールは、マージ要求がアプリケーションによって拒否されるかどうかを決定するために定義される、パターンおよび条件の集合です。契約ルールを定義するために実行するタスクは、次のとおりです。

- 付属の事前定義済の契約ルール辞書に含まれる用語のレビューおよびリフレッシュ
- 新しい契約ルールの追加

契約ルールの詳細は、**Oracle Technology Network** (<http://www.oracle.com/technetwork>)で『**Oracle Fusion Middleware Oracle Business Rules** ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

事前定義済の契約ルール辞書に含まれる用語のレビューおよびリフレッシュ

顧客ハブ・アプリケーションには、アプリケーションですぐに使用できる、事前定義済のすべての契約ルールが含まれた事前定義済の契約ルール辞書が用意されています。この辞書を使用してカスタム契約ルールを定義する前に、事前定義済の契約ルール辞書に存在する契約ルール用語および用語属性をレビューして、ビジネス要件を満たすために必要なカスタム契約ルールを定義するのに十分であるかどうかを確認する必要があります。必要に応じて、用語をリフレッシュして、最新の用語、用語属性および関連メタデータ(たとえば、エンティティやオブジェクトなどのファクト・タイプ)をインポートします。辞書をリフレッシュすると、アカウントおよび担当者について新しく追加されたすべてのカスタム属性を取得できます。契約ルール辞書をレビューおよびリフレッシュする手順は、次のとおりです。

1. 「設定および保守」作業領域で、次の項目に移動します。
 - オフアリング: 顧客データ管理
 - 機能領域: 顧客ハブ
 - タスク: 契約ルールの管理

2. 「契約ルール管理」ページで、事前定義契約ルール辞書にある契約ルールの用語および用語属性が、自社のビジネス要件を満たすために必要なカスタム契約ルールを定義するのに十分であるかどうかを確認します。
3. 「用語のリフレッシュ」をクリックし、最新の用語、用語属性、関連するメタデータをインポートします。
4. 確認メッセージに応答して「OK」をクリックします。

新しい契約ルールの追加

前述のステップを使用して契約ルール辞書をレビューしてリフレッシュしたら、次のステップを実行して新しいカスタム契約ルールを作成します。

1. 「契約ルール管理」ページで「次」をクリックして「契約ルール管理: ルールの定義」ページに移動します。
2. 「処理」メニューから「追加」をクリックして、新しいルールを追加します。
3. ルール名を入力します。
4. 「ルールの定義」をクリックします。
5. 契約ルールを作成する理由を「調整事由」に入力します。
6. 「処理」メニューから「追加」をクリックして新しいパターンを作成します。
7. 次の表に示すサンプル情報を使用して、新しいパターン・フィールドに情報を入力します。指定がある場合を除き、デフォルト値を使用します。パターン間の関係は常にANDであり、編集できないことに注意してください。「パターンの定義」列には、定義されたMergeTypeで、辞書用語OrganizationPartyVOおよびPersonPartyVOを含める必要があります。これらのパターンによって、マスター・レコードと非マスター・レコードが決定されます。

パターン	辞書用語	用語の別名	関係
次の場合の各事例	PersonPartyVO	個人	AND
次の場合の各事例	OrganizationPartyVO	NonmasterParty	AND

次の事例がある場合 PartyUsageAssignmentVO PartyUsageAssignment AND

8. 「条件」表にナビゲートします。
9. 「処理」メニューから「追加」をクリックして、新しい条件を追加し、次の表に示すサンプル情報を使用してフィールドに入力します。指定がある場合を除き、デフォルト値を使用します。

用語属性	演算子 値	関係
------	-------	----

Person.PartyNumber is not 1234 AND

NonmasterParty.MergeType = Nonmaster AND

UsageAssignment.PartyUsageCode = HR_APPLICANT AND

10. 「保存」または「保存してクローズ」をクリックします。

11. 「発行」をクリックします。

関連項目

- [契約ルール: 説明](#)

マージ要求

手動マージ: 説明

手動マージでは、照合構成によって重複が選択されるシステム・マージとは異なり、ユーザーが重複レコードを選択できます。

複数のレコードをマージできるシステム・マージとは異なり、手動マージを使用してマージできるレコードは2つのみです。

次の2つの方法のいずれかを使用して、2つの重複レコードを手動でマージできます。

- 即時手動マージ: この方法では、2つのレコードを即時にマージできます。2つの重複レコードのいずれかをマスター・レコードに指定できる他、重複レコードの属性の一部をマスター・レコードにマップすることもできます。重複レコードのその他の属性は、自動的にマスター・レコードにマップされます。
- 遅延手動マージ: この方法では、データ・スチュワードのレビューおよび承認のためにマージ要求を遅延できます。データ・スチュワードは、マージ要求をレビューして、マージを承認できます。

レコードの手動マージ: 作業例

この例は、2つの重複レコードを手動でマージする方法を示しています。この例では、「マージ要求の入力」タスクを使用してレコードをマージするための一般的なプロセスのみを示しています。その他の特定のUIページから、2つの重複レコードをマージすることもできます。

レコードの手動マージには次のタスクが含まれます。

- 重複レコードの識別
- マスター・レコードと重複レコードの選択
- マージの発行

重複レコードの識別

1. 「設定タスク」→「マージ要求の入力」→「検索と選択: マージ対象レコード」の順に選択し、「検索と選択: マージ対象レコード」ページにナビゲートします。
2. マージ対象レコードを検索して選択するには、次の表に示すサンプル情報を使用して検索基準を入力します。指定がある場合を除き、デフォルト値を使用します。

名前 登録ID (オプション)

John 15918

3. 「検索」をクリックします。
4. 検索結果から、マージする最初のレコードを選択します。
5. 「処理」メニューから「レコードのマージ」を選択します。

マスター・レコードと重複レコードの選択

注意: 取引先コミュニティ・マージ要求の入力機能権限によって、「マージ」セカンダリ・ウィンドウが表示されるかどうかは制御されます。

1. 「マージ」セカンダリ・ウィンドウで、選択したレコードがマスターまたは重複のいずれであるかを指定します。
2. マージする2つ目の(マスターまたは重複)レコードをピックするには、パーティ・ピッカーに、次の表に示すサンプル情報を入力します。指定がある場合を除き、デフォルト値を使用します。

名前 登録ID (オプション)

John 10854

3. 「検索」をクリックします。
4. 検索結果から、マージする2つ目のレコードを選択し、「OK」をクリックします。
5. 「マージ」セカンダリ・ウィンドウで「マージ」をクリックします。

マージの発行

1. 「プロファイル属性のマッピング」ページで、2つのレコードそれぞれから、マスター・レコードにマッピングする名前や性別などの属性を指定します。住所、アカウント、アカウント住所、関係および連絡先などの子エンティティはすべてマスター・レコードに転送されます。
2. 「発行」をクリックします。データ・ガバナンス・プロファイル「ユーザー・マージ要求」が「承認なし処理の許可」に設定されている場合は、マージが即時に実行されます。このプロファイルが「承認の対象となるプロセス」に設定されている場合は、マージはデータ・スチュワードにレビューされた後で処理されます。

自動マージ: 説明

自動マージ機能では、データ・スチュワードによる承認または介入なしに重複レコードがマージされます。自動マージは手動レビューなしで重複レコードを迅速に解決できるため、大量の顧客データを処理する場合はマージ要求の自動処理が重要です。自動マージ中には、連絡先、関係、分類および相互参照などの重複レコードの子エンティティがマスター・レコードの子エンティティになることに注意してください。

自動マージ対象レコードの選択方法の理解

レコードは、次の基準に基づいて自動マージの対象として選択されます。

- 照合しきい値: 照合しきい値は「構成の照合」で定義され、レコードが重複セットに含まれるかどうかを判別します。
- マージしきい値: マージしきい値はZCH_AUTO_MERGE_THRESHOLDプロファイル・オプションで定義され、重複セットのマージ要求が自動的に処理されるか、または手動でレビューする必要があるかを判別します。

重複識別およびマージに関して、各レコードに示される可能性がある3つの結果は次のとおりです。

- 照合しきい値を下回る低スコア: レコードは重複セットに含まれず、その重複セットのマージ要求にも含まれません。
- 照合しきい値を上回り、マージしきい値を下回る中スコア: レコードは重複セットに含まれますが、その重複セットのマージ要求は手動でレビューする必要があります。
- 照合しきい値を上回り、マージしきい値を上回る高スコア: レコードは重複セットに含まれ、マージ要求は自動的に処理されます。

自動処理を行うには、重複セット内のすべてのレコードのスコアがマージしきい値を上回っている必要があります。重複セット内の1つのレコードがマージしきい値を下回り、他のレコードはマージしきい値を上回っている場合、そのマージ要求は手動でレビューする必要があります。

注意: 電話、Eメールまたは住所に完全に同じ子の情報を含む複数のレコードをマージする場合、子の情報はマージされ、生存レコードにロール・アップされます。

自動マージの構成

自動マージの有効化には、「設定および保守」作業領域の顧客データ管理オフリングから次のタスクを使用して実装者により実行される必要がある、いくつかの実装手順が含まれます。

- 顧客ハブ・プロファイル・オプションの管理: このタスクを顧客ハブ機能領域から使用して、次の実装手順を実行します。
 - 「自動マージしきい値」プロファイル・オプション(ZCH_AUTO_MERGE_THRESHOLD)を必要な値に設定します。このプロファイル・オプションは、自動マージのしきい値を指定します。これよりも低いスコアを持つマージ要求にはデータ・スチュワードによるレビューが必要です。完全一致は100です。
 - 「重複セットのレコード・サイズ制限」(ZCH_DI_MERGREQ_REC_SIZE)をレビューしま

す。このプロファイル・オプションは、自動的にマージできる重複セット内のレコードの最大数を決定します。デフォルトでは、レコードの最大数は**10**に設定されています。

- 「生存使用可能」プロファイル・オプション(**ZCH_ENABLE_SURVIVORSHIP**)を「はい」に設定します。このプロファイル・オプションは、マージ操作中にマスター・レコードを選択し、属性を保持するための生存ルールを有効にします。
- 生存ルールの管理: 「顧客ハブ」機能領域のこのタスクを使用してマスター設定生存ルールを作成し、重複識別バッチから作成されたマージ要求のマスター・レコードを選択し、ルールをアクティブに設定します。

アクティブな「マスターの設定」ルールがない場合、または「マスターの設定」ルールがトリガーされなかった場合は、**ZCH_AUTO_MERGE_THRESHOLD**プロファイル・オプションが設定されており、すべてのレコードのスコアがしきい値を上回り、レコード数がレコード・サイズ制限を下回っている場合であっても、マージ要求を手動でレビューする必要があります。

注意: 属性設定ルールとマスター設定ルールを併用して、ゴールデン・マスター・レコードを決定できます。自動マージには「マスターの設定」ルールが必須です。

- エンタープライズ・データ品質照合構成の管理: このタスクをデータ品質基盤の機能領域から使用して、次の実装手順を実行します。
 - 「エンタープライズ・データ品質照合構成の管理」タスクでアクティブな「構成の照合」を作成するか、事前定義済の「構成の照合」を使用します。必要に応じてキーを再作成します。
 - 「サーバー構成の管理」タスクで、**EDQ**リアルタイムおよびバッチ基本照合サーバーを有効にします。

自動マージの実行

このタスクには次の**2**つのステップが含まれます。

1. 重複識別バッチを作成し、「自動処理オプション」として「マージ要求の作成」を選択します。
2. 「要求ディスパッチ・ジョブの実行」タスクを実行して、重複解決セットを処理します。

ディスパッチ・ジョブは、「待ち状態」または「発行済」ステータスのすべての解決要求を処理します。このジョブは**2**つのモードで実行できます。

- 要求時: 「要求ディスパッチ・ジョブの実行」→「発行」
- 特定のスケジュールに従って: 繰返しジョブを設定するには、次のステップを実行してください。
 1. 「要求ディスパッチ・ジョブの実行」タスクの「拡張」をクリックします。
 2. 「スケジュール」タブをクリックし、「スケジュールの使用」ラジオ・ボタンを選択します。
 3. タスクを実行する頻度を選択し、「送信」をクリックします。

ディスパッチ・ジョブのリストおよびそのステータスを確認するには、「ツール」の下の「スケジュール済プロセス」に移動します。

自動マージの問題のトラブルシューティング

重複識別バッチを作成したら、完了したバッチにドリルダウンして結果を表示します。重複セットが見つかり、自動マージが有効になっている場合は、マージのために解決要求が自動的に発行されます。

解決要求が自動的に発行されなかった場合は、重複セットにドリルダウンして、各レコードのスコアを **ZCH_AUTO_MERGE_THRESHOLD** プロファイル・オプションのしきい値と比較し、レコード数を **ZCH_DI_MERGEREQ_REC_SIZE** プロファイル・オプションの制限と比較できます。すべてのスコアがしきい値を上回り、レコード数が制限を下回っている場合は、次の条件が満たされていることを確認してください。

- 「マスターの設定」ルールがアクティブで、重複セット内のレコードのマスターを選択するためにトリガーされていること。
- **ZCH_ENABLE_SURVIVORSHIP** が「はい」に設定されていること。

大量バッチ重複除去: ベスト・プラクティスとガイドライン

Oracle Customer Data Management Cloud Service のアカウントや連絡先レコードのバッチ重複除去は次の2段階の手順で構成されます。

- 重複識別: このステップには、「重複識別バッチ」ジョブの発行による重複レコードの識別が含まれます。

「重複識別」ページから、このジョブを定義および発行できます。

- 重複解決: このステップには、通常は各重複レコードのセットをマージすることによる重複の解決が含まれます。

重複は、「重複識別バッチ」ジョブを発行して自動的に解決するか(自動マージと呼びます)、または「重複識別バッチ」結果のレビュー・ページからレコードを一括で発行して手動で解決できます。

これらのステップおよび自動マージの構成の詳細は、「マージ要求」、「顧客データ管理の実装」を参照してください。

これらのジョブはどちらも、様々な Oracle Application Cloud の表の数百万行ものデータを読み取り、更新する可能性のある、データ量の多い作業です。このドキュメントはデータセットの計画と、Oracle Customer Data Management Cloud Service での大量の重複除去に対して最適なスループットを達成するために適切な構成を適用するためのガイドラインおよびベスト・プラクティスを提供することを目的としています。顧客のデータ・セットはそれぞれ固有です。重複識別バッチの処理に必要な時間はデータ形状によって異なります。

ベスト・プラクティスとガイドライン

顧客データ管理マージは、複数のアカウントや担当者を正しくマージするために、Oracle Applications Cloud の大量の表をスキャンおよび更新する、データ量の多い処理です。

この項では、次のプロファイル・オプションを使用してマージ・プロセスを最適化する方法について説明します。

- マージ・プロセスの範囲(**ORA_ZCH_MERGE_SCOPE**): このプロファイル・オプションを使用して、マージ・プロセスの範囲を定義できます。
- マスター・レコードの選択方法(**ORA_ZCH_SETMASTER**): このプロファイル・オプションを使用して、マージ要求のマスター・レコードを選択する方法を指定できます。
- 確認付き自動マージの作成(**ORA_ZCH_AUTOMERGE_REVIEW**): このプロファイル・オプションを使用して、自動マージの適切な処理オプションを選択できます。
- 同時マージ・ジョブの最大数(**ORA_ZCH_MERGE_MAX_REQUEST_LIMIT**): 同時に処理するマージ・ジョブの最大数を指定します。最大限度を設定しない場合、すべてのマージ・ジョブが同時処理のために発行されます。

これらのプロファイル・オプションは、「設定および保守」作業領域で次を使用して設定できます。

- オファリング: 顧客データ管理
- 機能領域: 顧客ハブ
- タスク: 顧客ハブ・プロファイル・オプションの管理

マージ・プロセスの範囲の定義

2つ以上のレコードをマージするときには、アプリケーションは**Core Customer Data Management**、**CRM**、**Financials**、**Manufacturing**など、**Oracle Applications Cloud**のあらゆるモジュールにわたる数百ものトランザクション・テーブルや参照テーブルをスキャンします。このため、マージ・プロセスはデータ量が多い、時間のかかるものになることがあります。ただし、マージ・プロセスの範囲(**ORA_ZCH_MERGE_SCOPE**)プロファイル・オプションを使用して、実装でマージ・プロセスの範囲を定義、制限し、必要な事業領域だけをアプリケーションがスキャンするようにできます。これにより、マージ・メモリーと実行プロファイルのサイズが最適化されます。

「マージ・プロセスの範囲」プロファイル・オプションでは、次のオプションがサポートされています。

- すべての機能領域(**ALL**): これはデフォルトのオプションで、**Oracle Applications Cloud**のすべての領域をスキャンします。このオプションは、**Core Customer Data Management**、**CRM**、**Financials**、**Manufacturing**など、**Oracle Applications Cloud**の様々なモジュールを実行するグローバル実装がある場合に使用します。
- すべての顧客関係管理関連領域(**CRM**): このオプションは、すべての**CRM**エンティティ(商談、リードなど)、コア顧客データ、共通エンティティ(ノート、アクティビティなど)およびカスタム・オブジェクトを処理するようにプロセスの範囲を制限します。このオプションは、**CRM**実装が顧客データ管理機能と併用される場合に使用します。
- 顧客データ管理特定領域: このオプションはプロセスの範囲を、コア顧客データ、共通エンティティ(ノート、アクティビティなど)およびカスタム・オブジェクトに制限します。このオプションは初回の顧客データ統合時に使用し、顧客データ管理と実装で最適なパフォーマンスを実現します。

注意: プロファイル・オプションの設定は、追加モジュールがインスタンスで有効になった場合、い

つでも変更できます。たとえば、「顧客データ管理」オプションを初回の統合および顧客データのクリーン・アップ時に使用し、他のモジュールが後で実装されればCRMまたはALLオプションに変更できます。

マスター・レコードの選択方法の定義

マージ・プロセスのパフォーマンスはマスター・レコードを選択するために使用する方法によっても異なります。「マスター・レコード選択方法」(ORA_ZCH_SETMASTER)プロファイル・オプションを使用して、マージ時に自動的にマスター・パーティを選択するための適切なオプションを指定できます。「マスター・レコード選択方法」プロファイル・オプションでは、次のオプションがサポートされています。

- 生存ルールを使用してマスター・レコードを選択(RULE): これは、デフォルトのマスター選択オプションとして設定されます。このオプションでは生存の管理タスクで定義された「マスターの設定」ルールに基づき、マスター・レコードが選択されます。これらのルールはOracle Business Rulesコンポーネントを使用して適用されます。このオプションはマスターをピックアップするために必要な複雑なビジネス・ルールがある場合に使用します。
- マスターとして最も古いレコードを選択(OLDEST): このオプションは最も古い作成日のパーティをマスターとして選択します。
- マスターとして最も新しいレコードを選択(NEWEST): このオプションは最も新しい作成日のパーティをマスターとして選択します。
- 重複識別結果に基づいてマスターを選択(ANY): このオプションはセットの中のいずれかのパーティをマスターとして無作為に選択します。

自動マージ処理の構成

自動マージは自動マージしきい値を超えた重複セットが識別された場合に、それを自動的にマージするプロセスです。このプロセスは「マージ要求の作成」オプションで重複識別バッチを作成することにより、開始されます。「はい」および「いいえ」の値を持つ「レビューありの自動マージの作成(ORA_ZCH_AUTOMERGE_REVIEW)」プロファイル・オプションを使用して、自動マージの適切な処理オプションを選択できます。

- 自動マージしきい値を超える重複セットについてのみマージ要求を作成する: この処理オプションを有効にするには、「レビューありの自動マージの作成(ORA_ZCH_AUTOMERGE_REVIEW)」プロファイル・オプションの値に「いいえ」を選択します。このオプションを選択すると、アプリケーションは重複セットを次のように処理します。
 - アプリケーションは自動マージしきい値を超える重複セットを事前に処理し、それを1つのジョブにマージします。このオプションは、重複セットにレビューやその他の処理が不要な場合に大量のマージ要求を処理するのに最適です。
 - 自動マージしきい値を超えない重複セットは「重複識別」ページで「未レビュー」ステータスのままになり、そこから、必要に応じて手動でマージ要求に変換できるか、拒否されます。
- すべての重複セットについてマージ要求を作成する: この処理オプションを有効にするには、「レビューありの自動マージの作成(ORA_ZCH_AUTOMERGE_REVIEW)」プロファイル・オプションの値に「はい」を選択します。このオプションを選択すると、マージ要求はすべての重

複セットについて作成されます。すべての要求はまず、事前処理されます。次に、マージされるか(自動マージしきい値を超えた場合)、または自動マージしきい値を超えていない場合は(レビューできるように)「新規」ステータスに置かれます。

マージ・プロセスの同時実行性の制御

各マージ要求はエンタープライズ・スケジューラ・サービス(**ESS**)で単一のバッチ・プロセスとして実行されます。同時に実行されるマージ要求の数は、同時に処理されるバッチの数により制限されます。したがって、多数のマージ要求がキューにあり、他の**ESS**プロセスがスレッドを求めて競合している場合、これらのジョブのスケジュールが遅延する可能性があります。

顧客データの初回の統合時に、使用可能な最大スレッド数を使用するのが有利です。ただし、バックグラウンドで他のプロセスが実行されている安定した状態のときには、**ESS**ジョブの同時マージ数を制限し、制御することが必要な場合があります。

これを実現するには、次のプロファイル・オプションを適切な値に設定します。

- プロファイル・オプション名: 同時マージ・ジョブの最大数
- プロファイル・オプション・コード: **ORA_ZCH_MERGE_MAX_REQUEST_LIMIT**
 - このプロファイル・オプションの値が空白のままであったり、値が定義されていない場合は、使用可能なスレッドに応じて**ESS**によりマージ要求が割り当てられます。これは大量データの初回処理時にお勧めします。
 - **Web**サービスや他の**ESS**ジョブなど、他のプロセスが実行中の場合、最初のデータ・ロードの後にこのプロファイル・オプションの値を**10**以下に設定します。

[前次](#) この内容を正しく表示するには、JavaScriptが有効である必要があります。

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 顧客データ管理と他のクラウド・サービスの統合

19 顧客データ管理と他のクラウド・サービスの統合

この章の内容は次のとおりです。

- [顧客データ管理クラウド統合アプローチ: 説明](#)
- [Integration Cloud Serviceによる統合時のマージ操作プロセス: 説明](#)

顧客データ管理クラウド統合アプローチ: 説明

REST APIまたはSOAP APIを使用して顧客データ管理クラウドを他のクラウド・サービスと統合することで、住所クレンジング、重複識別および重複解決機能を提供できます。または、Integration Cloud Serviceを使用して、顧客データ管理をその他のクラウド・ベースまたはオンプレミスのアプリケーションと統合するワークフローを開発できます。

REST APIを使用した顧客データ管理クラウド統合

Oracle Customer Data Management Cloudには、顧客データ管理クラウドに保存されているデータへのアクセスおよび他のシステムへの統合の構築に使用できる、複数のパブリックREST APIが用意されています。これらのAPIには、組織(アカウント)および個人(担当者)を取得(Get)、作成(Post)、更新(Patch)および削除>Delete)するためのリソースが含まれます。また、重複するパーティを識別し、解決要求を作成するためのリソースもあります。

パブリックREST APIの詳細は、「関連トピック」の項の「Oracle Engagement Cloud用REST API」を参照してください。

SOAP APIを使用した顧客データ管理クラウド統合

Oracle Customer Data Management Cloudには、組織(アカウント)および個人(担当者)を作成および更新するためのSOAPサービスが用意されています。これらのサービスを使用して、重複するパーティを識別し、解決することもできます。

SOAP APIの詳細は、「関連トピック」の項の「エンゲージメント・クラウドのSOAP Webサービス」を参照してください。

インポートおよびエクスポートによる顧客データ管理クラウド統合

Oracle Customer Data Management Cloudでは、ファイルベース・データ・インポートおよびエクスポート、一括エクスポートおよびデータ・インポートを使用し、テキスト・ファイルまたはXMLファイルを使用してアプリケーション・データをインポートおよびエクスポートできます。インポートを使用して、Oracle Customer Data Management Cloudでレコードを作成または更新することもできます。

インポート・プロセスを構成すると、次のことが可能です。

- ロードされるデータ内の重複除去を定義します。

- データベースに存在するレコードに照らして、ロードされるデータの重複除去を定義します。

重複を識別するための照合構成を選択し、インポート・プロセス中に重複レコードに対して実行する処理を指定することもできます。

ファイルベース・データ・インポートおよびエクスポートの詳細は、「関連トピック」の項に掲載されている「ファイルベース・データ・インポートおよびエクスポートの理解」のリンクを参照してください。

Integration Cloud Serviceを使用した顧客データ管理クラウド統合

Integration Cloud Serviceを使用すると、顧客データ管理クラウド、その他のクラウド・サービスおよびオンプレミス・アプリケーションの間の事前定義済統合を利用できます。たとえば、Oracle Service Cloudを顧客データ管理クラウドと統合して、重複解決機能を提供できます。この機能を使用すると、Oracle Engagement Cloudのアカウント(組織)または担当者(個人)をOracle Service Cloudのアカウント(組織)または担当者(個人)とマージできます。

Integration Cloud Serviceの詳細は、「関連トピック」の項に掲載されている「Oracle Integration Cloud Service」のリンクを参照してください。

アカウント(組織)および担当者(個人)の顧客データ管理統合

次の表に、Oracle Customer Data Management Cloudで使用可能な統合オプションを示します。

顧客データ管理プロセス(バッチ・ジョブ)	SOAPサービス	RESTサービス	データ・インポート(売掛/未収金のみ)	ファイルベース・データ・インポート	ファイルベース・データ・インポート(簡易ビュー)	ファイルベースのデータ・エクスポート	ICSイベント	コメント
住所クレンジング	いいえ	住所クレンジングは、住所検証クラウド・サービスからのみRESTサービスによって使用できます。	可	いいえ	いいえ	はい(バッチ要約のみ)。重複する住所や関係などの子オブジェクトは除外されません。	いいえ	ファイル・エクスポートは、「顧客データ管理」作業領域からのみ使用できます。
重複識						はい(バッチ要約のみ)。重複する住所や関係な	いいえ	ファイル・エクスポートは、「顧客データ管

別	いいえ	いいえ	可	可	いいえ	どの子オブジェクトは除外されます。	え	理」作業領域からのみ使用できます。
重複解決およびマージ	できません。SOAPサービスでは、新しい解決要求を作成し、既存の解決要求を問い合わせることができますが、既存の要求を更新することはできません。	できません。RESTサービスでは、新しい解決要求を作成し、既存の解決要求を問い合わせることができますが、既存の要求を更新することはできません。	可	いいえ	いいえ	できません。重複する住所や関係などの子オブジェクトは除外されます。	できません。パブリック解決要求が更新されません。	重複解決では、重複するパーティの詳細に一括エクスポートを使用できません。「関連トピック」の項の「顧客データ管理の実装」を参照してください。
データ・エンリッチメント	いいえ	データ・エンリッチメントは、Oracle Social Data and Insight Cloud ServiceからのみRESTサービスによって使用できます。	いいえ	いいえ	いいえ	可	いいえ	

関連項目

- [Oracle Engagement Cloud REST API](#)
- [エンゲージメント・クラウドのSOAP Webサービス](#)
- [ファイルベース・データ・インポートおよびエクスポートの理解](#)
- [Oracle Integration Cloud Service](#)
- [顧客データ管理の実装](#)

Integration Cloud Serviceによる統合時のマージ操作プロセス: 説明

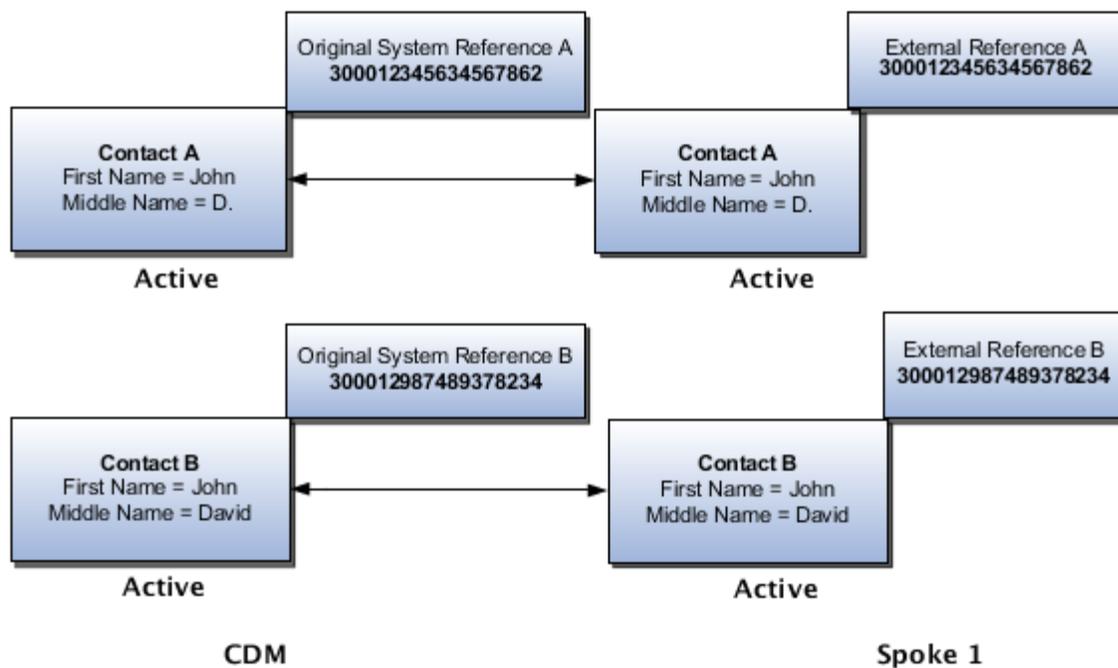
Oracle Customer Data Management (CDM) Cloudは、Integration Cloud Serviceによる様々なクラウド・サービス(スポーク・システムとも呼ばれる)間の統合時に顧客マスターの役割を果たします。CDM Cloudを使用して、統合されたクラウド・サービス全体で顧客データをクレンジング、連結および共有できます。このトピックでは、顧客データ管理クラウドの重複解決機能によって統合済クラウド・サービス間でどのようにレコードがマージされるかについて説明し、その例として、Oracle Engagement Cloudのアカウントまたは連絡先がOracle Service Cloudのアカウントまたは連絡先とどのよ

うにマージされるかについて説明します。

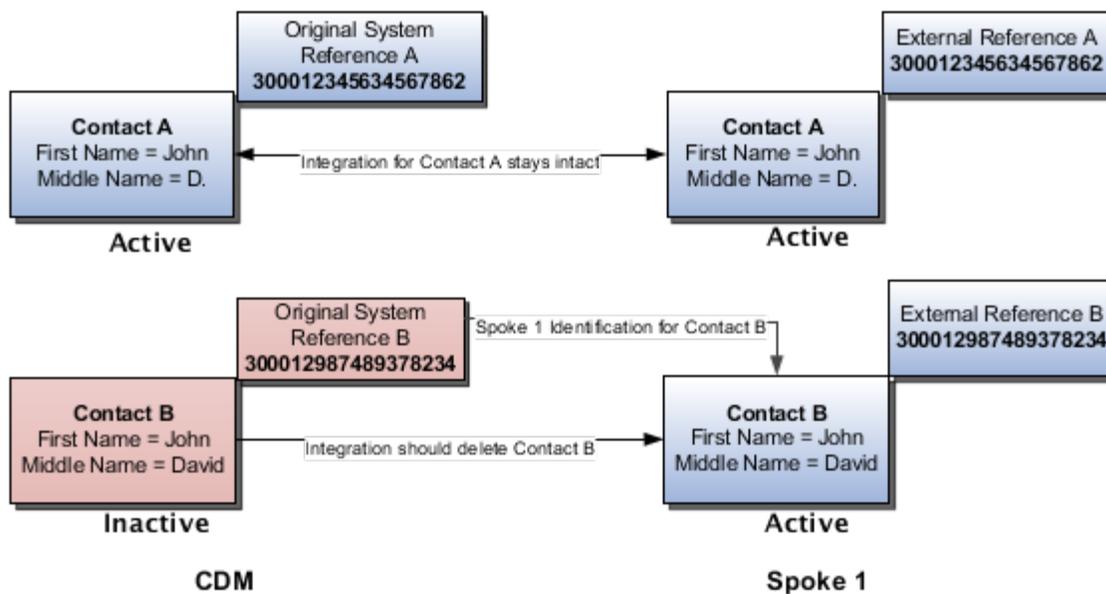
ポイント・ツー・ポイント統合のマージ操作プロセス

この統合シナリオでは、顧客データ管理クラウドは1つのスポーク・システムに重複解決機能を提供します。

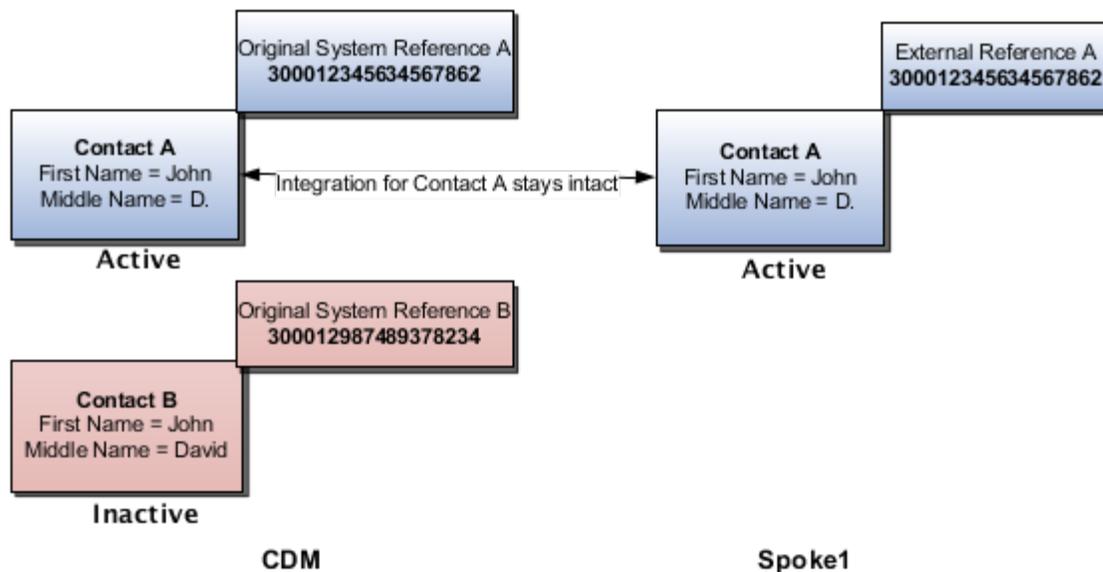
次の図は、**Spoke 1**のアカウントの2つの担当者(**Contact A**および**Contact B**)のマージ前のステータスを示しています。



次の図は、**Spoke 1**のアカウントの2つの担当者(AおよびB)がCDM Cloudでどのようにマージされるのか、およびどのようにして**Contact A**が保持され、**Contact B**が破棄されるのかを示しています。



次の図は、アカウントの2つの担当者(AおよびB)のマージ後のステータスを示しています。Spoke 1では、マージ後に**Contact A**のみが保持され、アクティブなままとなっています。

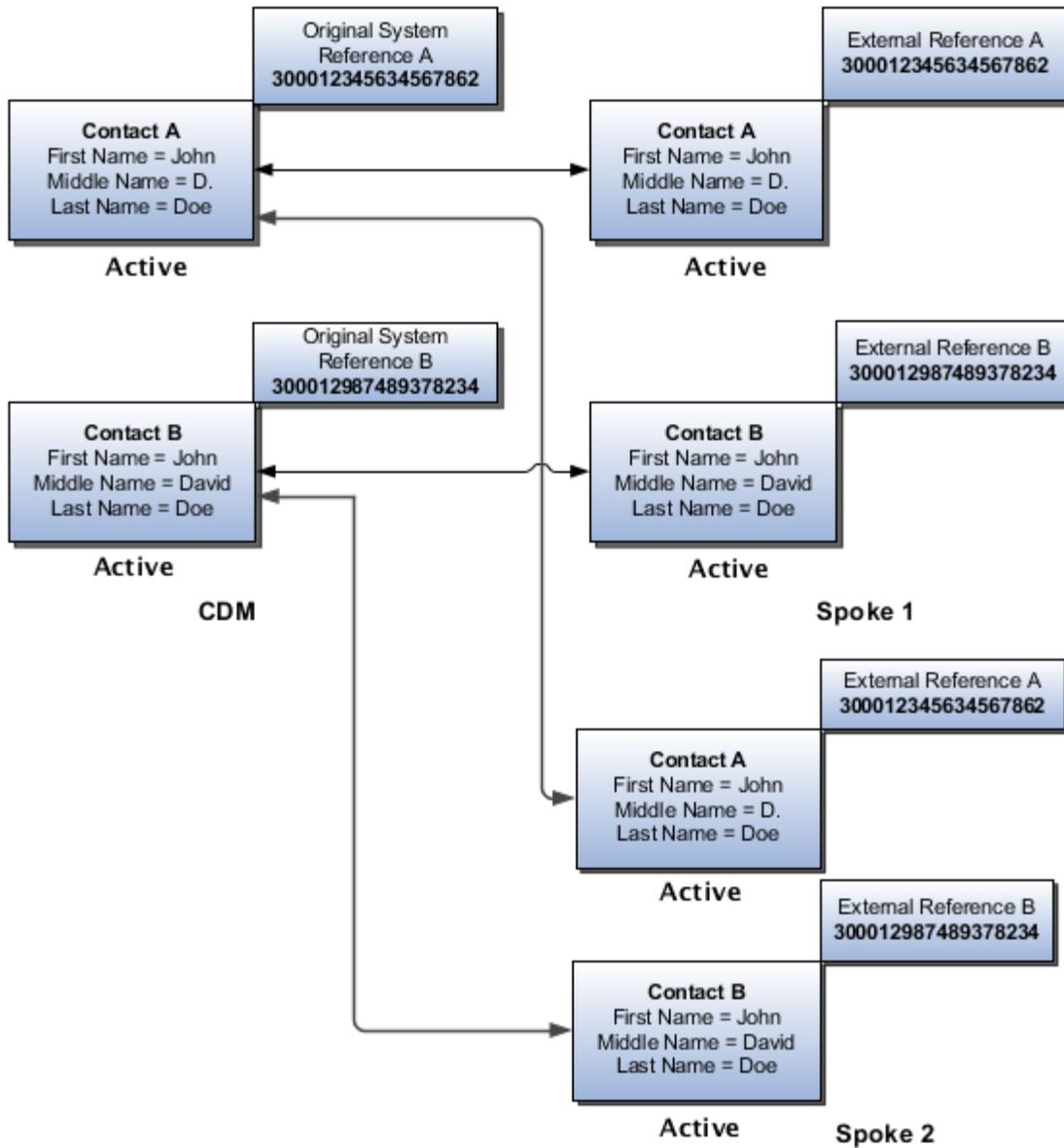


パブリッシュ/サブスクライブ統合のマージ操作プロセス

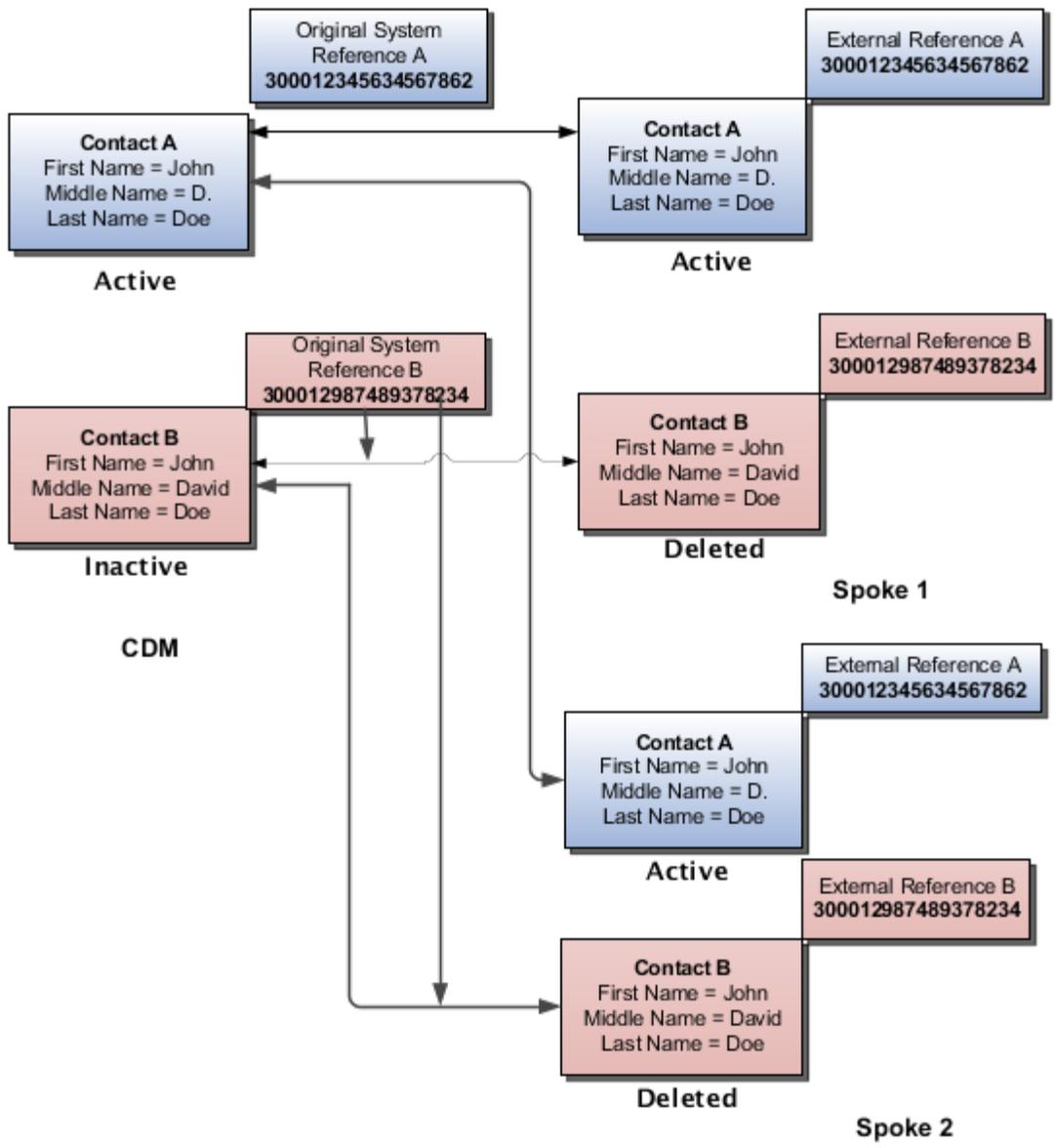
この統合シナリオでは、顧客データ管理クラウドは、統合された2つ以上のクラウド・サービスまた

はスポーク・システムに重複解決機能を提供します。スポーク・システムの重複データがCDM Cloudで連結され、マスター化されたデータがサブスクライブ側のスポーク・システムにパブリッシュされます。

次の図は、Spoke 1とSpoke 2の両方に存在するアカウントの2つの担当者(AおよびB)のマージ前のステータスを示しています。



次の図は、アカウントの2つの担当者(AおよびB)のマージ後のステータスを示しています。



次の点に注意してください。

- **Contact A**および**B**に関するデータが両方のスポーク・システムから顧客データ管理クラウドに送られます。
- 顧客データ管理クラウドでマージが行われ、破棄されるレコードが所有しているオブジェクトは、**CDM**の保持されるレコードに移動(親が変更)されます。
- マスター化されたデータが両方のスポーク・システムにパブリッシュされ、その結果、**Contact B**が両方のスポーク・システムから削除されます。

[前へ](#) このコンテンツを正しく表示するには、JavaScriptを有効にする必要があります

1. [顧客データ管理の実装](#)
2. 用語集

用語集

[A](#) | [C](#) | [D](#) | [E](#) | [G](#) | [I](#) | [L](#) | [M](#) | [N](#) | [P](#) | [R](#) | [S](#)

A

住所形式の書式

住所のレイアウトを指定します。たとえば、含まれる住所行の数や、市区町村名が必須かどうかなどです。

C

分類カテゴリ

分類コードのグループ化。パーティ、タスク、オーダーなどのエンティティをカテゴリ化します。分類コード割当てルールを定義できるようにします。

D

決定要因

特定のビジネス・コンテキストでの参照データ・セットの使用を指定する値。

F

フレックスフィールド・セグメント

属性を表し、データベース内の事前定義済の単一の拡張列に対応する値を取得する拡張可能データ・フィールド。セグメントはグローバルに、または取得された他の情報のコンテキストに基づいて表示されます。

G

地域コード

事業所の緯度および経度の座標。

グローバル・ヘッダー

どのページを表示しているかにかかわらず変わらない、ユーザー・インタフェースの最上部領域。

I

識別子タイプ

識別子タイプは、メンバーを識別できる追加識別子の特定のカテゴリ(数値またはその他)です。識別子タイプの例として、銀行口座番号やパスポート番号などがあります。

インタフェース表

アプリケーション間またはOracle Fusionアプリケーションの内外に存在するデータベース間の

品目 データ転送時にデータを格納するデータベース表。

製品マスター・データベース内のエントリ。たとえば、製造会社の項目には、ナット、ボルト、ねじなどがあります。

L

参照コード

参照タイプ内で使用可能なオプション。参照タイプ**COLORS**内の参照コード**BLUE**などです。

参照タイプ

値として参照コードを含む静的リストのラベル。

M

マーケティング・リスト

Eメール、ダイレクト・メールまたは電話によるマーケティング・メッセージの連絡を目的として選択された固定的な担当者。

N

名前形式の書式

名前のレイアウトを指定します。たとえば、名、姓、カナ姓などです。

名前タイプ

名前タイプは、取引先コミュニティ・メンバーを識別できる追加名の特定のカテゴリです。名前タイプの例として、旧姓、別名、ビジネス形態名称などがあります。

P

プロファイル・オプション

ユーザー・プリファレンスおよびシステム構成のオプション。このオプションは、エンタープライズの各レベルでアプリケーションの動作を制御するためにユーザーが構成できます。

R

参照データ・セット

複数のビジネス・ユニットまたは他の決定要因タイプ間で共有できる参照データが含まれます。セットによって、その参照データの共通管理がサポートされます。

S

セット対応

組織が参照データとして共有するエンティティを示すプロパティ。たとえば、参照、顧客、事業所または文書添付をセット対応として指定できます。